

～ 市民一人ひとりが心豊かに暮らせる ～  
男女共同参画社会の実現に向けて

# 男女共同参画社会についての市民意識調査 報告書

平成 29 年（2017 年）3 月  
大和高田市



## 目 次

調査の概要 .....	1
(1) 調査目的 .....	1
(2) 調査対象 .....	1
(3) 抽出方法 .....	1
(4) 調査方法 .....	1
(5) 調査期間 .....	1
(6) 調査内容 .....	1
(7) 報告書の見方 .....	1
(8) 回収状況 .....	2
(9) 調査の精度 .....	3
回答者の属性 .....	4
1. 性別 .....	4
2. 年齢 .....	4
3. 配偶関係 .....	5
4. 世帯構成 .....	6
5. 子どもの人数 .....	7
6. 末子の年齢 .....	8
7. 職業 .....	9
調査結果のまとめ .....	11
調査結果 .....	17
1. 家庭生活や子育て、教育について .....	17
1. している家事の程度 .....	17
2. 仕事・家事等の時間 .....	22
3. 家庭教育の中で男女共生の考え方を育むために必要なこと .....	26
4. 子どもに身につけてほしい力 .....	28
5. 学校で男女共生を進めるために重要なこと .....	31
2. 仕事について .....	33
1. 職場において男女格差を感じること .....	33
2. 就労意向 .....	38
3. 働くことができない理由 .....	39
4. 大和高田市の女性の労働力率が低い理由 .....	41

5. 女性が就職・再就職しやすい社会をつくるために必要なこと.....	44
6. 生活の中で優先したいこと、していること .....	46
7. 男性が家事・育児・介護等に参加することへの考え方 .....	50
8. 男性が家事・育児・介護等に参加していく社会をつくるために必要なこと .....	51
9. 女性が方針決定の場に進出していくために必要なこと .....	53
<b>3. 女性に対する暴力や、健康、地域でのことなどについて.....</b>	<b>56</b>
1. 女性の人権が侵害されていると思うこと .....	56
2. 暴力を受けた経験.....	58
3. 女性に対する暴力に関する相談機関の認知・利用状況 .....	62
4. 生涯を通じた心と体の健康をたもつために必要なこと.....	65
5. 「男はしんどい、つらい」と感じること.....	67
6. 「男はしんどい、つらい」と感じた理由.....	68
7. 防災・災害復興への関心の有無.....	69
8. 防災・災害復興への取組.....	70
9. 避難所において必要な取組 .....	72
10. 参加している社会活動・参加したい社会活動 .....	74
11. 社会活動に参加するうえでの支障.....	77
12. 地域活動の役職に女性が就くことについて.....	79
13. 地域活動の役職に女性が就きにくい理由.....	80
<b>4. 男女共同参画について.....</b>	<b>82</b>
1. 性別役割分担意識や子育てに関する考え方.....	82
2. 男女の地位の平等感.....	89
3. 10年間の男女共同参画に関する状況の進捗度 .....	95
4. 男女共同参画に関する用語・施策の認知度 .....	99
<b>自由意見のまとめ .....</b>	<b>103</b>
<b>調査票.....</b>	<b>108</b>

# 調査の概要

## (1) 調査目的

本調査は、市民の男女共同参画社会に関する意識や日常生活の現状を把握し、「大和高田市男女共同参画プラン ビッグ ステップ(第2次)」の見直しのための基礎資料とするとともに、今後の取組を検討するうえでの参考とすることを目的として実施したものである。

## (2) 調査対象

市内在住の満20歳以上の市民3,000人(女性1,643人、男性1,357人)

## (3) 抽出方法

住民基本台帳に基づく無作為抽出(基準日:平成28年8月1日)

## (4) 調査方法

郵送によるアンケート調査(督促状1回)

## (5) 調査期間

平成28年9月13日～9月27日

## (6) 調査内容

- ・回答者の属性
- ・家庭生活や子育て、教育について
- ・仕事について
- ・女性に対する暴力や健康、地域でのことなどについて
- ・男女共同参画について

## (7) 報告書の見方

1. 比率は、原則として各設問の無回答を含む集計対象総数(副設問では設問該当対象数)に対する百分率(%)を表している。1人の対象者に2つ以上の回答を求める設問では、百分率(%)の合計は100.0%を超える。
2. 百分率(%)は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表示した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体の示す数値とが一致しないことがある。
3. 図中にある「n」は、集計対象票数(あるいは、分類別の該当対象数)を示し、比率は「n」を100.0%として表した。
4. クロス集計の結果を示す図表においては、該当者の少ない分類項目、及び「その他」「不明(無回答)」は省略しているものがあり、各分類項目の該当対象数の合計と集計対象総数は一致しないことがある。

## (8)回収状況

標本数	回収数 (回収率)	無効数	有効回収数(回収率)			
			女性	男性	不詳・無回答	
3,000 票	1,345 票 (44.8%)	1 票	1,344 票 (44.8%)	808 票	529 票	7 票

## ■母集団の人口構成

		20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上	合計
女性	人数	3,741	3,371	4,973	4,951	5,459	7,735	30,230
	%	12.4	11.2	16.5	16.4	18.1	25.6	100.0
男性	人数	3,562	3,344	4,689	4,500	4,960	5,409	26,464
	%	13.5	12.6	17.7	17.0	18.7	20.4	100.0
合計	人数	7,303	6,715	9,662	9,451	10,419	13,144	56,694
	%	12.9	11.8	17.0	16.7	18.4	23.2	100.0

## ■配布数

		20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上	合計
女性	人数	197	180	269	280	291	426	1,643
	%	12.0	11.0	16.4	17.0	17.7	25.9	100.0
男性	人数	190	175	242	221	260	269	1,357
	%	14.0	12.9	17.8	16.3	19.2	19.8	100.0
合計	人数	387	355	511	501	551	695	3,000
	%	12.9	11.8	17.0	16.7	18.4	23.2	100.0

## ■回収数

		20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上	無回答	合計
女性	人数	67	68	111	151	196	215	-	808
	%	8.3	8.4	13.7	18.7	24.3	26.6	-	100.0
	回収率(%)	34.0	37.8	41.3	53.9	67.4	50.5	-	49.2
男性	人数	42	46	73	83	147	137	1	529
	%	7.9	8.7	13.8	15.7	27.8	25.9	0.2	100.0
	回収率(%)	22.1	26.3	30.2	37.6	56.5	50.9	-	39.0
女性・男性と答えることに抵抗を感じる・無回答	人数	1	-	1	-	1	2	2	7
	%	14.3	-	14.3	0.0	14.3	28.6	28.6	100.0
	回収率(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	人数	110	114	185	234	344	354	3	1,344
	%	8.2	8.5	13.8	17.4	25.6	26.3	0.2	100.0
	回収率(%)	28.4	32.1	36.2	46.7	62.4	50.9	-	44.8

## (9) 調査の精度

住民意識調査は標本調査のため、調査結果から母集団を推定することができる。

調査結果の信頼度95%レベル(同一の調査を100回行った場合95回まではこの結果になるであろうという推定)における信頼区間は以下のとおりである。

主な%について求めたのが下表である。

この表から、例えば問3「あなたは結婚されていますか。(○は1つ)」の質問で女性は「結婚している」に約70%の人が答えている場合、信頼区間の2分の1幅が3.1%であるので100回調査すると95回までは66.9%から73.1%の間の答えが得られるということになる。

### 【主な標本における比率の信頼区間(信頼度95%)】

#### 今回調査の信頼区間(女性)

P(%)	信頼区間の 1/2 幅
50	3.4
45 55	3.4
40 60	3.3
35 65	3.2
30 70	3.1
25 75	2.9
20 80	2.7
15 85	2.4
10 90	2.0
5 95	1.5

$$\text{標本誤差} = 1.96 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(100-P)}{n}}$$

N=母集団(平成28年8月1日現在満20歳以上)  
市の全人口(女性30,230人、男性26,464人)

n=標本数(女性の有効回答者=808人)  
(男性の有効回答者=529人)

P=回答率(標本測定値)

各設問での回答

(例:「そう思う」「どちらかといえばそう思う」など)

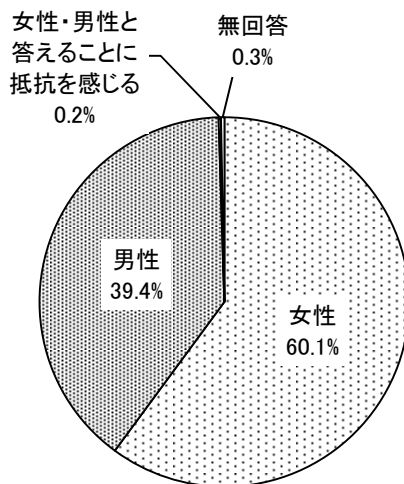
#### 今回調査の信頼区間(男性)

P(%)	信頼区間の 1/2 幅
50	4.2
45 55	4.2
40 60	4.1
35 65	4.0
30 70	3.9
25 75	3.7
20 80	3.4
15 85	3.0
10 90	2.5
5 95	1.8

# 回答者の属性

## 1. 性別

図 性別



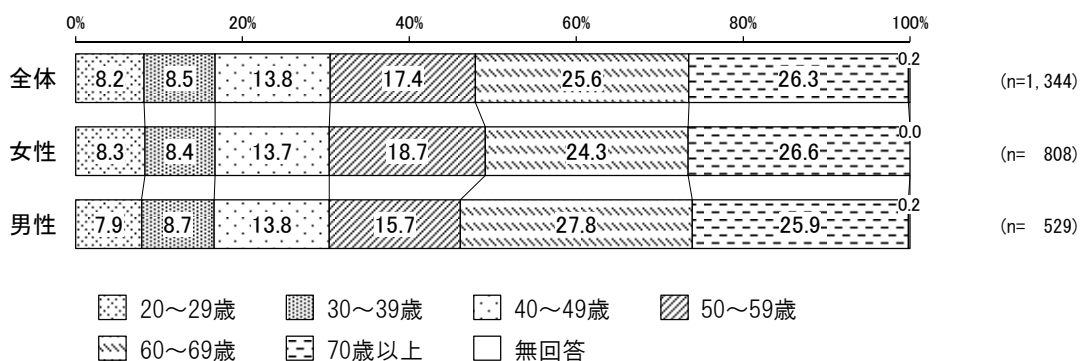
(N=1, 344)

回答者の性別は、「女性」が60.1%、「男性」が39.4%となっている。もともと母集団の構成比が女性53.3%、男性46.7%で差がある上に、本調査に対する回答率が女性の方が約10ポイント高いことによる。(2ページ参照)

なお、「女性・男性と答えることに抵抗を感じる」は0.2% (3人)である。

## 2. 年齢

図 性別 年齢



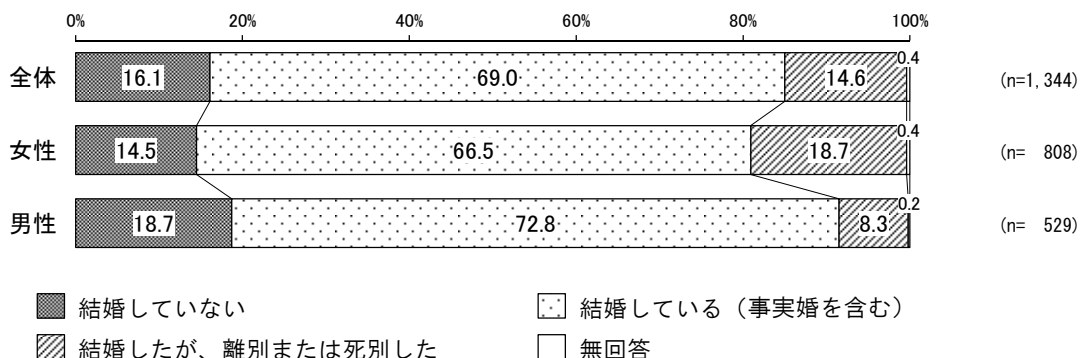
男女とも「60~69歳」「70歳以上」を合わせると、半数を超えている。この年代層の母集団における構成比よりも高くなっているのは、回答率の高さによる。

女性は50歳代以上で、男性は60歳代以上で回答率が全体の平均より高いため、それぞれ母集団の構成比よりも高くなっている。

したがって、全体の回答率は高年齢者の回答がより多く反映される結果となっている。

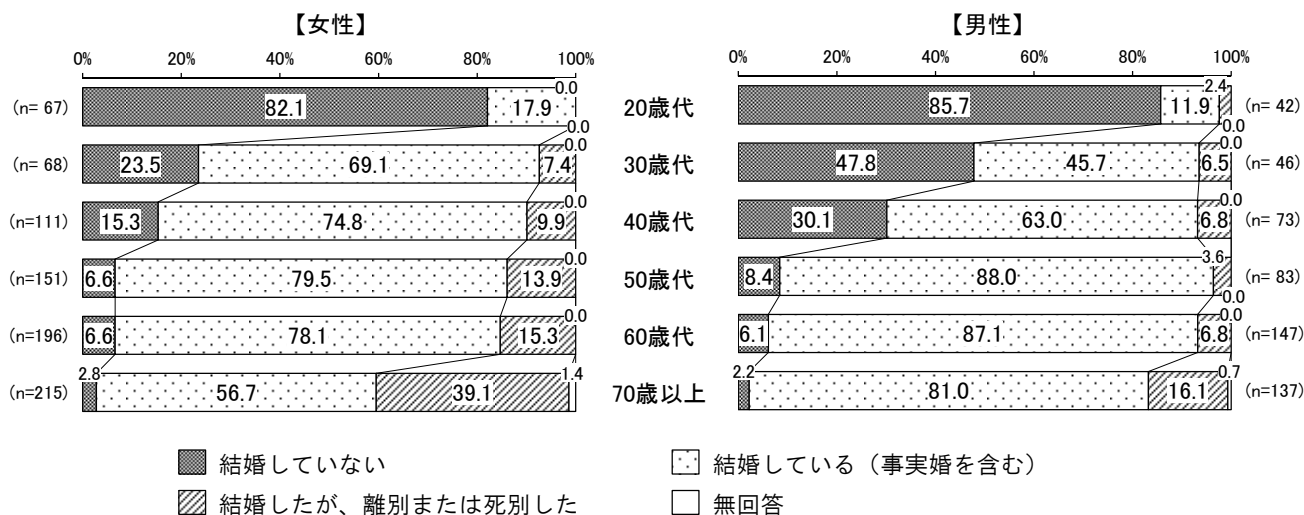
### 3. 配偶関係

図 性別 配偶関係



配偶関係は、男女とも「結婚している(事実婚を含む)」(女性66.5%、男性72.8%)が最も高い。次いで女性は「結婚したが、離別または死別した」が18.7%、男性は「結婚していない」が18.7%である。

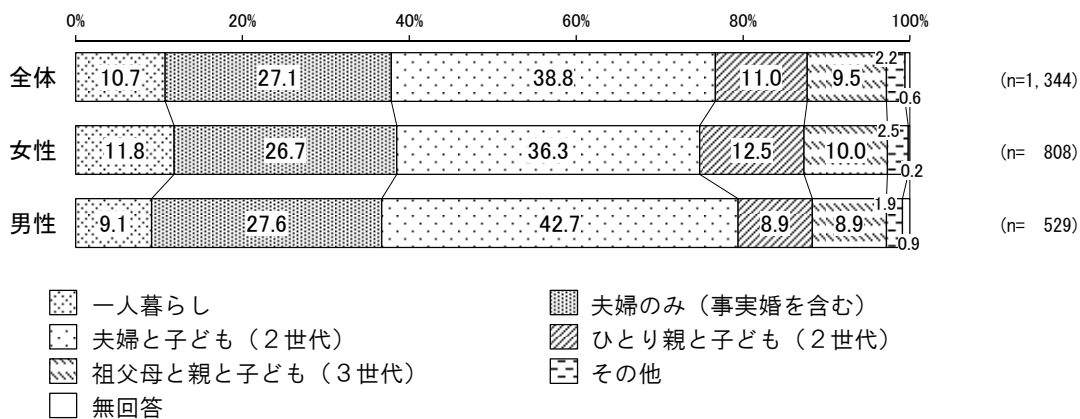
図 性別・年代別 配偶関係



年代別にみると、20歳代は「結婚していない」の割合が高く、女性の82.1%、男性の85.7%を占めている。30歳以上の年代層では「結婚している(事実婚を含む)」が半数以上を占めているが、「結婚していない」が30歳代では女性23.5%、男性47.8%、40歳代では女性15.3%、男性30.1%となっており、いずれも男性の割合が高い。70歳以上の女性では「結婚したが、離別または死別した」が39.1%となっている。

#### 4. 世帯構成

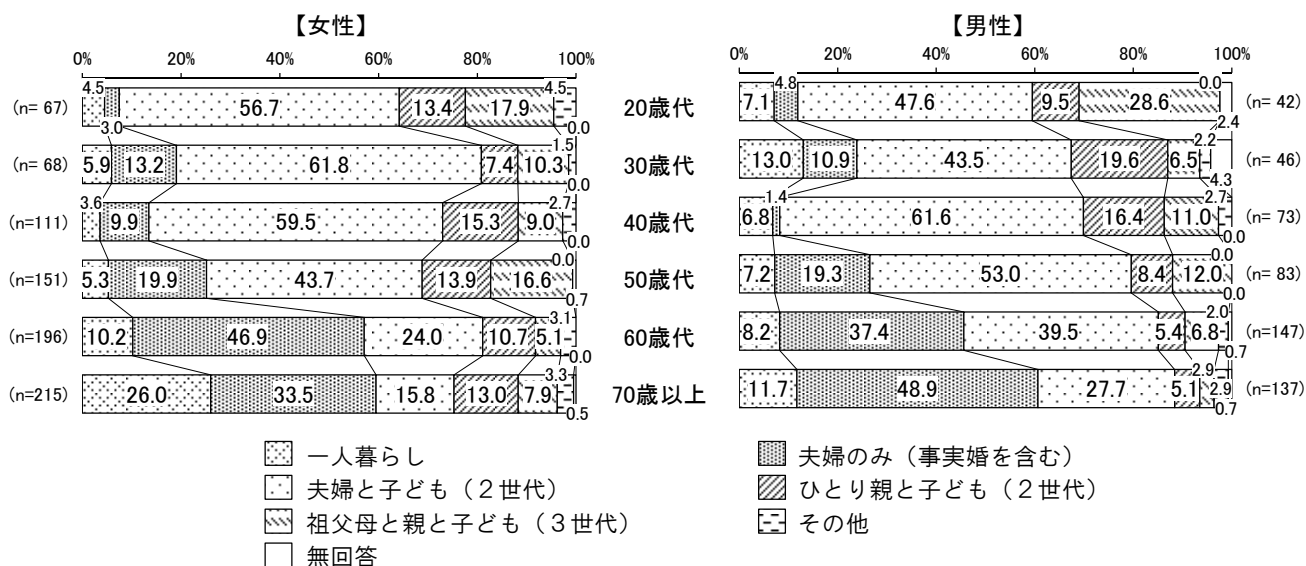
図 性別 世帯構成



世帯構成は、男女とも「夫婦と子ども(2世代)」(女性36.3%、男性42.7%)が最も高く、次いで「夫婦のみ(事実婚を含む)」となっている。

女性は、男性に比べて「一人暮らし」「ひとり親と子ども(2世代)」「祖父母と親と子ども(3世代)」の割合が高く、男性は「夫婦のみ(事実婚を含む)」「夫婦と子ども(2世代)」の割合が女性よりも高い。

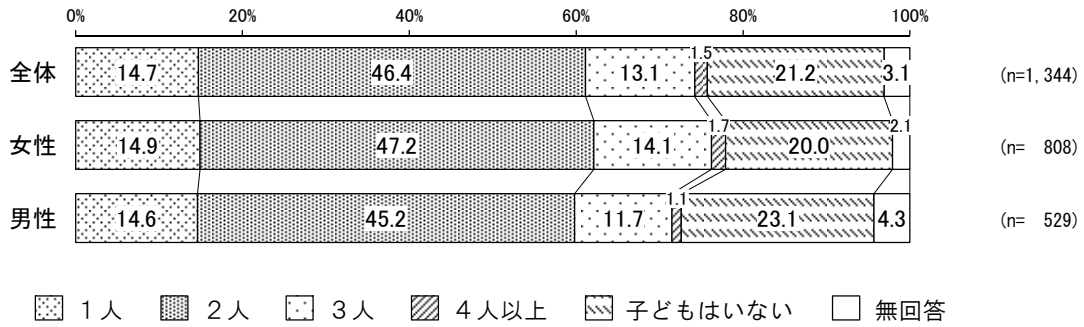
図 性別・年代別 世帯構成



年代別にみると、60歳代と70歳以上の女性と70歳以上の男性では「夫婦のみ(事実婚を含む)」、それ以外の年代層では「夫婦と子ども(2世代)」の割合が最も高くなっている。70歳以上の女性では「一人暮らし」が他の年代層と比べて高く26.0%となっている。

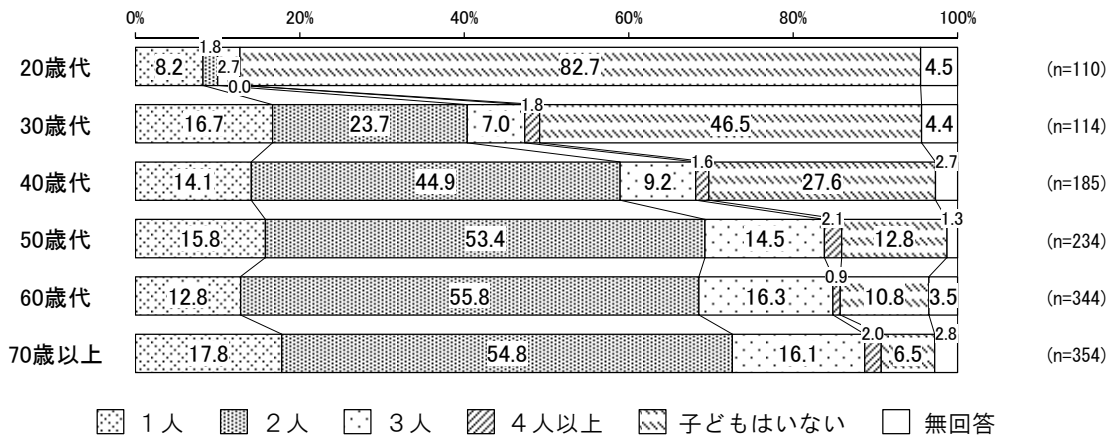
## 5. 子どもの人数

図 性別 子どもの人数



子どもの人数は、男女とも「2人」(女性47.2%、男性45.2%)が最も高く、次いで「子どもはいない」である。女性は「1人」と「3人」はほぼ同じ割合であるが、男性は「1人」の方がやや高くなっている。

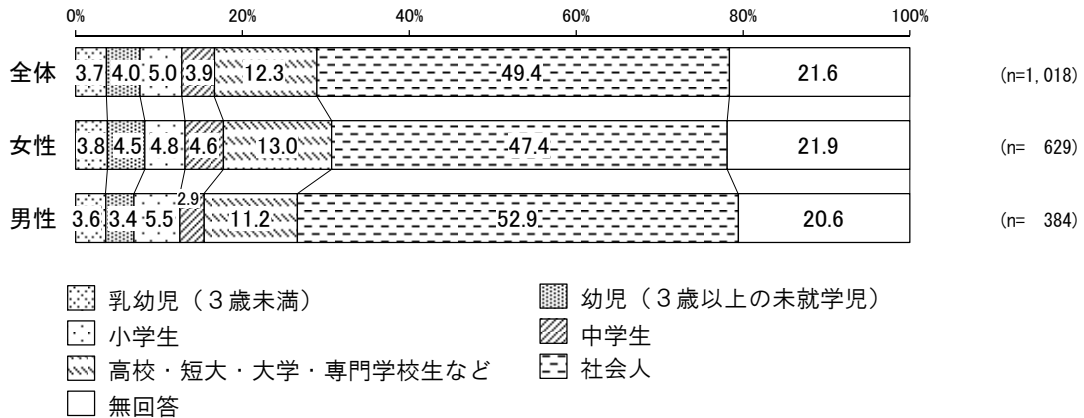
図 年代別 子どもの人数



年代別にみると、「子どもはいない」は、20歳代で82.7%を占めているが、年代が高くなるにつれてその割合は低くなっている。子どもがいる人の中では20歳代は「1人」、30歳以上の年代層では「2人」の割合が最も高くなっている。

## 6. 末子の年齢

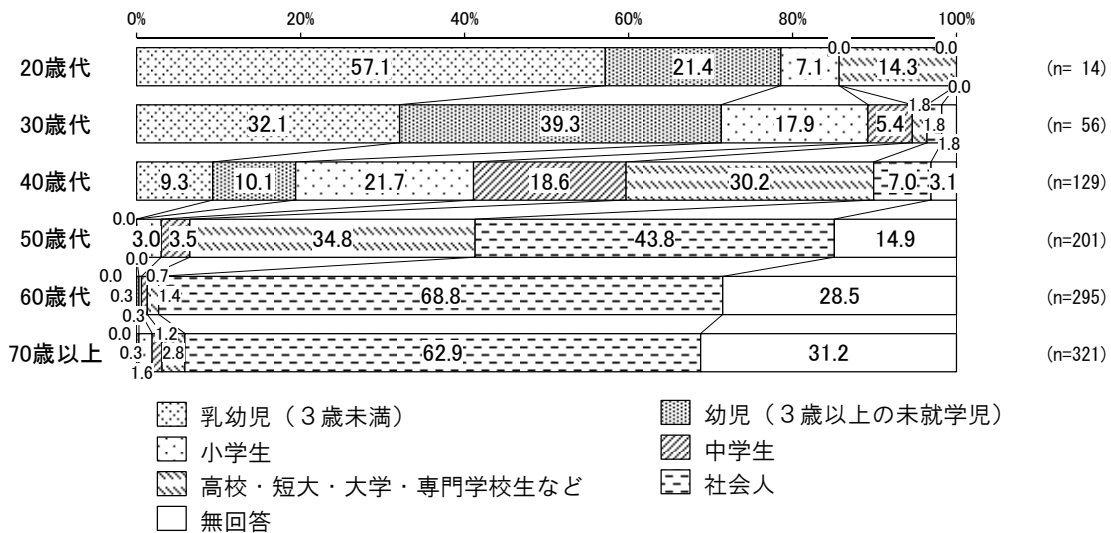
図 性別 末子の年齢



末子の年齢は、男女とも半数前後が「社会人」(女性47.4%、男性52.9%)である。男女とも回答者の年齢が50歳以上の人で全体の約70%を占めていることによると考えられる。

本調査回答者で、未就学児(「乳幼児(3歳未満)」「幼児(3歳以上の未就学児)」をもつのは、女性8.3%、男性7.0%である。「小学生」「中学生」を合わせた義務教育以下の子どもをもつのは、女性17.7%、男性15.4%となっている。

図 年代別 末子の年齢

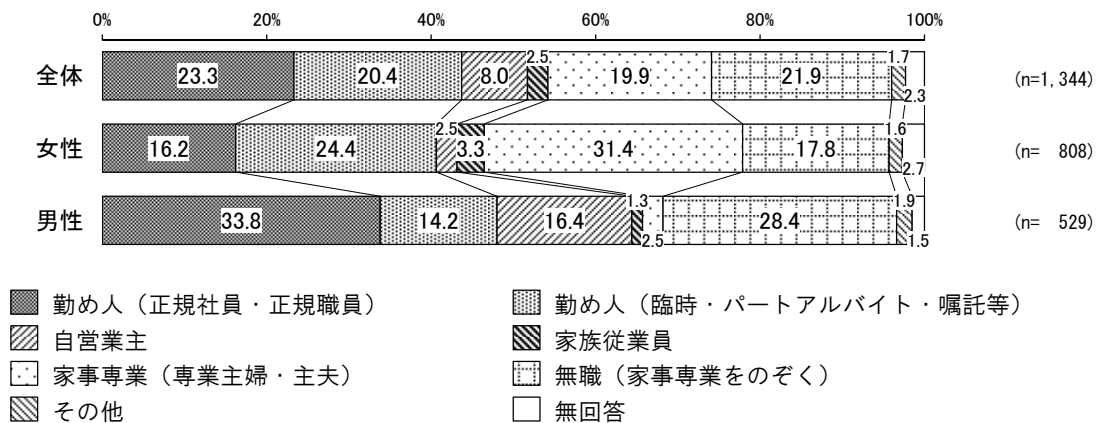


年代別にみると、20歳代は「乳幼児(3歳未満)」、30歳代は「幼児(3歳以上の未就学児)」、40歳代は「高校・短大・大学・専門学校生など」、50歳以上の年代層では「社会人」の割合が最も高い。

## 7. 職業

### ■本人

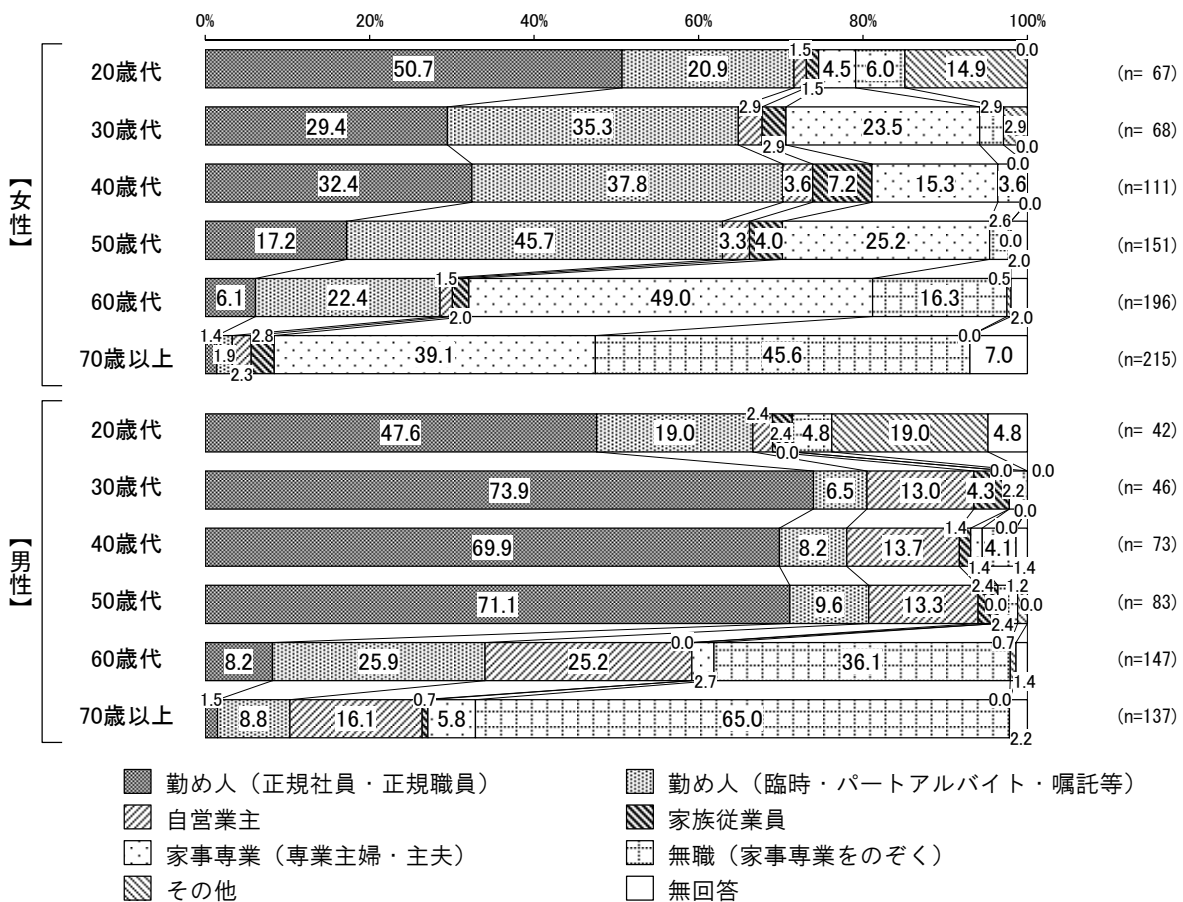
図 性別 職業(本人)



回答者本人の職業は、女性は「家事専業(専業主婦・主夫)」が31.4%で最も高く、次いで「勤め人(臨時・パートアルバイト・嘱託等)」が24.4%である。

男性は「勤め人(正規社員・正規職員)」が33.8%で最も高く、次いで「無職(家事専業をのぞく)」が28.4%となっている。

図 性別・年代別 職業(本人)

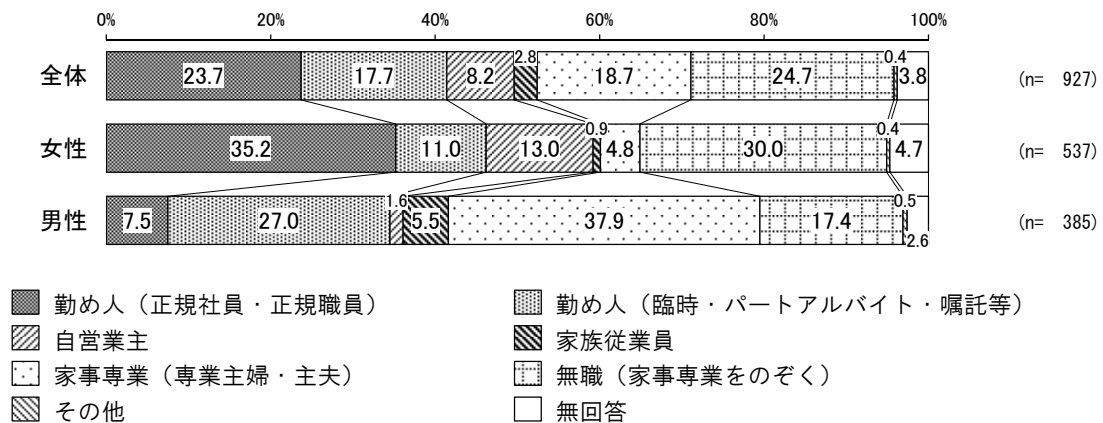


年代別にみると、女性では、20歳代は「勤め人(正規社員・正規職員)」、30～50歳代は「勤め人(臨時・パートアルバイト・嘱託等)」、60歳代は「家事専業(専業主婦・主夫)」の割合が最も高くなっている。

男性では、30～50歳代は「勤め人(正規社員・正規職員)」が約70%となっている。

■配偶者・パートナー

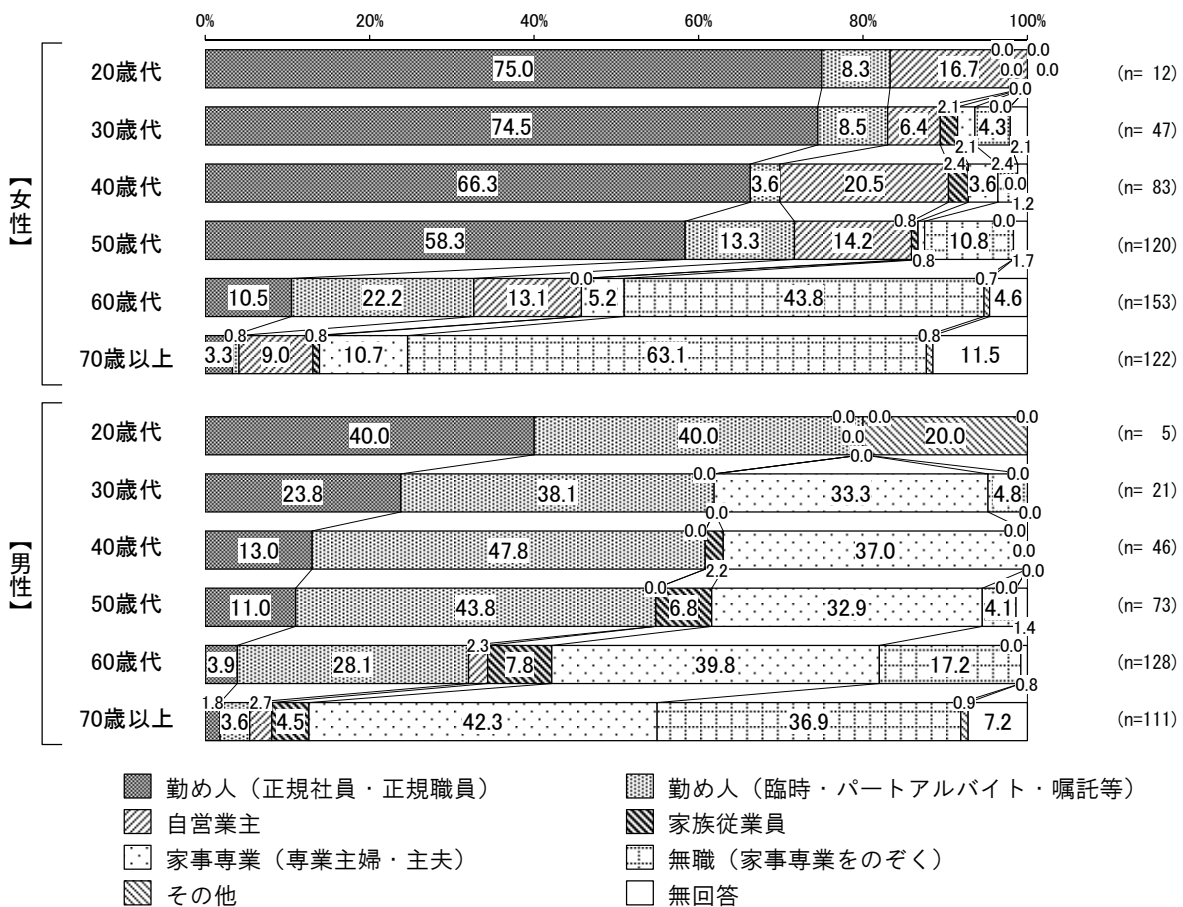
図 性別 職業(配偶者・パートナー)



配偶者・パートナーの職業は、女性の場合「勤め人(正規社員・正規職員)」が35.2%で最も高く、次いで「無職(家事専業をのぞく)」が30.0%である。

男性は「家事専業(専業主婦・主夫)」が最も高く37.9%、次いで「勤め人(臨時・パートアルバイト・嘱託等)」が27.0%となっている。

図 性別・年代別 職業(配偶者・パートナー)



年代別にみると、女性の20～50歳代では「勤め人(正規社員・正規職員)」の割合が最も高い。

男性の30～50歳代では「勤め人(臨時・パートアルバイト・嘱託等)」の割合が最も高く、次いで「家事専業(専業主婦・主夫)」、「勤め人(正規社員・正規職員)」の順となっている。

# 調査結果のまとめ

## 1. 家庭生活や子育て、教育について

### ・している家事の程度(問7・17ページ)

家庭での仕事の分担についてみると、「食事の支度」、「食事のあとかたづけ」、「食料品や日用品の買物」、「家計の管理」は、女性では「いつもする」が70%を超えているのに対し、男性の「いつもする」は10～20%台にとどまっており、日常的な家事の大半を女性が主に担当している様子がうかがえる。

### ・仕事・家事等の時間(問8・22ページ)

働いている人の仕事の時間(通勤時間を含む)は男女とも「8時間～10時間未満」が最も高くなっている。10時間以上働いている人の割合は女性33.0%、男性42.0%となっており、男性の方が9.0ポイント高い。なかでも男性40歳代は、「12時間以上」が36.8%で、子育て期の男性の長時間労働の現実がうかがえる。

家事・育児・介護等の時間は、女性は2時間以上家事をする人が平日・休日ともに60%以上となっている。一方、男性は平日・休日ともに「なし」が最も高く、なしを含めた30分未満が平日で64.7%、休日でも50.9%と半数以上を占めており、男性の家事等の時間の短さが現れている。

### ・家庭教育の中で男女共生の考え方を育むために必要なこと(問9・26ページ)

家庭教育の中で男女共生の考え方を育むために必要なことは、「協力し合って家事などをする」(女性78.6%、男性67.3%)と『男はこう、女はこう』というような性別によって役割を決めつける言い方はしない(女性61.0%、男性48.8%)の割合が高くなっている。

女性50歳代以下は『男はこう、女はこう』というような性別によって役割を決めつける言い方はしない』の回答割合が高く、周囲の大人の言い方が子どもの考え方に影響するという認識が強いと考えられる。

### ・子どもに身につけてほしい力(問10・28ページ)

子どもには女の子、男の子にかかわらず設問で挙げた項目を身につけてほしいという回答が、男女ともに大半を占めている。女性の30歳代から60歳代は、すべての項目にわたって「女の子も男の子も両方に」身につけてほしいという割合が平均より高いが、女性20歳代では「経済的な自立ができるように」については男の子に期待する割合が他の年代より高くなっている。

### ・学校で男女共生を進めるために重要なこと(問11・31ページ)

学校で男女共生を進めるために重要なことは、「性別によってかたよることなく、個人の能力、個性、希望を大事にした進路指導をする」、「男女がともに家族の一員として家庭での役割(家事や子育て、介護、生活費を稼ぐなど)を担うことの大切さを教える」、「子どもの発達に応じて、自分の心と体を大切にすることを高め、いじめ、虐待、デートDV、性の問題などから自分を守る力を育む教育をする」の3項目が男女ともに50%以上となっている。

男性20歳代は、その他を除くすべての項目の回答割合が全体より高く、どれもが重要だと考えている傾向が強いと言える。特に「子どもの発達に応じて、自分の心と体を大切にすることを高め、いじめ、虐待、デートDV、性の問題などから自分を守る力を育む教育をする」、「テレビやインターネットなどからの情報をうのみにせず、取捨選択して活用する教育を進める」、「性的マイノリティに対する配慮をする」は10ポイント以上高い。

## 2. 仕事について

### ・職場において男女格差を感じること(問12・33ページ)

職場において男女格差を感じることは、男女とも「働き続けやすい雰囲気」、「募集・採用」では「平等」の割合が比較的高くなっている。一方、男女とも「管理職への登用」は「男性が優遇されている」が30%を超えており、「育児・介護休暇など休暇の取得のしやすさ」は「女性が優遇されている」が20%を超えている。

「賃金」を年代別にみると、男女とも40歳代を境に「男性が優遇されている」が10ポイント以上高くなっており、30歳代以前にはあまり格差を実感していないことがうかがえる。また、女性20歳代は「育児・介護休暇など休暇の取得のしやすさ」で「女性が優遇されている」の回答が36.7%と高く、そのことが「働き続けやすい雰囲気」で「女性が優遇されている」の回答が他の年代よりも高いことにつながっていると推察される。

### ・就労意向と働くことができない理由(問13、問13-1・38ページ)

現在働いていない女性に就労意向をたずねたところ、20～40歳代の女性では約60～70%が「条件が整えば働きたい」と回答している。働きたいが現在働いていない理由については、30歳代の15.4%が「子どもが保育所に入所できなかった」と回答している。40歳代は「希望の条件にあう適当な仕事がない」と「体調不良」が50%台となっており、50歳以上の年代層では「求人に年齢制限がある」が最も高くなっている。

### ・大和高田市の女性の労働力率が低い理由(問14・41ページ)

大和高田市の女性の労働力率が全国平均より低い理由については、「働く場所が近くにないから」(女性48.1%、男性51.2%)と「子育てや高齢者介護のための社会的支援が整っていないから」(女性45.0%、男性42.0%)の2項目の割合が高くなっている。前回調査と比べると、「女性自身に、子育ては自分の役割だ」という意識があるから、「結婚や出産後、女性は家庭を守るべきだ」という考え方が根強いから」という意識を理由に挙げる割合は男女とも低くなっている。

### ・女性が就職・再就職しやすい社会をつくるために必要なこと(問15・44ページ)

就職・再就職を希望する女性に必要な支援は、「育児や介護などに関する公的サービスの充実」(女性59.9%、男性61.8%)、「企業への働きかけ(女性の採用・登用や、育児・介護と仕事を両立するための勤務制度の整備・運用について)」(女性54.5%、男性54.3%)、「就職・再就職のための支援情報や求人に関する情報提供」(女性43.1%、男性42.0%)の割合が高くなっている。最も当事者に近いと考えられる女性20歳代と30歳代をみると、20歳代では「育児や介護などに関する公的サービスの充実」が、30歳代では「企業への働きかけ(女性の採用・登用や、育児・介護と仕事を両立するための勤務制度の整備・運用について)」がそれぞれ70%を超えている。

### ・生活の中で優先したいこと、していること(問16・46ページ)

希望する生活は、「仕事と家庭生活」など複数の活動を両立したいと考える人が男女とも6割程度であるが、現実の生活では、女性は「仕事」及び「家庭生活」が、男性は「仕事」を優先する割合が理想に比べて高くなっている。女性30歳代は「仕事と家庭生活と地域活動・個人の生活」を優先したい割合が27.9%に対して、現実では8.8%とギャップが大きい。また、男性の50歳代以下は「仕事と家庭生活」を優先したい割合が4割程度以上あるのに対して、現実では3割程度以下でギャップが大きくなっている。

### ・男性が家事・育児・介護等に参加することへの考え方とそのために必要なこと(問17、問17-1・50ページ)

「男性はもっと仕事以外のこと(家事・育児・介護や地域活動など)に関わる方がよい」という考え方に対しては、女性の約60%、男性の約50%が賛成している。年代別にみると、30歳代以上ではいずれも女性の方

が男性よりも賛成の割合が高いのに対して、20歳代では男性の方が女性より10ポイント以上賛成の割合が高くなっている。

そのために必要なことでは、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」(女性51.0%、男性43.6%)、「『家庭や地域のことをするのは女性の役目』という固定的な考え方を改めること」(女性53.3%、男性38.9%)、「労働時間の短縮や育児や介護などの休暇制度の整備について、企業に働きかけること」(女性40.0%、男性39.3%)の割合が高くなっている。年代別にみると、女性の20・30歳代、男性の20・40・50歳代では「労働時間の短縮や育児や介護などの休暇制度の整備について、企業に働きかけること」が最も割合の高い項目となっている。

#### ・女性が方針決定の場に進出していくために必要なこと(問18・53ページ)

女性が方針決定の場に進出していくために必要なことは、「男性中心の組織のあり方を改めること」(女性50.2%、男性49.1%)、「『男性は主、女性は従』という性別で役割を決める考え方を改めること」(女性46.2%、男性39.7%)、「女性のもっている能力を開発するための機会を設けること」(女性38.4%、男性35.5%)、「女性自身が積極的に参画しようとする事」(女性34.7%、男性35.7%)の割合が高くなっており、組織づくりや機会の提供という環境整備とともに意識改革が上位に挙げられている。

### 3. 女性に対する暴力や健康、地域でのことなどについて

#### ・女性の人権が侵害されていると思うこと(問19・56ページ)

女性の人権が侵害されていると思うことは、「ドメスティック・バイオレンス(DV) (配偶者等からの暴力)やデートDV(恋人からの暴力)」「セクシュアル・ハラスメント」の割合が男女ともに高くなっている。また、「ストーカー行為」以外の項目はいずれも男性より女性の方が割合が高く、女性の人権侵害に対する意識が、当事者である女性自身の方が高いことがうかがえる。男女の意識差が大きい「テレビ、雑誌、インターネット(携帯電話を含む)などのわいせつな性情報の氾濫」では、特に30・40歳代の意識差が大きくなっている。また、30歳代では「職場における男女の待遇の違い」、「男女の役割分担を固定化する考え方」でも男女の意識差が大きい。

#### ・暴力等を受けた経験(問20・58ページ)

女性では「痴漢」を受けた経験がある人が36.8%、「セクシュアル・ハラスメント」を受けた経験がある人が10.5%、「ドメスティック・バイオレンス」を受けた経験がある人が8.2%となっている。なかでも「痴漢」は、40・50歳代では半数以上が被害経験があると回答している。

「身近で見聞きしたことがある」の割合は、男女とも「ドメスティック・バイオレンス」、「セクシュアル・ハラスメント」、「痴漢」それぞれが20%以上となっている。

#### ・暴力に関する相談機関の認知・利用状況(問21・62ページ)

暴力に関する相談機関では、「高田警察署」は女性72.5%、男性76.2%で70%を超えているが、その他の機関は「奈良県高田こども家庭相談センター」が男女とも40%前後である以外は、公的、民間を問わず認知が高いとはいえない状況である。

#### ・生涯を通じた心と体の健康に必要なこと(問22・65ページ)

生涯を通じて心も体も健康でいられるため必要な取組は、「安心して妊娠・出産できるよう、相談や健診を充実する」(女性42.0%、男性41.6%)、「リフレッシュできるような場を提供する」(女性38.9%、男性43.5%)、「食生活や健康づくりに関する情報を提供する」(女性39.9%、男性37.1%)などの割合が高くなっている。

ほとんどの項目で、男女とも年代が低いほど回答割合が高い傾向であり、なかでも「安心して妊娠・出産できるよう、相談や健診を充実する」は女性20・30歳代では60%を超え、男性20歳代では「リフレッシュできるような場を提供する」が70%を超えているなど、年代によって際立って高い項目もみられる。

#### ・「男はしんどい、つらい」と感じることの有無とその理由(問23、問23-1・67ページ)

「男はしんどい、つらい」と感じたことがあるという男性は約半数で、なかでも20歳代と50歳代は約6割に上る。その理由としては「妻子を養うのは男の責任だと言われる」(47.6%)、「『強さ』を求められる」(39.8%)などの割合が高くなっている。20歳代では「『強さ』を求められる」が84.6%で特に高く、「何かにつけ『男のくせに』と言われる」も65.4%と高い。

#### ・防災・災害復興への関心と取組(問24、問24-1・69ページ)

防災・災害復興については、「関心はあるが、何もしていない」の割合が女性63.2%、男性66.5%と高く、「関心があり、備えをしている」は女性26.1%、男性23.3%にとどまる。

防災の取組としては、「家庭内に備蓄をする」(女性72.0%、男性60.2%)、「家族で災害時の連絡先や落ち合う場所などを決める」(女性59.7%、男性53.1%)、「市からのお知らせなどを読む」(女性53.9%、男性56.8%)の3項目の割合が高くなっている。「地域の自主防災の組織に参加する」、「防災イベントに参加する」は、男性70歳以上で20%を超えているほかはいずれの年代も10%台以下である。

#### ・避難所において必要な取組(問25・72ページ)

避難所において、みんなが協力し合って過ごすために取り組むとよいと思うことは、「男女別のトイレ、物干し場、更衣室、休養スペースなどを設置する」が女性76.9%、男性69.0%で最も高く、次いで「避難所の運営に乳幼児のいる家庭や高齢者、障がい者など様々な立場の人の意見を反映する」(女性59.5%、男性59.9%)、「高齢者や障がい者などが使いやすいユニバーサルデザインのトイレを設置する」(女性54.6%、男性48.0%)となっている。「乳幼児のいる家庭用エリア、女性のための世帯用エリアなどを設置する」、「女性用品は女性の担当者が配布する」、「DVや子どもへの虐待、性犯罪などを防止するための防犯対策をする」は40歳代以下の女性で回答割合が高い。

#### ・参加している社会活動・参加したい社会活動(問26・74ページ)

最近1年間に参加した活動としては、「趣味・学習・スポーツ活動」、「地域の活動(自治会、子ども会、婦人会、老人クラブ、PTA、青少年健全育成など)」が約25%となっている。参加したい活動としては、「趣味・学習・スポーツ活動」が約30%、「福祉・ボランティア活動」が約20%で男女で回答割合はほとんど同じである。年代別でみると男性20歳代が、地域の活動をはじめとする市民活動項目が総じて高いことが注目される。

#### ・社会活動に参加するうえでの支障(問27・77ページ)

社会活動に参加するうえでの支障は、20～50歳代の男女では「仕事や家事が忙しい」の割合が最も高く、60歳以上の男女では「自分の健康や体力に不安がある」の割合が最も高くなっている。20歳代男女では「参加したい活動の情報が少ない」、「一緒にやる仲間がいない」が他の年代に比べて高く、情報や仲間の有無次第で参加に踏み出す可能性がうかがえる。

#### ・地域活動の役職に女性が就くことの考えとその理由(問28・79ページ)

女性は自分自身が推薦されたら「断る」との回答が53.6%で、男性は、妻・パートナーなど身近な女性が推薦されたら「本人の考えに任せる」が60.7%となっている。女性の30・40歳代は70%以上が「断る」と回答

している。

「断る・断ることをすすめる」理由としては、「仕事をしているから」が女性41.1%、男性34.9%、「家事・育児・介護に支障が出るから」が女性36.5%、男性31.8%で男女とも高く、特に女性30・40歳代ではいずれも50%を超えている。女性では3番目に高い「本人の経験が少ないから」は、女性の31.6%に対して男性は18.6%で、女性自身が思うほど、男性は女性の経験不足を理由に挙げていない。

#### 4. 男女共同参画について

##### ・性別役割分担意識や子育てに関する考え方(問29・82ページ)

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方については、『肯定派』(「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計)が、女性30.8%、男性36.5%、『否定派』(「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の合計)が、女性57.2%、男性53.7%で、男女とも『否定派』が『肯定派』よりも多くなっている。前回調査では『否定派』が女性42.3%、男性37.3%であり、男女とも前回調査より『否定派』が約15ポイント高くなっている。特に「そう思わない」の回答割合が男女とも10ポイント以上高くなっている。

「人にはそれぞれ向き不向きがあるのだから、男か女かによって生き方を決めつけない方がよい」という考え方については、『肯定派』が女性83.8%、男性82.1%と多数を占めて、男女の意識差はほとんどない。

「子どもは3歳くらいまで母親が育てるべきである」という考え方については、『肯定派』が女性61.5%、男性58.6%、『否定派』が女性25.1%、男性29.5%となっている。年代別にみると、男女とも年代が高い層で『肯定派』が多くなる傾向である。前回調査では『肯定派』が女性78.7%、男性74.1%を占めており、今回調査ではそれぞれ15ポイント以上低くなっている。

「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がよい」という考え方については、『肯定派』が女性48.3%、男性63.7%で、前3項目と比べると男女の意識差が大きい。また、「子どもは3歳くらいまで母親が育てるべきである」と同様に前回調査と比べて『肯定派』は、男女とも15ポイント以上低くなっている。

「子どもの世話の大部分は男性でも女性でもできる」という考え方については、『肯定派』が女性68.8%、男性58.2%となっており、「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がよい」という考え方に次いで男女の意識差が大きい。

5つの項目を通してみると、女性は、男性に比べて性別によって役割や生き方を決めることに対して否定的な傾向であるものの「子どもは3歳までは母親が育てるべき」という考え方については、わずかだが男性よりも肯定的な傾向である。

##### ・男女の地位の平等感(問30・89ページ)

男女の地位の平等感については、男女ともほとんどの分野で『男性優遇』(「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計)の割合が高くなっている。特に「政治の場」と「社会通念、慣習、しきたりなど」では『男性優遇』が約60~70%と高い。男女とも「平等」の割合が最も高い分野は「学校教育の場」のみとなっている。また、いずれの分野も女性は男性よりも「平等」の割合が低く、『男性優遇』の割合が高くなっている。

多くの分野で『男性優遇』の割合は前回調査よりも低くなっているが、「政治の場」と「法律や制度の上」では女性は前回調査とほとんど変わらず、男性ではむしろ『男性優遇』の割合が高くなっている。

社会全体の評価としては『男性優遇』が女性65.4%、男性58.4%となっており、「平等」は男女とも10%台にとどまる。社会全体の評価を前回調査と比べると、女性では10.1ポイント、男性では7.2ポイント『男性優遇』が低くなっているものの、男女とも前回調査よりも「わからない」と無回答の割合が高くなっているため、「平等」の回答割合は女性で3.2ポイント、男性で1.5ポイント高まるにとどまっている。

#### ・10年間の男女共同参画に関する状況の進捗度(問31・95ページ)

この10年間の男女共同参画に関する状況の進捗度についてたずねたところ、「男女平等の考え方」、「職場や地域活動での女性の活躍」については『前進』(「前進した」と「どちらかといえば前進した」の合計)が男女ともに50%を超えている。すべての項目について、男女とも「10年前と変わらない」よりも『前進』の回答割合が高いことと前問(問30)の回答結果とを併せて考察すると、男女共同参画に関する意識や状況は随所に変化がみられるものの、いまだ全体としては男性が優遇されて男女平等には至っていないという見られ方が男女に共通していると言える。

#### ・男女共同参画に関する用語・施策の認知度(問32・99ページ)

男女共同参画に関する用語の認知度についてみると、「ドメスティック・バイオレンス(DV)(配偶者等からの暴力)」(女性76.1%、男性70.3%)、「デートDV(恋人からの暴力)」(女性59.5%、男性53.5%)、「男女共同参画社会」(女性54.1%、男性51.4%)の言葉は男女とも認知度が50%を超えているが、「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」は40%前後、「LGBT」は20%程度にとどまっている。

大和高田市の取組に関してはいずれも「知らない」の割合が50%以上となっており、女性で「女性相談」の認知率39.4%が最も高い割合である。ただし、前回調査と比較できる項目「大和高田市男女共同参画情報誌『はもにー』」、「ヒート ハート たかだ(大和高田市男女共同参画推進市民会議)の活動」、「女と男<sup>ひと</sup>ハートアップフォーラム」では、男女とも認知率が上がっており、継続的な取組の成果もみられている。

また、男女とも20歳代は言葉の認知は高いが、大和高田市の取組の認知は低い。

「市から男女共同参画に関する情報が伝わってこない」と回答したのは、女性31.9%、男性40.5%で男性が8.6ポイント高くなっている。

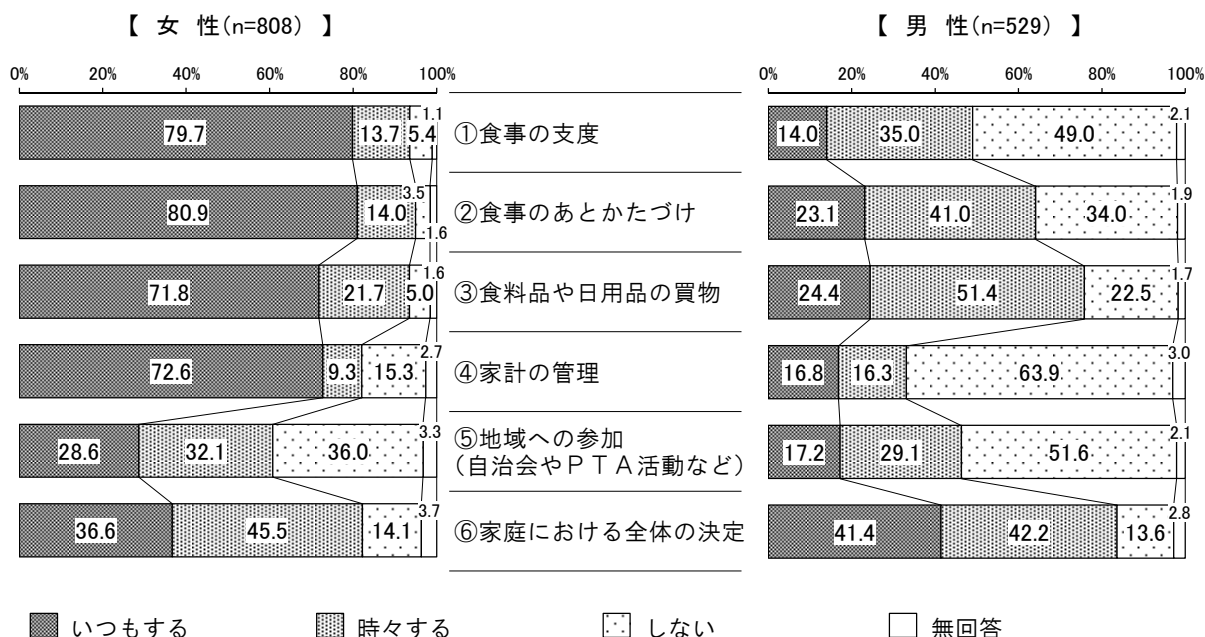
# 調査結果

## 1. 家庭生活や子育て、教育について

### 1. している家事の程度

問7 あなたは、次のような家事をどの程度していますか。それぞれの項目ごとに1～3のあてはまる番号に○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

図 性別 している家事の程度



### □家庭での家事の大部分を女性が担っている

6項目にわたって家事や家庭にまつわることをしている程度をたずねたところ、①食事の支度、②食事のあとかたづけ、③食料品や日用品の買物、④家計の管理の4項目は、女性はいずれの項目とも「いつもする」が70%を超えているが、一方、男性は「時々する」と「しない」を合わせると、いずれの項目も70%を超えていて対照的な結果となっている。

⑤地域への参加(自治会やPTA活動など)では、「いつもする」は女性の方が男性より11.4ポイント高いものの「時々する」「しない」は、①から④の項目に比べて女性の回答も高い。

⑥家庭における全体の決定は男女の差がほとんどない。

#### ①食事の支度

女性では「いつもする」が79.7%で、②食事のあとかたづけと並んで高い割合である。

男性は「しない」が49.0%で最も高く、「時々する」が35.0%である。「いつもする」は14.0%で6項目中、最も低い。

#### ②食事のあとかたづけ

女性では「いつもする」が80.9%で6項目中、最も高い。

男性は「時々する」が41.0%で最も高く、「しない」が34.0%、「いつもする」は23.1%である。

### ③食料品や日用品の買物

女性は「いつもする」が71.8%で、①食事の支度、②食事のあとかたづけに比べると8～9ポイント低くなっている。男性は「時々する」が51.4%、「いつもする」が24.4%で、合わせると75.8%で①から④の項目のなかで最も高い。

### ④家計の管理

女性は「いつもする」が72.6%、「しない」が15.3%、男性は「しない」が63.9%である。男女とも「時々する」の割合が他の項目に比べて低く、家計の管理は、“する”か“しない”かに分かれる傾向である。

### ⑤地域への参加(自治会やPTA活動など)

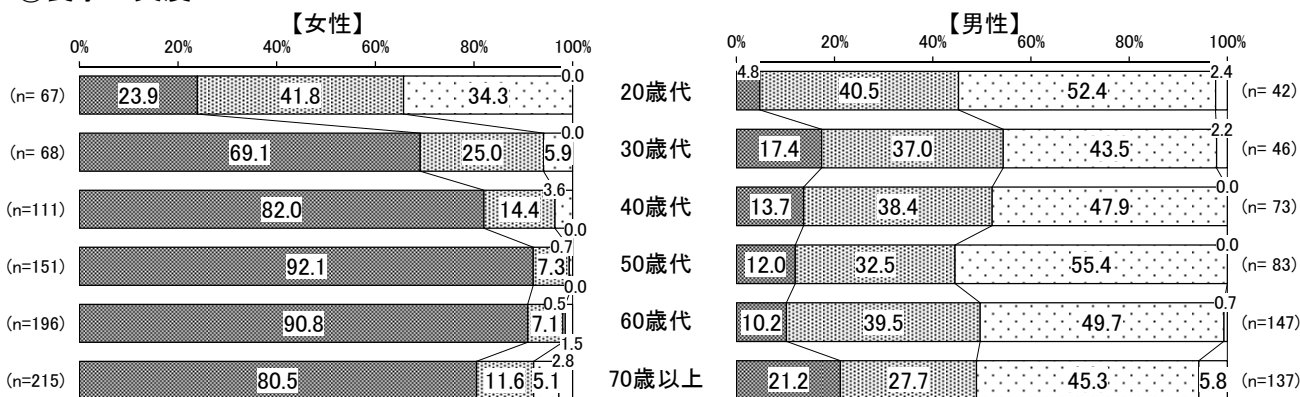
女性は「しない」36.0%、「時々する」32.1%で、男性は「しない」51.6%、「時々する」29.1%となっている。女性の方が「いつもする」の回答が男性より11.4ポイント高いものの、「しない」が「いつもする」「時々する」よりも高いのは男性と同様である。

### ⑥家庭における全体の決定

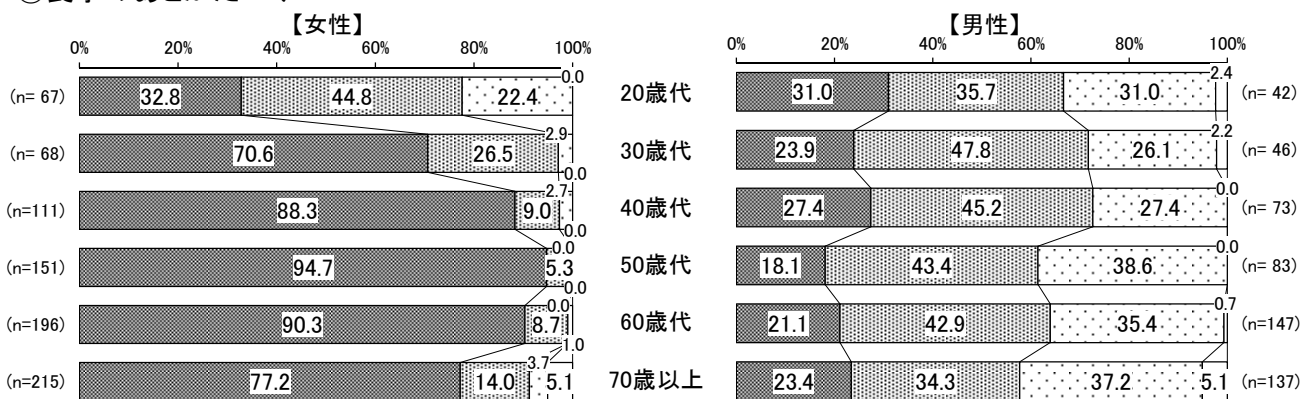
女性は「時々する」45.5%、「いつもする」36.6%、男性は「時々する」42.2%、「いつもする」41.4%と、「いつもする」は女性よりも4.8ポイント高い。家庭における全体の決定は、男女がともに関与していることがうかがえる。

図 性別・年代別 している家事の程度

#### ①食事の支度

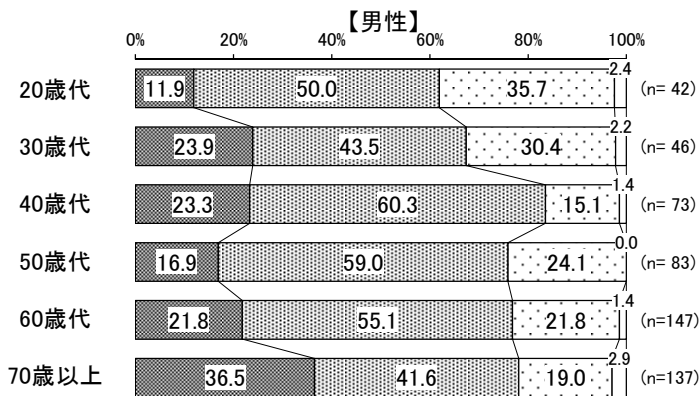
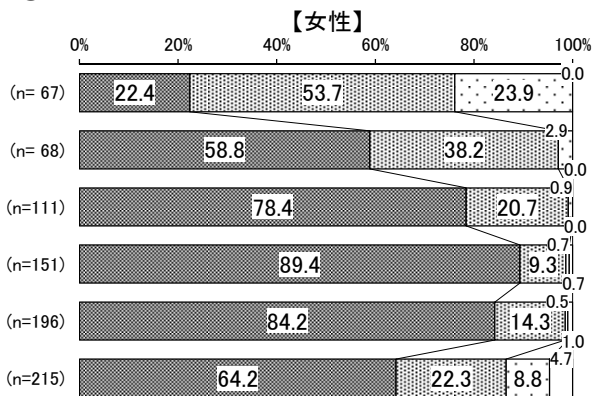


#### ②食事のあとかたづけ

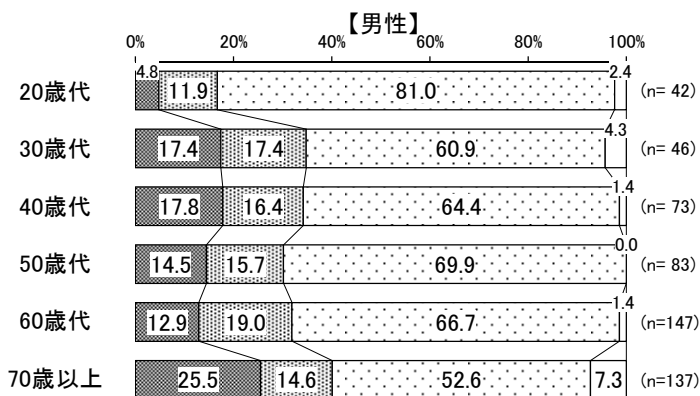
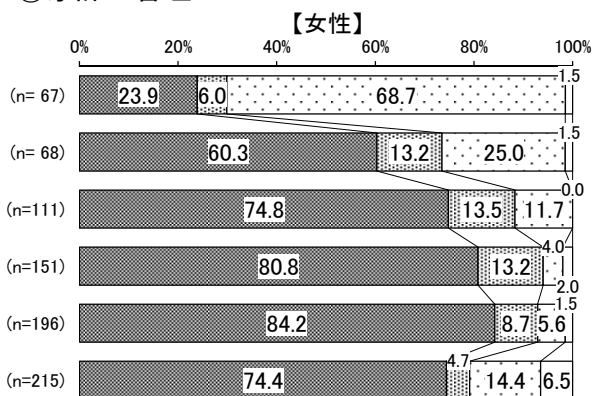


■ いつもする    ▨ 時々する    ▤ しない    □ 無回答

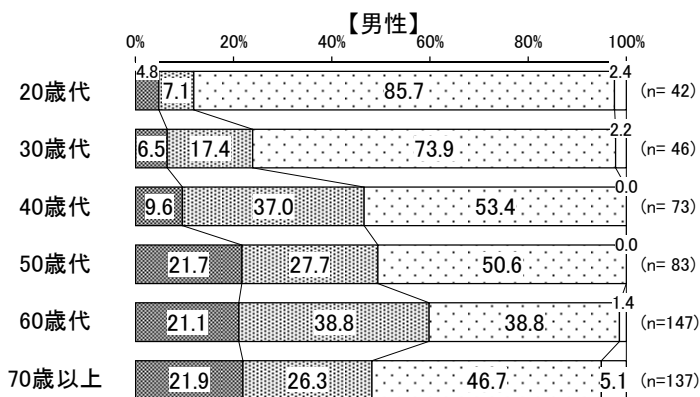
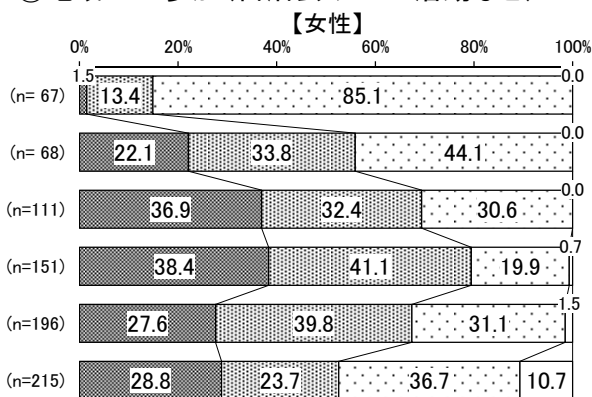
### ③ 食料品や日用品の買物



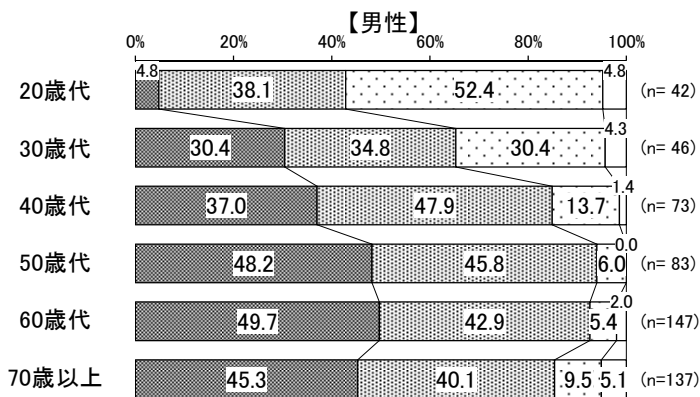
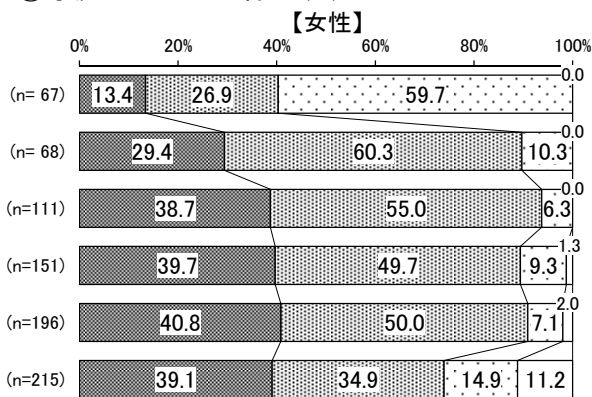
### ④ 家計の管理



### ⑤ 地域への参加(自治会やPTA活動など)



### ⑥ 家庭における全体の決定



■ いつもする    ■ 時々する    □ しない    □ 無回答

### ①食事の支度

女性では、20歳代は「時々する」が41.8%で最も高く、次いで「しない」の割合が高くなっている。30歳以上の年代層は「いつもする」の割合が最も高く、50歳代と60歳代では90%を超えている。

男性では、いずれの年代層でも「しない」の割合が最も高く、次いで「時々する」「いつもする」の順番となっており、年代による回答割合の違いが小さい。

### ②食事後の片づけ

女性では、20歳代は「時々する」が44.8%で最も高く、次いで「いつもする」が32.8%となっている。30歳以上の年代層では「いつもする」の割合が最も高くなっており、50歳代では94.7%、60歳代では90.3%となっている。

男性では、20～60歳代では、「時々する」、70歳以上では「しない」の割合が最も高くなっている。「しない」の割合は50歳未満の年代層で約30%、50歳以上の年代層で約40%となっている。

### ③食料品や日用品の買物

女性では、20歳代は「時々する」、30歳以上の年代層では「いつもする」の割合が最も高くなっている。

男性では、いずれの年代層でも「時々する」の割合が最も高く、20歳代と40～60歳代では50%以上となっている。

### ④家計の管理

女性では、20歳代は「しない」が68.7%と高くなっている。30歳以上の年代層では「いつもする」の割合が最も高くなっているが、30歳代は「しない」と回答した人も25.0%となっている。

男性では、いずれの年代層でも「しない」が50%を超えており、特に20歳代は81.0%と高い。

### ⑤地域への参加(自治会やPTA活動など)

女性では、20歳代は「しない」が85.1%と高くなっている。50歳代は「する」と「時々する」を合計した割合が79.5%となっており、全年代層の中で最も高くなっている。

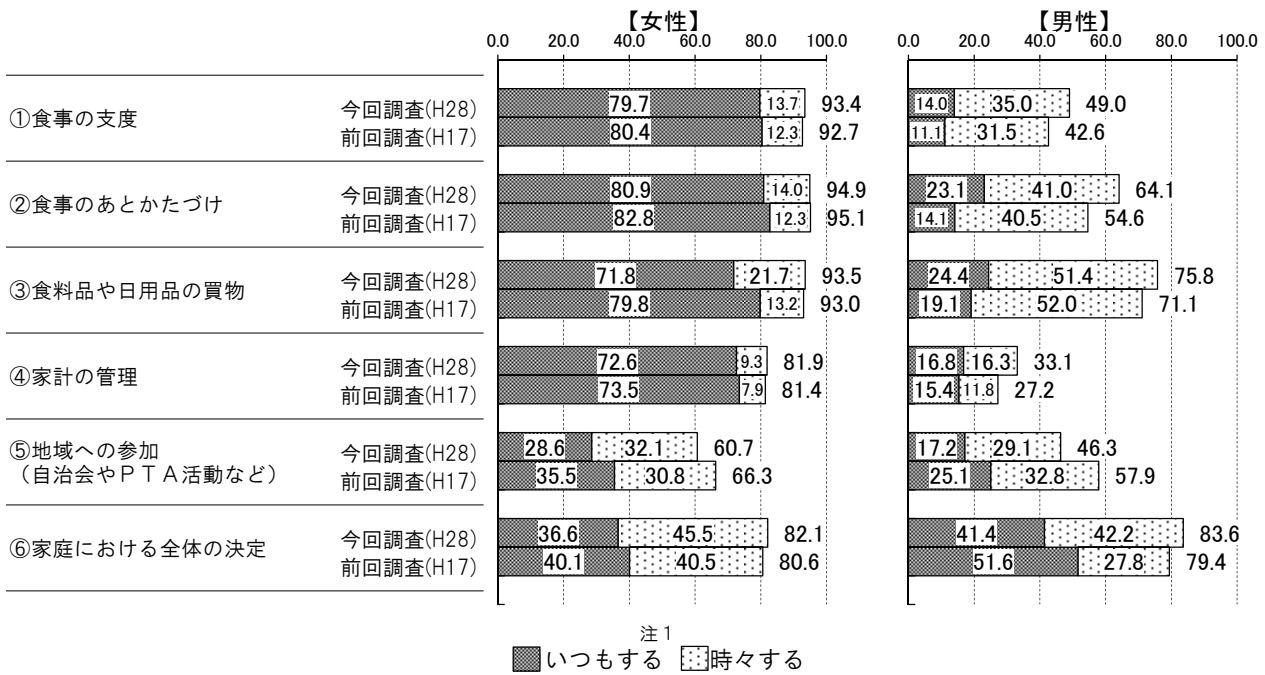
男性でも20歳代は女性と同様に「しない」の割合が高く、「いつもする」は4.8%にとどまる。また、男性では、30・40歳代でも「いつもする」は10%未満と低くなっている。

### ⑥家庭における全体の決定

女性では、20歳代は「しない」、30～60歳代では「時々する」、70歳以上では「いつもする」の割合が最も高くなっている。

男性では、20歳代は「しない」、30・40歳代では「時々する」、50歳以上の年代層では「いつもする」の割合が最も高くなっている。

図 性別 している家事の程度 — 「いつもする」と「時々する」の割合(前回調査との比較)



注1) 前回調査の選択肢は、「する」

「いつもする」と「時々する」の割合を前回調査(平成17年)と比較すると、①食事の支度、②食事のあとかたづけ、③食料品や日用品の買物、④家計の管理については、女性は前回調査との違いが小さくなっているが、男性は前回調査より『する』(「いつもする」と「時々する」の合計)の割合が高くなっている。

⑤地域への参加(自治会やPTA活動など)については、男女ともに『する』の割合が前回調査よりも低く、女性では5.6ポイント、男性では11.6ポイントの差がある。

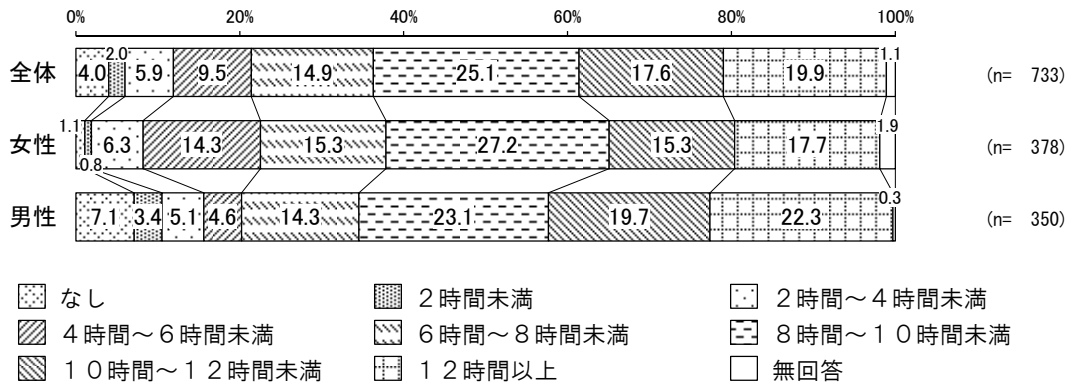
⑥家庭における全体の決定については、男女ともに前回調査より『する』の割合がやや高くなっている。

## 2. 仕事・家事等の時間

問8 あなたは、普段、1日のうちで、仕事や家事・育児・介護などにどのくらいの時間を使っていますか。

### ■仕事の時間(働いている人のみ、在宅就労・通勤時間を含む)

図 性別 仕事の時間



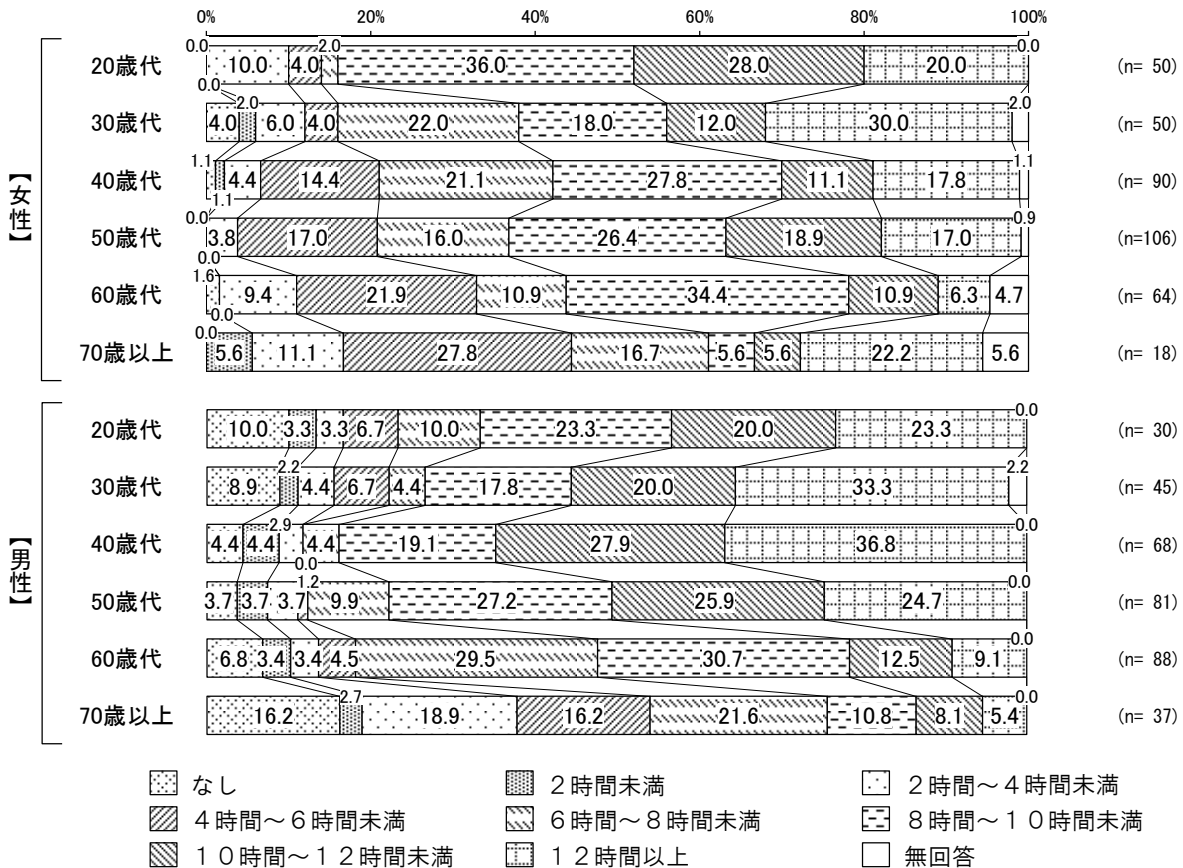
□働いている人のうち1日10時間以上仕事に費やす人は女性の約30%、男性の約40%

女性は「8時間～10時間未満」が最も高く27.2%、次いで「12時間以上」が17.7%となっている。

男性は「8時間～10時間未満」が最も高く23.1%、次いで「12時間以上」が22.3%となっている。

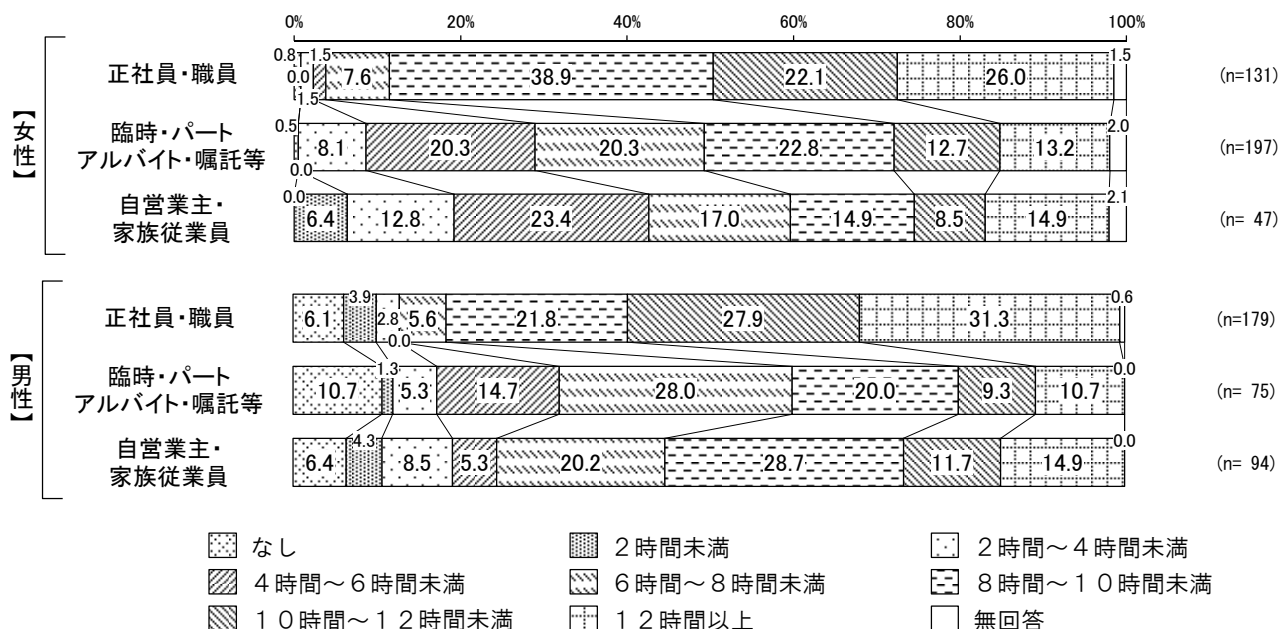
「2時間～4時間未満」「4時間～6時間未満」「6時間～8時間未満」の合計が、女性35.9%、男性24.0%で女性の方が11.9ポイント高い。一方、「10時間～12時間未満」と「12時間以上」の合計は、女性33.0%、男性42.0%で男性の方が9.0ポイント高い。

図 性別・年代別 仕事の時間



年代別にみると、女性では、8時間以上の合計が、20歳代では84.0%、30～60歳代では50～60%程度となっている。男性では、8時間以上の合計が30～50歳代では70%を超え、また、30・40歳代では「12時間以上」がそれぞれ33.3%、36.8%となっている。

図 性別・職業別 仕事の時間

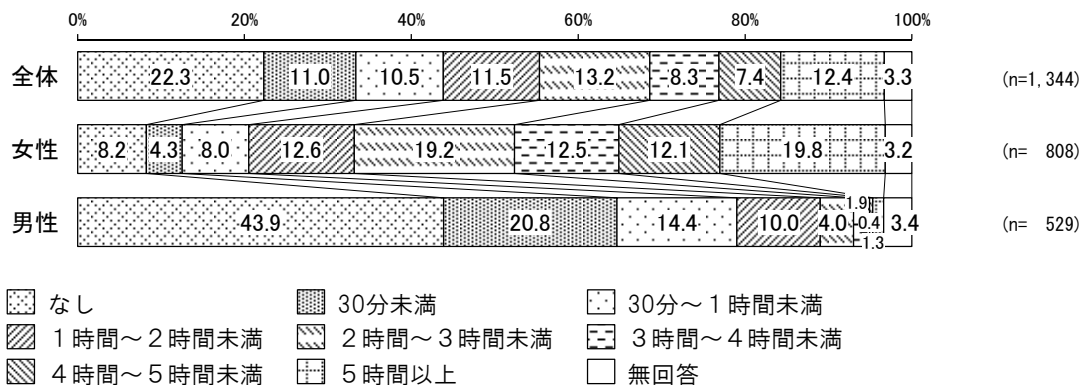


職業別にみると、女性では、正社員・職員は「8時間～10時間未満」が38.9%で最も高く、次いで「12時間以上」が26.0%、「10時間～12時間未満」が22.1%となっており、8時間以上の合計が87.0%となっている。臨時・パートアルバイト・嘱託等は、4時間以上10時間未満の合計が63.4%、自営業主・家族従業員は4時間以上10時間未満の合計が55.3%となっている。

男性では、正社員・職員は「12時間以上」が31.3%で最も高く、次いで「10時間～12時間未満」が27.9%、「8時間～10時間未満」が21.8%となっている。臨時・パートアルバイト・嘱託等は、4時間以上10時間未満の合計が62.7%となっている。自営業主・家族従業員は「8時間～10時間未満」が28.7%で最も高く、次いで「6時間～8時間未満」が20.2%となっている。

■家事・育児・介護の時間(平日)

図 性別 家事・育児・介護の時間(平日)

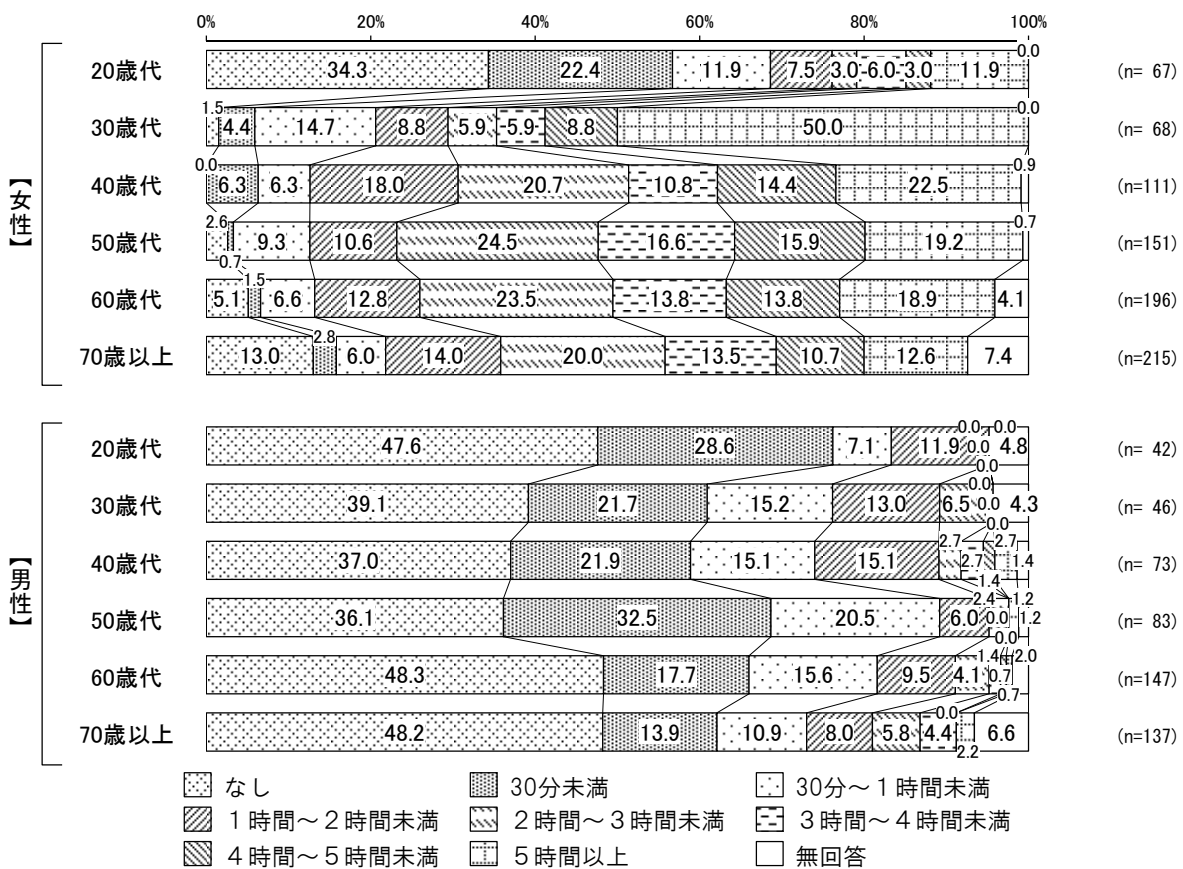


□性別による家事時間の違いが顕著

女性は「5時間以上」が19.8%で最も高く、次いで「2時間～3時間未満」が19.2%となっており、2時間以上を合計すると63.6%となる。

男性は「なし」が43.9%で最も高く、次いで「30分未満」が20.8%、1時間未満までの合計が79.1%で、男女の家事時間の差は顕著である。

図 性別・年代別 家事・育児・介護の時間(平日)

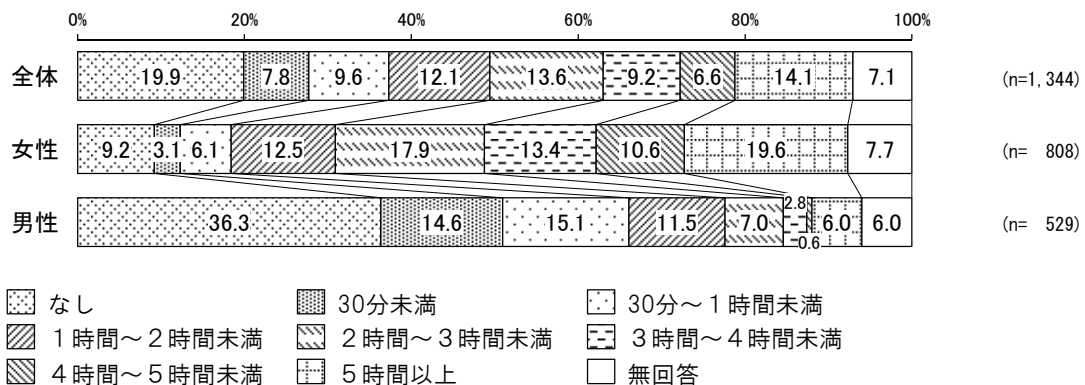


年代別にみると、女性では、20歳代は「なし」の割合が最も高いが、30歳代は「5時間以上」が50.0%となっている。40歳以上の年代層では、1時間以上4時間未満の合計が約50%となっている。

男性では、いずれの年代層でも「なし」の割合が最も高く、次いで「30分未満」となっており、「なし」と「30分未満」の合計が半数以上を占めている。

■家事・育児・介護の時間(休日)

図 性別 家事・育児・介護の時間(休日)

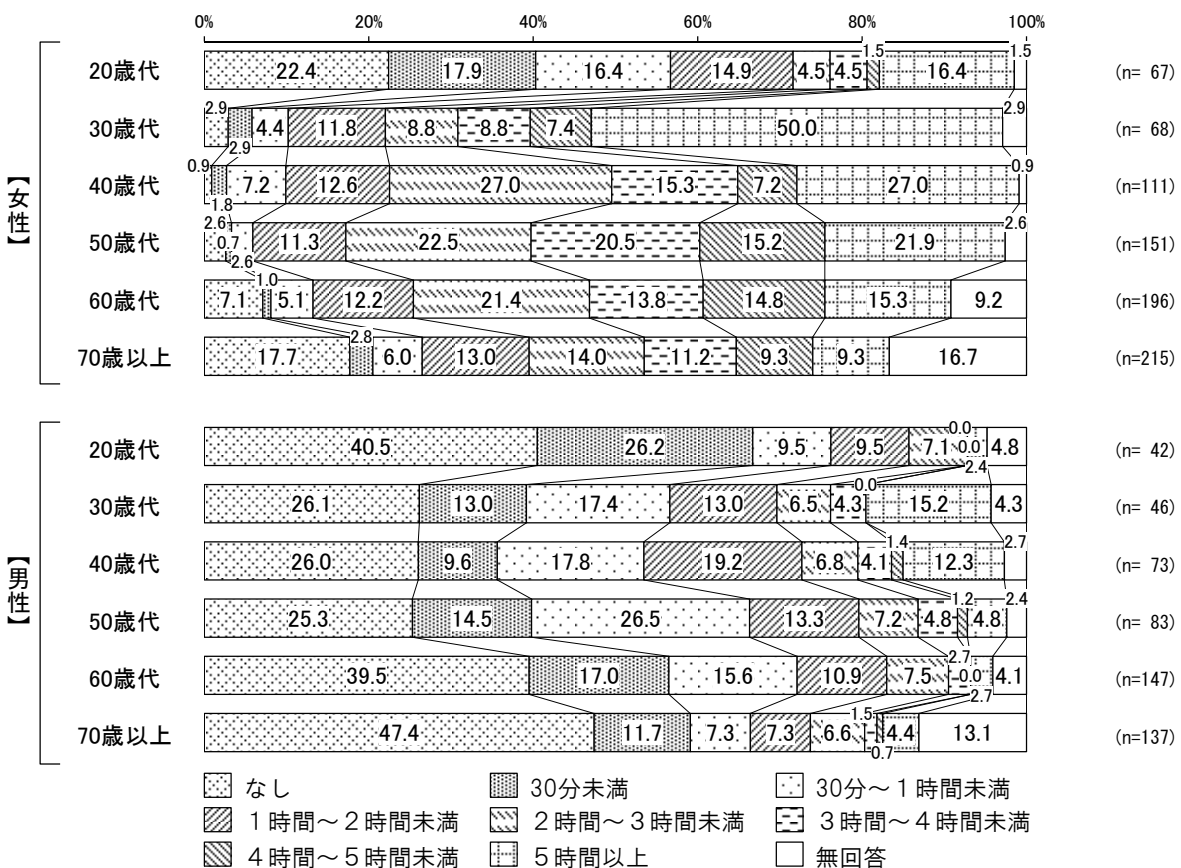


□休日の家事時間は平日と同様、女性の時間が長い

女性は「5時間以上」が19.6%で最も高く、次いで「2時間～3時間未満」が17.9%、2時間以上を合計すると61.5%で、平日とほとんど変わらない。

男性は「なし」が36.3%で最も高いのは平日と同様であるが、1時間未満までが66.0%で平日よりも13.1ポイント低く、1時間以上が27.9%となり、平日よりも10.3ポイント高くなっている。

図 性別・年代別 家事・育児・介護の時間(休日)



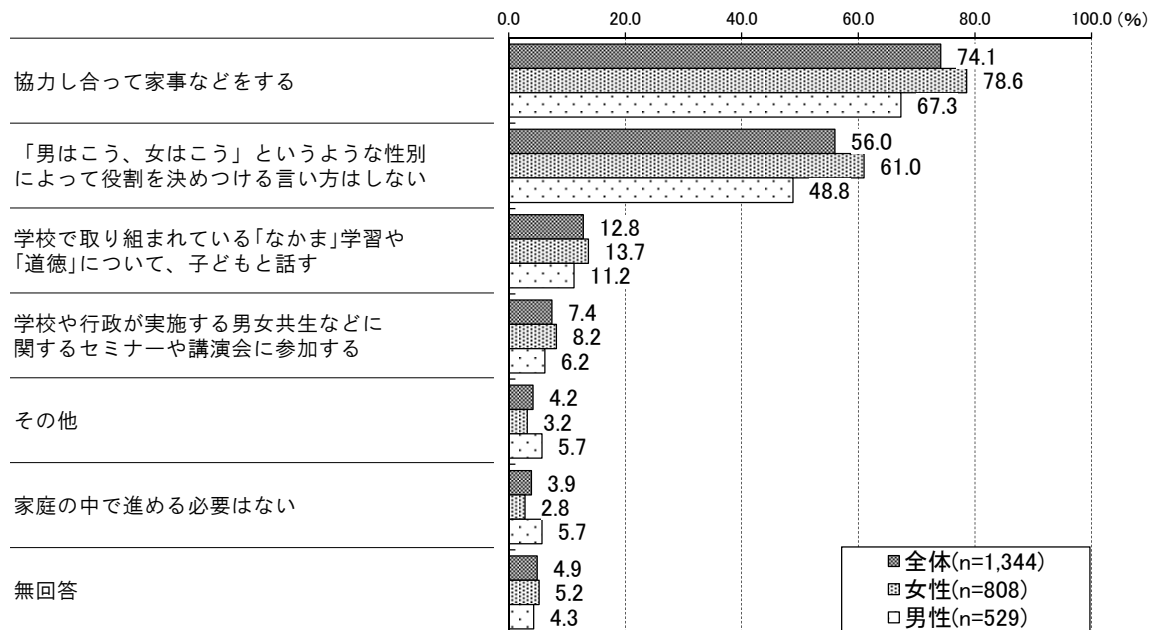
年代別にみると、女性では、20歳では「なし」または1時間未満の合計が56.7%となっている。30歳代では「5時間以上」が50.0%で最も高く、40～60歳代では1時間以上4時間未満が約50%となっている。

男性では、「なし」と「30分未満」が占める割合が高いが、平日と比べるとその割合は低くなっている。30～50歳代は平日との違いが大きく、「5時間以上」が30・40歳代では10%を超えている。

### 3. 家庭教育の中で男女共生の考え方を育むために必要なこと

問9 あなたは、家庭教育の中で、男だから女だからに関係なくお互いを尊重し協力し合える男女共生の考え方を育むためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

図 性別 家庭教育の中で男女共生の考え方を育むために必要なこと



□「協力し合って家事などをする」「男はこう、女はこう」というような性別によって役割を決めつける言い方はしない」の2項目の割合が高い

男女とも、「協力し合って家事などをする」(女性78.6%、男性67.3%)が最も高く、次いで「男はこう、女はこう」というような性別によって役割を決めつける言い方はしない」(女性61.0%、男性48.8%)である。ただし、女性と男性では10ポイント以上女性の回答割合が高い。それ以外の選択肢は、上位2項目に比べて回答割合が低くなっている。

表 性別・年代別 家庭教育の中で男女共生の考え方を育むために必要なこと

	対象者数 (n)	協力し合って家事などをする	「男はこう、女はこう」というような性別によって役割を決めつける言い方はしない	話す 学習や「道徳」について、子どもと	学校で取り組まれている「なかま」加する	学校や行政が実施する男女共生などに関するセミナーや講演会に参加する	その他	家庭の中で進める必要はない	無回答
全体	1,344	74.1	56.0	12.8	7.4	4.2	3.9	4.9	
女性	20歳代	67	77.6	<b>70.1</b>	13.4	6.0	1.5	3.0	1.5
	30歳代	68	<b>91.2</b>	<b>73.5</b>	17.6	2.9	1.5	-	1.5
	40歳代	111	<b>81.1</b>	<b>65.8</b>	16.2	8.1	4.5	3.6	-
	50歳代	151	<b>85.4</b>	<b>68.9</b>	15.9	11.9	2.6	0.7	2.0
	60歳代	196	<b>80.6</b>	58.7	11.2	7.1	3.6	2.0	6.6
	70歳以上	215	67.0	48.4	12.1	8.8	3.7	5.6	<b>11.2</b>
	男性	20歳代	42	66.7	54.8	<b>21.4</b>	4.8	4.8	<b>9.5</b>
30歳代		46	65.2	52.2	13.0	2.2	<b>13.0</b>	2.2	6.5
40歳代		73	68.5	49.3	16.4	6.8	5.5	5.5	-
50歳代		83	68.7	49.4	12.0	4.8	3.6	4.8	1.2
60歳代		147	65.3	53.1	9.5	7.5	6.1	6.1	5.4
70歳以上		137	69.3	40.9	5.8	7.3	3.6	5.8	6.6

注)濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

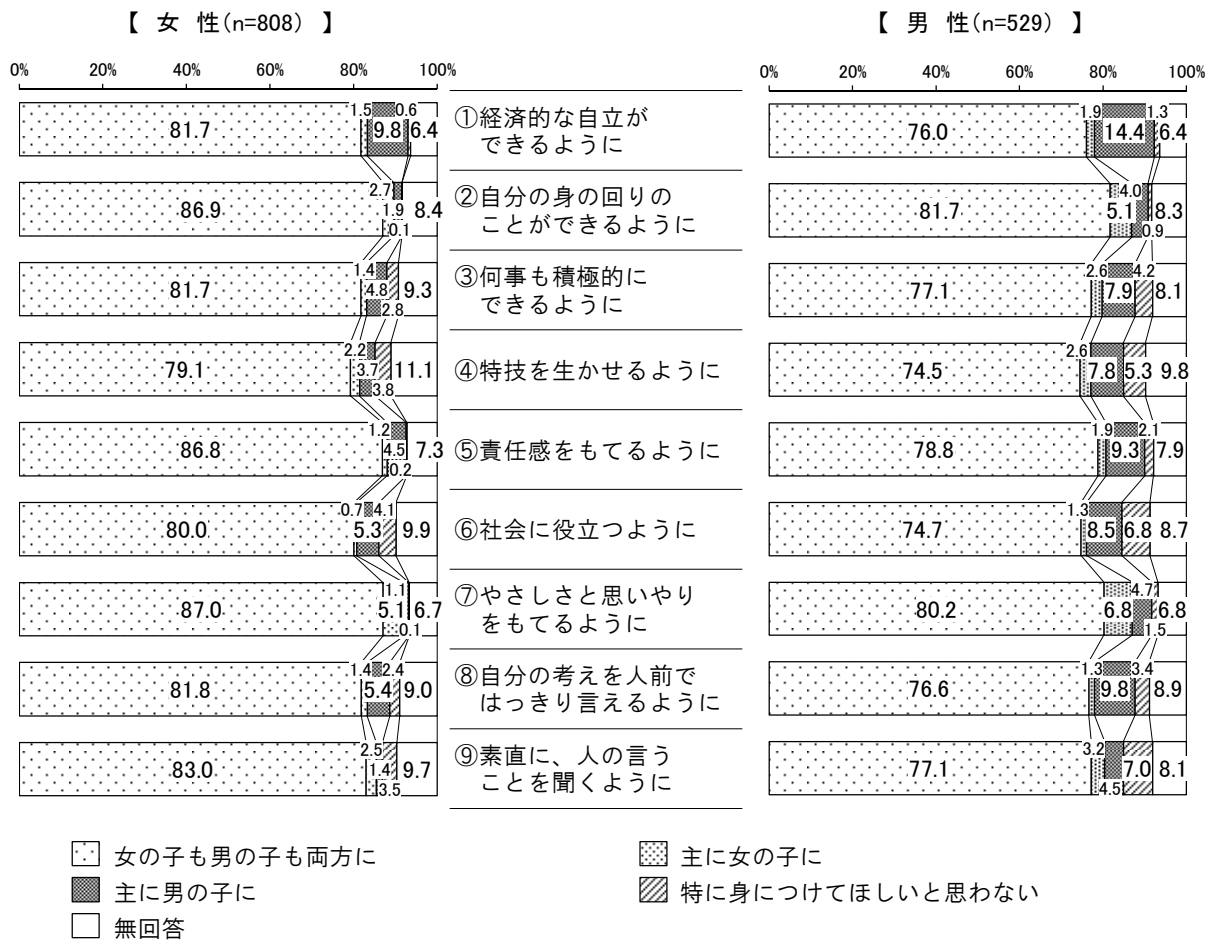
年代別にみると、女性の30歳代では「協力し合って家事などをする」が91.2%と特に高く、男性の30歳代(65.2%)とは26.0ポイントの差がある。また、女性の20・30歳代は『男はこう、女はこう』というような性別によって役割を決めつける言い方はしない」が70%を超えている。

男性では、20歳代は「学校で取り組まれている『なかま』学習や『道徳』について、子どもと話す」が21.4%と他の年代よりも高い程度で、年代による違いが女性に比べて小さい。

#### 4. 子どもに身につけてほしい力

問10 あなたは、子どもにどのように育ってほしいですか（ほしかったですか）。子どものいない方も想像してお答えください。（○はそれぞれ1つ）

図 性別 子どもに身につけてほしい力



#### □女の子・男の子の両方にさまざまな能力を身につけてほしい

①から⑨のいずれの項目とも、男女とも「女の子も男の子も両方に」の回答は大半を占めている。男女の違いをみると、すべての項目で、女性の方が男性より「女の子も男の子も両方に」の回答割合が5ポイント程度高い。男性は、その分「主に女の子に」または「主に男の子に」と回答する割合が女性よりもやや高い傾向である。

表 性別・年代別 子どもに身につけてほしい力

	対象者数 (n)	①経済的な自立ができるように				②自分の身の回りのことができるように				③何事も積極的にできるように				
		両方に	女の子も	主に女の子に	主に男の子に	つけてほしいと思わない	特に身につけてほしいと思わない	両方に	女の子も	主に女の子に	主に男の子に	つけてほしいと思わない	特に身につけてほしいと思わない	
全体	1,344	79.4	1.6	11.5	0.9	84.8	3.6	2.8	0.4	79.9	1.9	6.0	3.3	
女性	20歳代	67	79.1	1.5	<b>17.9</b>	-	<b>94.0</b>	3.0	-	-	<b>88.1</b>	-	4.5	4.5
	30歳代	68	<b>95.6</b>	-	2.9	-	<b>98.5</b>	-	-	-	<b>94.1</b>	-	2.9	1.5
	40歳代	111	<b>87.4</b>	0.9	9.0	0.9	<b>95.5</b>	2.7	-	-	<b>91.9</b>	0.9	2.7	1.8
	50歳代	151	<b>88.1</b>	2.0	5.3	0.7	<b>91.4</b>	1.3	2.0	0.7	84.8	0.7	2.6	6.0
	60歳代	196	83.7	1.5	11.2	0.5	<b>91.8</b>	2.6	1.5	-	84.2	1.5	5.1	2.6
	70歳以上	215	68.8	1.9	11.6	0.9	68.8	4.7	4.2	-	66.0	2.8	7.9	1.4
	男性	20歳代	42	76.2	4.8	14.3	2.4	81.0	7.1	4.8	2.4	78.6	2.4	4.8
30歳代		46	82.6	-	10.9	2.2	<b>91.3</b>	4.3	-	-	82.6	-	4.3	<b>8.7</b>
40歳代		73	75.3	-	16.4	2.7	89.0	2.7	2.7	1.4	80.8	-	<b>11.0</b>	4.1
50歳代		83	84.3	1.2	12.0	-	85.5	4.8	6.0	-	<b>85.5</b>	1.2	7.2	2.4
60歳代		147	78.9	2.0	12.2	1.4	87.1	4.8	2.0	1.4	81.6	3.4	6.1	3.4
70歳以上		137	65.7	2.9	<b>18.2</b>	0.7	66.4	6.6	6.6	0.7	62.8	5.1	10.9	1.5

	対象者数 (n)	④特技を生かせるように				⑤責任感をもてるように				⑥社会に役立つように				
		両方に	女の子も	主に女の子に	主に男の子に	つけてほしいと思わない	特に身につけてほしいと思わない	両方に	女の子も	主に女の子に	主に男の子に	つけてほしいと思わない	特に身につけてほしいと思わない	
全体	1,344	77.3	2.4	5.3	4.4	83.6	1.5	6.3	1.0	77.9	1.0	6.5	5.1	
女性	20歳代	67	<b>91.0</b>	1.5	1.5	3.0	<b>94.0</b>	-	3.0	-	<b>83.6</b>	-	6.0	7.5
	30歳代	68	<b>94.1</b>	-	1.5	2.9	<b>98.5</b>	-	-	-	<b>89.7</b>	-	2.9	5.9
	40歳代	111	<b>92.8</b>	1.8	0.9	2.7	<b>95.5</b>	0.9	1.8	-	<b>91.0</b>	0.9	1.8	2.7
	50歳代	151	<b>82.8</b>	1.3	3.3	4.6	<b>89.4</b>	0.7	2.6	0.7	<b>84.1</b>	1.3	2.6	6.0
	60歳代	196	<b>82.7</b>	2.6	3.1	4.6	<b>91.3</b>	0.5	3.6	-	80.6	-	8.7	3.6
	70歳以上	215	57.7	3.7	7.4	3.7	70.2	3.3	9.8	0.5	66.5	1.4	6.5	2.3
	男性	20歳代	42	81.0	-	7.1	<b>9.5</b>	81.0	-	7.1	<b>7.1</b>	81.0	-	2.4
30歳代		46	<b>93.5</b>	-	-	2.2	87.0	-	8.7	-	78.3	-	2.2	<b>15.2</b>
40歳代		73	78.1	1.4	6.8	6.8	82.2	1.4	9.6	2.7	72.6	1.4	<b>12.3</b>	6.8
50歳代		83	80.7	2.4	<b>10.8</b>	3.6	84.3	1.2	9.6	1.2	<b>83.1</b>	1.2	8.4	6.0
60歳代		147	78.9	3.4	5.4	6.8	86.4	2.7	5.4	2.0	81.0	1.4	6.1	7.5
70歳以上		137	55.5	4.4	<b>11.7</b>	3.6	62.0	2.9	<b>13.9</b>	1.5	60.6	2.2	<b>13.1</b>	2.2

注)濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

	対象者数 (n)	⑦やさしさと思いやりをもてるように				⑧自分の考えを人前ではっきり言えるように				⑨素直に、人の言うことを聞くように				
		両方に 男の子も 女の子も	主に女の子に	主に男の子に	つけてほしい と思わない	両方に 男の子も 女の子も	主に女の子に	主に男の子に	つけてほしい と思わない	両方に 男の子も 女の子も	主に女の子に	主に男の子に	つけてほしい と思わない	
全体	1,344	84.3	5.7	2.5	0.7	79.8	1.3	7.1	2.8	80.7	2.8	2.6	4.8	
女性	20歳代	67	<b>95.5</b>	3.0	-	-	82.1	-	6.0	<b>9.0</b>	<b>91.0</b>	1.5	-	6.0
	30歳代	68	<b>97.1</b>	1.5	-	-	<b>94.1</b>	-	2.9	1.5	<b>92.6</b>	-	-	5.9
	40歳代	111	<b>96.4</b>	1.8	-	-	<b>90.1</b>	0.9	3.6	2.7	<b>91.9</b>	1.8	-	3.6
	50歳代	151	<b>89.4</b>	6.0	-	-	<b>84.8</b>	1.3	4.0	3.3	84.1	2.0	-	5.3
	60歳代	196	<b>90.8</b>	4.1	1.0	0.5	<b>85.2</b>	0.5	5.1	2.0	<b>86.2</b>	1.0	1.5	3.6
	70歳以上	215	71.2	8.8	3.3	-	68.4	3.3	8.4	-	69.3	5.6	3.7	0.5
	男性	20歳代	42	81.0	2.4	4.8	<b>7.1</b>	81.0	-	9.5	4.8	71.4	4.8	4.8
30歳代		46	<b>91.3</b>	2.2	-	2.2	<b>87.0</b>	-	6.5	2.2	<b>87.0</b>	-	2.2	6.5
40歳代		73	83.6	6.8	4.1	1.4	75.3	-	<b>13.7</b>	4.1	78.1	2.7	2.7	9.6
50歳代		83	89.2	6.0	4.8	-	83.1	-	10.8	4.8	85.5	1.2	4.8	6.0
60歳代		147	86.4	5.4	2.0	1.4	81.6	2.0	6.1	4.1	81.6	3.4	2.7	6.8
70歳以上		137	62.0	<b>11.7</b>	<b>9.5</b>	0.7	62.8	2.9	<b>12.4</b>	1.5	65.0	5.1	<b>8.0</b>	3.6

注)濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

年代別にみると、20歳代の女性は多くの項目で全体よりも「女の子も男の子も両方に」の割合が高くなっているが、①経済的な自立ができるようにについては「主に男の子に」(17.9%)の割合がやや高くなっている。30～60歳代の女性はすべての項目で全体よりも「女の子も男の子も両方に」の割合が高くなっている。

20歳代の男性は、③何事も積極的にできるように、⑥社会に役立つように、⑨素直に、人の言うことを聞くようにで「特に身につけてほしいと思わない」が10%を超えている。

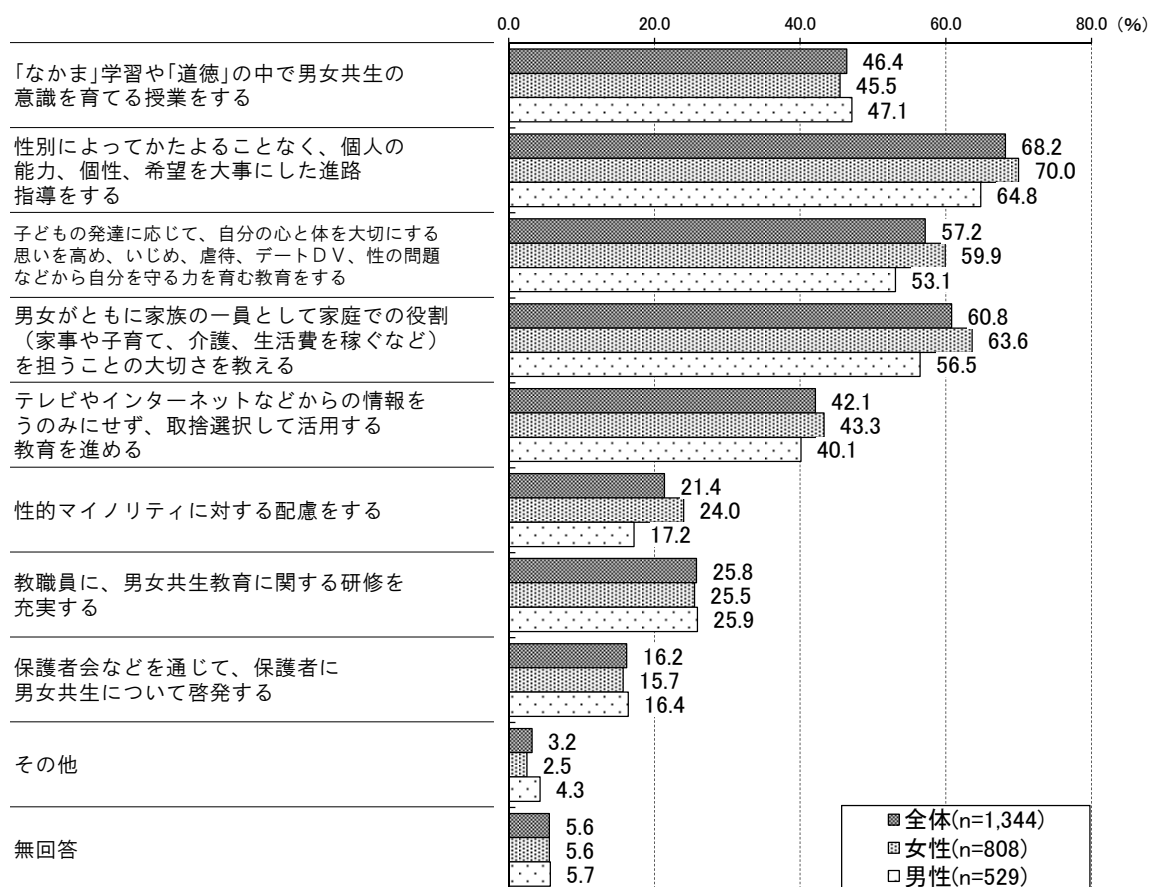
30歳代の男性は④特技を生かせるようにでは「女の子も男の子も両方に」が93.5%と高いが、⑥社会に役立つようにについては、「特に身につけてほしいと思わない」が15.2%となっている。

70歳以上の男女は「女の子も男の子も両方に」が他の年代よりも低くなっている。

## 5. 学校で男女共生を進めるために重要なこと

問11 男女共生を進めるために、小学校・中学校でどのような取組が重要だと思いますか。(〇はいくつでも)

図 性別 学校で男女共生を進めるために重要なこと



□「性別によってかたよることなく、個人の能力、個性、希望を大事にした進路指導をする」が約70%

回答割合の高い順に、「性別によってかたよることなく、個人の能力、個性、希望を大事にした進路指導をする」(女性70.0%、男性64.8%)、「男女がともに家族の一員として家庭での役割(家事や子育て、介護、生活費を稼ぐなど)を担うことの大切さを教える」(女性63.6%、男性56.5%)、「子どもの発達に応じて、自分の心と体を大切にすることを高め、いじめ、虐待、デートDV、性の問題などから自分を守る力を育む教育をする」(女性59.9%、男性53.1%)の上位3項目は、男女いずれも50%以上の回答である。続く「『なかま』学習や『道徳』の中で男女共生の意識を育てる授業をする」(女性45.5%、男性47.1%)、「テレビやインターネットなどからの情報をうのみにせず、取捨選択して活用する教育を進める」(女性43.3%、男性40.1%)の2項目は40%以上の回答である。

上位3項目は女性の方が男性よりも約5～7ポイント回答割合が高い。

表 性別・年代別 学校で男女共生を進めるために重要なこと

	対象者数 (n)	「なかま」学習や「道徳」の中で男女共生の意識を育てる授業をする	性別によってかたよることなく、個人の能力、個性、希望を大事にした進路指導をする	子どもの発達に応じて、自分の心と体を大切にすることを高め、いじめ、虐待、デートDV、性の問題などから自分を守る力を育む教育をする	男女がともに家族の一員として家庭での役割(家事や子育て、介護、生活費を稼ぐなど)を担うことの大切さを教える	テレビやインターネットなどからの情報をうのみにせず、取捨選択して活用する教育を進める	性的マイノリティに対する配慮をする	教職員に、男女共生教育に関する研修を充実する	保護者会などを通じて、保護者に男女共生について啓発する	その他	無回答	
全体	1,344	46.4	68.2	57.2	60.8	42.1	21.4	25.8	16.2	3.2	5.6	
女性	20歳代	67	49.3	<b>77.6</b>	61.2	43.3	43.3	<b>34.3</b>	28.4	17.9	3.0	1.5
	30歳代	68	<b>51.5</b>	<b>77.9</b>	61.8	<b>66.2</b>	<b>52.9</b>	<b>36.8</b>	29.4	19.1	-	1.5
	40歳代	111	39.6	<b>79.3</b>	<b>64.0</b>	<b>66.7</b>	<b>52.3</b>	25.2	22.5	14.4	3.6	0.9
	50歳代	151	39.7	72.8	60.3	65.6	45.0	21.2	27.8	9.9	2.0	3.3
	60歳代	196	44.4	<b>75.5</b>	<b>63.8</b>	64.3	40.3	20.9	28.6	18.9	3.1	6.1
	70歳以上	215	50.7	53.5	53.0	65.6	37.2	20.9	20.5	15.8	2.3	<b>11.6</b>
男性	20歳代	42	<b>52.4</b>	69.0	<b>69.0</b>	64.3	<b>64.3</b>	<b>42.9</b>	26.2	<b>21.4</b>	2.4	2.4
	30歳代	46	37.0	67.4	60.9	54.3	41.3	21.7	28.3	13.0	6.5	6.5
	40歳代	73	42.5	60.3	41.1	53.4	35.6	17.8	26.0	17.8	5.5	5.5
	50歳代	83	<b>53.0</b>	<b>78.3</b>	55.4	56.6	47.0	19.3	28.9	19.3	3.6	1.2
	60歳代	147	46.3	65.3	51.7	58.5	35.4	10.9	23.8	15.0	4.1	4.8
	70歳以上	137	48.9	56.9	52.6	54.7	35.8	13.1	25.5	15.3	3.6	10.2

注)濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

年代別にみると、女性では20・30歳代は、「性的マイノリティに対する配慮をする」が、それぞれ34.3%、36.8%となっている。また、30・40歳代では「テレビやインターネットなどからの情報をうのみにせず、取捨選択して活用する教育を進める」が50%以上となっている。

男性の20歳代では、「子どもの発達に応じて、自分の心と体を大切にすることを高め、いじめ、虐待、デートDV、性の問題などから自分を守る力を育む教育をする」(69.0%)、「テレビやインターネットなどからの情報をうのみにせず、取捨選択して活用する教育を進める」(64.3%)、「性的マイノリティに対する配慮をする」(42.9%)が他の年代層よりも高くなっている。

男女とも70歳以上では「性別によってかたよることなく、個人の能力、個性、希望を大事にした進路指導をする」が他の年代層よりも低く、女性53.5%、男性56.9%となっている。

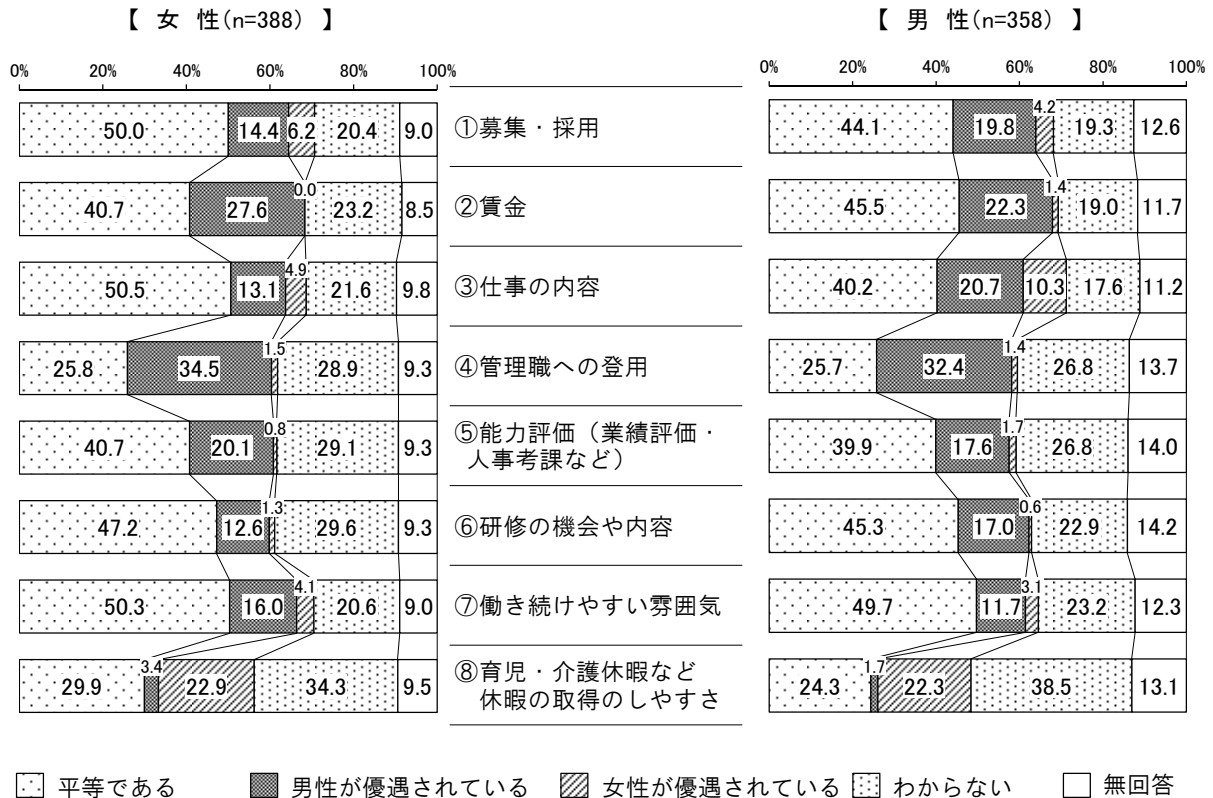
## 2. 仕事について

### 1. 職場において男女格差を感じる事

《現在、働いている方におたずねします。》

問12 あなたの今の職場では、性別によって差があると思いますか。①～⑧のそれぞれについてお答えください。  
(○はそれぞれ1つ)

図 性別 職場において男女格差を感じる事



#### 男女ともに、管理職への登用に「男性が優遇されている」と考える人が30%以上

女性は「平等である」の回答割合が高い順に挙げると、③仕事の内容(50.5%)、⑦働き続けやすい雰囲気(50.3%)、①募集・採用(50.0%)、⑥研修の機会や内容(47.2%)となっており、男性では⑦働き続けやすい雰囲気(49.7%)、②賃金(45.5%)、⑥研修の機会や内容(45.3%)、①募集・採用(44.1%)で、やや順位が異なっている。

④管理職への登用は、男女とも「平等である」より「男性が優遇されている」の割合が高くなっている。⑧育児・介護休暇など休暇の取得のしやすさは、「女性が優遇されている」の回答が男女とも20%を超えている。

#### ① 募集・採用

女性では「平等である」が50.0%、「男性が優遇されている」が14.4%である。男性は「平等である」が44.1%、「男性が優遇されている」が19.8%で、「男性が優遇されている」が女性より5.4ポイント高い。

#### ② 賃金

女性では「平等である」が40.7%、「男性が優遇されている」が27.6%である。男性は「平等である」が45.5%、「男性が優遇されている」が22.3%で、女性の方が男性より「男性が優遇されている」5.3ポイント高

い。

### ③仕事の内容

女性では「平等である」が50.5%、「男性が優遇されている」が13.1%である。男性は「平等である」が40.2%、「男性が優遇されている」が20.7%、「女性が優遇されている」が10.3%で、「男性が優遇されている」が女性より高い一方、「女性が優遇されている」の回答も高くなっている。

### ④管理職への登用

女性では「男性が優遇されている」が34.5%で、「平等である」が25.8%である。男性は「男性が優遇されている」が32.4%で、「平等である」が25.7%で女性とほとんど変わらない。

### ⑤能力評価(業績評価・人事考課など)

女性では「平等である」が40.7%、「男性が優遇されている」が20.1%である。男性は「平等である」が39.9%、「男性が優遇されている」が17.6%で、男女の意識差は小さい。

### ⑥研修の機会や内容

女性では「平等である」が47.2%、「男性が優遇されている」が12.6%である。男性は「平等である」が45.3%、「男性が優遇されている」が17.0%で、「男性が優遇されている」が女性より4.4ポイント高い。

### ⑦働き続けやすい雰囲気

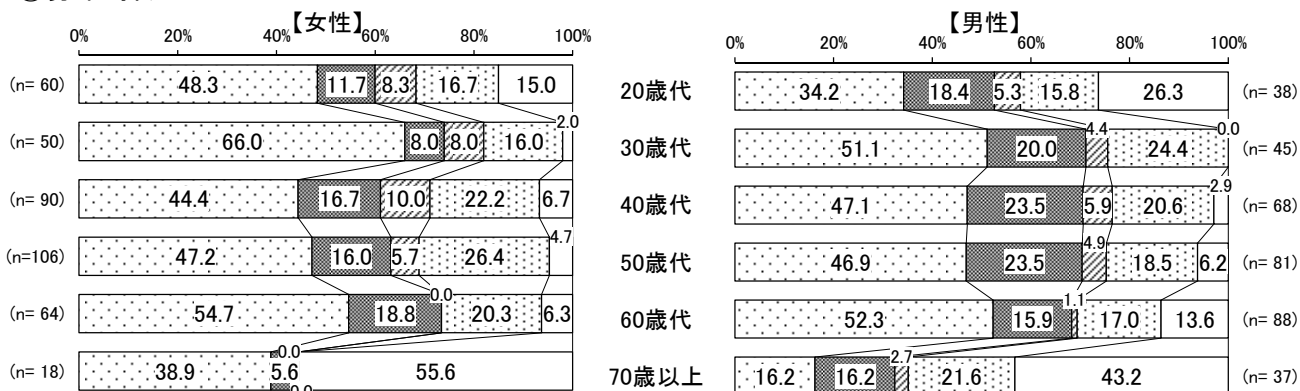
女性では「平等である」が50.3%、「男性が優遇されている」が16.0%である。男性は「平等である」が49.7%、「男性が優遇されている」が11.7%で、女性の方が男性より「男性が優遇されている」4.3ポイント高い。

### ⑧育児・介護休暇など休暇の取得のしやすさ

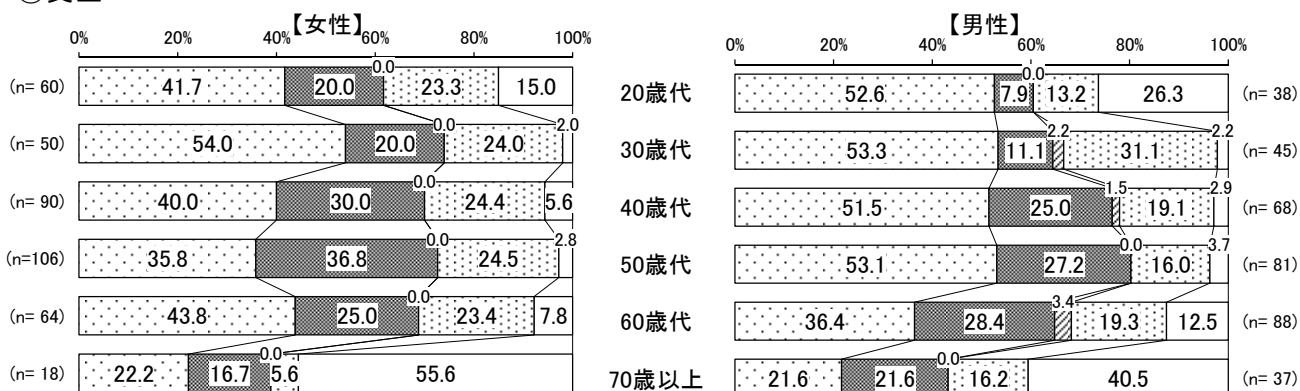
女性では「平等である」が29.9%、「女性が優遇されている」が22.9%である。男性は「平等である」が24.3%、「女性が優遇されている」が22.3%で、男女の意識差は小さい。

図 性別・年代別 職場において男女格差を感じること

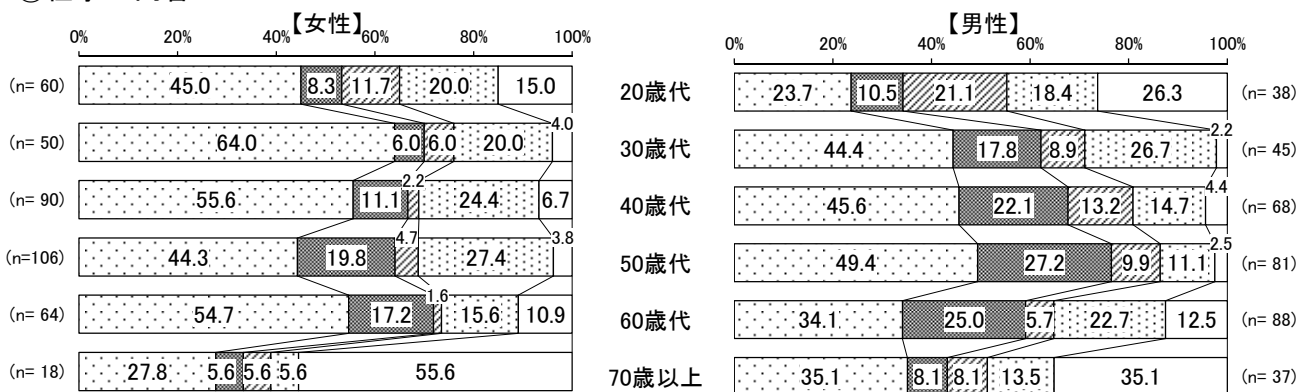
①募集・採用



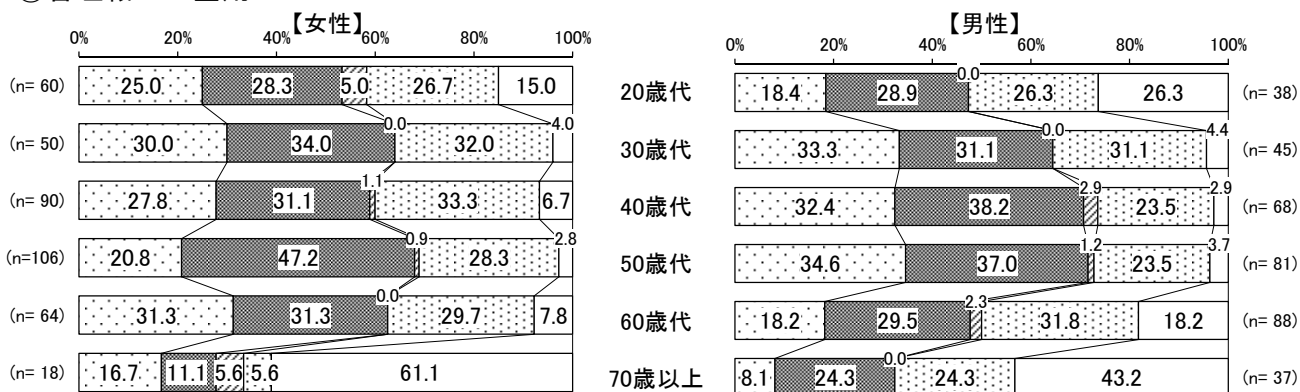
②賃金



③仕事の内容

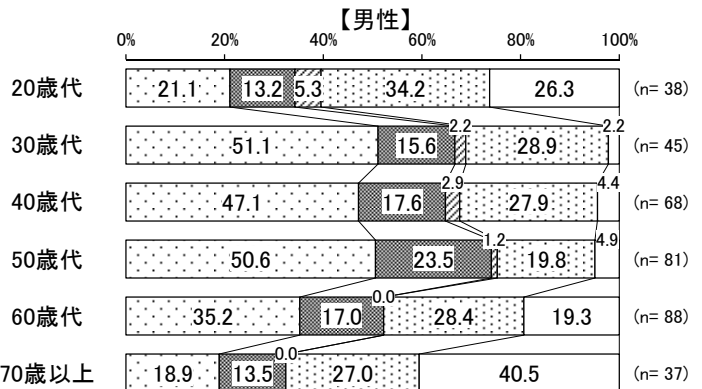
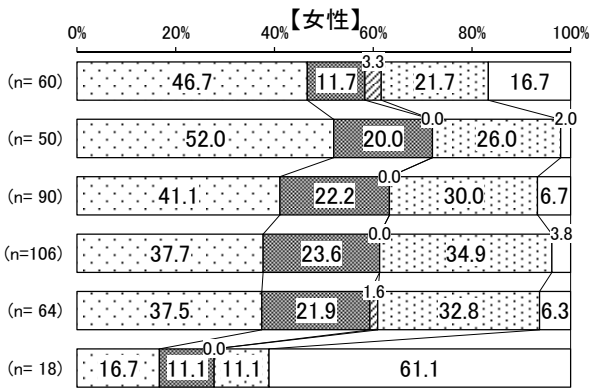


④管理職への登用

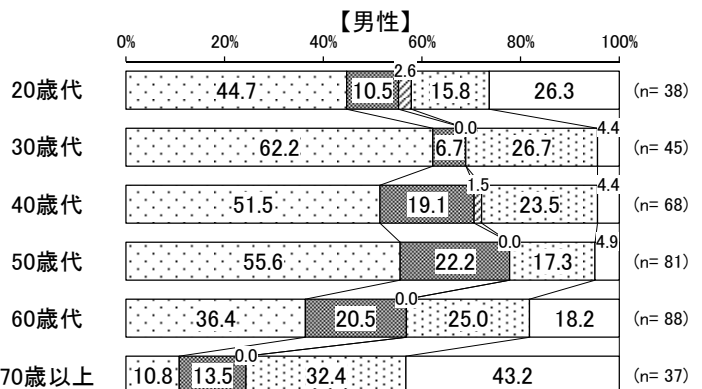
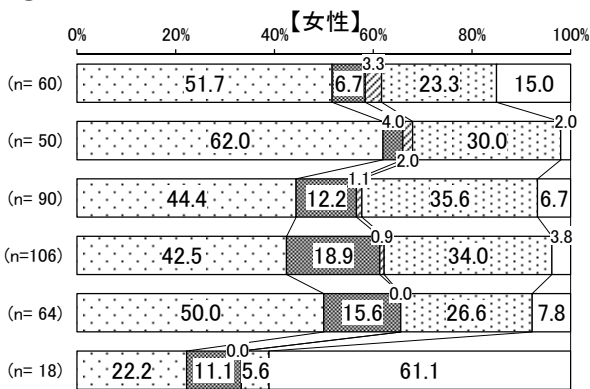


□ 平等である    ■ 男性が優遇されている    ▨ 女性が優遇されている    ▤ わからない    □ 無回答

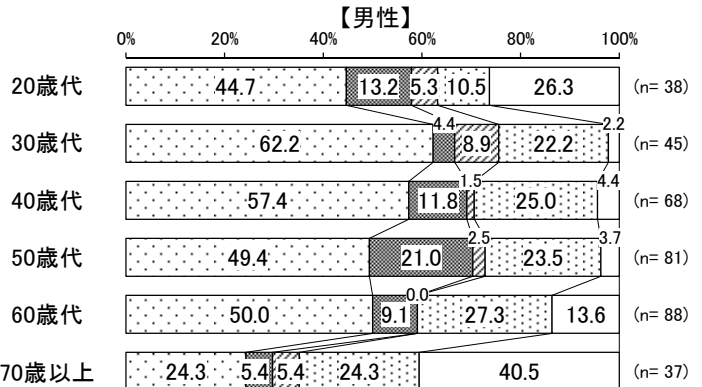
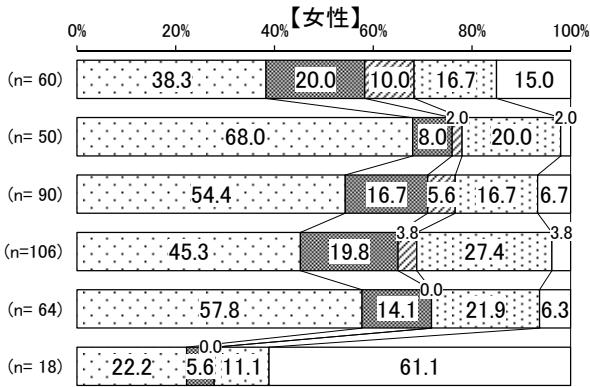
⑤能力評価(業績評価・人事考課など)



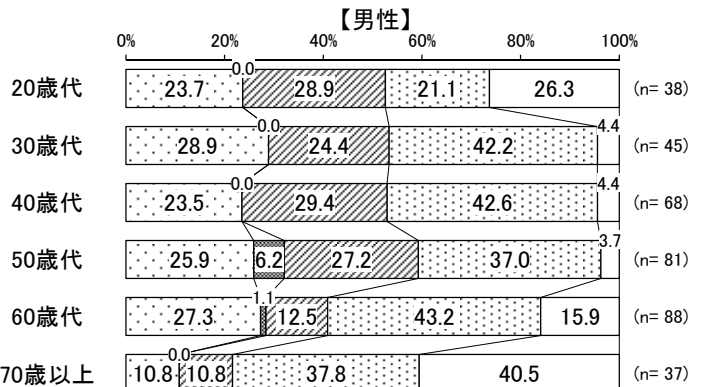
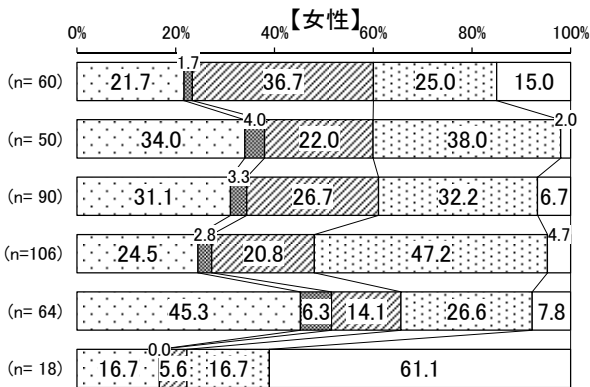
⑥研修の機会や内容



⑦働き続けやすい雰囲気



⑧育児・介護休暇など休暇の取得のしやすさ



平等である
  男性が優遇されている
  女性が優遇されている
  わからない
  無回答

## ①募集・採用

30歳代と60歳代の男女では「平等である」が50%を超えている。

## ②賃金

女性では、30歳代では「平等である」が54.0%となっているが、40・50歳代では「男性が優遇されている」が比較的高く、それぞれ30.0%、36.8%となっている。男性では20～50歳代は「平等である」が50%を超えている。「男性が優遇されている」は、男性では年代が上がるにつれて割合が高くなる傾向がみられる。

## ③仕事の内容

20歳代は男女ともに「女性が優遇されている」の割合が他の年代層よりやや高く、男性では「平等である」が23.7%と低くなっている。女性の30歳代では「平等である」が64.0%と高くなっている。

## ④管理職への登用

女性の30～60歳代と、男性の30～50歳代では、「男性が優遇されている」が30%を超えている。なかでも50歳代の女性は「男性が優遇されている」が47.2%と高い。

## ⑤能力評価（業績評価・人事考課など）

30歳代の女性と、30～50歳代の男性では「平等である」が約50%となっている。20・70歳代の男性は「平等である」が約20%と他の年代よりも低くなっている。

## ⑥研修の機会や内容

30歳代は「平等である」が女性の62.0%、男性の62.2%を占めており、「男性が優遇されている」が他の年代層より低くなっている。

## ⑦働き続けやすい雰囲気

30歳代は「平等である」が女性68.0%、男性62.2%と高い。20歳代の男女は30～60歳代と比べて「平等である」の割合が低くなっている。

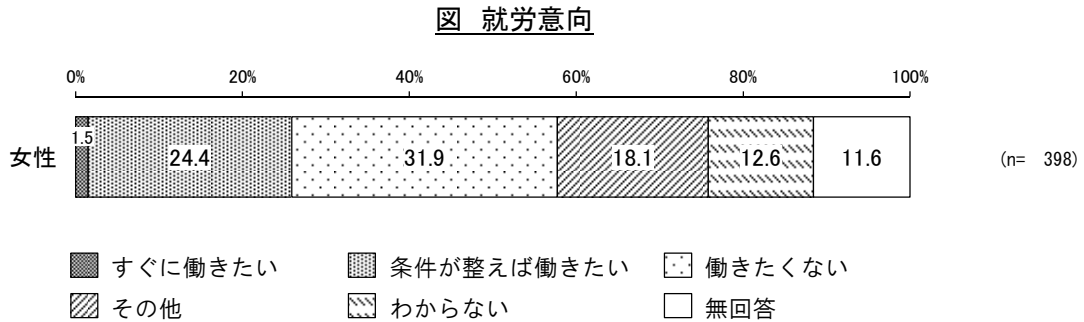
## ⑧育児・介護休暇など休暇の取得のしやすさ

20歳代の女性と、20・40・50歳代の男性では「平等である」よりも、「女性が優遇されている」の割合が高くなっている。

## 2. 就労意向

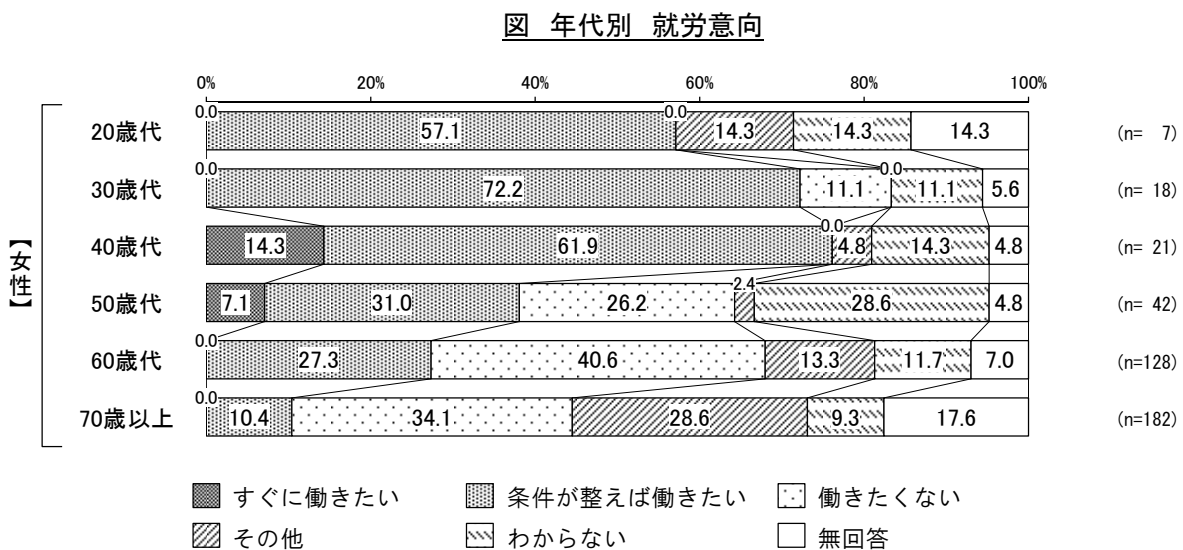
《現在、家事専業、無職の女性におたずねします。》

問13 あなたは、今後、働きたいと思いますか。(○は1つ)



### □50歳未満の家事専業、無職の女性の多くは「条件が整えば働きたい」と考えている

現在働いていない女性に就労意向をたずねたところ、「働きたくない」が31.9%、「条件が整えば働きたい」が24.4%である。「その他」の記述の多くは、高齢や病気のため働けないという内容であった。



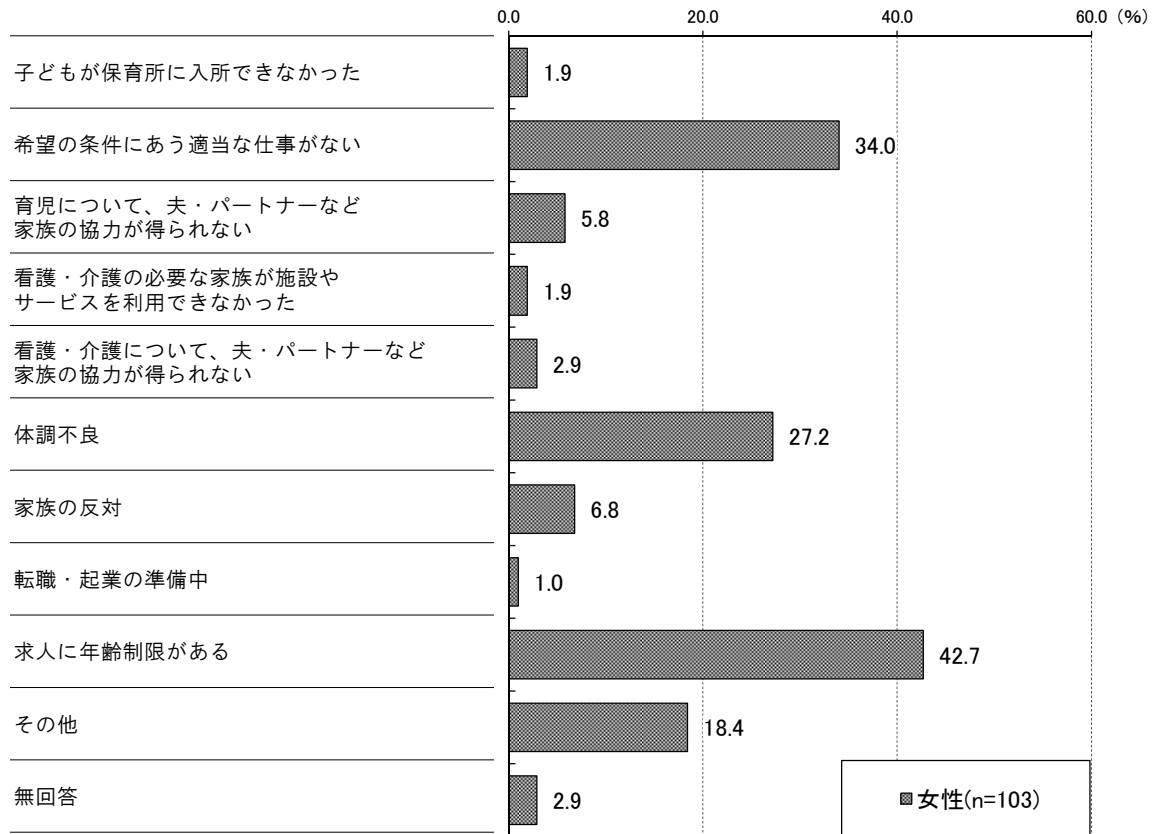
年代別にみると、「条件が整えば働きたい」と答えた人の割合は、20歳代で57.1%、30歳代で72.2%、40歳代で61.9%となっている。40歳代は「すぐに働きたい」が14.3%となっており、「条件が整えば働きたい」(61.9%)との合計が76.2%となっている。

### 3. 働くことができない理由

《問13で「1. すぐに働きたい」「2. 条件を整えば働きたい」と答えた方におたずねします。》

問13-1 今後は働きたいけれども、現在働くことができない理由は何ですか。(○はいくつでも)

図 働くことができない理由



□働いていない理由は「求人年齢制限がある」「希望の条件にあう適当な仕事がない」「体調不良」

現在働くことができない理由では、「求人年齢制限がある」(42.7%)、「希望の条件にあう適当な仕事がない」(34.0%)、「体調不良」(27.2%)の回答が高い。「その他」では、看護・介護の必要な家族がいる、子どもが小さい、妊娠中などの記述があった。

表 年代別 働くことができない理由

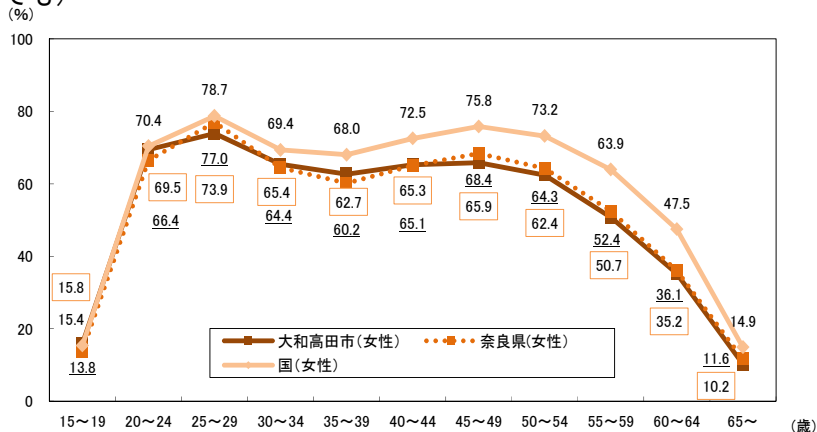
	対象者数 (n)	子どもが保育所に入所できなかった	希望の条件にあう適当な仕事がない	育児について、夫・パートナーなど家族の協力が得られない	看護・介護の必要な家族が施設やサービスを利用できなかった	看護・介護について、夫・パートナーなど家族の協力が得られない	体調不良	家族の反対	転職・起業の準備中	求人に年齢制限がある	その他	無回答
全体	103	1.9	34.0	5.8	1.9	2.9	27.2	6.8	1.0	42.7	18.4	2.9
女性	20歳代	4	-	-	-	-	50.0	-	-	-	50.0	-
	30歳代	13	15.4	38.5	7.7	-	7.7	7.7	7.7	-	38.5	-
	40歳代	16	-	56.3	18.8	6.3	12.5	50.0	6.3	6.3	12.5	-
	50歳代	16	-	43.8	12.5	-	6.3	43.8	6.3	-	50.0	25.0
	60歳代	35	-	34.3	-	2.9	-	22.9	5.7	-	65.7	11.4
	70歳以上	19	-	10.5	-	-	-	10.5	10.5	-	63.2	10.5

注)濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。  
ただし、対象者数(n)が10未満の項目については網掛けを除外している。

年代別にみると、30歳代は「子どもが保育所に入所できなかった」が15.4%となっている。40歳代は「希望の条件にあう適当な仕事がない」と「体調不良」が50%を超えている。50歳以上の年代層では「求人に年齢制限がある」が最も高い。

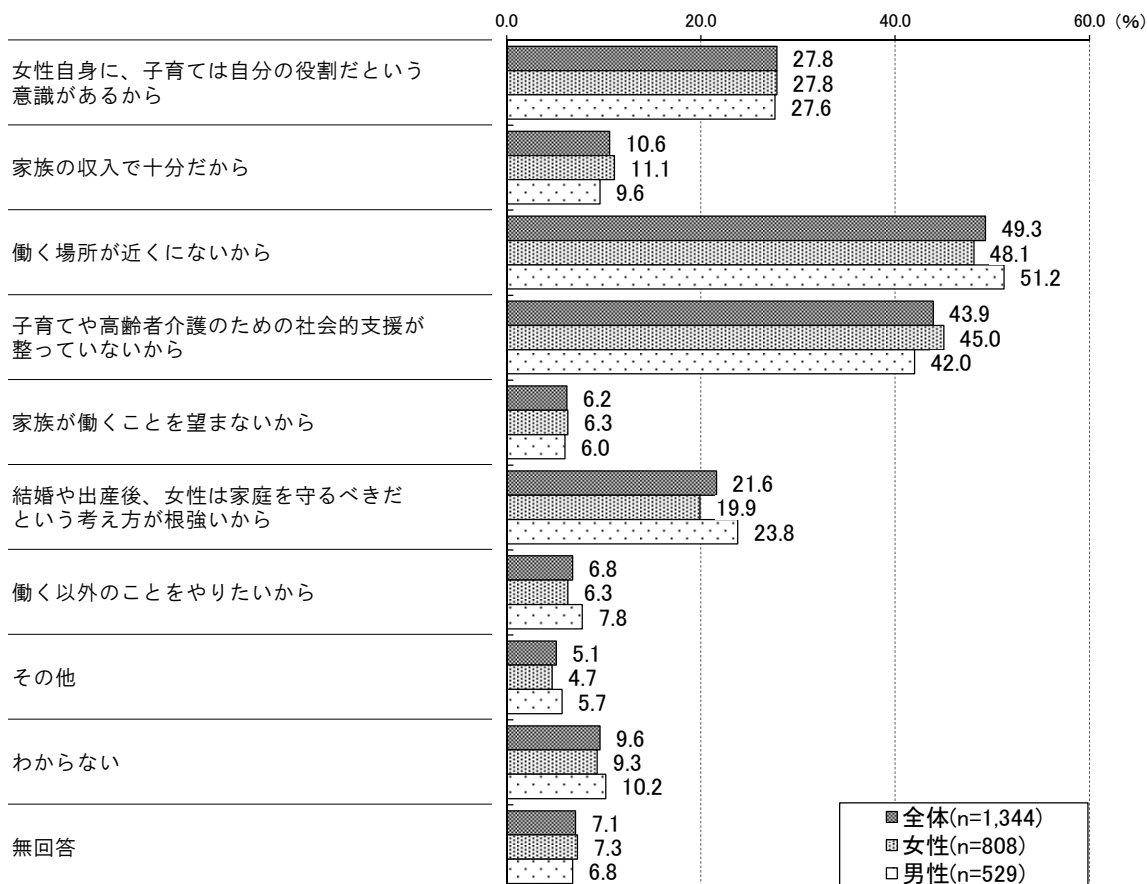
#### 4. 大和高田市の女性の労働力率が低い理由

問14 下のグラフは大和高田市と全国の女性の労働力率（15歳以上人口に占める労働力人口の割合）を年齢層別に表わしたものです。大和高田市の女性の労働力率は、25歳以上の年齢層で全国平均より低くなっています。あなたは、その理由をどのようにお考えですか。当てはまると思われるものに○をつけてください。（○はいくつでも）



資料：平成22年国勢調査

図 性別 大和高田市の女性の労働力率が低い理由



□「働く場所が近くにないから」と「子育てや高齢者介護のための社会的支援が整っていないから」が2大理由

大和高田市の女性労働力率が全国平均より低い理由として挙げられたのは、男女とも「働く場所が近くにないから」（女性48.1%、男性51.2%）が最も高く、次いで「子育てや高齢者介護のための社会的支援が整っていないから」（女性45.0%、男性42.0%）である。さらに「女性自身に、子育ては自分の役割だという意識があるから」「結婚や出産後、女性は家庭を守るべきだという考え方が根深いから」が続き、男女で傾向は変わらない。

表 性別・年代別 大和高田市の女性の労働力率が低い理由

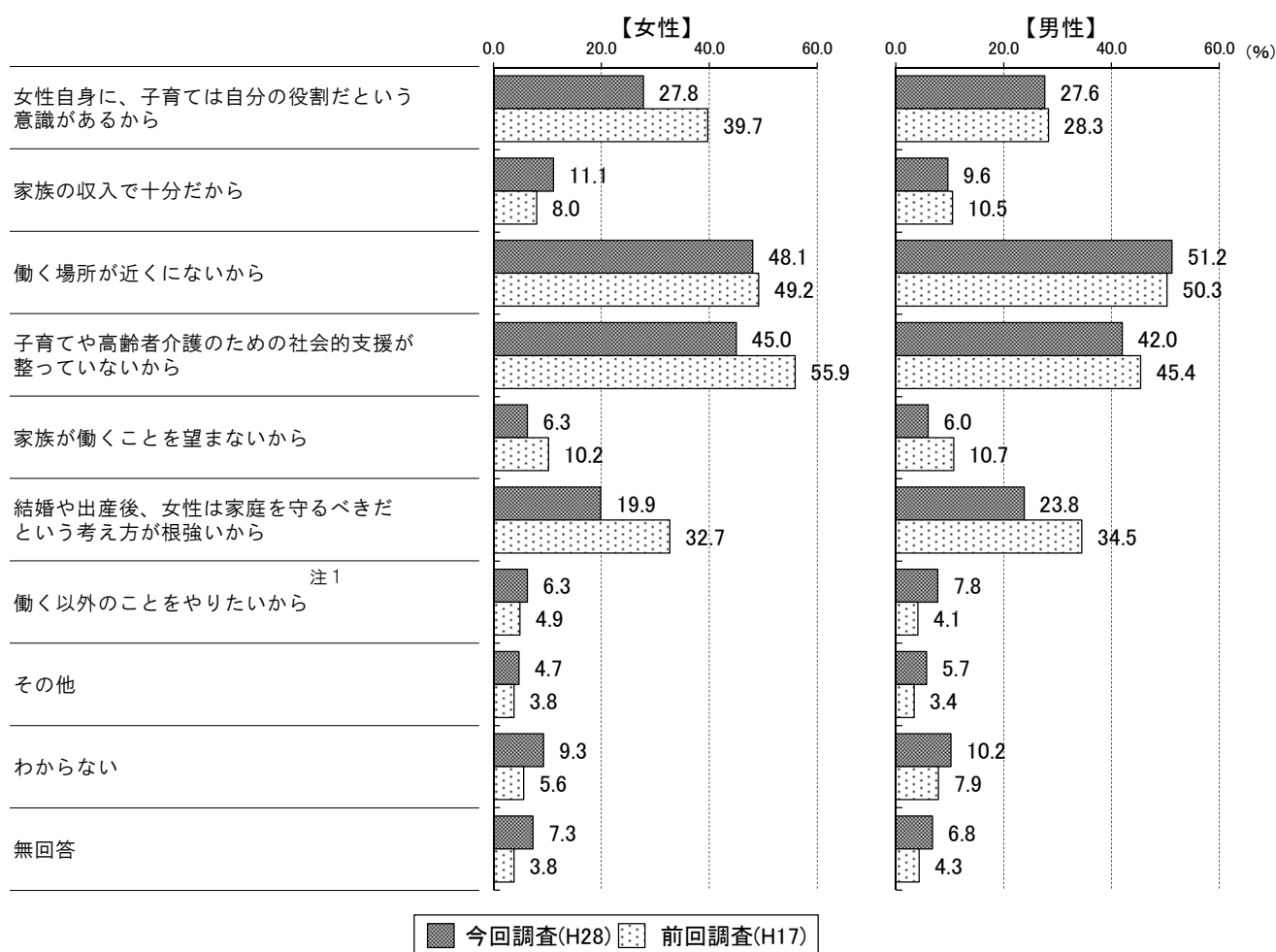
	対象者数 (n)	あるから 女性自身に、子育ては自分の役割だという意識があるから	家族の収入で十分だから	働く場所が近くないから	子育てや高齢者介護のための社会的支援が整っていないから	家族が働くことを望まないから	庭を守るべきだという考え方が根強いから	結婚や出産後、女性は家庭を守るべきだという考え	働く以外のことをやりたいから	その他	わからない	無回答
全体	1,344	27.8	10.6	49.3	43.9	6.2	21.6	6.8	5.1	9.6	7.1	
女性	20歳代	67	17.9	55.2	49.3	7.5	25.4	7.5	6.0	3.0	-	
	30歳代	68	23.5	60.3	55.9	8.8	23.5	2.9	5.9	7.4	-	
	40歳代	111	43.2	17.1	45.0	49.5	9.0	25.2	7.2	6.3	0.9	
	50歳代	151	22.5	11.3	55.6	53.6	6.6	21.2	7.3	3.3	10.6	
	60歳代	196	33.2	8.2	45.4	43.9	4.6	19.9	6.1	6.6	8.2	
	70歳以上	215	21.4	4.7	40.9	33.0	5.1	13.5	6.0	1.9	13.5	18.6
	男性	20歳代	42	42.9	11.9	45.2	45.2	9.5	33.3	21.4	11.9	9.5
30歳代		46	28.3	13.0	45.7	37.0	13.0	21.7	13.0	10.9	13.0	-
40歳代		73	19.2	11.0	56.2	37.0	9.6	20.5	5.5	12.3	11.0	4.1
50歳代		83	26.5	15.7	55.4	45.8	8.4	14.5	3.6	3.6	6.0	6.0
60歳代		147	27.2	5.4	57.1	51.7	2.0	29.3	6.8	2.7	8.2	5.4
70歳以上		137	28.5	8.0	43.8	32.8	3.6	23.4	6.6	2.2	13.9	13.9

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

年代別にみると、女性の30歳代は「働く場所が近くないから」(60.3%)、「子育てや高齢者介護のための社会的支援が整っていないから」(55.9%)、「家族の収入で十分だから」(23.5%)が全体よりも10ポイント以上高くなっている。女性の40歳代は、「子育てや高齢者介護のための社会的支援が整っていないから」が49.5%で最も高く、また「女性自身に、子育ては自分の役割だという意識があるから」が43.2%で全体よりも15.4ポイント高くなっている。

男性では20歳代は「女性自身に、子育ては自分の役割だという意識があるから」(42.9%)、「結婚や出産後、女性は家庭を守るべきだという考え方が根強いから」(33.3%)、「働く以外のことをやりたいから」(21.4%)の割合が他の年代層よりも高くなっている。

図 性別 大和高田市の女性の労働力率が低い理由(前回調査との比較)



注1) 前回調査では「生涯学習やボランティア活動など働く以外のことをやりたいから」

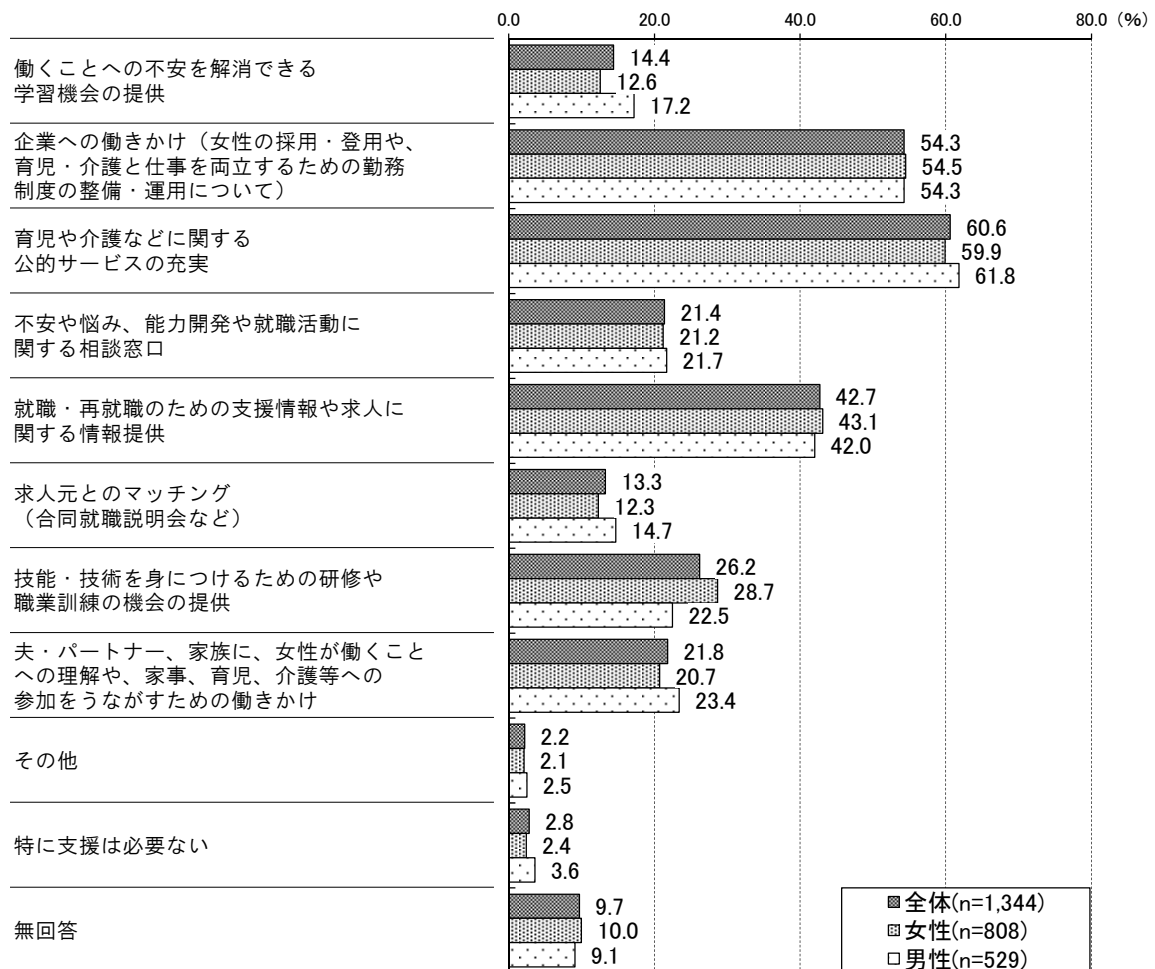
前回調査(平成17年)と比較すると、女性は前回調査では「子育てや高齢者介護のための社会的支援が整っていないから」の割合が55.9%で最も高くなっているが、今回調査は前回調査と比べて「子育てや高齢者介護のための社会的支援が整っていないから」「女性自身に、子育ては自分の役割だという意識があるから」「結婚や出産後、女性は家庭を守るべきだという考え方が根強いから」の割合が低く、「働く場所が近くにないから」が最も割合の高い項目となっている。

男性は前回調査・今回調査ともに「働く場所が近くにないから」が最も高く、次いで「子育てや高齢者介護のための社会的支援が整っていないから」の割合が高くなっている。「結婚や出産後、女性は家庭を守るべきだという考え方が根強いから」の割合は、今回調査23.8%、前回調査34.5%となっており、今回調査が10.7ポイント低くなっている。

## 5. 女性が就職・再就職しやすい社会をつくるために必要なこと

問15 あなたは、女性が就職・再就職を希望する場合、大和高田市からどのような支援が必要だと思いますか。  
(〇はいくつでも)

図 性別 女性が就職・再就職しやすい社会をつくるために必要なこと



□「育児や介護などに関する公的サービスの充実」や「企業への働きかけ」、「就職・再就職のための支援情報や求人に関する情報提供」が必要

「育児や介護などに関する公的サービスの充実」（女性59.9%、男性61.8%）が男女とも最も高く、次いで「企業への働きかけ（女性の採用・登用や、育児・介護と仕事を両立するための勤務制度の整備・運用について）」（女性54.5%、男性54.3%）、「就職・再就職のための支援情報や求人に関する情報提供」（女性43.1%、男性42.0%）となっており、これら上位3項目は男女の回答にほとんど差がみられない。

表 性別・年代別 女性が就職・再就職しやすい社会をつくるために必要なこと

	対象者数 (n)	働くことへの不安を解消できる学習機会 の提供	企業への働きかけ(女性の採用・登用や、 育児・介護と仕事を両立するための勤務 制度の整備・運用について)	育児や介護などに関する公的サービ スの充実	不安や悩み、能力開発や就職活動に関 する相談窓口	就職・再就職のための支援情報や求人 に関する情報提供	求人元とのマッチング(合同就職説明会 など)	技能・技術を身につけるための研修や職 業訓練の機会の提供	夫・パートナー、家族に、女性が働くこ とへの理解や、家事、育児、介護等への 参加をうながすための働きかけ	その他	特に支援は必要ない	無回答	
全体	1,344	14.4	54.3	60.6	21.4	42.7	13.3	26.2	21.8	2.2	2.8	9.7	
女性	20歳代	67	17.9	50.7	<b>73.1</b>	<b>32.8</b>	<b>53.7</b>	<b>31.3</b>	<b>32.8</b>	25.4	3.0	1.5	-
	30歳代	68	17.6	<b>77.9</b>	<b>69.1</b>	10.3	47.1	16.2	29.4	26.5	2.9	1.5	1.5
	40歳代	111	18.9	58.6	62.2	26.1	<b>48.6</b>	<b>19.8</b>	<b>33.3</b>	25.2	5.4	0.9	0.9
	50歳代	151	11.3	<b>69.5</b>	<b>70.2</b>	24.5	45.0	13.2	<b>33.8</b>	20.5	-	2.0	3.3
	60歳代	196	11.7	<b>60.7</b>	60.7	19.9	<b>48.0</b>	8.7	29.6	18.9	2.0	1.5	8.2
	70歳以上	215	7.9	29.8	43.7	17.2	29.8	3.7	20.5	16.7	1.4	4.7	<b>27.0</b>
	男性	20歳代	42	<b>28.6</b>	57.1	64.3	21.4	35.7	<b>19.0</b>	26.2	<b>35.7</b>	4.8	<b>9.5</b>
30歳代		46	<b>26.1</b>	54.3	65.2	<b>28.3</b>	37.0	13.0	21.7	19.6	4.3	2.2	2.2
40歳代		73	19.2	58.9	61.6	20.5	42.5	<b>19.2</b>	20.5	20.5	5.5	4.1	2.7
50歳代		83	14.5	<b>67.5</b>	<b>73.5</b>	21.7	47.0	<b>20.5</b>	20.5	22.9	2.4	3.6	4.8
60歳代		147	15.0	<b>59.9</b>	63.9	25.9	<b>50.3</b>	10.2	22.4	22.4	-	-	7.5
70歳以上		137	13.9	37.2	51.1	16.1	33.6	13.1	24.1	24.1	2.2	5.1	<b>21.2</b>

注)濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

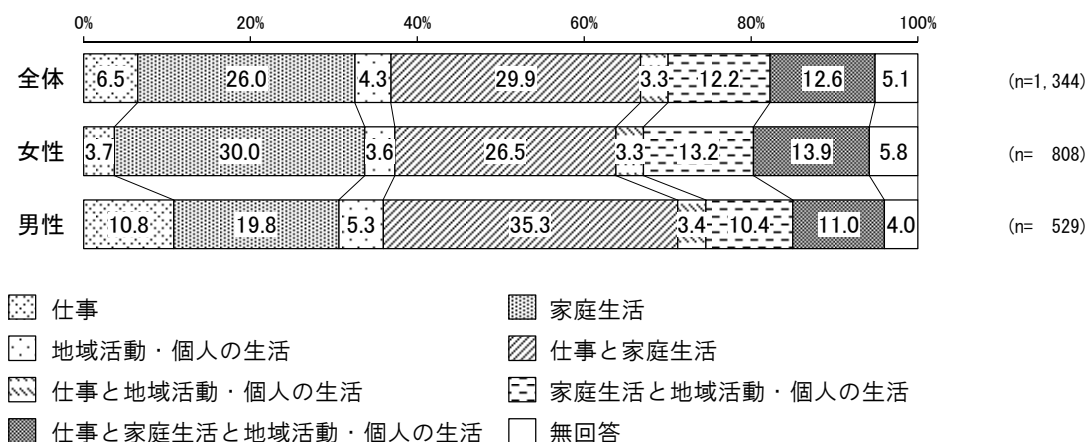
年代別にみると、20歳代の女性は、「育児や介護などに関する公的サービスの充実」(73.1%)、「就職・再就職のための支援情報や求人に関する情報提供」(53.7%)、「不安や悩み、能力開発や就職活動に関する相談窓口」(32.8%)、「求人元とのマッチング(合同就職説明会など)」(31.3%)が、他の年代層と比べて高くなっている。30歳代の女性では、「企業への働きかけ(女性の採用・登用や、育児・介護と仕事を両立するための勤務制度の整備・運用について)」が77.9%と高くなっている。70歳以上の男女では「企業への働きかけ(女性の採用・登用や、育児・介護と仕事を両立するための勤務制度の整備・運用について)」は女性29.8%、男性37.2%にとどまっている。

男性では、20歳代は「夫・パートナー、家族に、女性が働くことへの理解や、家事、育児、介護等への参加をうながすための働きかけ」が35.7%で他の年代に比べて高い。50歳代で「育児や介護などに関する公的サービスの充実」(73.5%)、「企業への働きかけ(女性の採用・登用や、育児・介護と仕事を両立するための勤務制度の整備・運用について)」(67.5%)が高くなっている。

## 6. 生活の中で優先したいこと、していること

問16 あなたは、生活の中で「仕事」「家庭生活」「地域活動・個人の生活」で何を優先しますか。あなたの希望と現実（現状）に最も近いものをそれぞれについてお答えください。（〇はそれぞれ1つ）

図 性別 生活の中で優先したいこと



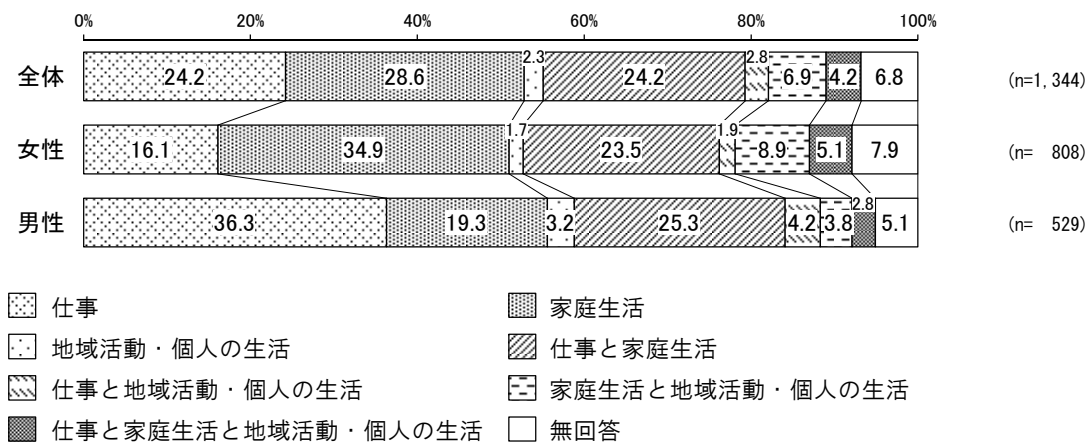
□希望する生活は女性では「家庭生活」、男性では「仕事と家庭生活」が最も高い

生活の中で優先したいことの希望について、女性では「家庭生活」が30.0%で最も高く、次いで「仕事と家庭生活」26.5%である。

男性は「仕事と家庭生活」35.3%が最も高く、「家庭生活」の19.8%が続いている。

「仕事と家庭生活と地域活動・個人の生活」の3つをバランスよく希望するのは女性13.9%、男性11.0%となっている。

図 性別 生活の中で優先していること



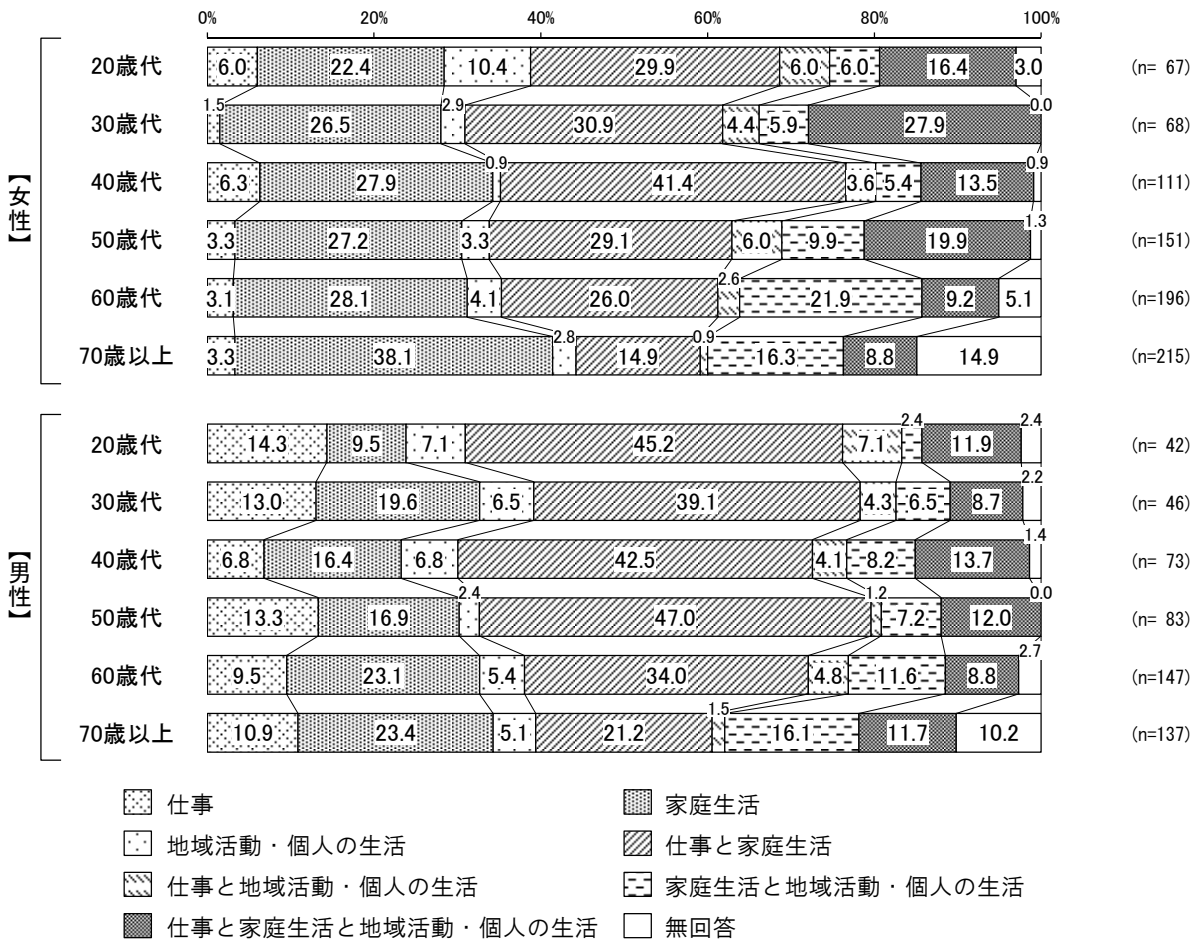
□希望する仕事と家庭の両立を実現できていない男女が多い

現実の生活では、女性は「家庭生活」が34.9%で最も高く、希望と比べて4.9ポイント高い。次いで「仕事と家庭生活」は23.5%で、希望と比べて3.0ポイント低い。また「仕事」が16.1%で希望よりも12.4ポイント高くなっている一方、「家庭生活と地域活動・個人の生活」と「仕事と家庭生活と地域活動・個人の生活」はそれぞれ4.3ポイント、8.8ポイント低くなっている。

男性は「仕事」が36.3%で最も高く、希望と比べて25.5ポイント高い。次いで「仕事と家庭生活」は25.3%で、希望と比べて10.0ポイント低い。女性よりも男性の方が希望と現実の差が大きい。

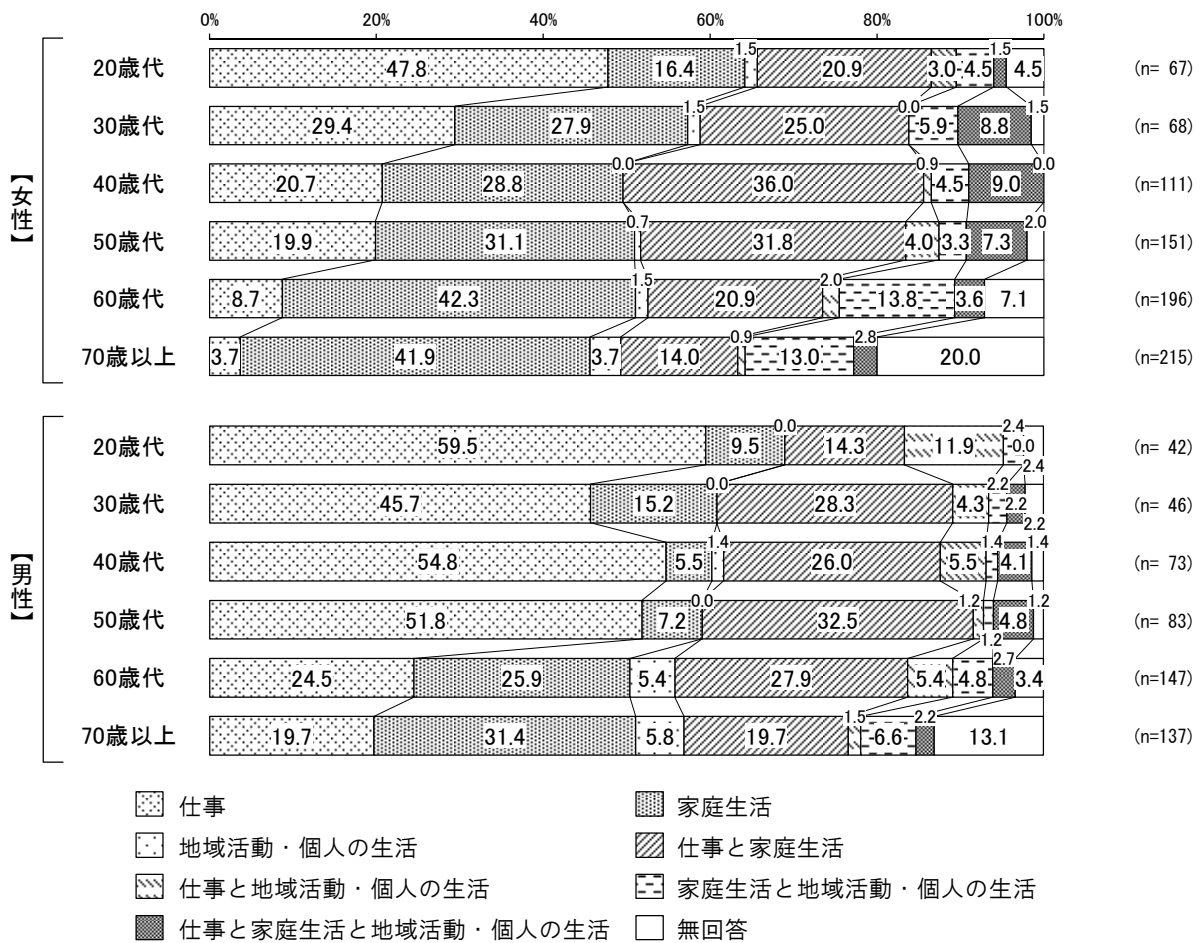
また、男女とも希望と現実は一貫していない人が多いことが分かる。

図 性別・年代別 生活の中で優先したいこと



希望の生活を年代別にみると、20～50歳代の女性と、20～60歳代の男性は「仕事と家庭生活」、60歳以上の女性と70歳以上の男性は「家庭生活」の割合が最も高くなっている。

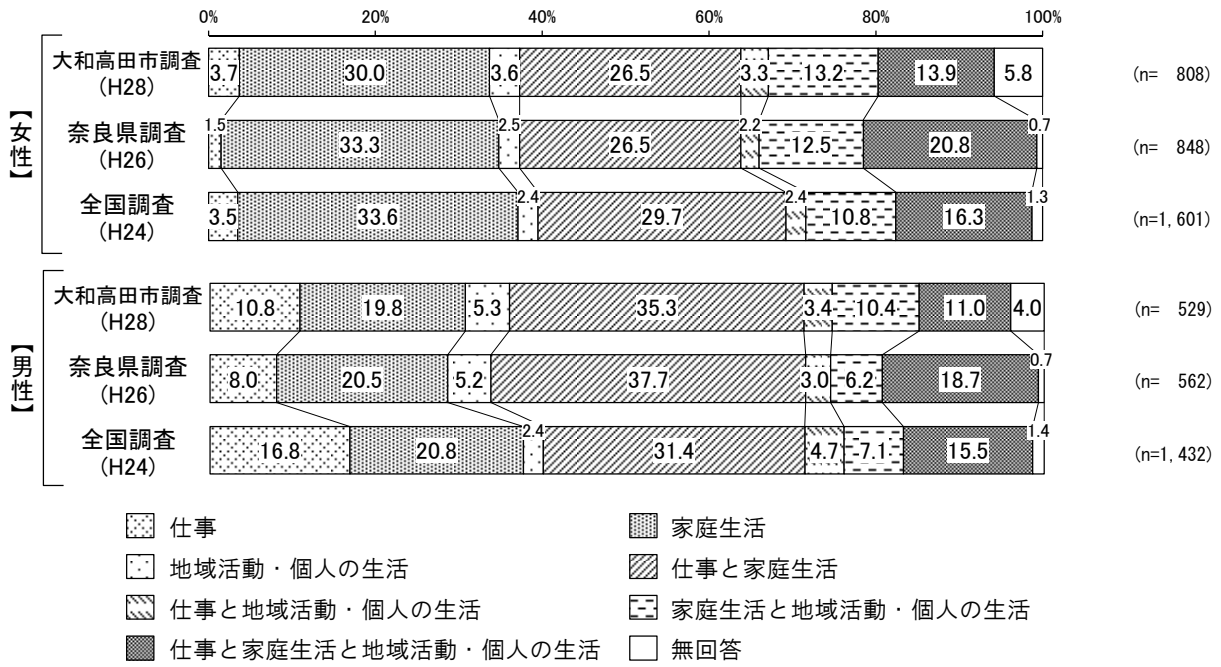
図 性別・年代別 生活の中で優先していること



実際の生活を年代別にみると、女性では、20・30歳代は「仕事」、40・50歳代は「仕事と家庭生活」、60歳以上の年代層では「家庭生活」の割合が最も高くなっている。

男性では、20～50歳代のいずれも「仕事」の割合がもっとも高くなっており、60歳代は「仕事と家庭生活」、70歳以上では「家庭生活」の割合が最も高くなっている。

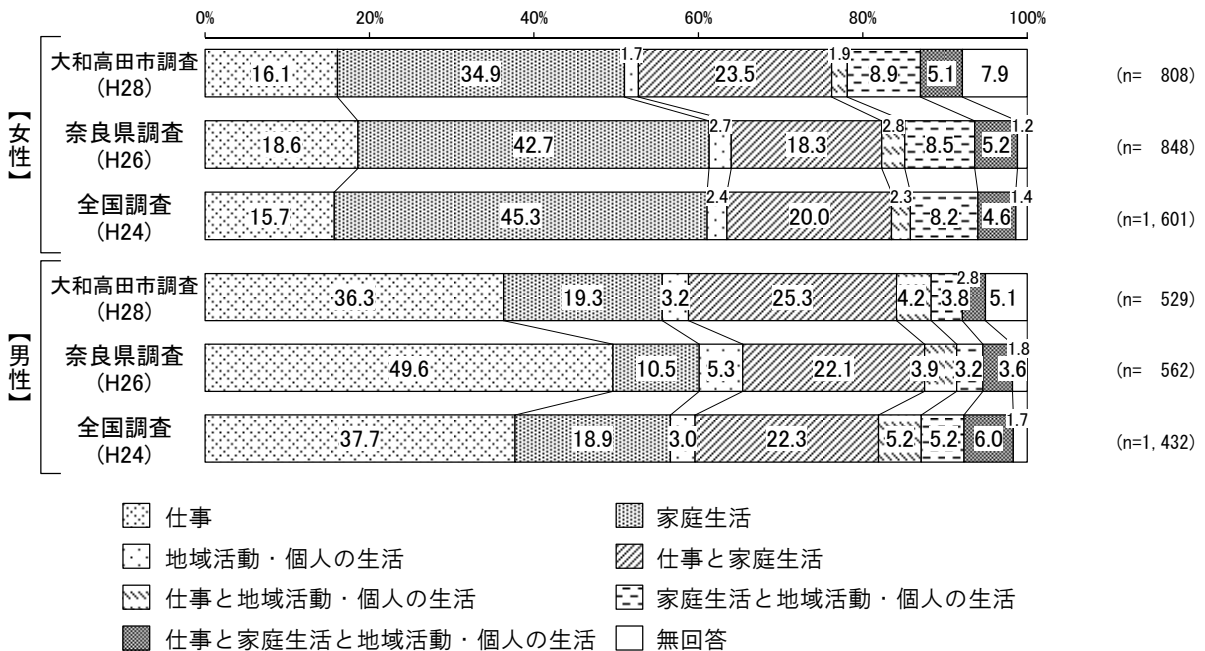
図 性別 生活の中で優先したいこと(奈良県調査、全国調査との比較)



希望の生活を奈良県調査(平成26年)、全国調査(平成24年)と比較すると、男女とも奈良県調査、全国調査よりも「仕事と家庭生活と地域活動・個人の生活」を優先したいという人の割合が低い。「家庭生活と地域活動・個人の生活」は逆に奈良県調査、全国調査よりもやや高くなっている。

男性で「仕事」を優先したいとする人は、奈良県調査よりもやや高いが、全国調査よりは低くなっている。

図 性別 生活の中で優先していること(奈良県調査、全国調査との比較)



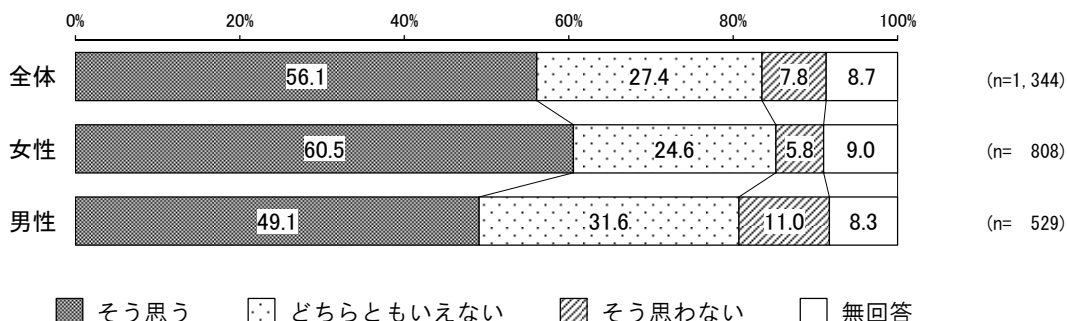
実際の生活を奈良県調査(平成26年)、全国調査(平成24年)と比較すると、女性は奈良県調査、全国調査よりも「家庭生活」の割合が低く、「仕事と家庭生活」の割合が高くなっている。

男性では、奈良県調査よりも「仕事」の割合が低い、全国調査とはほぼ同じ程度の割合である。「仕事と家庭生活」の割合は奈良県調査、全国調査よりもやや高い。

## 7. 男性が家事・育児・介護等に参加することへの考え方

問17 「男性はもっと仕事以外のこと（家事・育児・介護や地域活動など）に関わる方がよい」という考え方があります。あなたは、この考え方をどう思いますか。あなたの考えに最も近いものを1つだけ選んでください。（○は1つ）

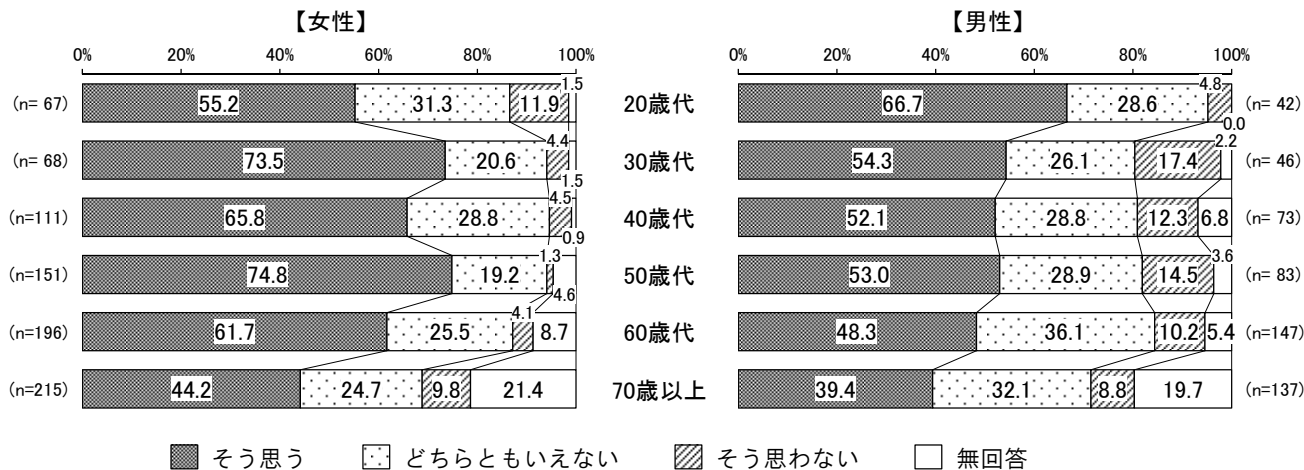
図 性別 男性が家事・育児・介護等に参加することへの考え方



□ 男性のさらなる家事・育児・介護等への参加に女性の約60%、男性の約50%が賛成

女性は「そう思う」が60.5%で最も高く、「どちらともいえない」が24.6%、「そう思わない」は5.8%である。男性は「そう思う」が49.1%で最も高いものの、女性に比べると11.4ポイント低い。一方で「どちらともいえない」「そう思わない」は、それぞれ女性より7.0ポイント、5.2ポイント高くなっている。

図 性別・年代別 男性が家事・育児・介護等に参加することへの考え方



年代別にみると、女性では20歳代の「どちらともいえない」(31.3%)と「そう思わない」(11.9%)が他の女性の年代層よりも高く、「そう思う」が55.2%となっている。30歳代と50歳代の女性は「そう思う」が70%を超えて高くなっている。

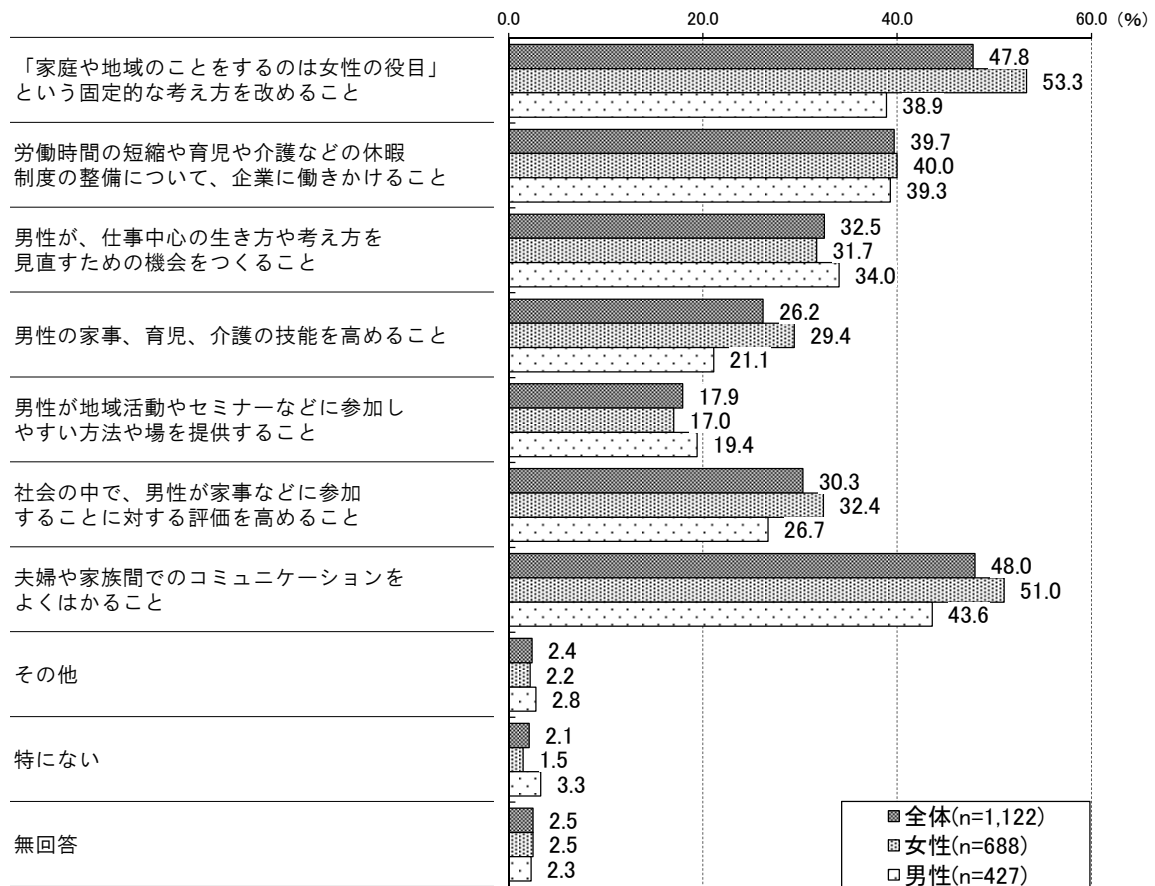
男性では、20歳代は「そう思う」が66.7%と高くなっているが、年代が高くなるにつれて「そう思う」の割合は低くなる傾向がみられる。

## 8. 男性が家事・育児・介護等に参加していく社会をつくるために必要なこと

《問17で「1. そう思う」「2. どちらともいえない」と答えた方におたずねします。》

問17-1 あなたは、今後、男性が仕事以外のこと（家事、子育て、介護、地域活動など）に積極的に参加していくには、どのようなことが必要だと思いますか。（○はいくつでも）

図 性別 男性が家事・育児・介護等に参加していく社会をつくるために必要なこと



□「『家庭や地域のことをするのは女性の役目』という固定的な考え方を改めること」と「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」に女性の約50%が賛成

全体の回答割合が高い順に挙げると、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」（全体48.0%、女性51.0%、男性43.6%）、「『家庭や地域のことをするのは女性の役目』という固定的な考え方を改めること」（全体47.8%、女性53.3%、男性38.9%）、「労働時間の短縮や育児や介護などの休暇制度の整備について、企業に働きかけること」（全体39.7%、女性40.0%、男性39.3%）である。

女性は男性よりも「『家庭や地域のことをするのは女性の役目』という固定的な考え方を改めること」「男性の家事、育児、介護の技能を高めること」「社会の中で、男性が家事などに参加することに対する評価を高めること」「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」の割合が5ポイント以上高くなっており、特に「『家庭や地域のことをするのは女性の役目』という固定的な考え方を改めること」は14.4ポイントの差がある。

表 性別・年代別 男性が家事・育児・介護等に参加していく社会をつくるために必要なこと

	対象者数 (n)	「家庭や地域のことをするのは女性の役目」という固定的な考え方を改めること	「労働時間の短縮や育児や介護などの休暇制度の整備について、企業に働きかけること」	男性が、仕事中心の生き方や考え方を見直すための機会をつくること	男性の家事、育児、介護の技能を高めること	男性が地域活動やセミナーなどに参加しやすい方法や場を提供すること	社会の中で、男性が家事などに参加することに對する評価を高めること	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	その他	特にない	無回答	
全体	1,122	47.8	39.7	32.5	26.2	17.9	30.3	48.0	2.4	2.1	2.5	
女性	20歳代	58	<b>53.4</b>	<b>62.1</b>	31.0	27.6	19.0	<b>43.1</b>	<b>62.1</b>	1.7	1.7	-
	30歳代	64	51.6	<b>53.1</b>	35.9	<b>34.4</b>	15.6	<b>40.6</b>	48.4	4.7	-	-
	40歳代	105	52.4	43.8	36.2	<b>31.4</b>	14.3	35.2	<b>53.3</b>	1.0	1.0	1.9
	50歳代	142	<b>59.9</b>	38.7	33.8	27.5	16.2	33.8	45.8	2.1	1.4	2.1
	60歳代	171	<b>56.7</b>	35.7	30.4	<b>34.5</b>	17.0	29.2	48.5	2.9	2.3	2.3
	70歳以上	148	44.6	29.1	26.4	22.3	19.6	25.0	<b>54.1</b>	1.4	1.4	5.4
	男性	20歳代	40	47.5	<b>60.0</b>	<b>45.0</b>	25.0	10.0	<b>37.5</b>	47.5	2.5	2.5
30歳代		37	43.2	37.8	<b>37.8</b>	24.3	5.4	32.4	40.5	2.7	-	-
40歳代		59	27.1	44.1	30.5	13.6	13.6	<b>35.6</b>	40.7	<b>8.5</b>	3.4	-
50歳代		68	38.2	<b>57.4</b>	<b>42.6</b>	20.6	<b>26.5</b>	33.8	38.2	1.5	2.9	1.5
60歳代		124	38.7	34.7	28.2	25.0	<b>25.8</b>	20.2	43.5	1.6	4.8	1.6
70歳以上		98	41.8	22.4	31.6	18.4	19.4	18.4	49.0	1.0	3.1	7.1

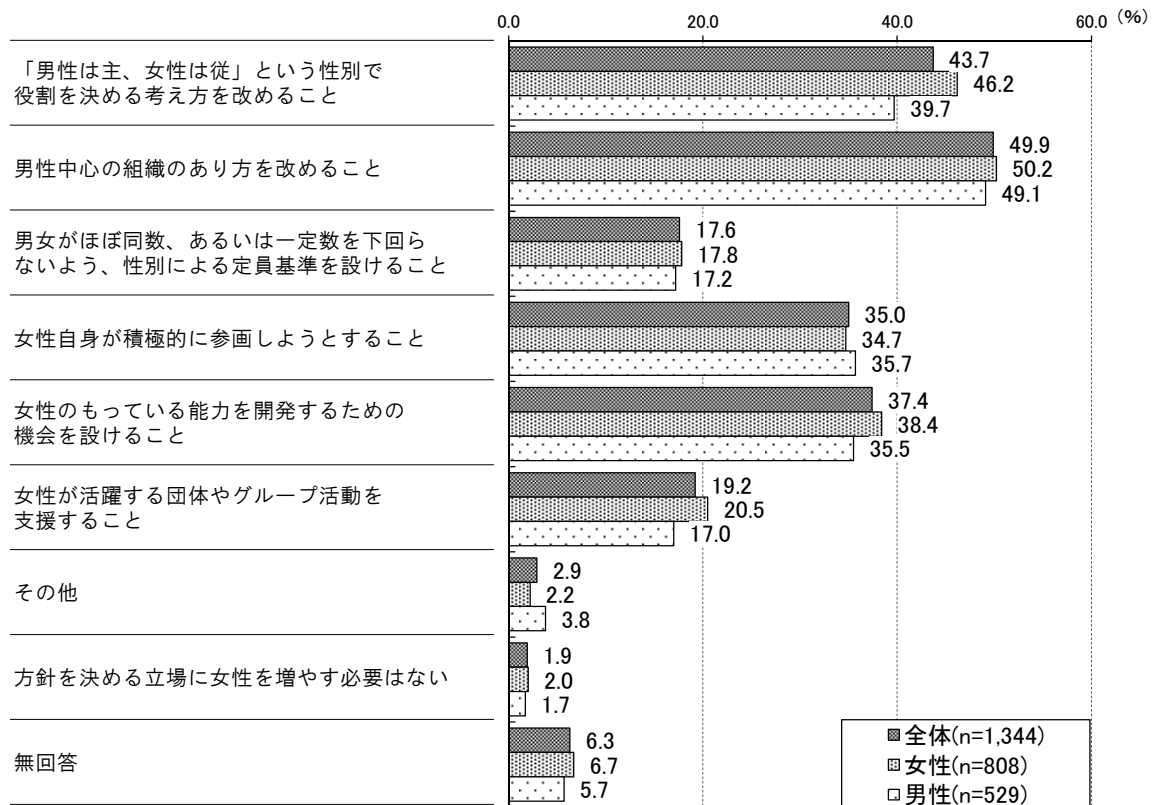
注)濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

年代別にみると、女性の20・30歳代と男性の20・50歳代では、「労働時間の短縮や育児や介護などの休暇制度の整備について、企業に働きかけること」の割合が50%を超えて最も高くなっている。女性の20歳代は「労働時間の短縮や育児や介護などの休暇制度の整備について、企業に働きかけること」と並んで「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」の割合も高い。また、男性の20・50歳代は「男性が、仕事中心の生き方や考え方を見直すための機会をつくること」が他の年代層よりも高く40%を超えている。女性の50・60歳代では『「家庭や地域のことをするのは女性の役目」という固定的な考え方を改めること』が50%台後半で最も高くなっている。

## 9. 女性が方針決定の場に進出していくために必要なこと

問18 現在、職場や地域活動の場などの方針を決める立場に、女性が少ないという現状があります。あなたは、今後、もっと女性が進出していくためには何が重要だと思いますか。(〇はいくつでも)

図 性別 女性が方針決定の場に進出していくために必要なこと



□「男性中心の組織のあり方」や「『男性は主、女性は従』という性別で役割を決める考え方」を改めることが必要

全体の回答割合が高い順に挙げると、「男性中心の組織のあり方を改めること」(全体49.9%、女性50.2%、男性49.1%)、「『男性は主、女性は従』という性別で役割を決める考え方を改めること」(全体43.7%、女性46.2%、男性39.7%)、「女性のもっている能力を開発するための機会を設けること」(全体37.4%、女性38.4%、男性35.5%)、「女性自身が積極的に参画しようとする」(全体35.0%、女性34.7%、男性35.7%)となっている。

「『男性は主、女性は従』という性別で役割を決める考え方を改めること」では女性の方が男性より6.5ポイント回答割合が高いが、それ以外の選択肢では男女でほとんど違いがみられない。

また、「方針を決める立場に女性を増やす必要はない」の回答は男女ともわずかである。

表 性別・年代別 女性が方針決定の場に進出していくために必要なこと

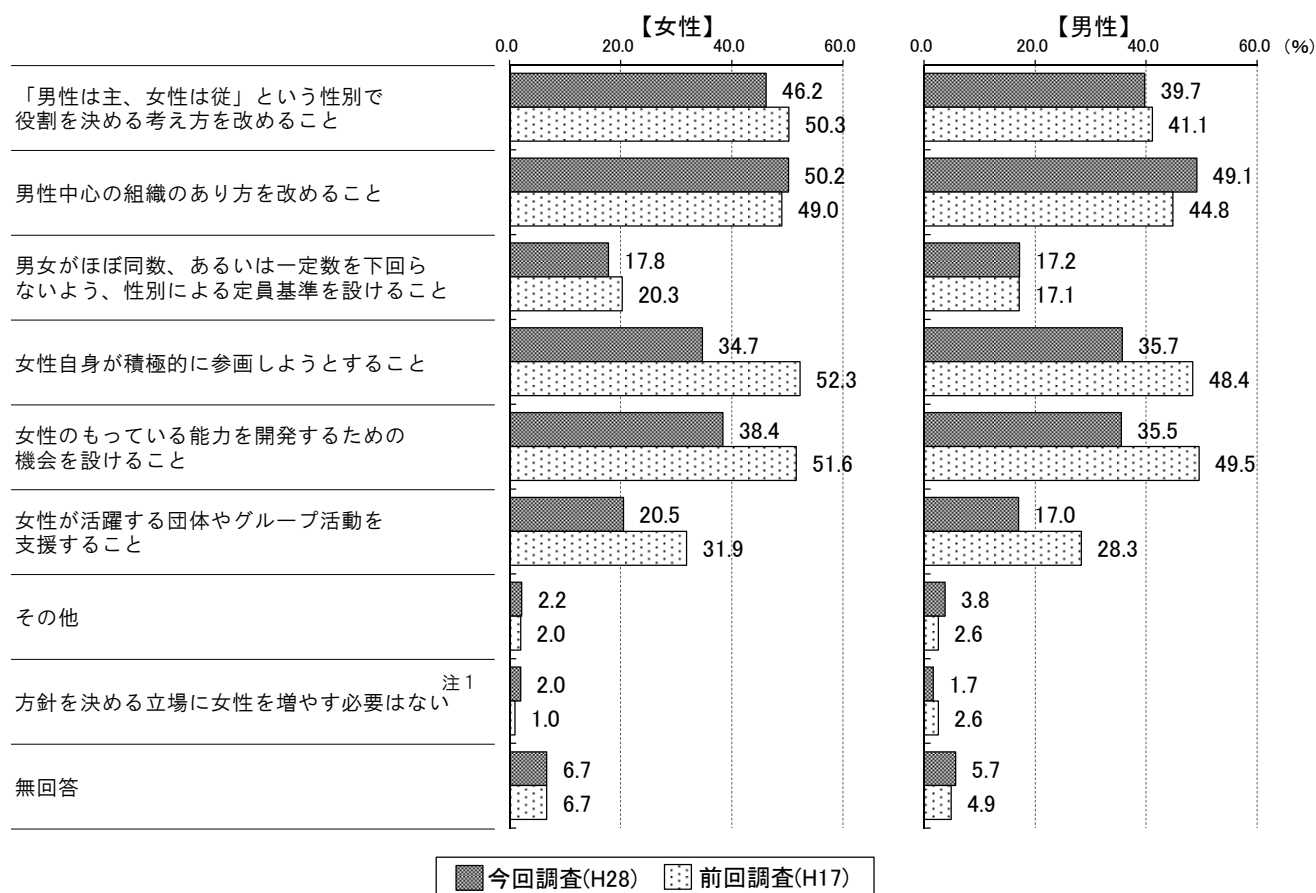
	対象者数 (n)	「男性は主、女性は従」という性別で役割を決める考え方を改めること	男性中心の組織のあり方を改めること	男女がほぼ同数、あるいは一定数を下回らないよう、性別による定員基準を設けること	女性自身が積極的に参画しようとする	女性自身もっている能力を開発するための機会を設けること	女性が活躍する団体やグループ活動を支援すること	その他	方針を決める立場に女性を増やす必要はない	無回答	
全体	1,344	43.7	49.9	17.6	35.0	37.4	19.2	2.9	1.9	6.3	
女性	20歳代	67	46.3	<b>59.7</b>	<b>29.9</b>	34.3	34.3	22.4	1.5	-	-
	30歳代	68	47.1	<b>61.8</b>	<b>29.4</b>	36.8	39.7	20.6	2.9	1.5	-
	40歳代	111	45.9	53.2	<b>23.4</b>	36.0	34.2	15.3	6.3	1.8	1.8
	50歳代	151	<b>52.3</b>	<b>55.6</b>	16.6	33.1	39.1	20.5	1.3	2.6	1.3
	60歳代	196	<b>49.0</b>	<b>55.6</b>	16.3	38.3	<b>46.4</b>	24.0	1.5	1.5	5.6
	70歳以上	215	39.1	33.5	9.8	31.2	33.5	19.5	1.4	2.8	<b>18.1</b>
	男性	20歳代	42	45.2	<b>57.1</b>	<b>26.2</b>	28.6	40.5	14.3	4.8	2.4
30歳代		46	34.8	34.8	21.7	39.1	28.3	15.2	<b>13.0</b>	4.3	4.3
40歳代		73	32.9	54.8	<b>23.3</b>	28.8	37.0	9.6	<b>8.2</b>	-	2.7
50歳代		83	39.8	<b>56.6</b>	<b>26.5</b>	<b>45.8</b>	33.7	14.5	1.2	3.6	3.6
60歳代		147	42.9	50.3	14.3	34.7	38.8	19.7	1.4	1.4	2.0
70歳以上		137	40.1	43.1	7.3	35.8	33.6	21.2	1.5	0.7	<b>14.6</b>

注)濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

女性の20・30歳代は「男性中心の組織のあり方を改めること」が約60%、「男女がほぼ同数、あるいは一定数を下回らないよう、性別による定員基準を設けること」が約30%と、他の層と比べて割合が高くなっている。男性では20歳代・50歳代は「男性中心の組織のあり方を改めること」がそれぞれ57.1%、56.6%と高くなっているが、男性の30歳代では「男性中心の組織のあり方を改めること」が34.8%と女性の61.8%より27.0ポイント低くなっている。

「女性自身が積極的に参画しようとする」は男性の50歳代では45.8%となっており、「男性中心の組織のあり方を改めること」に次いで割合が高い。

図 性別 女性が方針決定の場に進出していくために必要なこと(前回調査との比較)



注1) 前回調査では「女性が進出する必要はない」

前回調査(平成17年)と比較して差が大きいのは、男女ともに「女性自身が積極的に参画しようとする事」「女性のもっている能力を開発するための機会を設けること」「女性が活躍する団体やグループ活動を支援すること」の割合で今回調査が低くなっている。

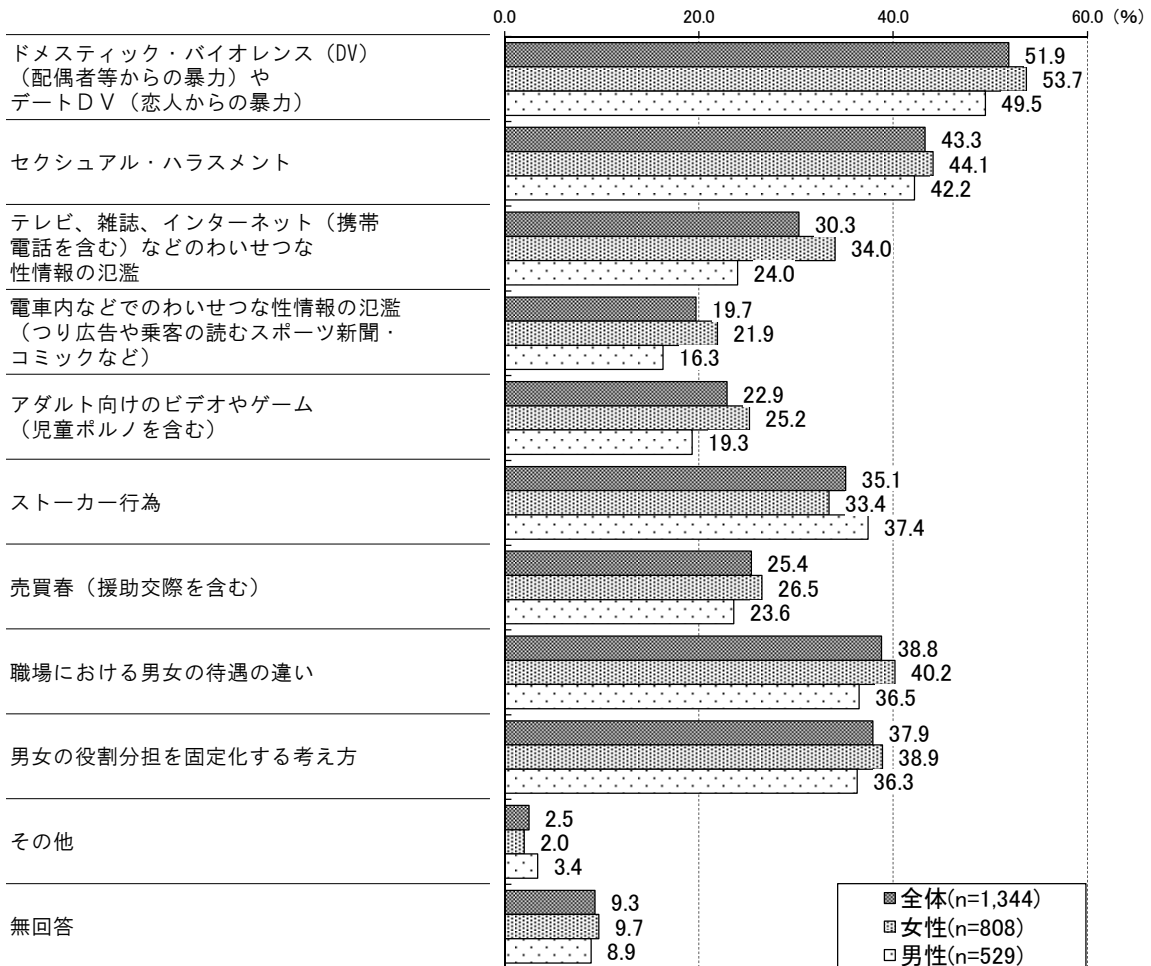
また、前回調査より男女とも高くなっている項目として「男性中心の組織のあり方を改めること」が挙げられるが、その差はわずかである。

### 3. 女性に対する暴力や、健康、地域でのことなどについて

#### 1. 女性の人権が侵害されていると思うこと

問19 あなたが、女性の人権が侵害されていると思うことはどれですか。(〇はいくつでも)

図 性別 女性の人権が侵害されていると思うこと



#### □「ドメスティック・バイオレンス」が第1位

全体の回答割合が高い順に挙げると、「ドメスティック・バイオレンス(DV) (配偶者等からの暴力) やデートDV(恋人からの暴力) (全体51.9%、女性53.7%、男性49.5%)」、「セクシュアル・ハラスメント」(全体43.3%、女性44.1%、男性42.2%)、「職場における男女の待遇の違い」(全体38.8%、女性40.2%、男性36.5%)、「男女の役割分担を固定化する考え方」(全体37.9%、女性38.9%、男性36.3%)、「ストーカー行為」(全体35.1%、女性33.4%、男性37.4%)となっている。「ストーカー行為」「その他」を除く選択肢でいずれも女性の方が男性より回答割合が高い。なかでも「テレビ、雑誌、インターネット(携帯電話を含む)などのわいせつな性情報の氾濫」(全体30.3%、女性34.0%、男性24.0%)は10ポイントの差があり、男女で意識の違いが大きい。

表 性別・年代別 女性の人権が侵害されていると思うこと

	対象者数 (n)	ドメスティック・バイオレンス(DV) (配偶者等からの暴力) やデートDV (恋人からの暴力)	セクシュアル・ハラスメント	情報への氾濫	テレビ、雑誌、インターネット(携帯電話を含む)などのわいせつな性情報	電車内などでのわいせつな性情報の氾濫(つり広告や乗客の読むスポーツ新聞・コミックなど)	アダルト向けのビデオやゲーム(児童ポルノを含む)	ストーカー行為	売買春(援助交際を含む)	職場における男女の待遇の違い	男女の役割分担を固定化する考え方	その他	無回答
全体	1,344	51.9	43.3	30.3	19.7	22.9	35.1	25.4	38.8	37.9	2.5	9.3	
女性	20歳代	67	59.7	59.7	14.9	14.9	19.4	38.8	31.3	44.8	44.8	6.0	3.0
	30歳代	68	60.3	63.2	33.8	17.6	17.6	29.4	22.1	57.4	45.6	2.9	2.9
	40歳代	111	60.4	53.2	35.1	26.1	36.9	43.2	31.5	37.8	39.6	2.7	2.7
	50歳代	151	70.2	53.6	30.5	19.9	24.5	35.1	27.2	45.0	44.4	0.7	4.6
	60歳代	196	51.0	41.3	40.3	25.0	26.0	34.7	26.0	40.8	39.3	1.5	8.2
	70歳以上	215	37.2	24.2	36.3	21.9	23.3	25.6	23.7	30.7	30.2	1.4	22.3
男性	20歳代	42	54.8	50.0	9.5	11.9	4.8	50.0	23.8	45.2	45.2	4.8	4.8
	30歳代	46	56.5	65.2	8.7	13.0	8.7	37.0	21.7	28.3	28.3	4.3	8.7
	40歳代	73	49.3	39.7	12.3	11.0	15.1	35.6	12.3	32.9	42.5	5.5	2.7
	50歳代	83	63.9	48.2	21.7	19.3	21.7	45.8	26.5	34.9	34.9	3.6	3.6
	60歳代	147	52.4	42.9	34.7	19.0	25.9	37.4	30.6	41.5	42.2	1.4	3.4
	70歳以上	137	33.6	28.5	29.2	16.1	20.4	29.2	20.4	33.6	27.0	3.6	22.6

注)濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

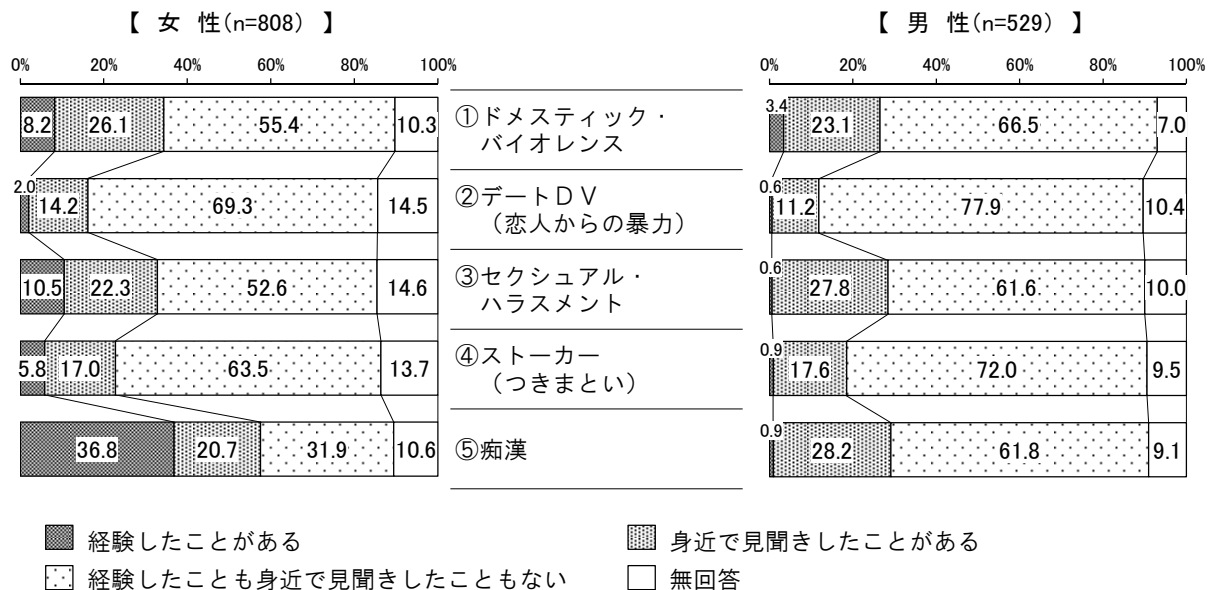
年代別にみると、30歳代の男女は「セクシュアル・ハラスメント」の割合が最も高く、女性63.2%、男性65.2%となっている。また、女性の30歳代は「職場における男女の待遇の違い」が57.4%と全体よりも割合が高い。30歳代以外の男女はいずれの年代層でも「ドメスティック・バイオレンス(DV) (配偶者等からの暴力) やデートDV (恋人からの暴力)」の割合が最も高く、特に50歳代は女性70.2%、男性63.9%と高くなっている。

男性の20~40歳代は「テレビ、雑誌、インターネット(携帯電話を含む)などのわいせつな性情報の氾濫」「電車内などでのわいせつな性情報の氾濫(つり広告や乗客の読むスポーツ新聞・コミックなど)」「アダルト向けのビデオやゲーム(児童ポルノを含む)」が他の年代層よりも割合が低くなっている。

## 2. 暴力を受けた経験

問20 あなたは、次のような暴力について経験したり、見聞きしたことがありますか。(○はそれぞれ1つ)

図 性別 暴力を受けた経験と見聞き



□痴漢を受けた経験がある女性は36.8%、セクシュアル・ハラスメントを受けた経験は女性の10.5%

5種類の暴力について見聞きや経験をたずねたところ、「経験したことがある」は5項目とも女性の方が男性より高い。ただし女性より割合は低いものの男性にも「経験したことがある」人が存在している。「身近で見聞きしたことがある」は、③セクシュアル・ハラスメント、④ストーカー(つきまとい)、⑤痴漢では、男性の方が女性より回答割合が高くなっている。

### ①ドメスティック・バイオレンス(DV) (配偶者等からの暴力)

「経験したことがある」は、女性は8.2%、男性は3.4%である。「身近で見聞きしたことがある」は、男女とも4人に1人程度である。

### ②デートDV(恋人からの暴力)

「経験したことがある」は、女性は2.0%、男性は0.6%である。「身近で見聞きしたことがある」は、男女とも10%台で他の項目よりも低い。

### ③セクシュアル・ハラスメント

「経験したことがある」は、女性は10.5%、男性は0.6%である。「身近で見聞きしたことがある」は、女性22.3%、男性27.8%で男性の方が高い。

### ④ストーカー(つきまとい)

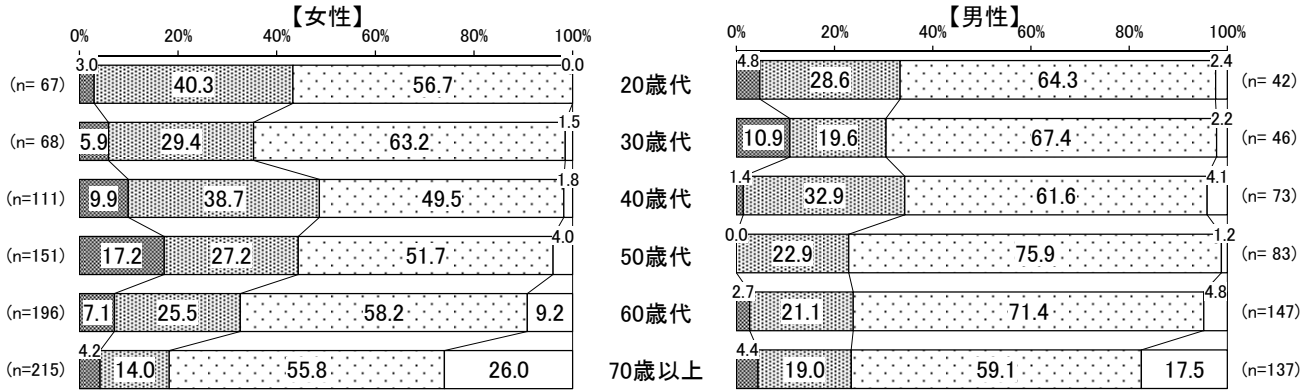
「経験したことがある」は、女性は5.8%、男性は0.9%である。「身近で見聞きしたことがある」は、女性17.0%、男性17.6%でほぼ同じ程度である。

### ⑤痴漢

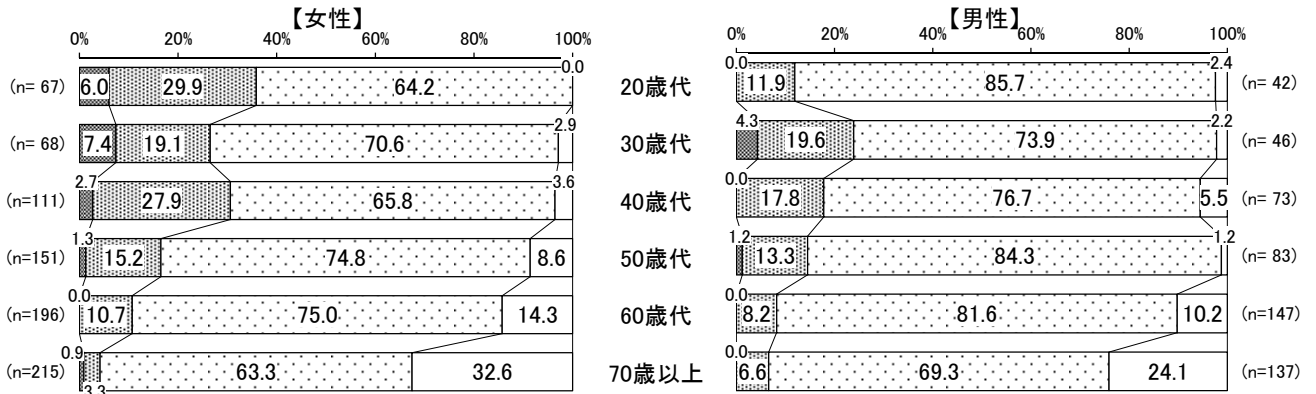
「経験したことがある」は、女性は36.8%で項目の中で1番被害を受けた人が多い。男性は0.9%である。「身近で見聞きしたことがある」は、女性20.7%、男性28.2%で男性の方が高い。

図 性別・年代別 暴力を受けた経験と見聞き

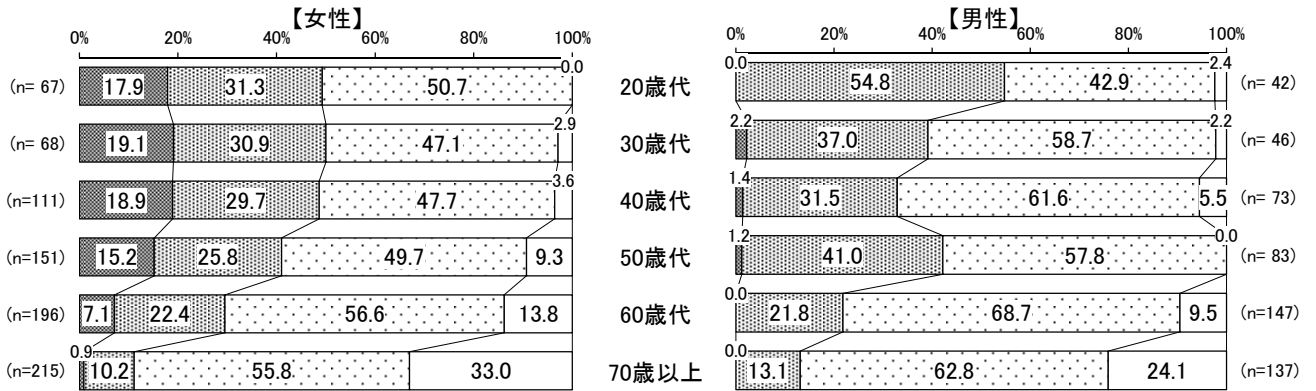
①ドメスティック・バイオレンス(DV) (配偶者等からの暴力)



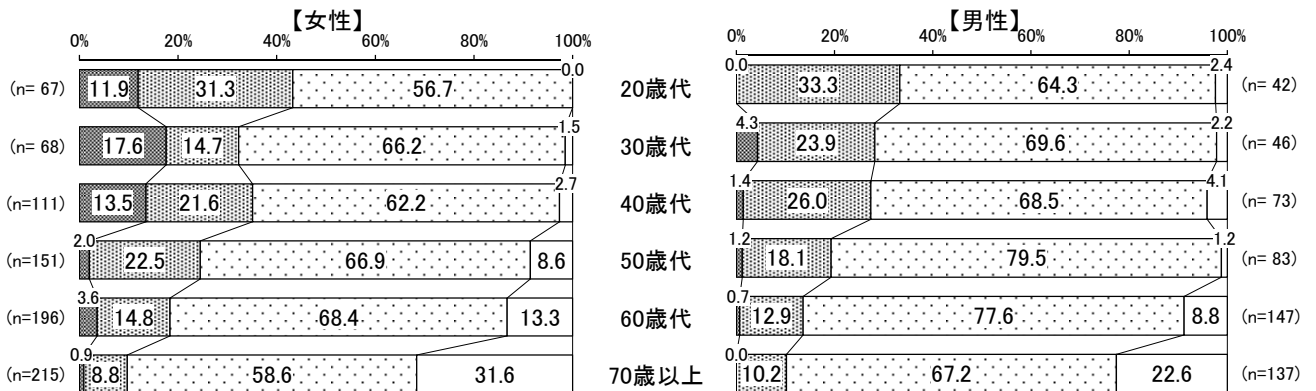
②デートDV(恋人からの暴力)



③セクシュアル・ハラスメント

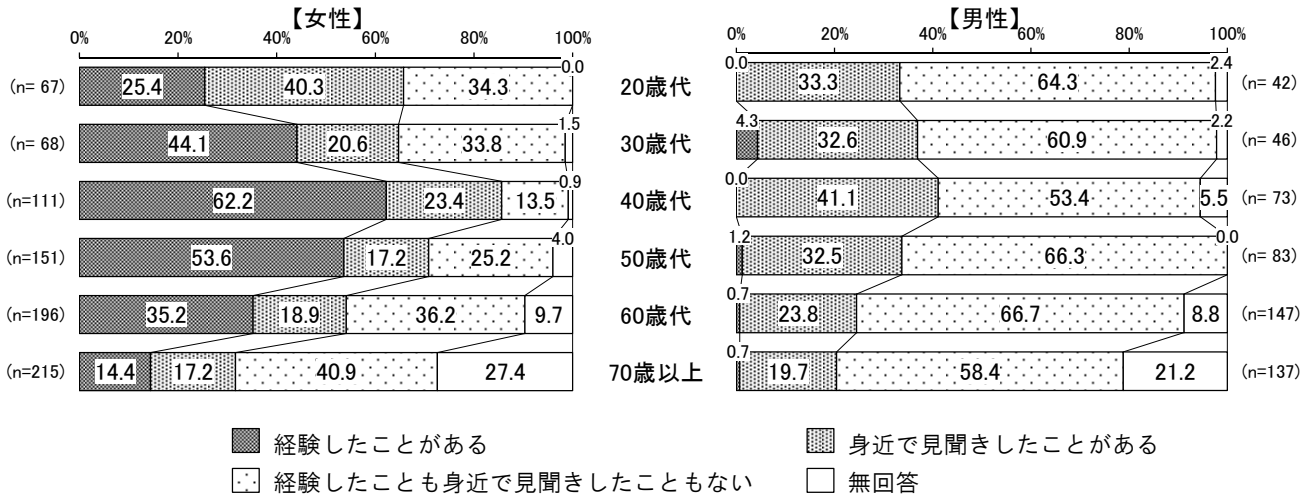


④ストーカー(つきまとい)



■ 経験したことがある      ■ 身近で見聞きしたことがある  
 □ 経験したことも身近で見聞きしたこともない      □ 無回答

## ⑤痴漢



### ①ドメスティック・バイオレンス(DV)(配偶者等からの暴力)

女性の50歳代では「経験したことがある」の割合が17.2%となっている。「身近で見聞きしたことがある」は女性の20歳代と40歳代で約40%となっている。男性では50歳代以外は「経験したことがある」人が存在し30歳代は10.9%となっている。

### ②デートDV(恋人からの暴力)

女性の20歳代と30歳代では「経験したことがある」の割合が5%を超えている。また、「身近で見聞きしたことがある」は女性の20歳代と40歳代で約30%となっている。

### ③セクシュアル・ハラスメント

女性の20～40歳代では「経験したことがある」が約20%、「身近で見聞きしたことがある」が約30%となっている。男性は、「経験したことがある」の割合は低いものの、「身近で見聞きしたことがある」が20歳代で54.8%、50歳代で41.0%と高くなっている。

### ④ストーカー(つきまとい)

「経験したことがある」の割合は女性の30歳代で17.6%、40歳代で13.5%、20歳代で11.9%となっている。20歳代の男女では「身近で見聞きしたことがある」の割合が30%を超えている。

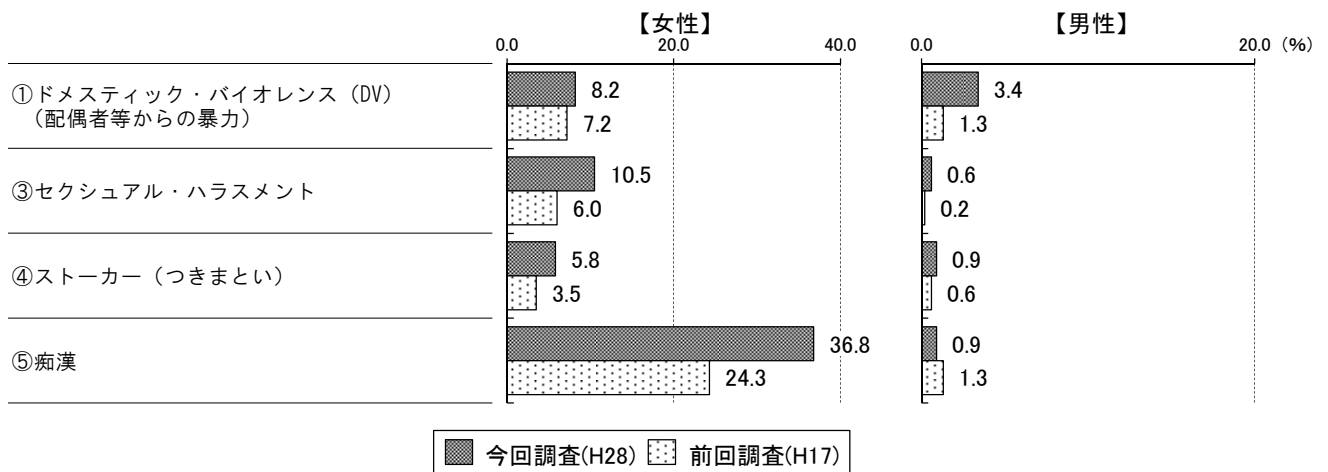
## ⑤痴漢

女性では、40歳代と50歳代で「経験したことがある」が半数を超えている。また、20・30・60歳代でも「経験したことがある」の割合は他の項目と比べて高い。

男性では20～50歳代の各年代層で「身近で見聞きしたことがある」が30%以上となっている。

図 性別 暴力を受けた経験と見聞き(前回調査との比較)

— 「経験したことがある」の割合



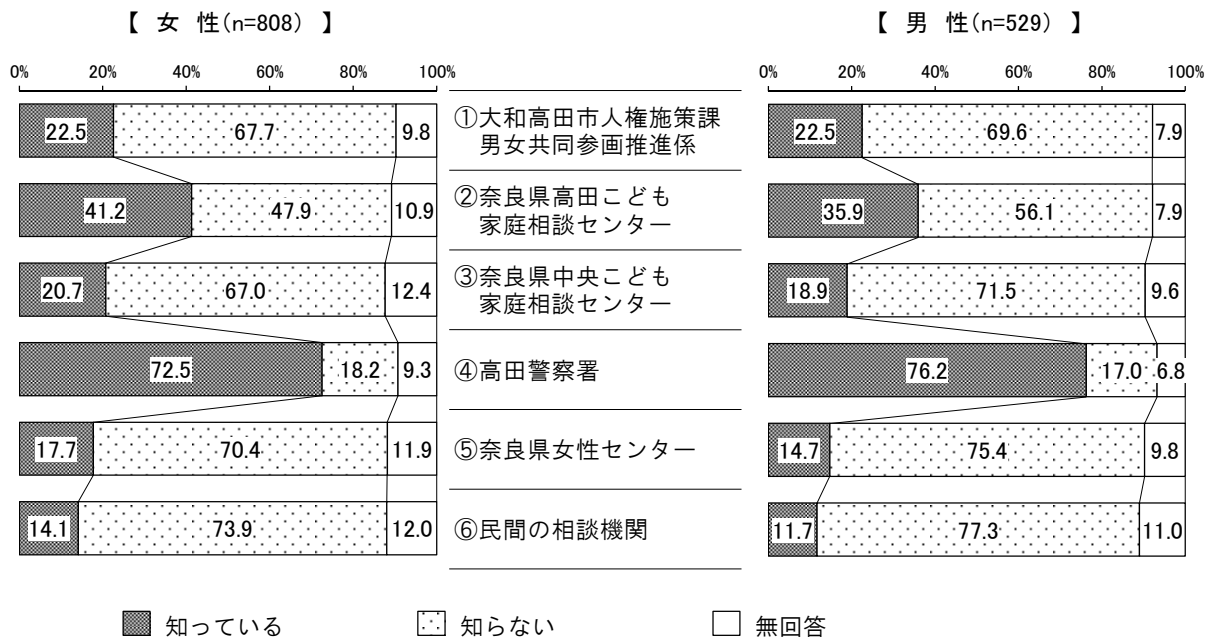
前回調査(平成17年)と「経験したことがある」の割合(前回調査は「被害を受けたことがある」の割合)を比較すると、女性では比較可能な4項目いずれも前回調査よりも割合が高くなっており、なかでも、⑤痴漢は今回調査は36.8%と前回調査の24.3%より12.5ポイント高くなっている。

男性においても、⑤痴漢以外の項目で前回調査よりも割合が高くなっている。

### 3. 女性に対する暴力に関する相談機関の認知・利用状況

問21 女性に対する暴力については次の相談機関があります。①～⑥の相談機関をご存知ですか。また、利用したことはありますか。(〇はA、Bそれぞれ1つ)

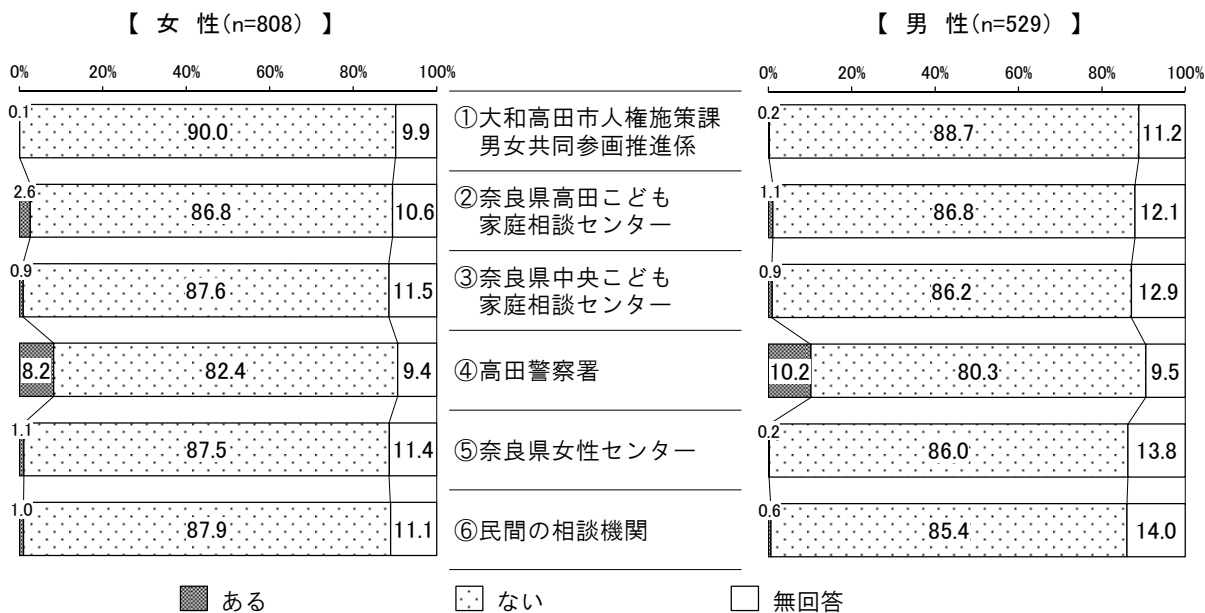
図 性別 女性に対する暴力に関する相談機関の認知状況



□「高田警察署」以外の相談機関は知らない人が多い

暴力に関する相談機関の認知では、男女とも「知っている」が最も高いのは、④高田警察署(女性72.5%、男性76.2%)で男性の方が認知率が高い。次いで高いのは②奈良県高田子ども家庭相談センター(女性41.2%、男性35.9%)である。①大和高田市人権施策課男女共同参画推進係と③奈良県中央子ども家庭相談センターの認知率は男女とも約20%となっている。⑥民間の相談機関と⑤奈良県女性センターは男女とも認知率が20%未満である。

図 性別 女性に対する暴力に関する相談機関の利用状況



利用したことが「ある」のは、いずれの相談機関も男女ともわずかで、最も高い④高田警察署で、女性8.2%、男性10.2%である。

表 性別・年代別 女性に対する暴力に関する相談機関の認知状況 — 「知っている」の割合

	対象者数 (n)	① 大和高田市人権施策課 男女共同参画推進係	② 奈良県高田子ども家庭 相談センター	③ 奈良県中央子ども家庭 相談センター	④ 高田警察署	⑤ 奈良県女性センター	⑥ 民間の相談機関	
全体	1,344	22.5	39.1	19.9	74.0	16.5	13.2	
女性	20歳代	67	10.4	31.3	14.9	77.6	13.4	11.9
	30歳代	68	13.2	<b>45.6</b>	13.2	77.9	13.2	11.8
	40歳代	111	22.5	<b>53.2</b>	<b>35.1</b>	<b>80.2</b>	19.8	16.2
	50歳代	151	25.2	<b>45.7</b>	23.2	72.8	19.9	13.9
	60歳代	196	24.5	43.4	20.4	78.1	<b>23.0</b>	14.3
	70歳以上	215	25.6	31.6	15.8	60.0	13.0	14.4
	男性	20歳代	42	23.8	19.0	14.3	78.6	2.4
30歳代		46	15.2	30.4	21.7	78.3	13.0	8.7
40歳代		73	19.2	41.1	21.9	72.6	16.4	13.7
50歳代		83	16.9	36.1	12.0	<b>83.1</b>	9.6	14.5
60歳代		147	23.1	42.2	21.8	<b>79.6</b>	18.4	10.9
70歳以上		137	<b>28.5</b>	32.8	19.0	68.6	16.8	10.9

注)濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

認知状況を年代別にみると、40歳代の女性は②奈良県高田子ども家庭相談センター(53.2%)、③奈良県中央子ども家庭相談センター(35.1%)が他の年代層よりも高くなっている。

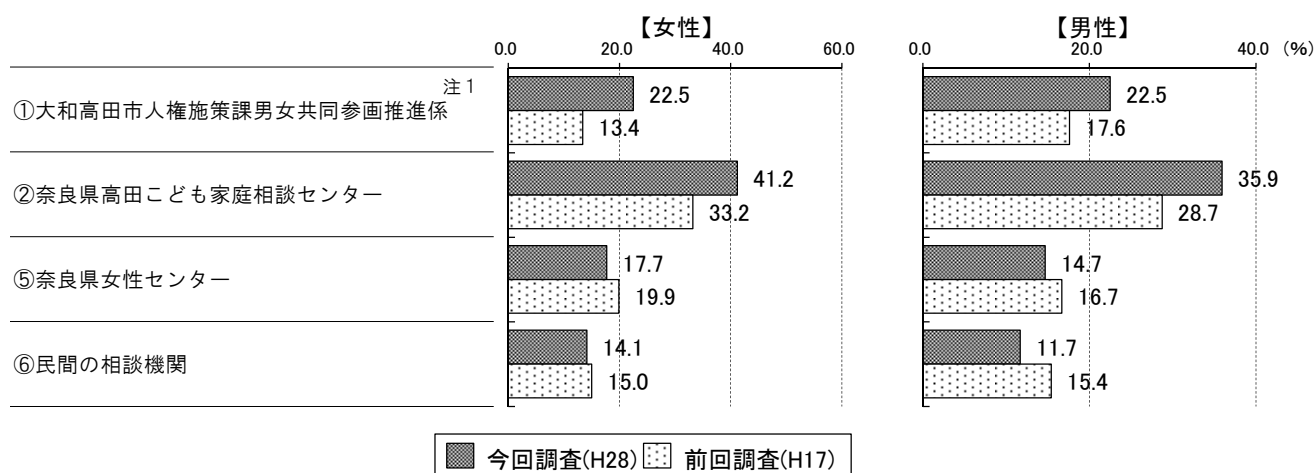
表 性別・年代別 女性に対する暴力に関する相談機関の利用状況 — 「ある」の割合

	対象者数 (n)	① 大和高田市人権施策課 男女共同参画推進係	② 奈良県高田子ども家庭 相談センター	③ 奈良県中央子ども家庭 相談センター	④ 高田警察署	⑤ 奈良県女性センター	⑥ 民間の相談機関	
全体	1,344	0.1	2.0	0.9	8.9	0.7	0.8	
女性	20歳代	67	-	-	1.5	<b>16.4</b>	1.5	3.0
	30歳代	68	-	4.4	-	7.4	-	-
	40歳代	111	0.9	6.3	1.8	8.1	1.8	-
	50歳代	151	-	3.3	0.7	9.3	2.0	-
	60歳代	196	-	2.6	1.0	9.2	1.5	1.0
	70歳以上	215	-	0.5	0.5	4.2	-	1.9
	男性	20歳代	42	-	4.8	4.8	9.5	-
30歳代		46	-	-	-	8.7	-	-
40歳代		73	-	-	-	6.8	-	-
50歳代		83	-	-	-	9.6	1.2	2.4
60歳代		147	-	2.0	0.7	10.2	-	0.7
70歳以上		137	0.7	0.7	1.5	13.1	-	-

注)濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

利用状況を年代別にみると、女性の20歳代と男性の60歳以上の年代層では「高田警察署」が10%を超えている。

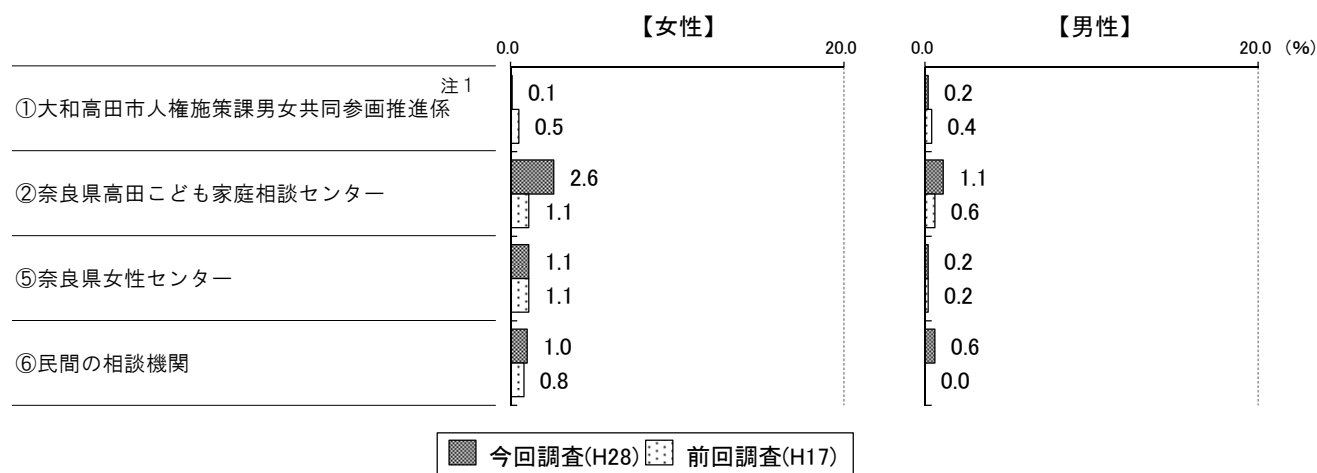
図 性別 女性に対する暴力に関する相談機関の認知状況 — 「知っている」の割合(前回調査との比較)



注1) 前回調査では「大和高田市男女共同参画推進室」

認知状況を前回調査(平成17年)と比較すると、「大和高田市人権施策課男女共同参画推進係」(前回調査では「大和高田市男女共同参画推進室」と「奈良県高田子ども家庭相談センター」を「知っている」割合は男女ともに前回調査より高くなっている。

図 性別 女性に対する暴力に関する相談機関の利用状況 — 「ある」の割合(前回調査との比較)



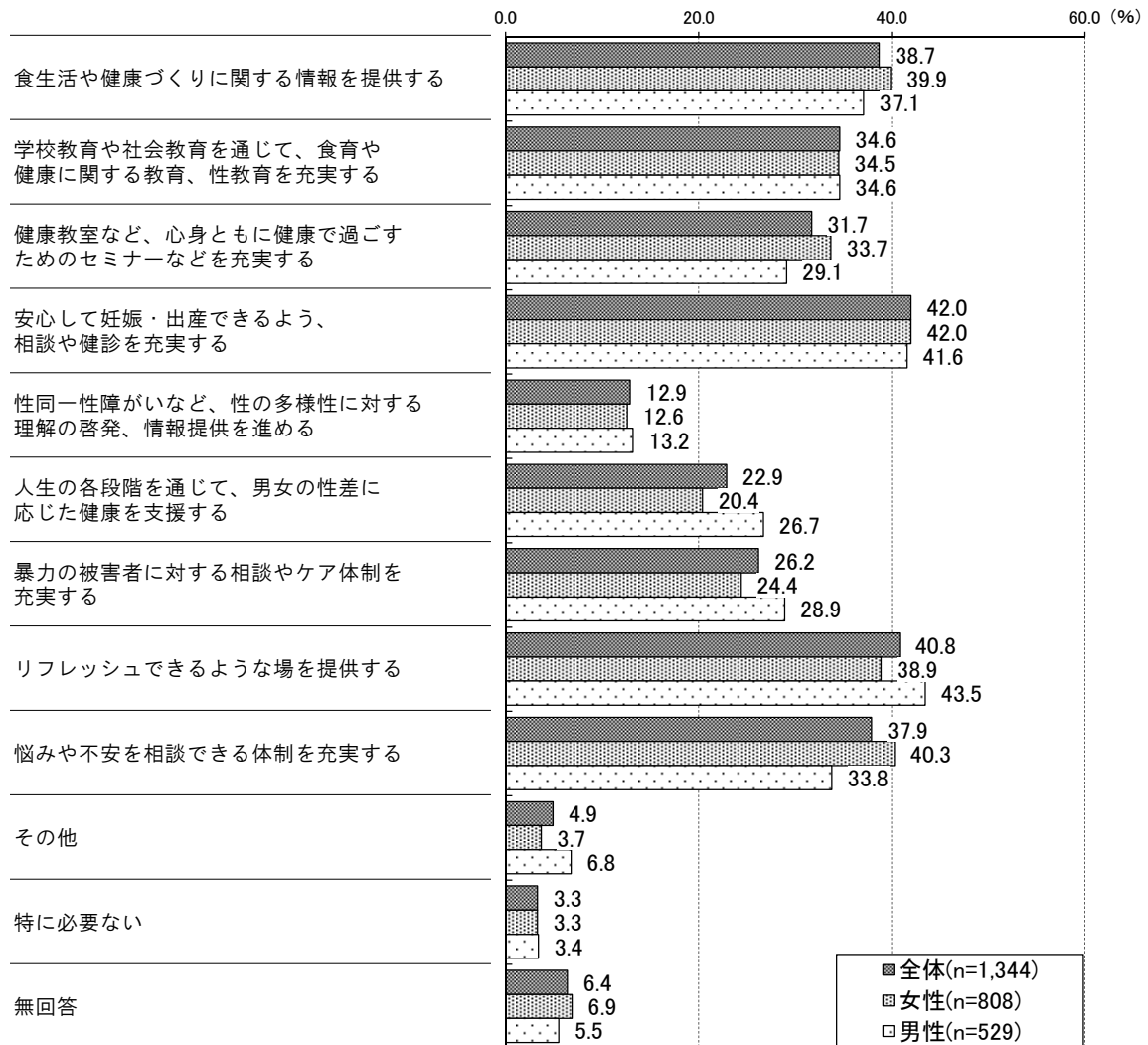
注1) 前回調査では「大和高田市男女共同参画推進室」

利用状況を前回調査(平成17年)と比較すると、わずかながら男女ともに「奈良県高田子ども家庭相談センター」と「民間の相談機関」の割合が前回調査より高くなっている。

#### 4. 生涯を通じた心と体の健康をたもつために必要なこと

問22 あなたは、生涯を通じて心も体も健康でいられるためには、大和高田市はどのような取組をすることが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

図 性別 生涯を通じた心と体の健康をたもつために必要なこと



□妊娠・出産のための相談や健診の充実、リフレッシュできるような場の提供、食生活や健康づくりに関する情報の提供、悩みや不安に関する相談体制が求められている

全体の回答割合が高い順に挙げると、「安心して妊娠・出産できるよう、相談や健診を充実する」(全体42.0%、女性42.0%、男性41.6%)、「リフレッシュできるような場を提供する」(全体40.8%、女性38.9%、男性43.5%)、「食生活や健康づくりに関する情報を提供する」(全体38.7%、女性39.9%、男性37.1%)、「悩みや不安を相談できる体制を充実する」(全体37.9%、女性40.3%、男性33.8%)となっている。

「悩みや不安を相談できる体制を充実する」(全体37.9%、女性40.3%・男性33.8%)と「人生の各段階を通じて、男女の性差に応じた健康を支援する」(全体22.9%、女性20.4%、男性26.7%)で男女の回答割合が6ポイント強異なるほかは、あまり男女の回答に違いはみられない。

表 性別・年代別 生涯を通じた心と体の健康をたもつために必要なこと

	対象者数 (n)	食生活や健康づくりに関する情報を提供する	食育や健康に関する教育、性教育を充実する	学校教育や社会教育を通じて、充実する	健康教室など、心身ともに健康で過ごすためのセミナーなどを	安心して妊娠・出産できるよう、相談や健診を充実する	性同一性障がいなど、性の多様性に対する理解の啓発、情報提供を進める	人生の各段階を通じて、男女の性差に応じた健康を支援する	暴力の被害者に対する相談やケア体制を充実する	リフレッシュできるような場を提供する	悩みや不安を相談できる体制を充実する	その他	特に必要ない	無回答
全体	1,344	38.7	34.6	31.7	42.0	12.9	22.9	26.2	40.8	37.9	4.9	3.3	6.4	
女性	20歳代	67	23.9	37.3	19.4	<b>67.2</b>	<b>22.4</b>	17.9	<b>40.3</b>	<b>47.8</b>	<b>43.3</b>	4.5	3.0	1.5
	30歳代	68	39.7	36.8	26.5	<b>64.7</b>	<b>19.1</b>	23.5	30.9	45.6	<b>48.5</b>	5.9	2.9	1.5
	40歳代	111	38.7	<b>41.4</b>	31.5	<b>49.5</b>	16.2	23.4	27.9	45.0	<b>47.7</b>	8.1	4.5	-
	50歳代	151	35.8	30.5	<b>39.1</b>	37.1	11.9	25.8	27.8	40.4	<b>46.4</b>	3.3	2.6	5.3
	60歳代	196	<b>45.4</b>	36.2	<b>41.8</b>	40.3	12.2	24.5	23.5	39.8	40.8	2.6	4.1	6.1
	70歳以上	215	43.3	30.7	30.2	27.9	6.5	11.2	14.0	28.8	28.4	1.9	2.8	<b>15.8</b>
	男性	20歳代	42	35.7	<b>42.9</b>	16.7	<b>50.0</b>	<b>31.0</b>	<b>38.1</b>	<b>50.0</b>	<b>71.4</b>	<b>47.6</b>	-	4.8
30歳代	46	30.4	39.1	23.9	<b>54.3</b>	<b>19.6</b>	<b>32.6</b>	<b>34.8</b>	<b>54.3</b>	34.8	<b>10.9</b>	2.2	2.2	
40歳代	73	27.4	35.6	26.0	<b>50.7</b>	17.8	27.4	28.8	<b>49.3</b>	34.2	<b>13.7</b>	5.5	4.1	
50歳代	83	34.9	34.9	26.5	<b>50.6</b>	14.5	<b>30.1</b>	30.1	<b>47.0</b>	31.3	<b>10.8</b>	3.6	1.2	
60歳代	147	40.8	34.0	33.3	36.7	7.5	25.2	23.8	41.5	31.3	3.4	1.4	6.1	
70歳以上	137	42.3	30.7	33.6	29.9	8.8	20.4	25.5	28.5	33.6	4.4	4.4	10.9	

注)濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

年代別にみると、女性の20歳代と30歳代は、「安心して妊娠・出産できるよう、相談や健診を充実する」がそれぞれ67.2%、64.7%と高くなっている。また、50歳代以下は「悩みや不安を相談できる体制を充実する」が60歳代以上に比べて高い。

50・60歳代の女性は、「健康教室など、心身ともに健康で過ごすためのセミナーなどを充実する」が約40%と高い。

男性の20歳代は「リフレッシュできるような場を提供する」(71.4%)と「暴力の被害者に対する相談やケア体制を充実する」(50.0%)、「人生の各段階を通じて、男女の性差に応じた健康を支援する」(38.1%)、「性同一性障がいなど、性の多様性に対する理解の啓発、情報提供を進める」(31.0%)が全体より15ポイント以上高く、「安心して妊娠・出産できるよう、相談や健診を充実する」も50.0%が挙げている。男性の30～50歳代は、「安心して妊娠・出産できるよう、相談や健診を充実する」と「リフレッシュできるような場を提供する」がいずれも約50%となっている。

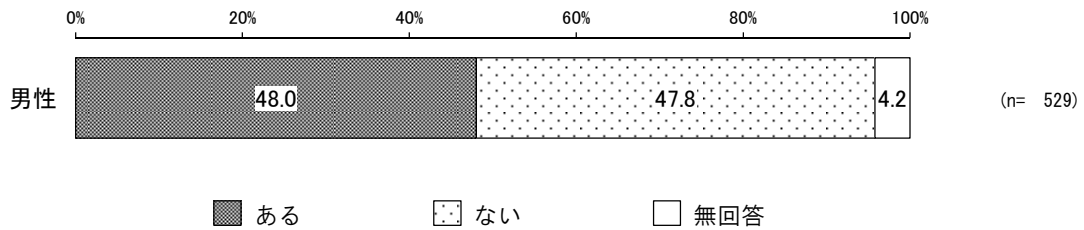
60歳以上の年代層の男女では「食生活や健康づくりに関する情報を提供する」が40%を超えている。

## 5. 「男はしんどい、つらい」と感じること

《「男性」におたずねします。》

問23 あなたは「男はしんどい、つらい」と感じたことはありますか。(○は1つ)

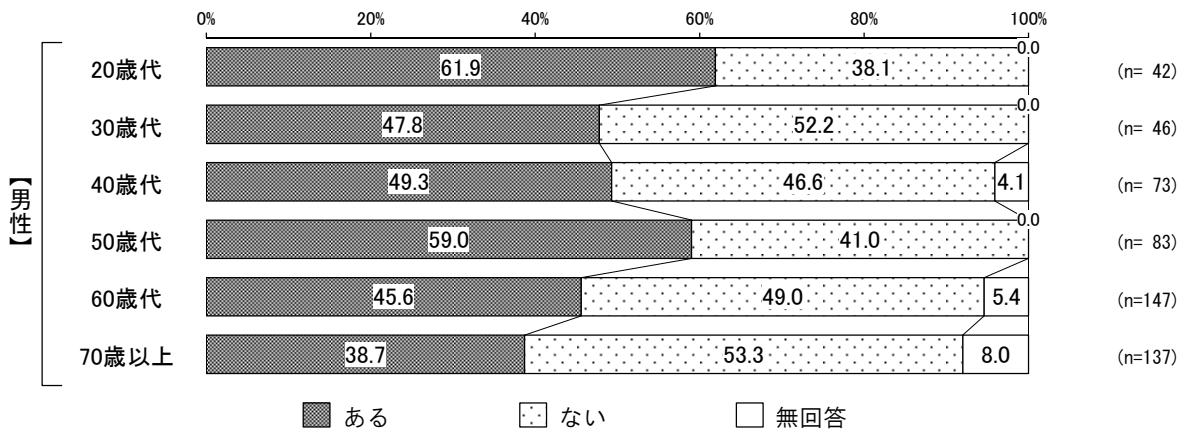
図 「男はしんどい、つらい」と感じること



□男性の2人に1人は「男はしんどい、つらい」と感じたことがある

男性で「男はしんどい、つらい」と感じたことがある人とない人はほぼ半々となっている。

図 年代別 「男はしんどい、つらい」と感じること



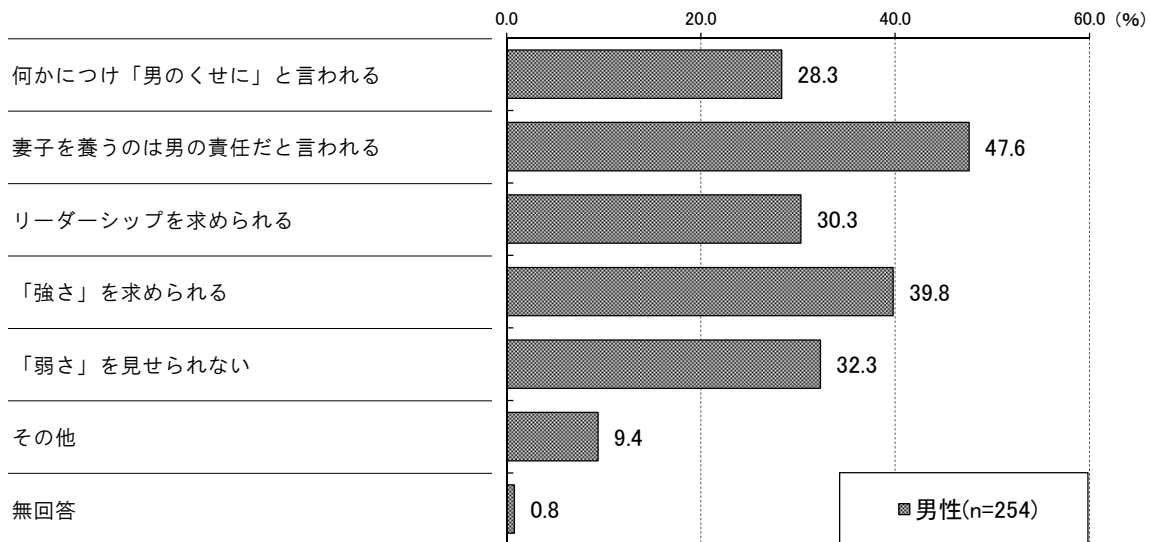
年代別にみると、「ある」の割合は20歳代と50歳代で約60%となっている。

## 6. 「男はしんどい、つらい」と感じた理由

《問23で「1. ある」と答えた方におたずねします。》

問23-1 それはどんなことですか。(〇はいくつでも)

図 「男はしんどい、つらい」と感じた理由



□男はしんどい、つらいと感じる理由は「妻子を養うのは男の責任だと言われる」から

どんなことで「男はしんどい、つらい」と感じるかについては、「妻子を養うのは男の責任だと言われる」が最も高く47.6%、次いで「『強さ』を求められる」が39.8%となっており、「『弱さ』を見せられない」「リーダーシップを求められる」「何かにつけ『男のくせに』と言われる」は、それぞれ30%前後の回答である。

表 年代別 「男はしんどい、つらい」と感じた理由

	対象者数 (n)	何かにつけ「男のくせに」と言われる	妻子を養うのは男の責任だと言われる	リーダーシップを求められる	「強さ」を求められる	「弱さ」を見せられない	その他	無回答	
全体	254	28.3	47.6	30.3	39.8	32.3	9.4	0.8	
男性	20歳代	26	65.4	46.2	30.8	84.6	53.8	15.4	-
	30歳代	22	40.9	36.4	27.3	45.5	36.4	4.5	-
	40歳代	36	27.8	44.4	25.0	19.4	36.1	22.2	-
	50歳代	49	24.5	59.2	30.6	49.0	32.7	6.1	-
	60歳代	67	20.9	43.3	35.8	34.3	23.9	6.0	1.5
	70歳以上	53	17.0	49.1	26.4	26.4	26.4	7.5	1.9

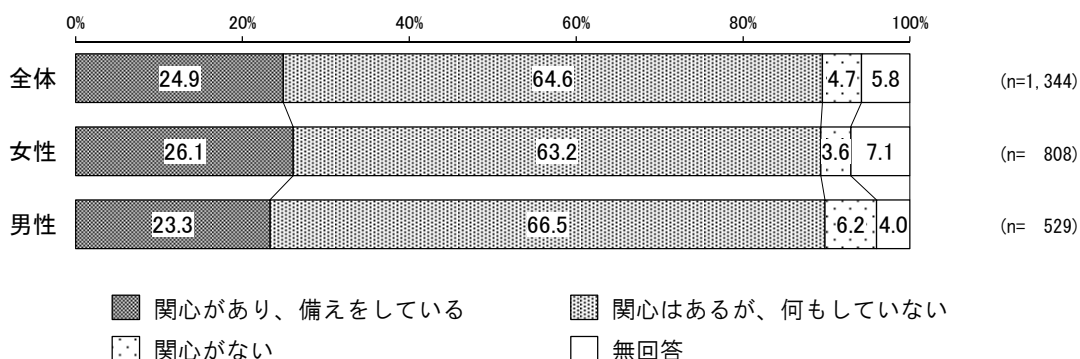
注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

年代別にみると、20歳代では「『強さ』を求められる」が84.6%、次いで「何かにつけ『男のくせに』と言われる」が65.4%、「『弱さ』を見せられない」が53.8%となっている。30歳代も「『強さ』を求められる」(45.5%)と「何かにつけ『男のくせに』と言われる」(40.9%)の割合が高い。40歳以上の年代層では「妻子を養うのは男の責任だと言われる」の割合が最も高くなっており、特に50歳代では59.2%となっている。

## 7. 防災・災害復興への関心の有無

問24 防災・災害復興では自助・共助の大切さが言われています。あなたは防災・災害復興について関心がありますか。(○は1つ)

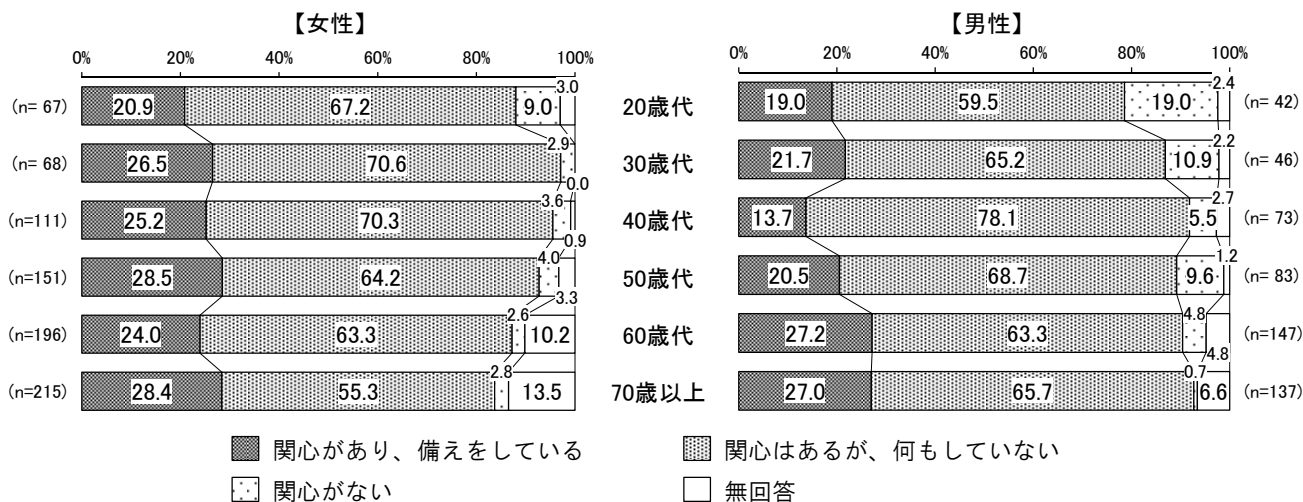
図 性別 防災・災害復興への関心の有無



□防災への関心は高いが、備えをしていない人が多い

男女とも「関心はあるが、何もしていない」(女性63.2%、男性66.5%)が60%を超えて最も高い。「関心があり、備えをしている」は女性26.1%、男性23.3%となっている。

図 性別・年代別 防災・災害復興への関心の有無



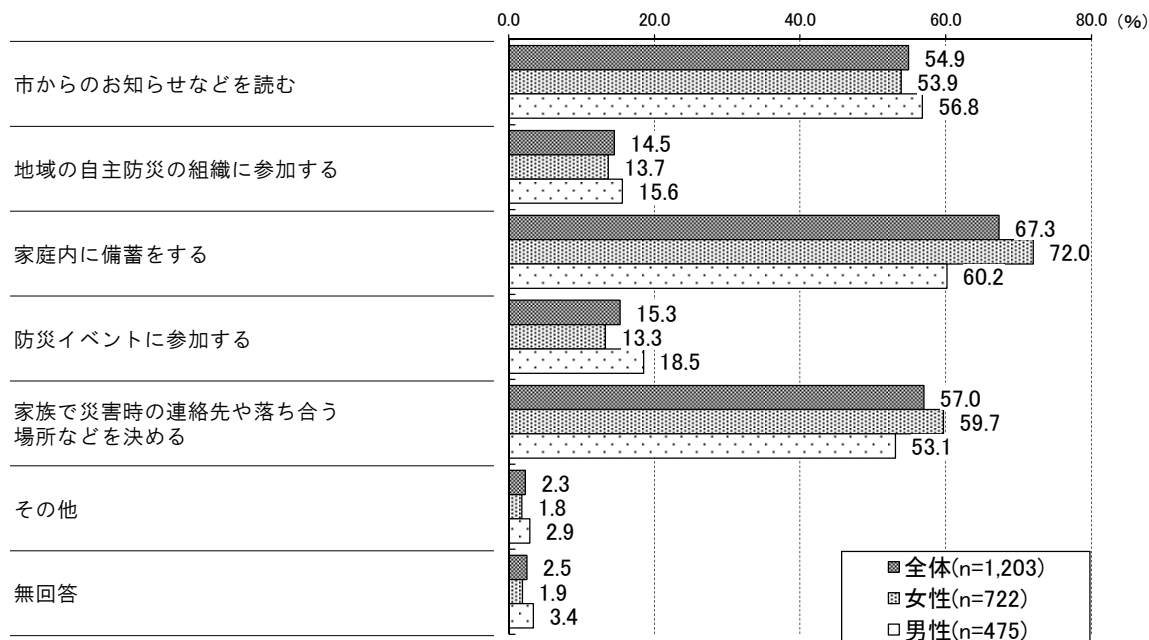
年代別にみると、20歳代の男女は「関心がない」(女性9.0%、男性19.0%)が他の年代層と比べてやや高い。

## 8. 防災・災害復興への取組

《問24で「1」「2」と答えた方におたずねします。》

問24-1 「関心がある方」はどのようなことをしていますか。「関心はあるが何もしていない方」は今後どんなことをしたいと思いますか。あてはまる番号に○をつけてください。(○はいくつでも)

図 性別 防災・災害復興への取組



□「家庭内に備蓄をする」「家族で災害時の連絡先や落ち合う場所などを決める」「市からのお知らせなどを読む」が上位3項目

全体の回答割合が高い順に挙げると、「家庭内に備蓄をする」(全体67.3%、女性72.0%、男性60.2%)、「家族で災害時の連絡先や落ち合う場所などを決める」(全体57.0%、女性59.7%、男性53.1%)、「市からのお知らせなどを読む」(全体54.9%、女性53.9%、男性56.8%)となっており、いずれも家庭内でできることが上位に挙げられている。「防災イベントに参加する」「地域の自主防災の組織に参加する」はそれぞれ全体で15%前後の回答である。

「家庭内に備蓄をする」は女性の方が男性より11.8ポイント高い。

表 性別・年代別 防災・災害復興への取組

	対象者数 (n)	市からの お知らせなどを 読む	地域の自主 防災の組織に 参加する	家庭内に 備蓄をする	防災イ ベントに 参加する	家族で 災害時の 連絡先や 落ち合う 場所など を決める	その他	無回 答	
全体	1,203	54.9	14.5	67.3	15.3	57.0	2.3	2.5	
女性	20歳代	59	20.3	8.5	<b>79.7</b>	6.8	<b>71.2</b>	-	-
	30歳代	66	48.5	10.6	<b>78.8</b>	16.7	<b>63.6</b>	1.5	3.0
	40歳代	106	47.2	11.3	<b>80.2</b>	8.5	<b>65.1</b>	3.8	0.9
	50歳代	140	47.1	12.9	<b>77.1</b>	17.9	<b>65.0</b>	-	1.4
	60歳代	171	<b>62.6</b>	18.7	69.6	17.0	55.6	1.2	2.9
	70歳以上	180	<b>67.8</b>	13.9	60.6	10.0	51.1	3.3	2.2
	男性	20歳代	33	57.6	12.1	<b>72.7</b>	6.1	33.3	3.0
30歳代		40	45.0	7.5	<b>72.5</b>	12.5	57.5	2.5	5.0
40歳代		67	44.8	10.4	59.7	17.9	<b>65.7</b>	1.5	3.0
50歳代		74	55.4	16.2	70.3	14.9	56.8	1.4	4.1
60歳代		133	<b>60.2</b>	14.3	59.4	19.5	57.1	2.3	1.5
70歳以上		127	<b>63.8</b>	<b>22.8</b>	48.0	<b>25.2</b>	44.1	5.5	3.1

注)濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

女性の20～50歳代は「家庭内に備蓄をする」が約80%で最も高く、これに続く「家族で災害時の連絡先や落ち合う場所などを決める」も60%を超えている。

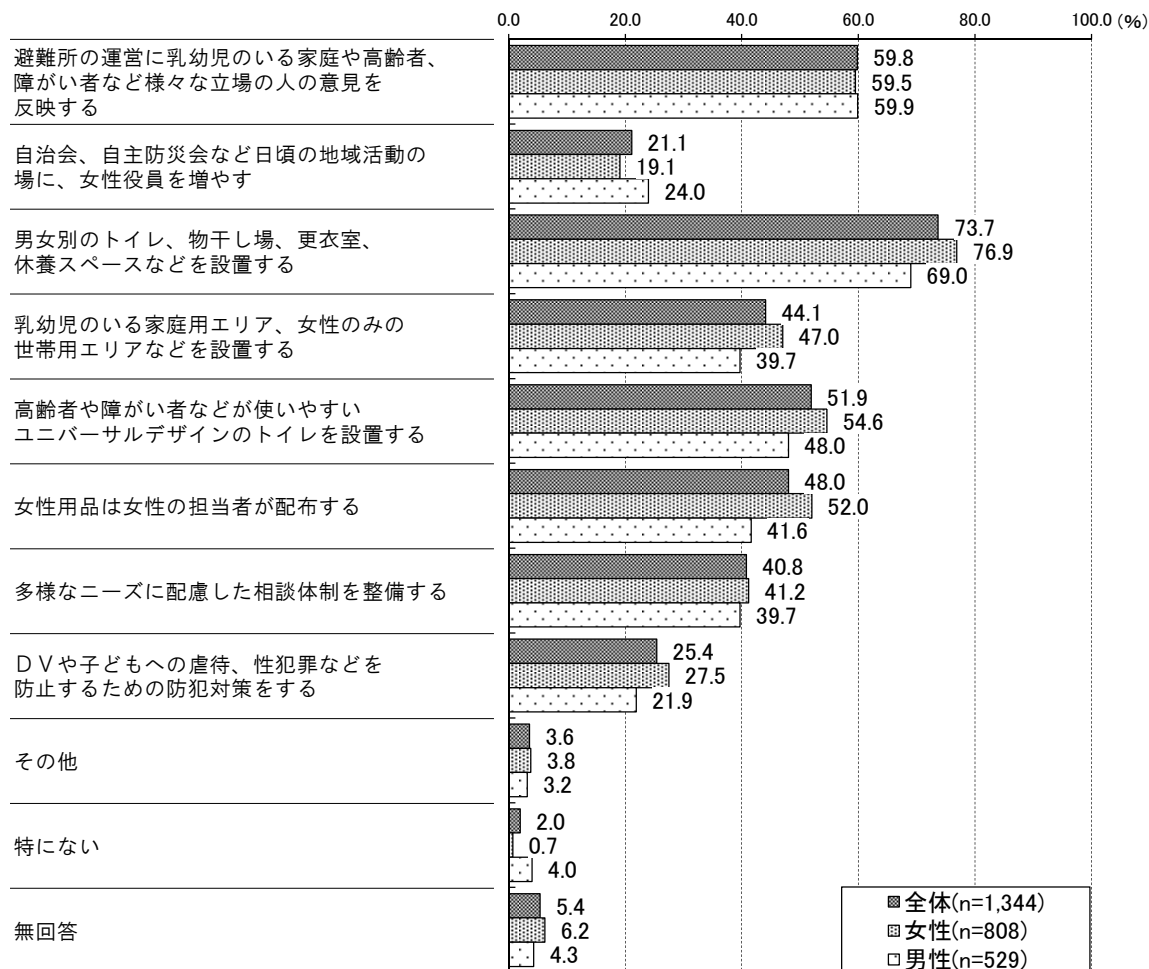
「市からのお知らせなどを読む」の割合は60歳以上の男女では60%を超え、70歳以上の女性と60歳以上の男性では最も割合が高い項目となっているが、20歳代の女性では20.3%と低くなっている。また、20歳代は「地域の自主防災の組織に参加する」が女性8.5%、男性12.1%、「防災イベントに参加する」が女性6.8%、男性6.1%にとどまっている。

## 9. 避難所において必要な取組

【あなたが避難生活を送ることになったと想定してお答えください。】

問25 あなたは、避難所において、みんなが協力し合って過ごすために取り組むとよいと思うことは、どんなことですか。(〇はいくつでも)

図 性別 避難所において必要な取組



### □男女別のトイレ、物干し場、更衣室、休養スペースなどの設置のニーズが高い

男女とも「男女別のトイレ、物干し場、更衣室、休養スペースなどを設置する」(女性76.9%、男性69.0%)が最も高く、次いで「避難所の運営に乳幼児のいる家庭や高齢者、障がい者など様々な立場の人の意見を反映する」(女性59.5%、男性59.9%)、「高齢者や障がい者などが使いやすいユニバーサルデザインのトイレを設置する」(女性54.6%、男性48.0%)となっている。回答割合の順位は男女ともほぼ同じであるが、ほとんどの選択肢で女性の方が回答割合が高くなっている。「自治会、自主防災会など日頃の地域活動の場に、女性役員を増やす」については女性19.1%、男性24.0%と男性の方が4.9ポイント高くなっている。

表 性別・年代別 避難所において必要な取組

	対象者数 (n)	避難所の運営に乳幼児のいる家庭や高齢者、障がい者など様々な立場の人の意見を反映する	自治会、自主防災会など日頃の地域活動の場に、女性役員を増やす	男女別のトイレ、物干し場、更衣室、休養スペースなどを設置する	乳幼児のいる家庭用エリア、女性のみの世帯用エリアなどを設置する	高齢者や障がい者などが使いやすいユニバーサルデザインのトイレを設置する	女性用品は女性の担当者が配布する	多様なニーズに配慮した相談体制を整備する	DVや子どもへの虐待、性犯罪などを防止するための防犯対策をする	その他	特にない	無回答	
全体	1,344	59.8	21.1	73.7	44.1	51.9	48.0	40.8	25.4	3.6	2.0	5.4	
女性	20歳代	67	59.7	16.4	<b>83.6</b>	<b>67.2</b>	53.7	<b>64.2</b>	29.9	<b>40.3</b>	4.5	-	3.0
	30歳代	68	60.3	8.8	<b>82.4</b>	<b>67.6</b>	50.0	<b>63.2</b>	<b>54.4</b>	<b>42.6</b>	-	-	1.5
	40歳代	111	63.1	13.5	<b>79.3</b>	<b>58.6</b>	<b>57.7</b>	<b>59.5</b>	45.0	<b>36.9</b>	8.1	-	-
	50歳代	151	60.9	13.9	<b>83.4</b>	<b>51.7</b>	53.6	<b>63.6</b>	<b>49.7</b>	29.8	4.0	0.7	3.3
	60歳代	196	63.8	<b>26.5</b>	73.5	44.4	54.1	47.4	44.4	22.4	4.1	1.0	8.2
	70歳以上	215	52.6	22.8	70.2	27.4	55.8	36.7	29.8	16.7	2.3	1.4	<b>12.1</b>
男性	20歳代	42	59.5	14.3	76.2	45.2	54.8	<b>57.1</b>	28.6	<b>45.2</b>	4.8	2.4	-
	30歳代	46	63.0	17.4	65.2	47.8	43.5	45.7	39.1	<b>37.0</b>	<b>10.9</b>	2.2	4.3
	40歳代	73	47.9	21.9	75.3	<b>49.3</b>	50.7	<b>54.8</b>	35.6	21.9	2.7	6.8	1.4
	50歳代	83	<b>68.7</b>	22.9	<b>79.5</b>	48.2	48.2	43.4	<b>49.4</b>	19.3	4.8	1.2	3.6
	60歳代	147	63.3	22.4	69.4	39.5	49.7	40.1	44.9	20.4	1.4	3.4	4.1
	70歳以上	137	56.9	<b>32.8</b>	58.4	25.5	44.5	29.2	34.3	13.1	0.7	5.8	8.0

注)濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

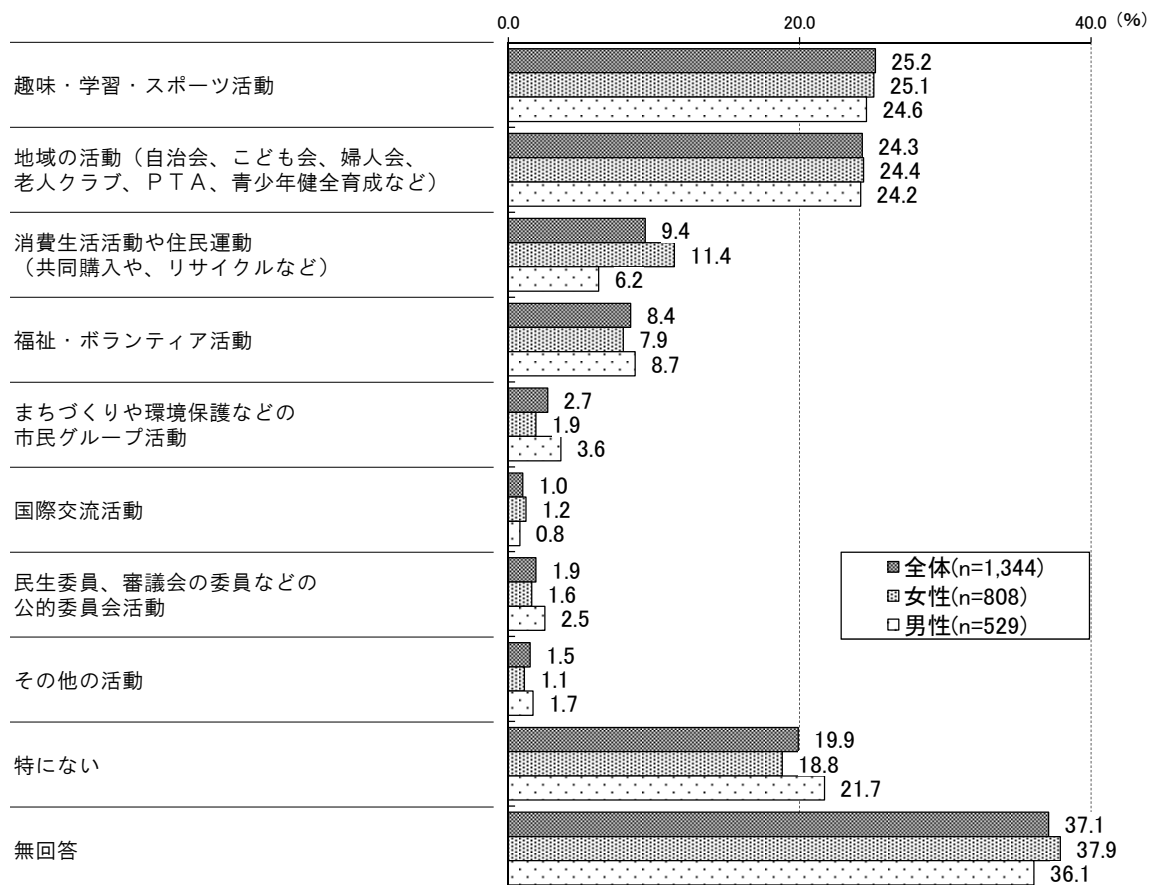
年代別にみると、女性の20～40歳代では「乳幼児のいる家庭用エリア、女性のみの世帯用エリアなどを設置する」「女性用品は女性の担当者が配布する」「DVや子どもへの虐待、性犯罪などを防止するための防犯対策をする」が全体よりも10ポイント以上高くなっている。

男性の20・30歳代でも「DVや子どもへの虐待、性犯罪などを防止するための防犯対策をする」は全体より10ポイント以上割合が高くなっている。

## 10. 参加している社会活動・参加したい社会活動

問26 次の活動のうち、あなたが最近1年間に参加されたもの、また、今後参加したいと思われるものはありませんか。(〇は参加したものの、参加したいと思うものそれぞれにいくつでも)

図 性別 参加している社会活動

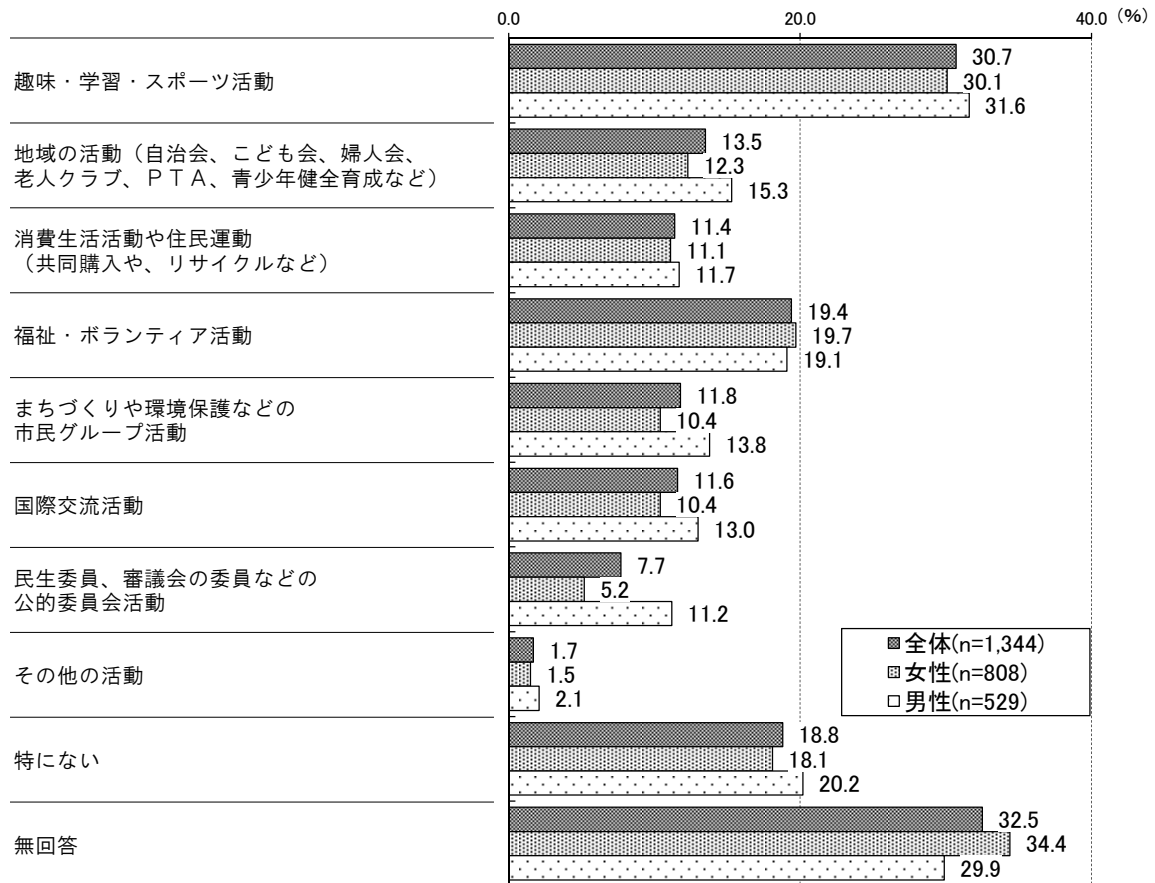


### □参加している活動は「趣味・学習・スポーツ活動」や「地域の活動」

最近1年間に参加した活動としては、「趣味・学習・スポーツ活動」、「地域の活動(自治会、子ども会、婦人会、老人クラブ、PTA、青少年健全育成など)」がそれぞれ25%程度で高い。男女ともほぼ同じ割合である。そのほかでは、「消費生活活動や住民運動(共同購入や、リサイクルなど)」と「福祉・ボランティア活動」が全体で10%弱の割合であるが、「まちづくりや環境保護などの市民グループ活動」、「国際交流活動」、「民生委員、審議会の委員などの公的委員会活動」は数%にとどまる。

「消費生活活動や住民運動(共同購入や、リサイクルなど)」で女性が男性より5.2ポイント高いほかは、ほとんど違いがみられない。

図 性別 参加したい社会活動



今後参加したいと思う活動では、最近1年間に参加したものと同程度の割合で「特にない」（女性18.1%、男性20.2%）が挙げられているものの、参加したい活動では、「地域の活動（自治会、こども会、婦人会、老人クラブ、PTA、青少年健全育成など）」以外はいずれも最近1年間に参加した割合よりも高くなっている。なかでも「福祉・ボランティア活動」は、女性19.7%、男性19.1%で男女とも10ポイント以上高い。「まちづくりや環境保護などの市民グループ活動」と「国際交流活動」は、最近1年間の参加率は数%であるが、いずれも男女とも10%以上の参加意向割合となっている。

また、「民生委員、審議会の委員などの公的委員会活動」は、女性の参加意向は5.2%であるが男性は11.2%で6ポイント高くなっている。

表 性別・年代別 参加している社会活動

	対象者数 (n)	趣味・学習・スポーツ活動	地域の活動(自治会、子ども会、婦人会、老人クラブ、PTA、青少年健全育成など)	消費生活活動や住民運動(共同購入や、リサイクルなど)	福祉・ボランティア活動	まちづくりや環境保護などの市民グループ活動	国際交流活動	民生委員、審議会の委員などの公的委員会活動	その他の活動	特にない	無回答	
全体	1,344	25.2	24.3	9.4	8.4	2.7	1.0	1.9	1.5	19.9	37.1	
女性	20歳代	67	37.3	3.0	4.5	7.5	3.0	1.5	-	-	22.4	35.8
	30歳代	68	20.6	41.2	10.3	2.9	1.5	2.9	-	1.5	20.6	27.9
	40歳代	111	18.9	31.5	16.2	7.2	1.8	2.7	0.9	-	22.5	33.3
	50歳代	151	25.2	24.5	14.6	9.9	1.3	1.3	3.3	-	18.5	34.4
	60歳代	196	26.0	21.9	10.7	8.7	1.0	-	1.0	-	16.8	42.3
	70歳以上	215	25.1	24.2	9.8	7.9	2.8	0.9	2.3	3.7	17.2	42.3
	男性	20歳代	42	45.2	14.3	7.1	14.3	2.4	2.4	4.8	2.4	21.4
30歳代		46	23.9	15.2	4.3	10.9	-	-	-	-	23.9	39.1
40歳代		73	24.7	20.5	2.7	5.5	1.4	-	1.4	-	27.4	35.6
50歳代		83	20.5	22.9	6.0	2.4	-	-	1.2	-	32.5	30.1
60歳代		147	19.7	29.3	6.8	6.1	3.4	0.7	2.0	2.0	17.7	39.5
70歳以上		137	25.5	27.7	8.0	13.9	8.8	1.5	4.4	3.6	16.1	38.7

年代別にみると、20歳代の男女は「趣味・学習・スポーツ活動」(女性37.3%、男性45.2%)が最も高い。女性の30・40歳は「地域の活動(自治会、子ども会、婦人会、老人クラブ、PTA、青少年健全育成など)」の割合が最も高く、それぞれ41.2%、31.5%である。男性の40・50歳代では「特にない」が約30%となっている。

表 性別・年代別 参加したい社会活動

	対象者数 (n)	趣味・学習・スポーツ活動	地域の活動(自治会、子ども会、婦人会、老人クラブ、PTA、青少年健全育成など)	消費生活活動や住民運動(共同購入や、リサイクルなど)	福祉・ボランティア活動	まちづくりや環境保護などの市民グループ活動	国際交流活動	民生委員、審議会の委員などの公的委員会活動	その他の活動	特にない	無回答	
全体	1,344	30.7	13.5	11.4	19.4	11.8	11.6	7.7	1.7	18.8	32.5	
女性	20歳代	67	26.9	10.4	10.4	23.9	11.9	13.4	3.0	-	23.9	20.9
	30歳代	68	38.2	14.7	14.7	16.2	7.4	26.5	5.9	2.9	20.6	19.1
	40歳代	111	47.7	10.8	15.3	20.7	9.9	18.9	5.4	1.8	14.4	22.5
	50歳代	151	38.4	12.6	8.6	26.5	13.9	13.9	8.6	1.3	17.9	23.8
	60歳代	196	30.6	14.8	12.8	23.5	12.8	6.1	7.1	1.0	16.8	37.2
	70歳以上	215	13.0	10.2	8.4	10.7	6.5	1.4	1.4	1.9	18.6	54.4
	男性	20歳代	42	28.6	31.0	28.6	31.0	21.4	26.2	21.4	4.8	19.0
30歳代		46	43.5	13.0	13.0	23.9	13.0	15.2	17.4	6.5	21.7	23.9
40歳代		73	27.4	17.8	6.8	17.8	11.0	11.0	11.0	1.4	26.0	21.9
50歳代		83	38.6	8.4	8.4	21.7	13.3	16.9	9.6	-	24.1	16.9
60歳代		147	33.3	13.6	11.6	17.7	12.2	10.9	8.2	1.4	19.7	29.9
70歳以上		137	24.8	15.3	10.2	14.6	14.6	8.8	9.5	2.2	15.3	46.7

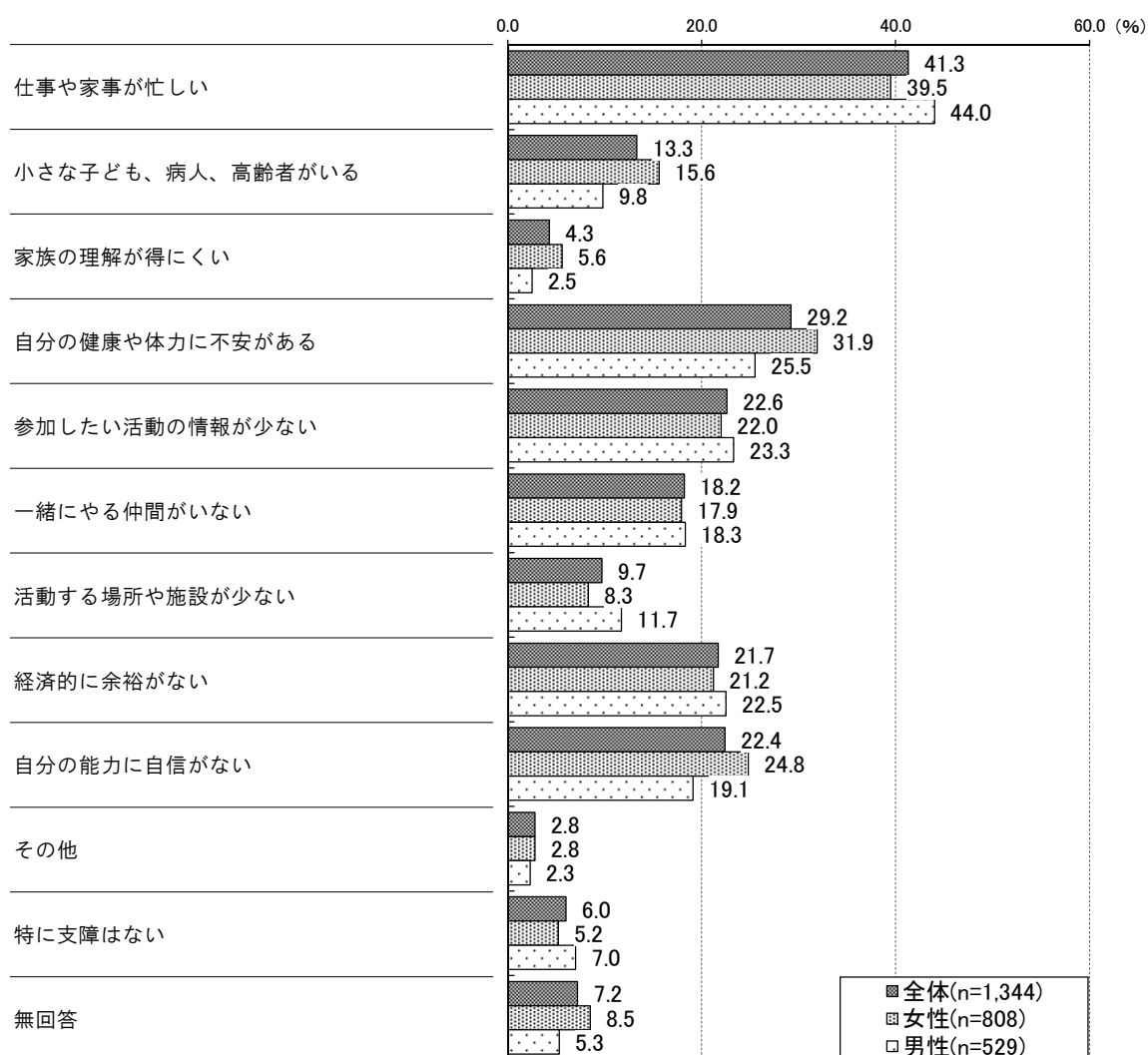
注)濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

今後参加したいと思う活動を年代別にみると、女性70歳以上と男性20歳代以外の年代層は「趣味・学習・スポーツ活動」が最も高くなっている。「地域の活動(自治会、子ども会、婦人会、老人クラブ、PTA、青少年健全育成など)」の最近1年間の参加率が各年代中最も低い20歳代は男女とも、参加したい割合の方が高くなっている。特に男性20歳代は31.0%が挙げており、その他の市民活動項目も総じて高くなっている。

## 11. 社会活動に参加するうえでの支障

問27 あなたは、社会活動に参加される場合、どのようなことが支障となりますか。(〇はいくつでも)

図 性別 社会活動に参加するうえでの支障



### □社会活動に参加するうえでの支障は仕事や家事で忙しいから

社会活動に参加するうえでの支障は、全体の回答割合が高い順に挙げると「仕事や家事が忙しい」(全体41.3%、女性39.5%、男性44.0%)、「自分の健康や体力に不安がある」(全体29.2%、女性31.9%、男性25.5%)、「参加したい活動の情報が少ない」(全体22.6%、女性22.0%、男性23.3%)、「自分の能力に自信がない」(全体22.4%、女性24.8%、男性19.1%)となっている。「仕事や家事が忙しい」は男性の方が女性より4.5ポイント高く、「自分の健康や体力に不安がある」「自分の能力に自信がない」では女性の方がそれぞれ6.4ポイント、5.7ポイント高くなっている。また、男女とも20%強が「経済的に余裕がない」と回答している。

表 性別・年代別 社会活動に参加するうえでの支障

	対象者数 (n)	仕事や家事が忙しい	小さな子ども、病人、高齢者がいる	家族の理解が得にくい	自分の健康や体力に不安がある	参加したい活動の情報が少ない	一緒にやる仲間がない	活動する場所や施設が少ない	経済的に余裕がない	自分の能力に自信がない	その他	特に支障はない	無回答	
全体	1,344	41.3	13.3	4.3	29.2	22.6	18.2	9.7	21.7	22.4	2.8	6.0	7.2	
女性	20歳代	67	61.2	13.4	3.0	11.9	32.8	32.8	13.4	13.4	22.4	4.5	6.0	3.0
	30歳代	68	64.7	39.7	4.4	11.8	29.4	27.9	10.3	32.4	19.1	2.9	5.9	-
	40歳代	111	67.6	15.3	5.4	20.7	23.4	27.0	8.1	29.7	30.6	2.7	2.7	0.9
	50歳代	151	60.9	19.2	7.9	26.5	24.5	19.9	6.6	25.2	26.5	1.3	4.6	4.6
	60歳代	196	25.0	15.8	7.7	38.3	25.5	13.3	9.2	19.9	25.5	1.5	4.6	10.7
	70歳以上	215	8.4	6.0	3.3	48.4	10.7	8.4	6.5	14.0	22.3	4.7	7.0	17.7
	男性	20歳代	42	66.7	2.4	2.4	11.9	31.0	40.5	7.1	19.0	23.8	4.8	9.5
30歳代		46	63.0	10.9	2.2	6.5	19.6	26.1	4.3	26.1	8.7	2.2	4.3	2.2
40歳代		73	72.6	16.4	2.7	9.6	24.7	13.7	11.0	35.6	20.5	1.4	2.7	2.7
50歳代		83	71.1	10.8	3.6	24.1	26.5	19.3	10.8	25.3	16.9	-	3.6	1.2
60歳代		147	29.3	8.8	2.7	32.0	25.9	17.7	14.3	23.8	18.4	2.7	9.5	4.1
70歳以上		137	14.6	8.8	1.5	38.7	16.8	10.9	13.9	12.4	22.6	2.2	8.8	12.4

注)濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

年代別にみると、20～50歳代の男女では「仕事や家事が忙しい」の割合が最も高く60%を超えている。

20歳代の男女は「仕事や家事が忙しい」に次いで、「一緒にやる仲間がない」(女性32.8%、男性40.5%)、「参加したい活動の情報が少ない」(女性32.8%、男性31.0%)の割合が高くなっている。

30歳代の女性は「仕事や家事が忙しい」に次いで「小さな子ども、病人、高齢者がいる」(39.7%)、「経済的に余裕がない」(32.4%)の割合が高い。

40歳代の男性は「経済的に余裕がない」(35.6%)の割合が高い。

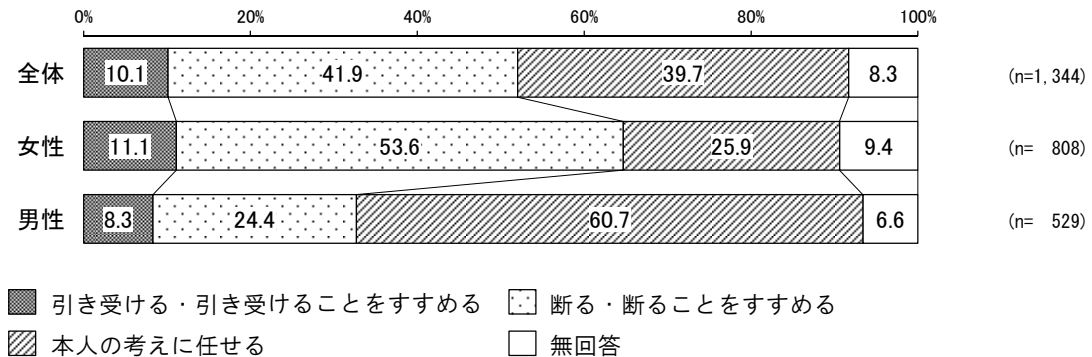
60歳以上の男女では「自分の健康や体力に不安がある」の割合が最も高く、60歳代では女性38.3%、男性32.0%、70歳以上では女性48.4%、男性38.7%となっている。

## 12. 地域活動の役職に女性が就くことについて

《女性はあなた自身を、男性はあなたの妻・パートナーなど身近な女性を想定してお答えください。》

問28 地域活動や市民活動の役員に推薦されたとしたら、あなたはどのようにしますか。(○は1つ)

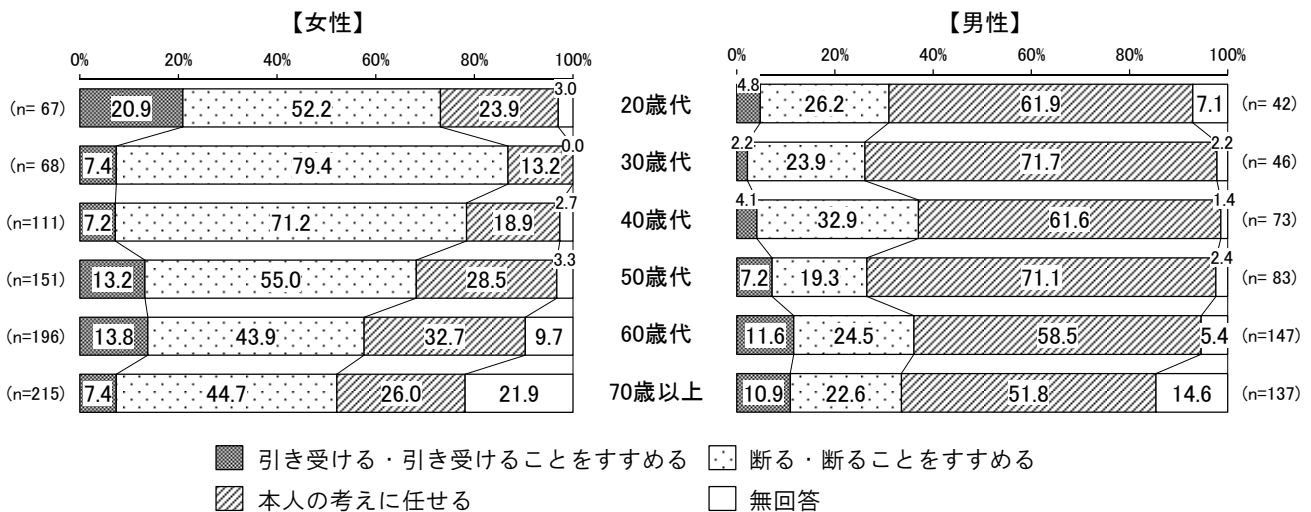
図 性別 地域活動の役職に女性が就くことについて



□女性では「断る」が約50%、男性では「本人の考えに任せる」が約60%

女性が地域活動等の役職に就くことについて、「引き受ける・引き受けることをすすめる」は男女とも少数派で、女性11.1%、男性8.3%となっている。女性では53.6%が「断る・断ることをすすめる」と回答している。男性は60.7%が「本人の考えに任せる」と回答していて、「断る・断ることをすすめる」の24.4%よりも高くなっているが、女性自身が役職に就きたくない意識が強い傾向がうかがえる。

図 性別・年代別 地域活動の役職に女性が就くことについて



年代別にみると、女性ではいずれの年代層でも「断る・断ることをすすめる」が最も高くなっており、特に30歳代(79.4%)、40歳代(71.2%)で割合が高い。

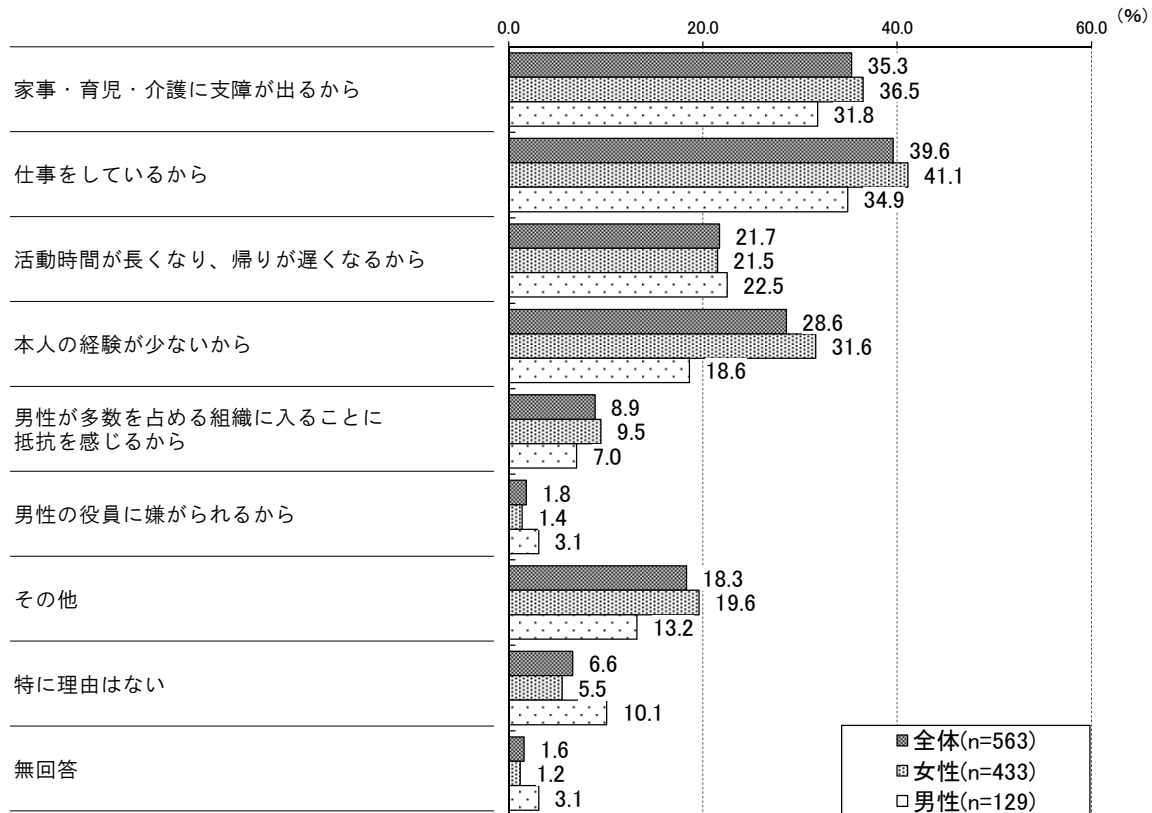
男性では、「本人の考えに任せる」がいずれの年代層でも50%を超えている。

### 13. 地域活動の役職に女性が就きにくい理由

《問28で「2. 断る・断ることをすすめる」と答えた方におたずねします。》

問28-1 その理由は何ですか。(〇はいくつでも)

図 性別 地域活動の役職に女性が就きにくい理由



□地域活動の役職に女性が就きにくい理由は、「仕事」や「家事・育児・介護に支障が出るから」

「断る・断ることをすすめる」理由を、全体の回答割合が高い順に挙げると「仕事をしているから」(全体39.6%、女性41.1%、男性34.9%)、「家事・育児・介護に支障が出るから」(全体35.3%、女性36.5%、男性31.8%)、「本人の経験が少ないから」(全体28.6%、女性31.6%、男性18.6%)となっている。いずれも女性の方が回答割合が高いが、なかでも、「本人の経験が少ないから」では女性が男性より13.0ポイント高くなっており、女性が自分自身を過小評価している傾向がうかがえる。

表 性別・年代別 地域活動の役職に女性が就きにくい理由

	対象者数 (n)	家事・育児・介護に支障が出るから	仕事をしているから	活動時間が長くなり、帰りが遅くなるから	本人の経験が少ないから	男性が多数を占める組織に入ることに抵抗を感じるから	男性の役員に嫌がられるから	その他	特に理由はない	無回答	
全体	563	35.3	39.6	21.7	28.6	8.9	1.8	18.3	6.6	1.6	
女性	20歳代	35	22.9	<b>65.7</b>	<b>28.6</b>	17.1	<b>20.0</b>	2.9	14.3	8.6	-
	30歳代	54	<b>55.6</b>	57.4	<b>29.6</b>	29.6	7.4	-	7.4	3.7	-
	40歳代	79	<b>51.9</b>	60.8	<b>27.8</b>	<b>40.5</b>	<b>13.9</b>	3.8	8.9	1.3	-
	50歳代	83	37.3	<b>53.0</b>	22.9	<b>39.8</b>	8.4	-	13.3	1.2	-
	60歳代	86	39.5	29.1	18.6	32.6	11.6	2.3	19.8	3.5	3.5
	70歳以上	96	14.6	7.3	10.4	22.9	2.1	-	<b>42.7</b>	<b>14.6</b>	2.1
	男性	20歳代	11	36.4	<b>45.5</b>	<b>36.4</b>	18.2	-	-	18.2	9.1
30歳代		11	<b>45.5</b>	<b>54.5</b>	<b>36.4</b>	18.2	9.1	-	-	9.1	<b>9.1</b>
40歳代		24	<b>45.8</b>	<b>58.3</b>	12.5	12.5	4.2	4.2	12.5	-	4.2
50歳代		16	<b>50.0</b>	<b>50.0</b>	<b>31.3</b>	12.5	<b>18.8</b>	6.3	-	-	-
60歳代		36	22.2	11.1	<b>30.6</b>	27.8	5.6	5.6	13.9	<b>19.4</b>	2.8
70歳以上		31	16.1	25.8	6.5	16.1	6.5	-	22.6	<b>12.9</b>	3.2

注)濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

年代別にみると、女性の20～50歳代と、男性の30～50歳代では「仕事をしているから」が高く50%以上となっている。女性の30・40歳代は「仕事をしているから」に次いで「家事・育児・介護に支障が出るから」が高く、それぞれ55.6%、51.9%となっている。

「本人の経験が少ないから」の割合は、40歳代では女性40.5%、男性12.5%、50歳代では女性39.8%、男性12.5%となっており、いずれも約30ポイント女性の方が高くなっている。

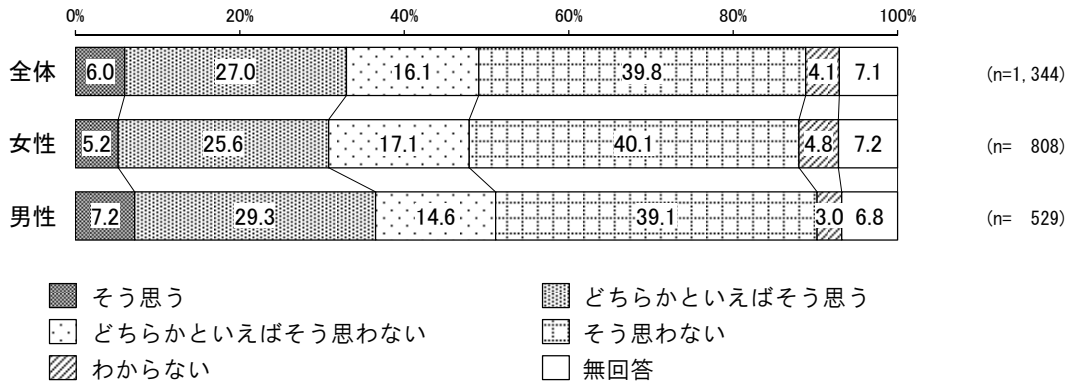
## 4. 男女共同参画について

### 1. 性別役割分担意識や子育てに関する考え方

問29 あなたは、次のような考え方についてどう思いますか。(○はそれぞれ1つ)

#### ■①夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである

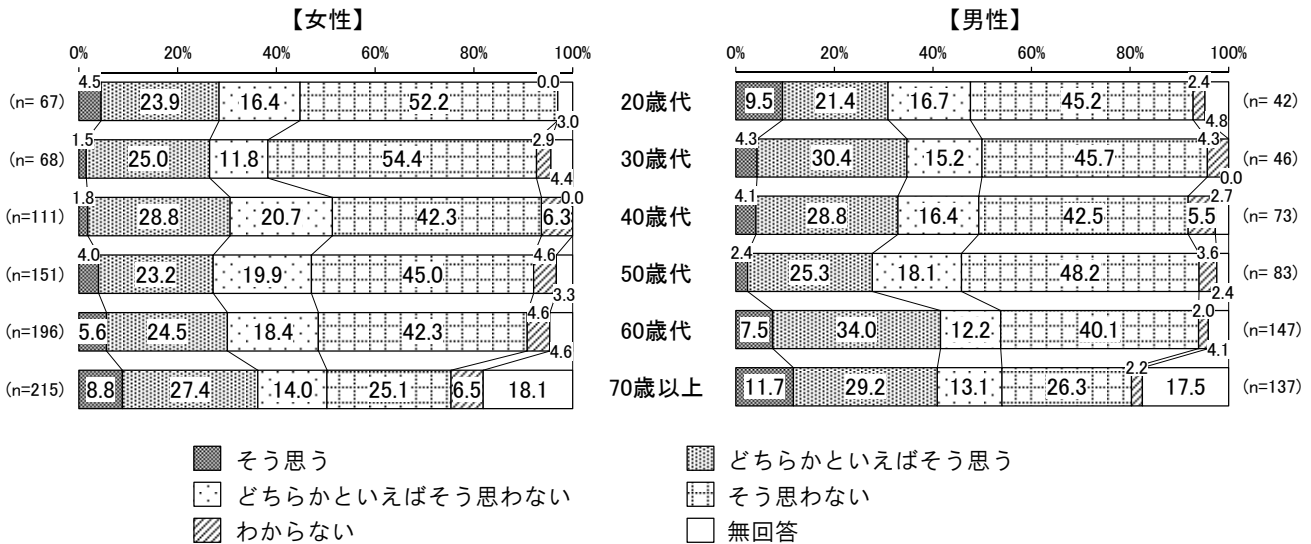
図 性別 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について



□「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に半数以上の男女が反対

『否定派』(「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の合計)は、女性57.2%、男性53.7%で女性の方が3.5ポイント高く、『肯定派』(「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計)は、女性30.8%、男性36.5%で男性の方が5.7ポイント高い。

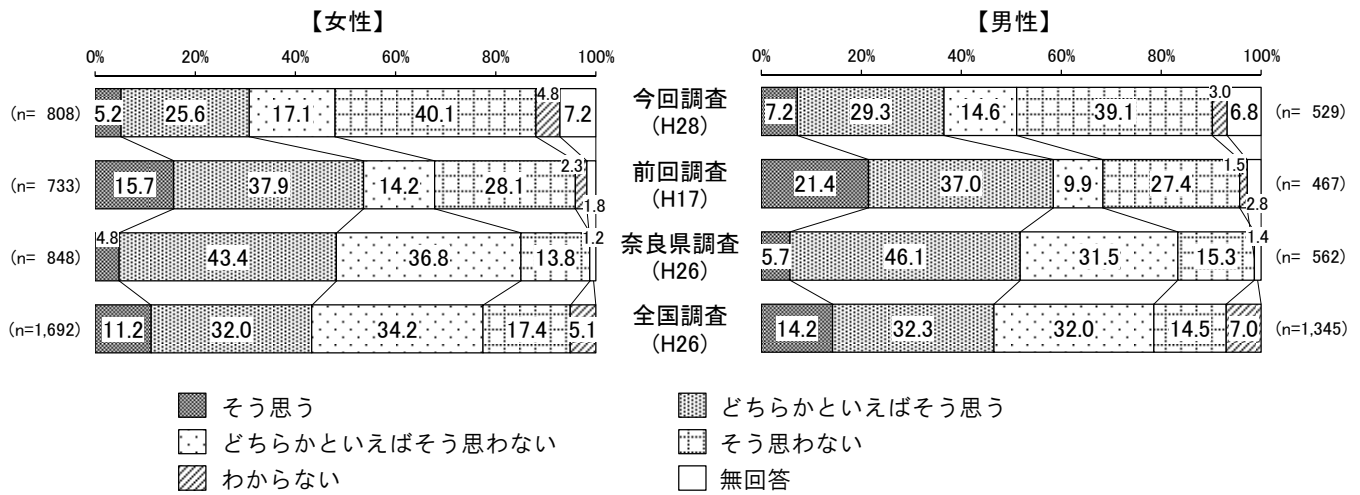
図 性別・年代別 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について



年代別にみると、20・30歳代の女性では「そう思わない」が50%を超えており、『否定派』は20歳代で68.6%、30歳代で66.2%となっている。

男性では60歳代と70歳以上で『肯定派』が40%を超えている。

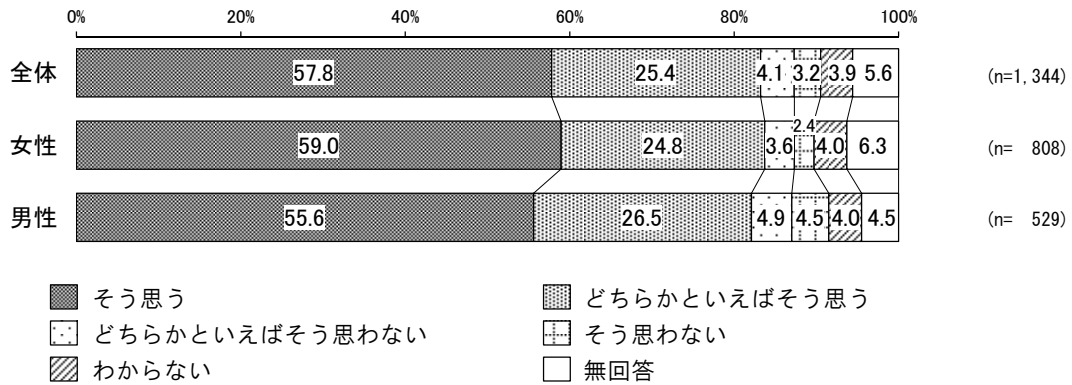
図 性別「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について  
(前回調査、奈良県調査、全国調査との比較)



前回調査(平成17年)、奈良県調査(平成26年)、全国調査(平成26年)と比較すると、『否定派』の割合は今回調査では女性57.2%、男性53.7%となっており、前回調査(女性42.3%、男性37.3%)、奈良県調査(女性50.6%、男性46.8%)、全国調査(女性51.6%、男性46.5%)よりも高くなっている。

■②人にはそれぞれ向き不向きがあるのだから、男か女かによって生き方を決めつけない方がよい

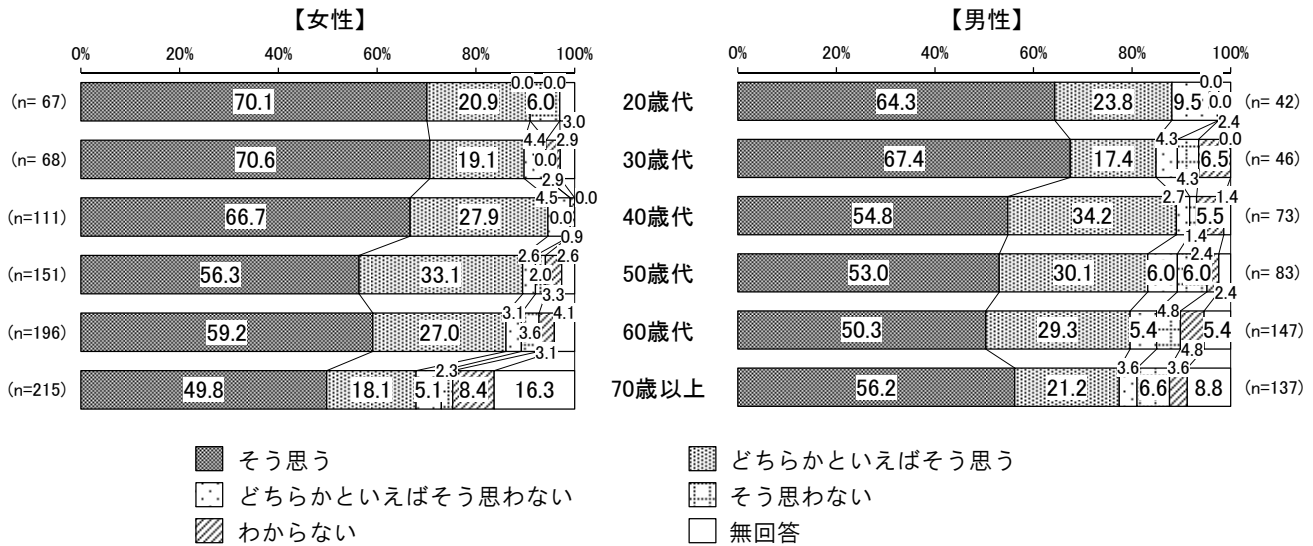
図 性別 「人にはそれぞれ向き不向きがあるのだから、男か女かによって生き方を決めつけない方がよい」という考え方について



□多くの人が「人にはそれぞれ向き不向きがあるのだから、男か女かによって生き方を決めつけない方がよい」と考えている

『肯定派』（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計）が男女とも大半を占めており、女性83.8%、男性82.1%でほとんど変わらない。

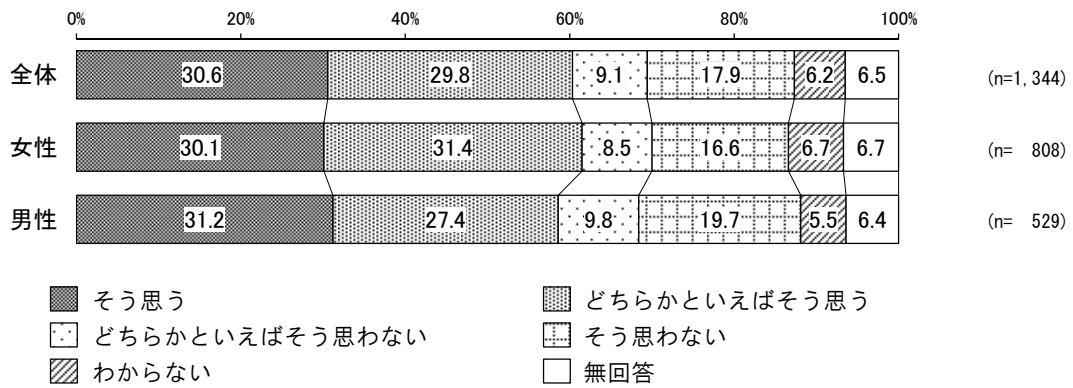
図 性別・年代別 「人にはそれぞれ向き不向きがあるのだから、男か女かによって生き方を決めつけない方がよい」という考え方について



年代別にみると、年代が低い層で「そう思う」の割合が高くなる傾向がみられ、女性の20・30歳代では70%台、男性の20・30歳代では60%台となっている。

■③子どもは3歳くらいまで母親が育てるべきである

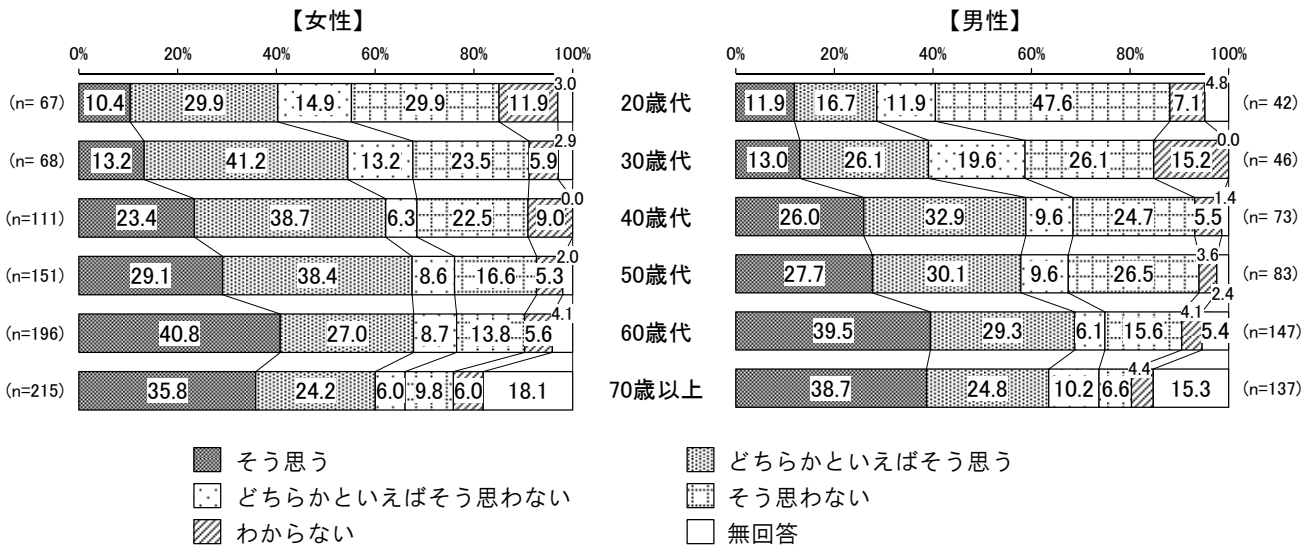
図 性別 「子どもは3歳くらいまで母親が育てるべきである」という考え方について



□約60%の人は「子どもは3歳くらいまで母親が育てるべきである」と考えている

『肯定派』（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計）は、女性61.5%、男性58.6%で女性の方が2.9ポイント高く、『否定派』（「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の合計）は、女性25.1%、男性29.5%で男性の方が4.4ポイント高い。

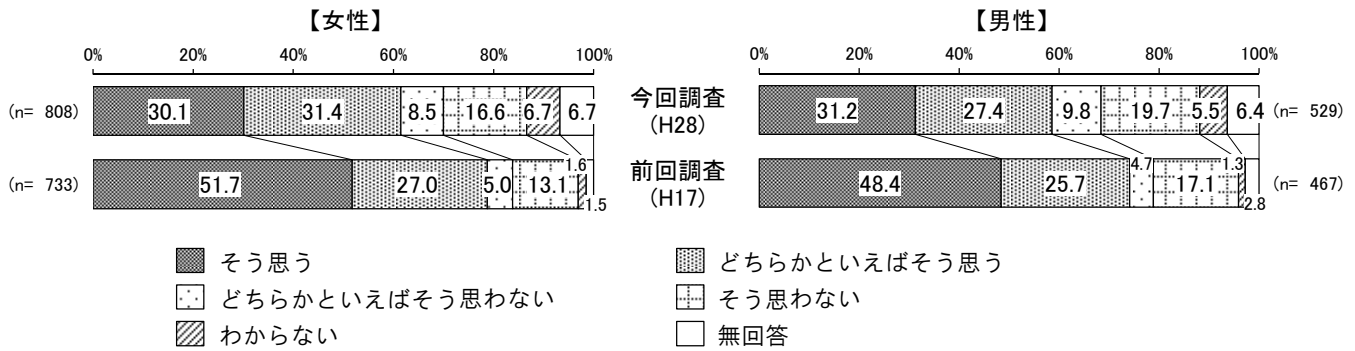
図 性別・年代別 「子どもは3歳くらいまで母親が育てるべきである」という考え方について



年代別にみると、20歳代の女性と、20・30歳代の男性は『肯定派』よりも『否定派』の割合が高くなっているが、年代が高くなるにつれて『肯定派』の割合が高くなる傾向がみられる。年代による意識の違いは女性よりも男性で大きい。

図 性別 「子どもは3歳くらいまで母親が育てるべきである」という考え方について

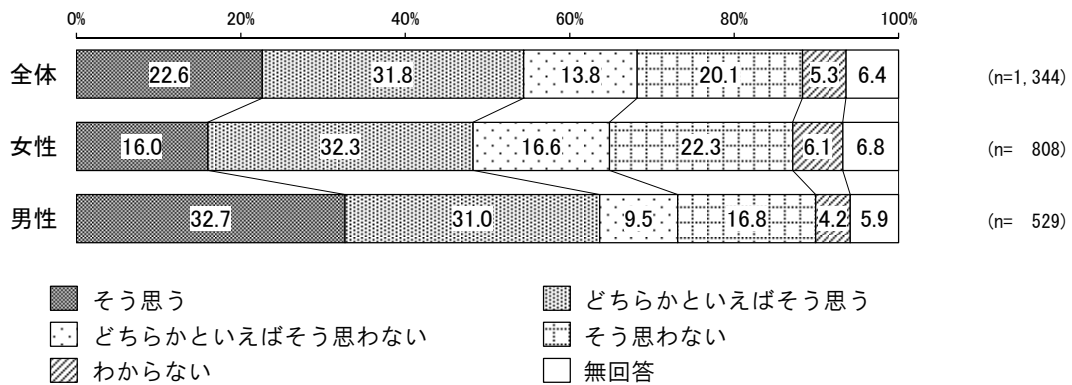
(前回調査との比較)



前回調査(平成17年)と比較すると、『肯定派』の割合は前回調査では女性78.7%、男性74.1%、今回調査では女性61.5%、男性58.6%、『否定派』の割合は前回調査では女性18.1%、男性21.8%、今回調査では女性25.1%、男性29.5%となっており、今回調査は前回調査よりも『否定派』の割合が高くなっている。

■④女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がよい

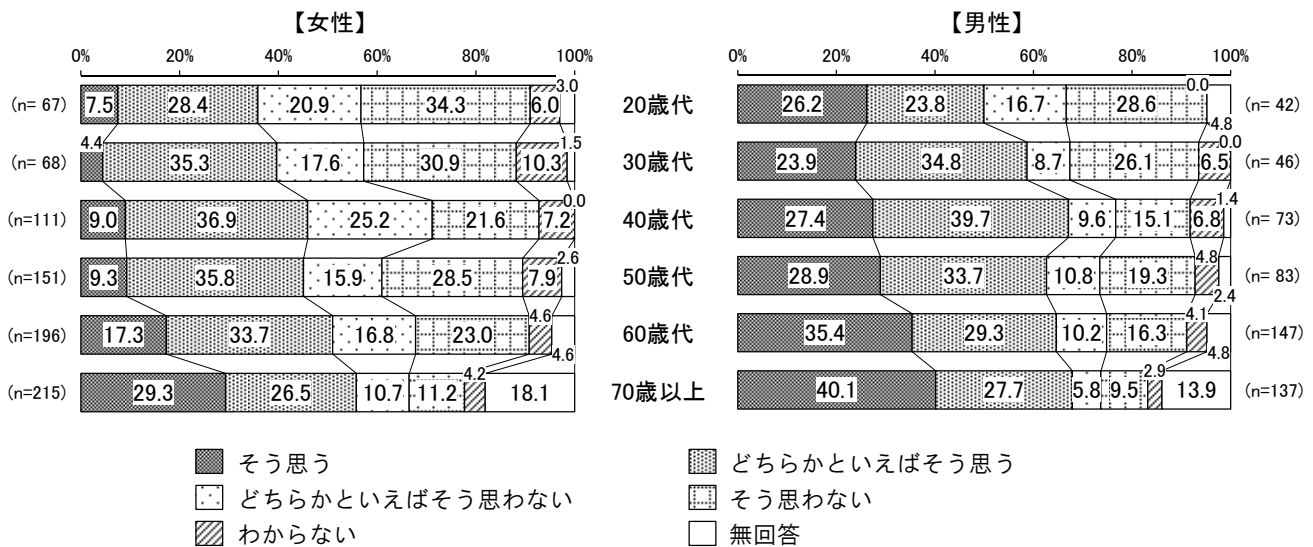
図 性別 「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がよい」という考え方について



□「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がよい」と考える人は女性の約50%、男性の約60%

『肯定派』(「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計)は、女性48.3%、男性63.7%で男性の方が15.4ポイント高く、『否定派』(「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の合計)は、女性38.9%、男性26.3%で女性の方が12.6ポイント高い。男女の意識の違いが大きい。

図 性別・年代別「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がよい」という考え方について

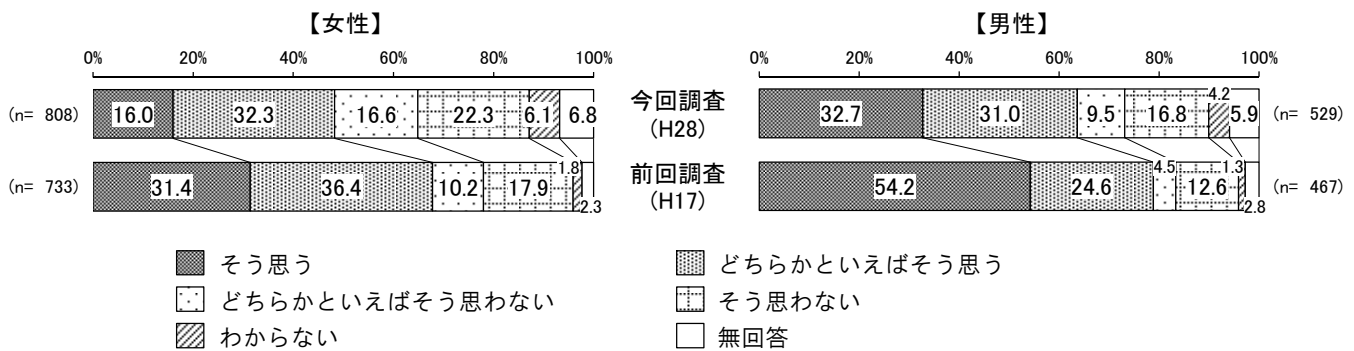


年代別にみると、女性では、20～40歳代は『肯定派』より『否定派』、50歳以上の年代層では『否定派』より『肯定派』の割合の方が高くなっている。

男性は、いずれの年代層でも『肯定派』が50%以上となっており、また60歳代と70歳以上では「そう思う」がそれぞれ35.4%、40.1%となっている。

図 性別「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がよい」という考え方について

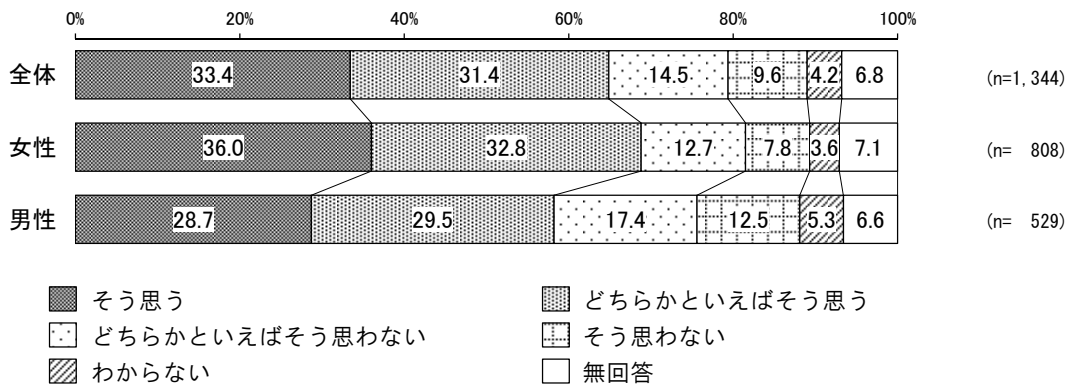
(前回調査との比較)



前回調査と比較すると、『肯定派』は、前回調査では女性67.8%、男性78.8%、今回調査では女性48.3%、男性63.7%と、今回調査で低くなっており、今回調査は『否定派』(女性38.9%、男性26.3%)が、前回調査(女性28.1%、男性17.1%)より高くなっている。

■⑤子どもの世話の大部分は男性でも女性でもできる

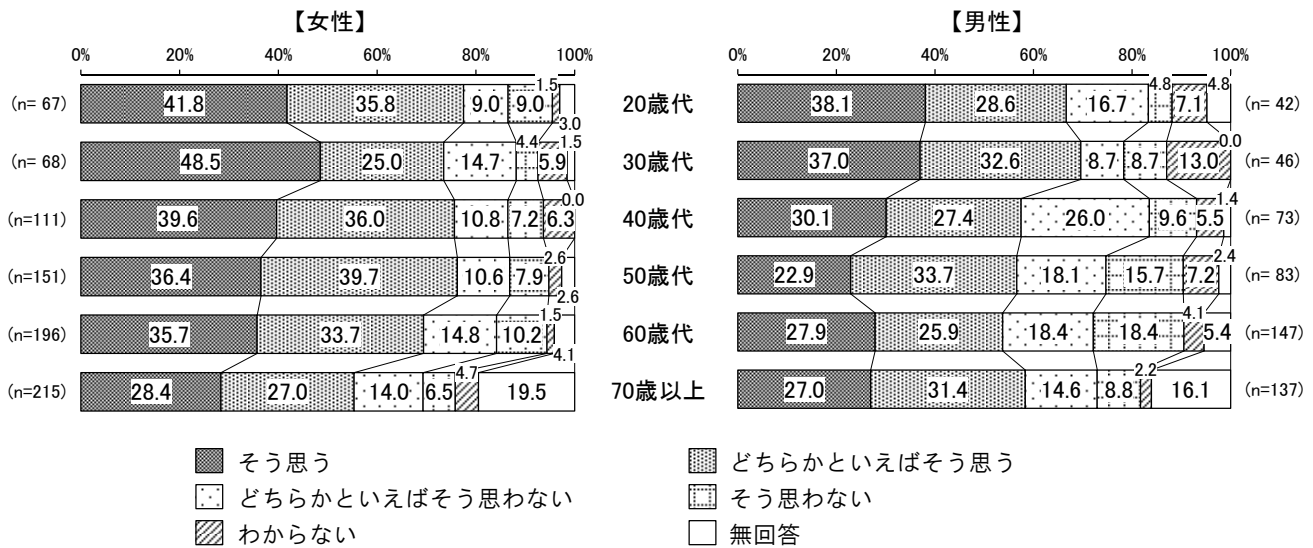
図 性別 「子どもの世話の大部分は男性でも女性でもできる」という考え方について



□「子どもの世話の大部分は男性でも女性でもできる」という考え方に女性の約70%、男性の約60%が賛成

『肯定派』（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計）は、女性68.8%、男性58.2%で女性の方が10.6ポイント高く、『否定派』（「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の合計）は、女性20.5%、男性29.9%で男性の方が9.4ポイント高い。男女の意識の違いが比較的大きい。

図 性別・年代別 「子どもの世話の大部分は男性でも女性でもできる」という考え方について

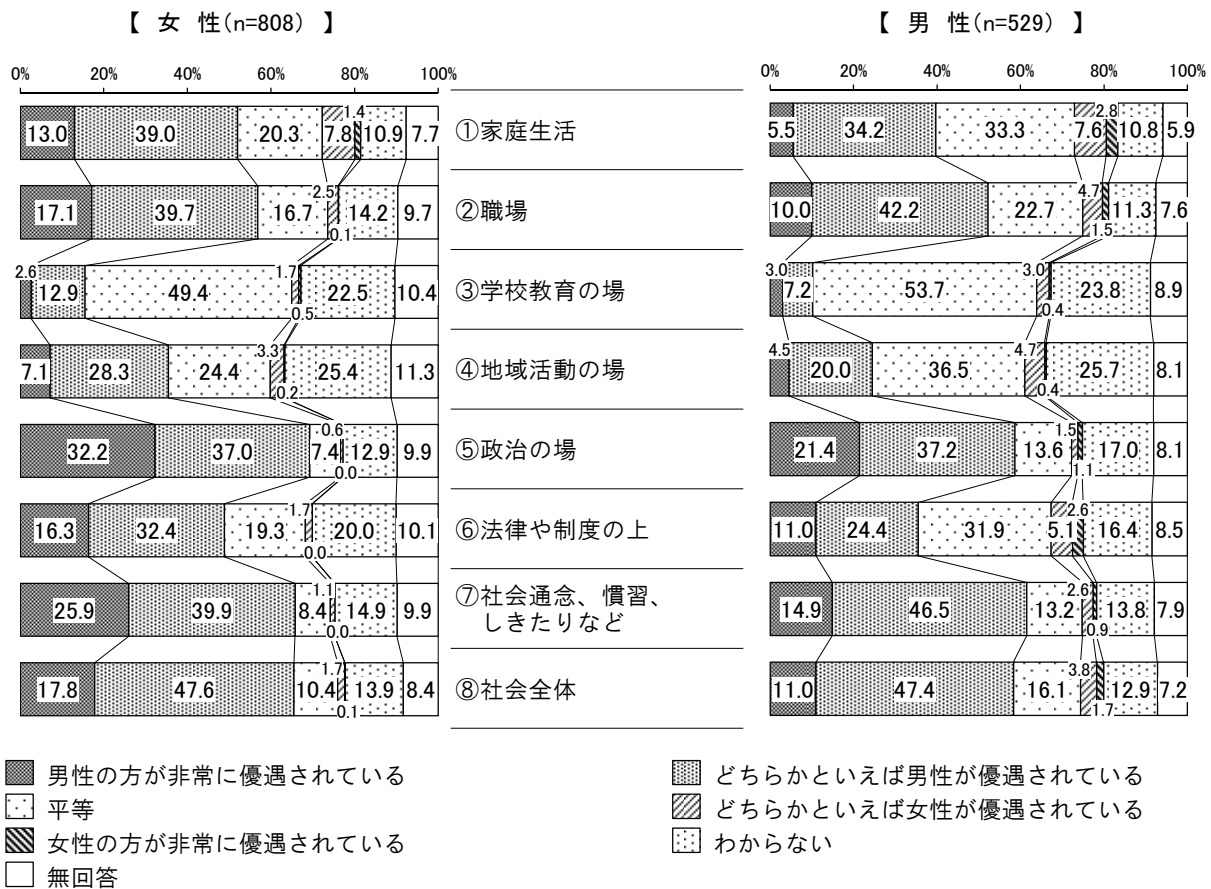


年代別にみると、20・30歳代は性別による回答傾向の違いは比較的小さいが、40～60歳代は『肯定派』の割合が女性で約70%に対して、男性では50%台となっており、男女の意識の違いが大きくなっている。

## 2. 男女の地位の平等感

問30 あなたは、次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。(〇はそれぞれ1つ)

図 性別 男女の地位の平等感



### □ほとんどの分野で『男性優遇』の割合が高い

①から⑦の各分野でみた場合、女性では『男性優遇』(「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計)の割合が高い分野は、⑤政治の場(69.2%)、⑦社会通念、慣習、しきたりなど(65.8%)、②職場(56.8%)、①家庭生活(52.0%)の順で、いずれも『男性優遇』が50%を超えている。

男性では、⑦社会通念、慣習、しきたりなど(61.4%)、⑤政治の場(58.6%)、②職場(52.2%)、①家庭生活(39.7%)の順で、1位と2位が女性と入れ替わっている。

「平等」の割合が高い分野をみると、女性は『男性優遇』よりも「平等」の方が高い分野は③学校教育の場のみであるが、男性は③学校教育の場と④地域活動の場の2分野が挙げられる。

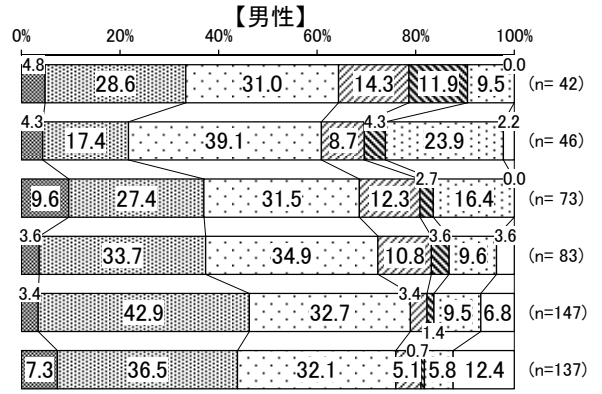
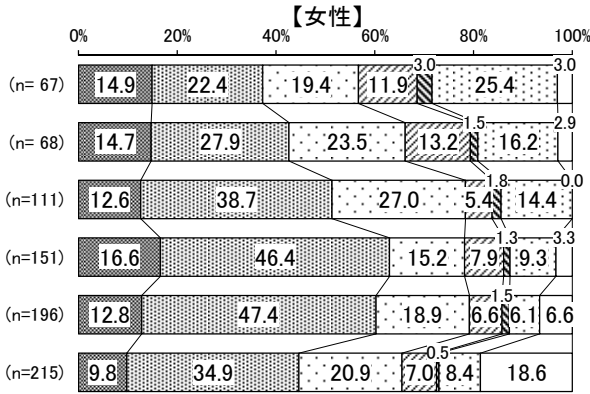
男女ともにほとんどの分野で『男性優遇』の回答が高いものの、その割合はいずれも男性よりも女性の方が高い。「平等」の回答は、その逆でいずれの分野も男性の方が割合が高くなっている。

男女で平等感の意識差が大きい分野として、『男性優遇』のポイント差をみると、①家庭生活(『男性優遇』が12.3ポイント差)、④地域活動の場(10.9ポイント差)、⑤政治の場(10.6ポイント差)、⑥法律や制度の上(13.3ポイント差)が挙げられる。

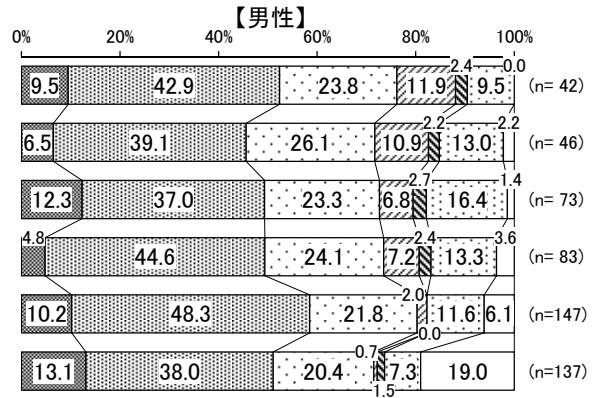
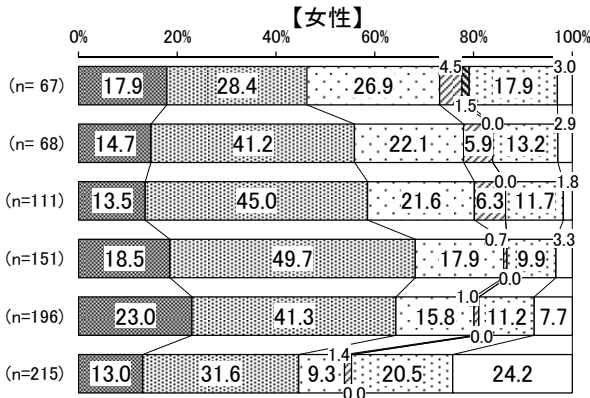
①から⑦の分野の総体として、⑧社会全体でみたときには、『男性優遇』が女性は65.4%、男性は58.4%となっており「平等」は男女とも10%台である。

図 性別・年代別 男女の地位の平等感

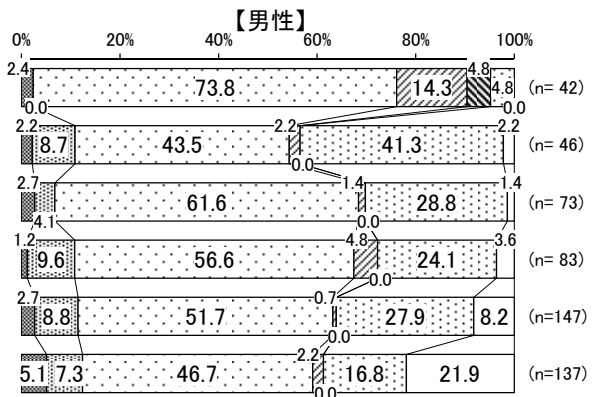
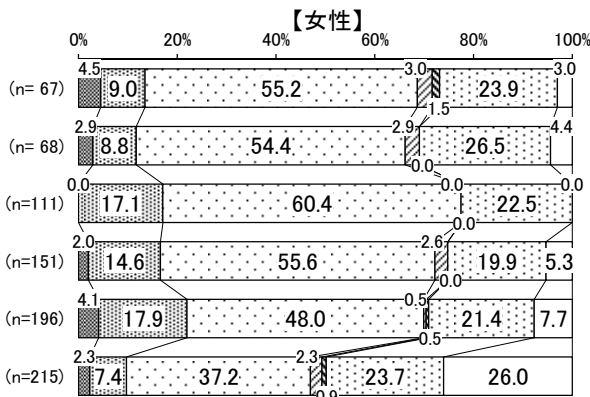
①家庭生活



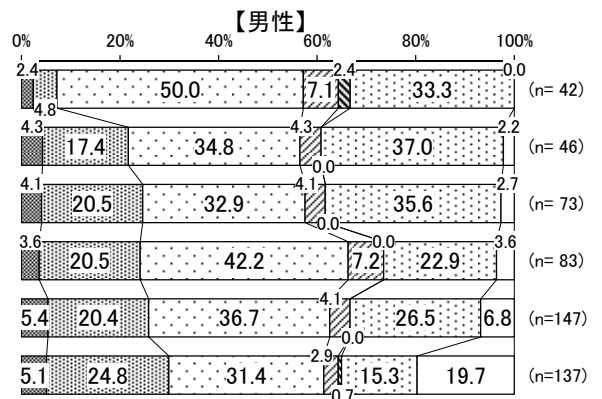
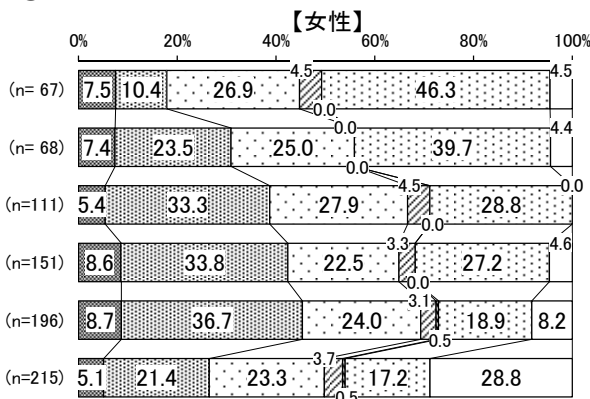
②職場



③学校教育の場



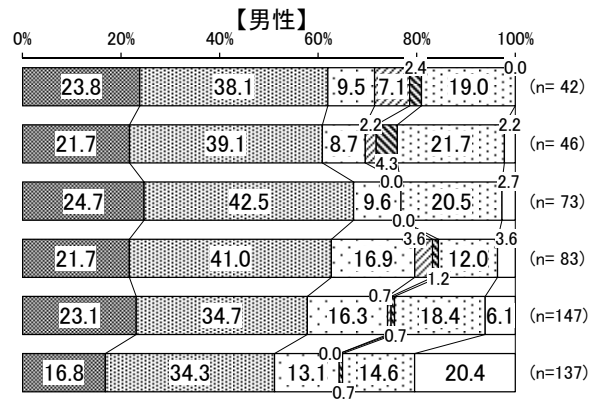
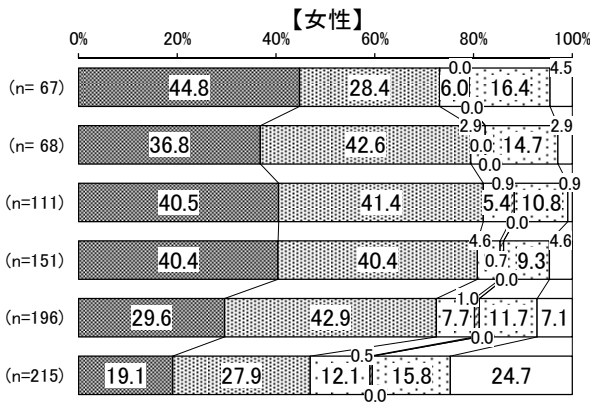
④地域活動の場



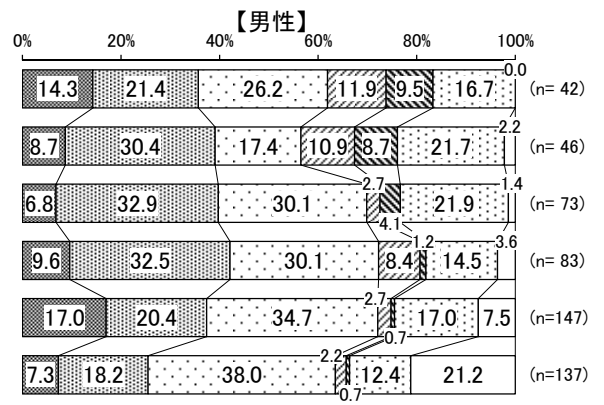
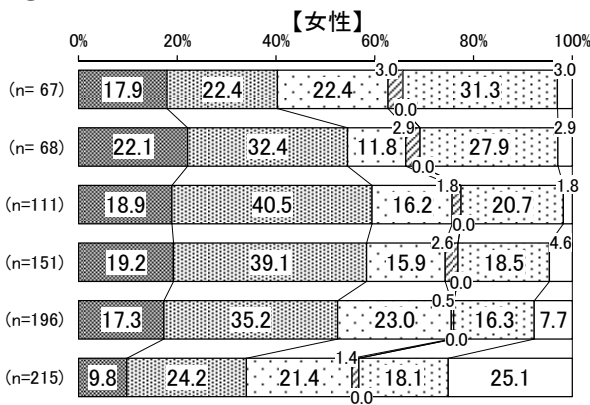
男性の方が非常に優遇されている  
 平等  
 女性の方が非常に優遇されている  
 無回答

どちらかといえば男性が優遇されている  
 どちらかといえば女性が優遇されている  
 わからない

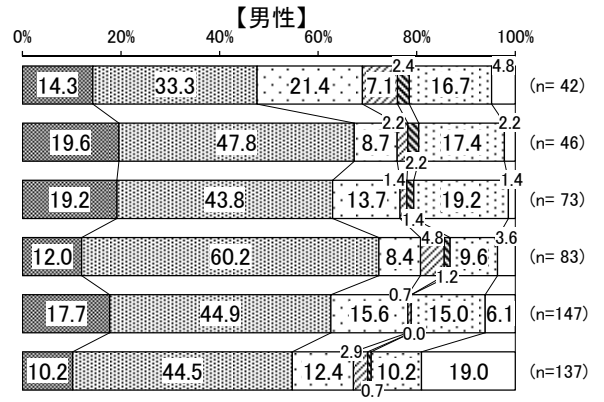
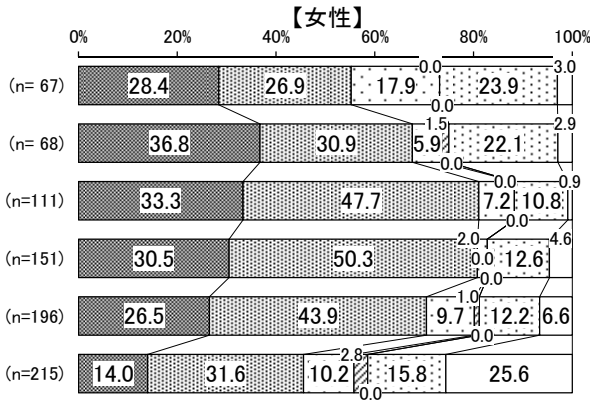
⑤政治の場



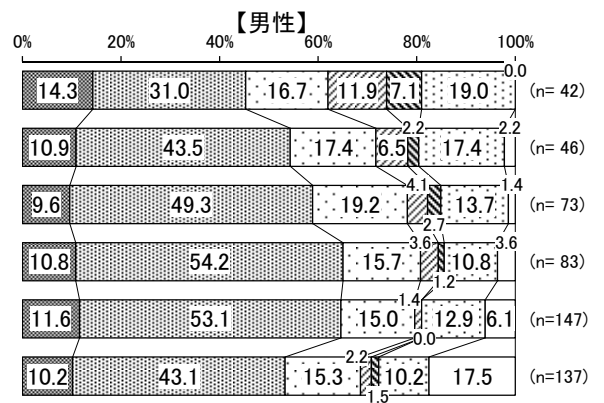
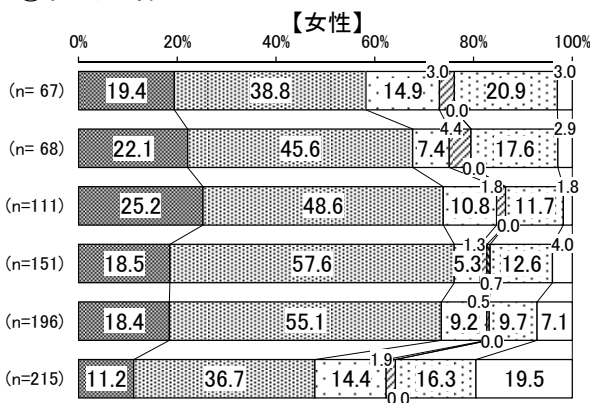
⑥法律や制度の上



⑦社会通念、慣習、しきたりなど



⑧社会全体



■ 男性の方が非常に優遇されている  
 □ 平等  
 ▨ 女性の方が非常に優遇されている  
 □ 無回答

▨ どちらかといえば男性が優遇されている  
 ▩ どちらかといえば女性が優遇されている  
 □ わからない

### ①家庭生活

女性では、50歳代と60歳代で『男性優遇』の割合が高く60%を超えている。

男性では、60歳代と70歳以上で『男性優遇』が40%を超えている。男性の30歳代は、『男性優遇』が21.7%と比較的低く、「平等」が39.1%を占めている。

### ②職場

女性では、『男性優遇』が50歳代で68.2%、60歳代で64.3%、40歳代で58.5%と高くなっている。「平等」は年代が下がるほど割合が高くなっており、20歳代では男性よりも女性の方が「平等」の割合が高い。

### ③学校教育の場

いずれの年代層でも「平等」の割合が最も高くなっており、特に20歳代の男性では「平等」が73.8%を占めている。

### ④地域活動の場

20・30歳代の女性と、20～40歳代の男性では、「わからない」の割合が30%を超えており、20歳代の男女は『男性優遇』の割合が他の年代層よりも低くなっている。

### ⑤政治の場

女性では、30～50歳代では『男性優遇』が約80%と高くなっている。また、女性の20歳代では「男性の方が非常に優遇されている」が44.8%と高くなっている。

### ⑥法律や制度の上

女性では40・50歳代では『男性優遇』が約60%となっている。

男性では、40歳以上の年代層では「平等」が30%を超えている。

### ⑦社会通念、慣習、しきたりなど

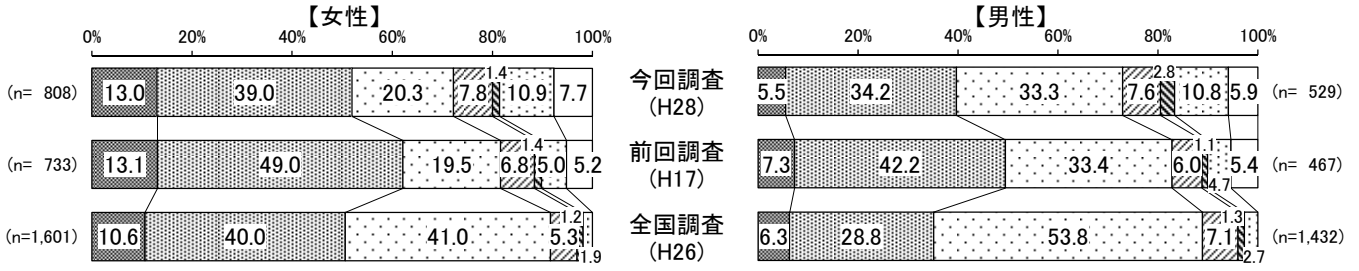
女性では40歳代と50歳代で『男性優遇』が約80%と高くなっている。男性では50歳代で『男性優遇』が72.2%となっている。20歳代の男女は「平等」の割合が他の年代層よりもやや高く約20%となっている。

### ⑧社会全体

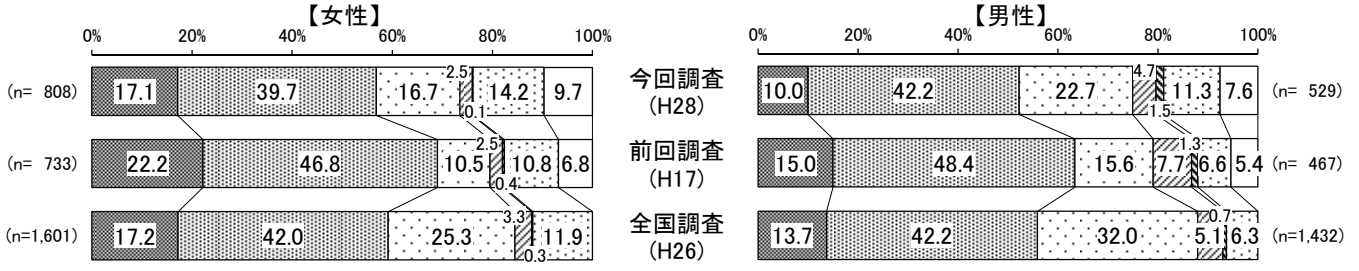
20～50歳代では男女ともに年代が上がるにつれて『男性優遇』の割合が高くなっており、50歳代では『男性優遇』が女性76.1%、男性65.0%となっている。

図 性別 男女の地位の平等感(前回調査、全国調査との比較)

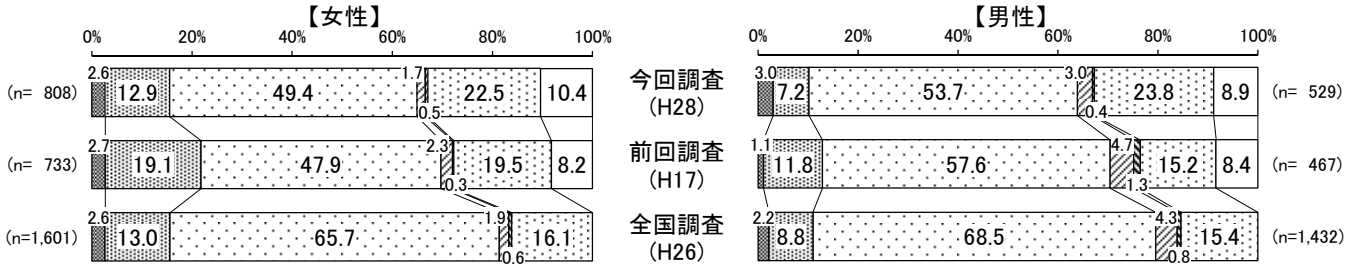
①家庭生活



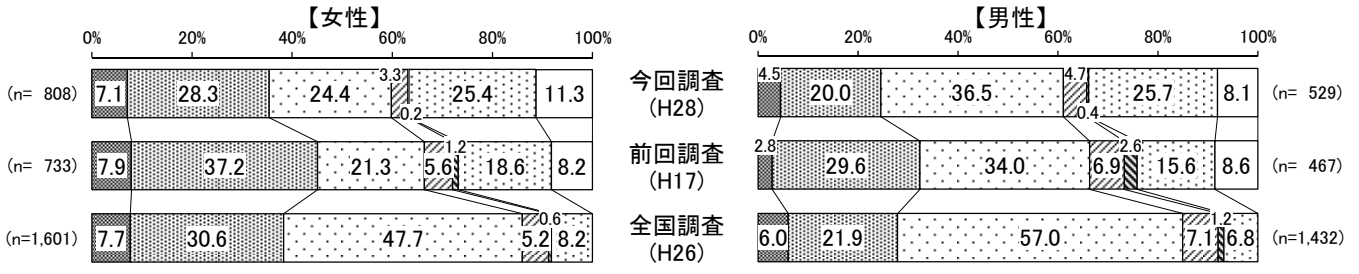
②職場



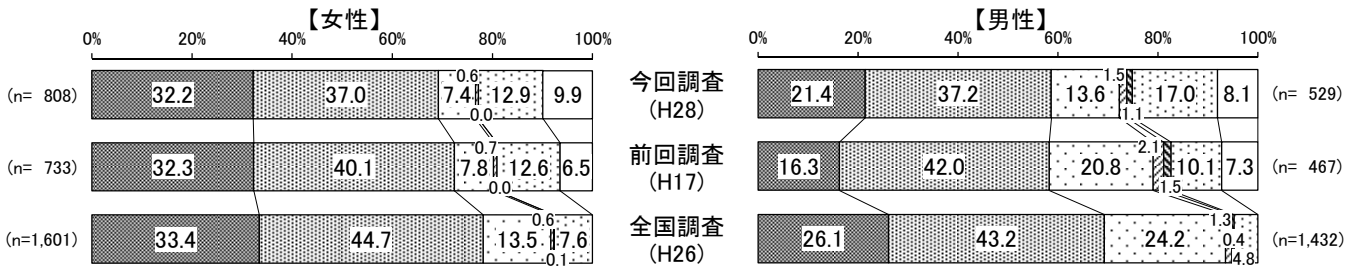
③学校教育の場



④地域活動の場<sup>注1</sup>



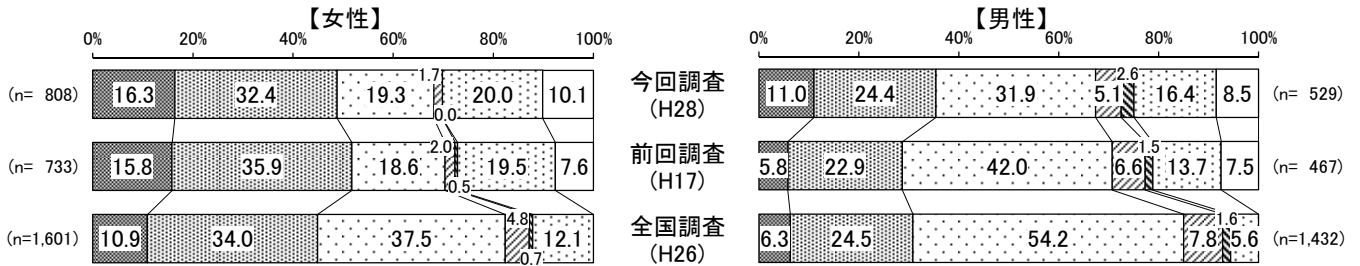
⑤政治の場



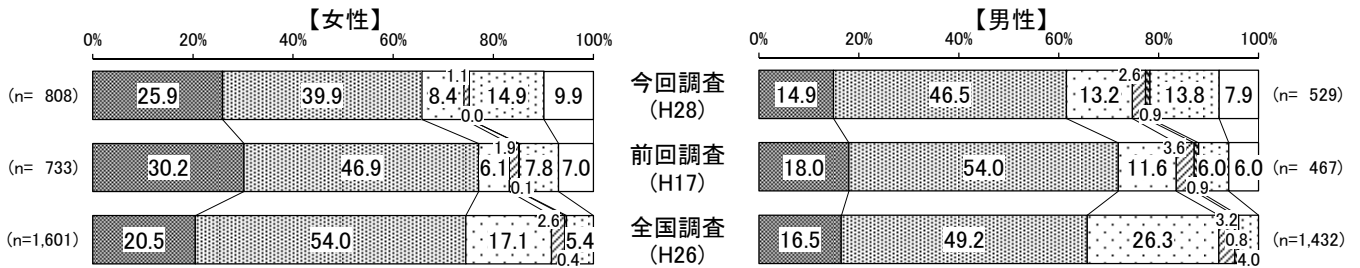
- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性が優遇されている
- 平等
- ▨ どちらかといえば女性が優遇されている
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている
- 無回答
- わからない

注1) 全国調査では「自治会やNPOなどの地域活動の場」

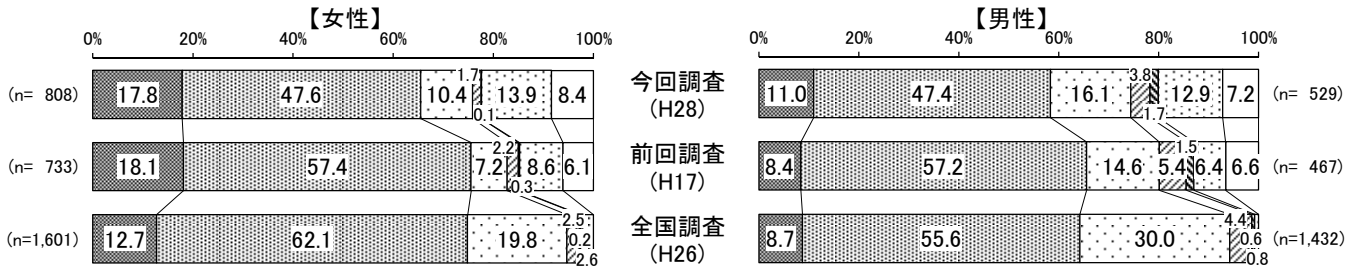
## ⑥法律や制度の上



## ⑦社会通念、慣習、しきたりなど



## ⑧社会全体



男性の方が非常に優遇されている  
 どちらかといえば男性が優遇されている  
 平等  
 どちらかといえば女性が優遇されている  
 女性の方が非常に優遇されている  
 無回答

どちらかといえば男性が優遇されている  
 どちらかといえば女性が優遇されている  
 わからない

前回調査(平成17年)と比較すると、女性では、①家庭生活、②職場、③学校教育の場、④地域活動の場、⑦社会通念、慣習、しきたりなどの各分野と⑧社会全体は、前回調査よりも『男性優遇』の割合が低くなっており、「平等」割合がやや高くなっている。⑤政治の場、⑥法律や制度の上でも前回調査より『男性優遇』の割合が低くなっているが、その違いは小さく、「平等」の割合に大きな違いはみられない。

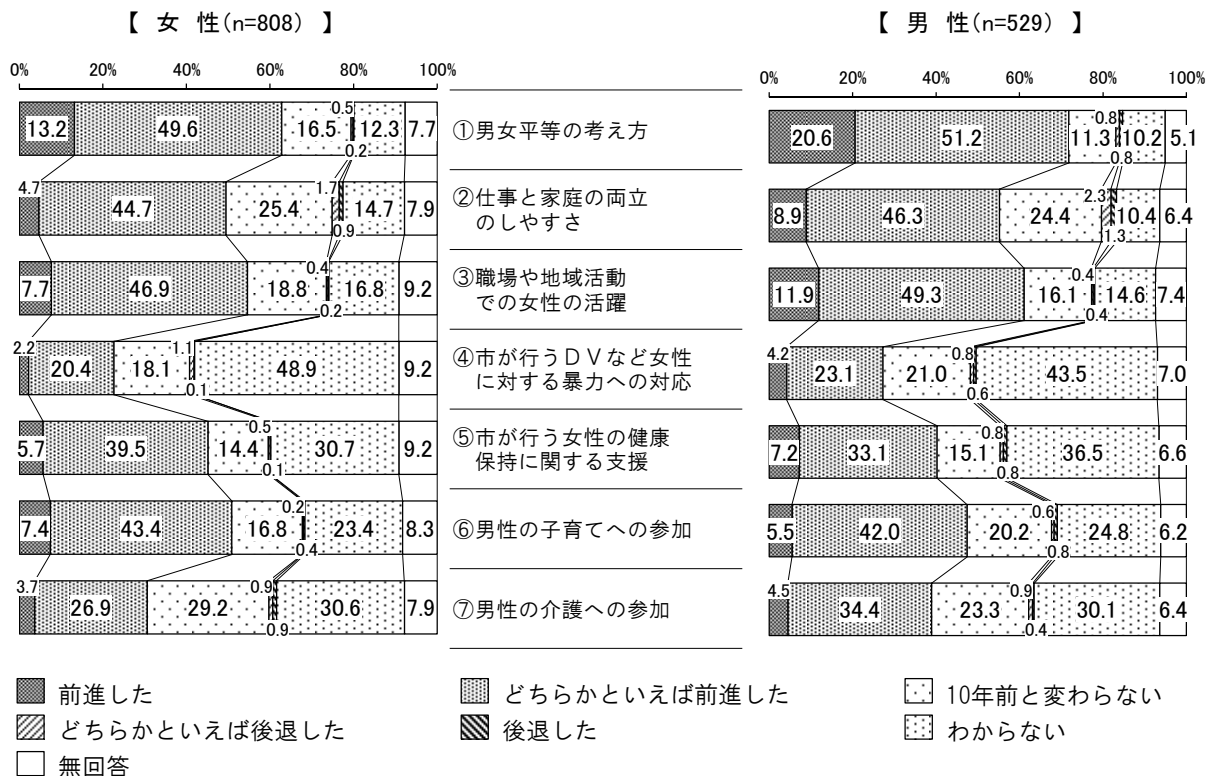
男性では、前回調査よりも①家庭生活、②職場、④地域活動の場、⑦社会通念、慣習、しきたりなど、⑧社会全体で、『男性優遇』が低くなっている。一方、⑤政治の場、⑥法律や制度の上では、前回調査よりも「平等」が低く『男性優遇』の割合が高くなっている。

全国調査(平成26年)と比較すると、男女ともにすべての項目において今回調査は全国調査より「平等」の割合が低く、特に①家庭生活、③学校教育の場、④地域活動の場(全国調査では「自治会やNPOなどの地域活動の場」)、⑥法律や制度の上で、違いが大きくなっている。

### 3. 10年間の男女共同参画に関する状況の進捗度

問31 あなたは、この10年間で、以下のことはどの程度進んだと思いますか。(○はそれぞれ1つ)

図 性別 10年間の男女共同参画に関する状況の進捗度



□男女平等の考え方がこの10年間で前進したと考える人は女性の62.8%、男性の71.8%

この10年間の男女共同参画の進展の評価については、男女ともすべての項目で『前進』(「前進した」と「どちらかといえば前進した」の合計)の割合が、「10年前と変わらない」を上回っている。

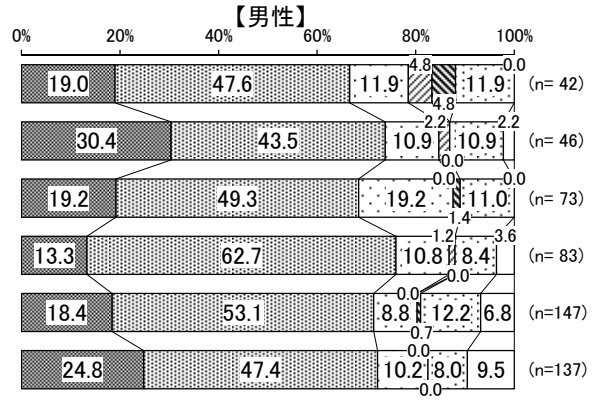
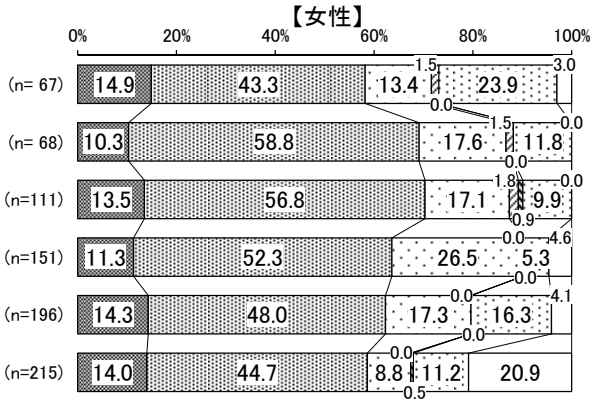
女性では『前進』(「前進した」と「どちらかといえば前進した」の合計)の割合が高い項目は、①男女平等の考え方(62.8%)、③職場や地域活動での女性の活躍(54.6%)、⑥男性の子育てへの参加(50.8%)、②仕事と家庭の両立のしやすさ(49.4%)、⑤市が行う女性の健康保持に関する支援(45.2%)、⑦男性の介護への参加(30.6%)、④市が行うDVなど女性に対する暴力への対応(22.6%)となっている。

男性は『前進』(「前進した」と「どちらかといえば前進した」の合計)の高い順位は女性とほぼ同じで、①男女平等の考え方(71.8%)、③職場や地域活動での女性の活躍(61.2%)、②仕事と家庭の両立のしやすさ(55.2%)、⑥男性の子育てへの参加(47.5%)、⑤市が行う女性の健康保持に関する支援(40.3%)、⑦男性の介護への参加(38.9%)、④市が行うDVなど女性に対する暴力への対応(27.3%)となっている。

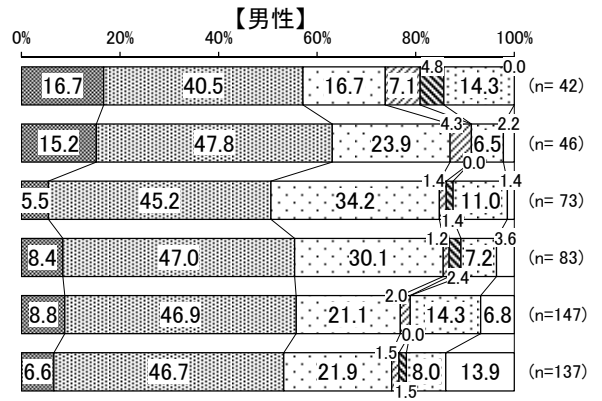
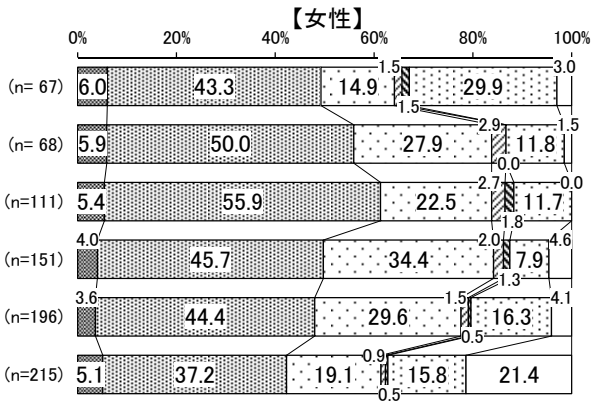
『前進』の割合は、⑤市が行う女性の健康保持に関する支援と⑥男性の子育てへの参加のみ女性の方が高いが、そのほかの項目はいずれも男性の方が高くなっている。

図 性別・年代別 10年間の男女共同参画に関する状況の進捗度

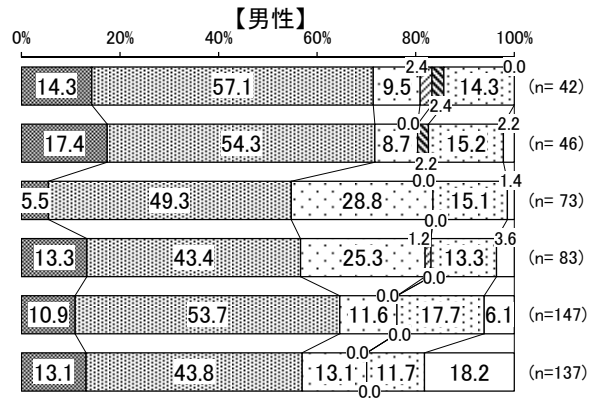
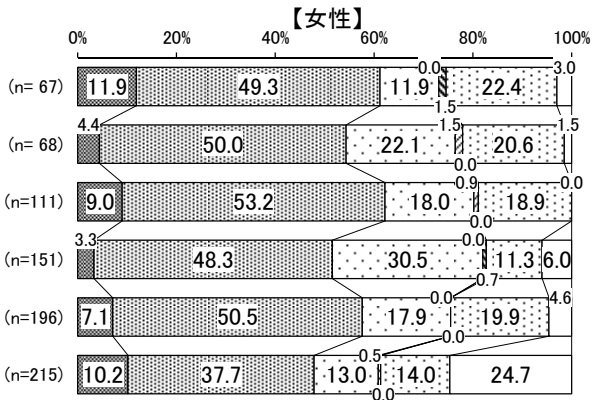
①男女平等の考え方



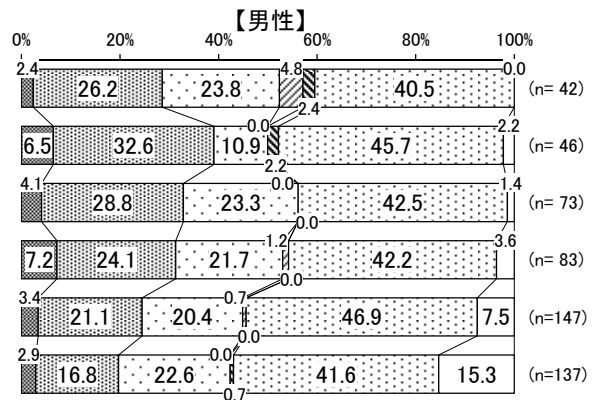
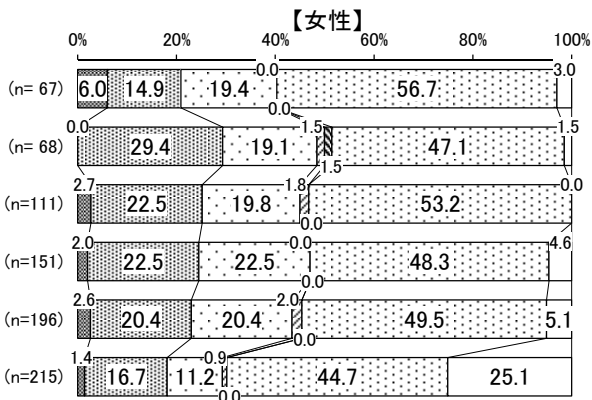
②仕事と家庭の両立のしやすさ



③職場や地域活動での女性の活躍

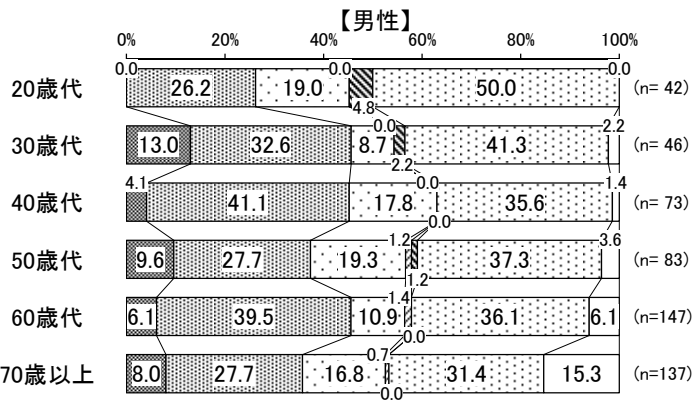
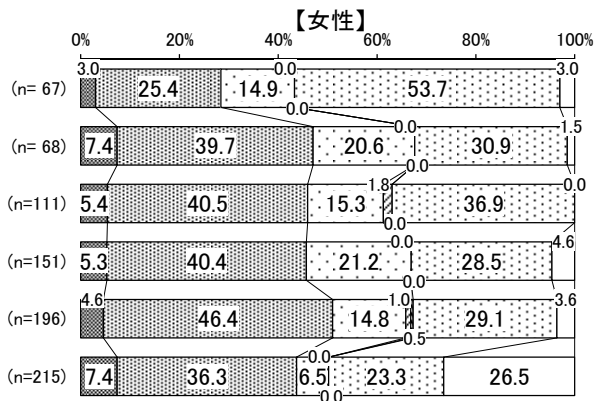


④市が行うDVなど女性に対する暴力への対応

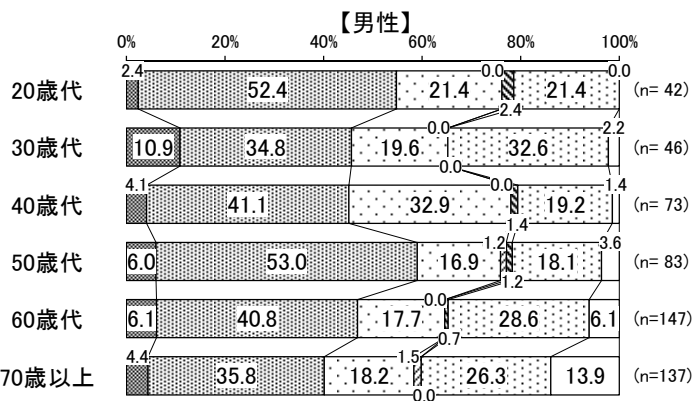
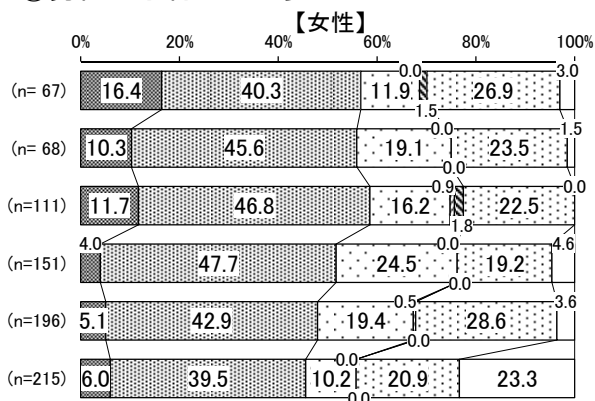


前進した
  どちらかといえば前進した
  10年前と変わらない
  どちらかといえば後退した
  後退した
  わからない
  無回答

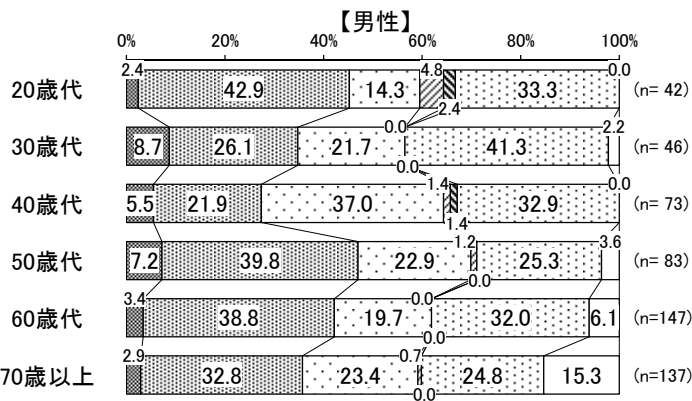
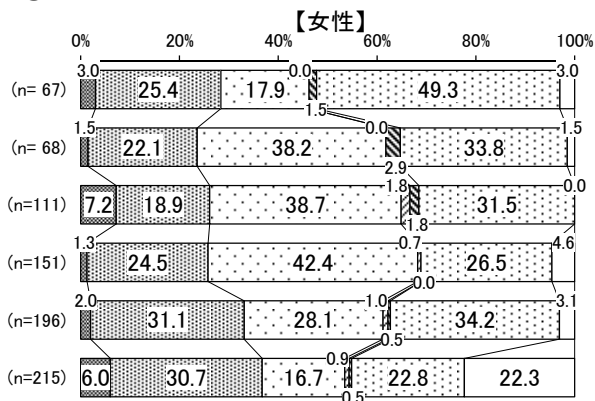
### ⑤市が行う女性の健康保持に関する支援



### ⑥男性の子育てへの参加



### ⑦男性の介護への参加



- 前進した
- どちらかといえば前進した
- 10年前と変わらない
- ▨ どちらかといえば後退した
- ▩ 後退した
- わからない
- 無回答

### ①男女平等の考え方

いずれの年代層でも『前進』の割合が高くなっているが、女性の50歳代では「10年前と変わらない」が26.5%とやや高くなっている。

### ②仕事と家庭の両立のしやすさ

女性では40歳代(61.3%)、男性では30歳代(63.0%)が全年代中で最も『前進』の割合が高くなっている。

### ③職場や地域活動での女性の活躍

男性では、20・30歳代では『前進』が70%以上となっているが、40・50歳代は「10年前と変わらない」が20%台となっており、20・30歳代と比べて『前進』の割合が低くなっている。

### ④市が行うDVなど女性に対する暴力への対応

『前進』の割合は30歳代で女性29.4%・男性39.1%となっている。いずれの年代層でも「わからない」の割合が高いが、特に20歳代の女性で高くなっている。

### ⑤市が行う女性の健康保持に関する支援

20歳代の男女では、他の年代層よりも「わからない」の割合が高く、『前進』が少なくなっている。

### ⑥男性の子育てへの参加

女性では20～50歳代、男性では20歳代と50歳代で『前進』が50%を超えている。

### ⑦男性の介護への参加

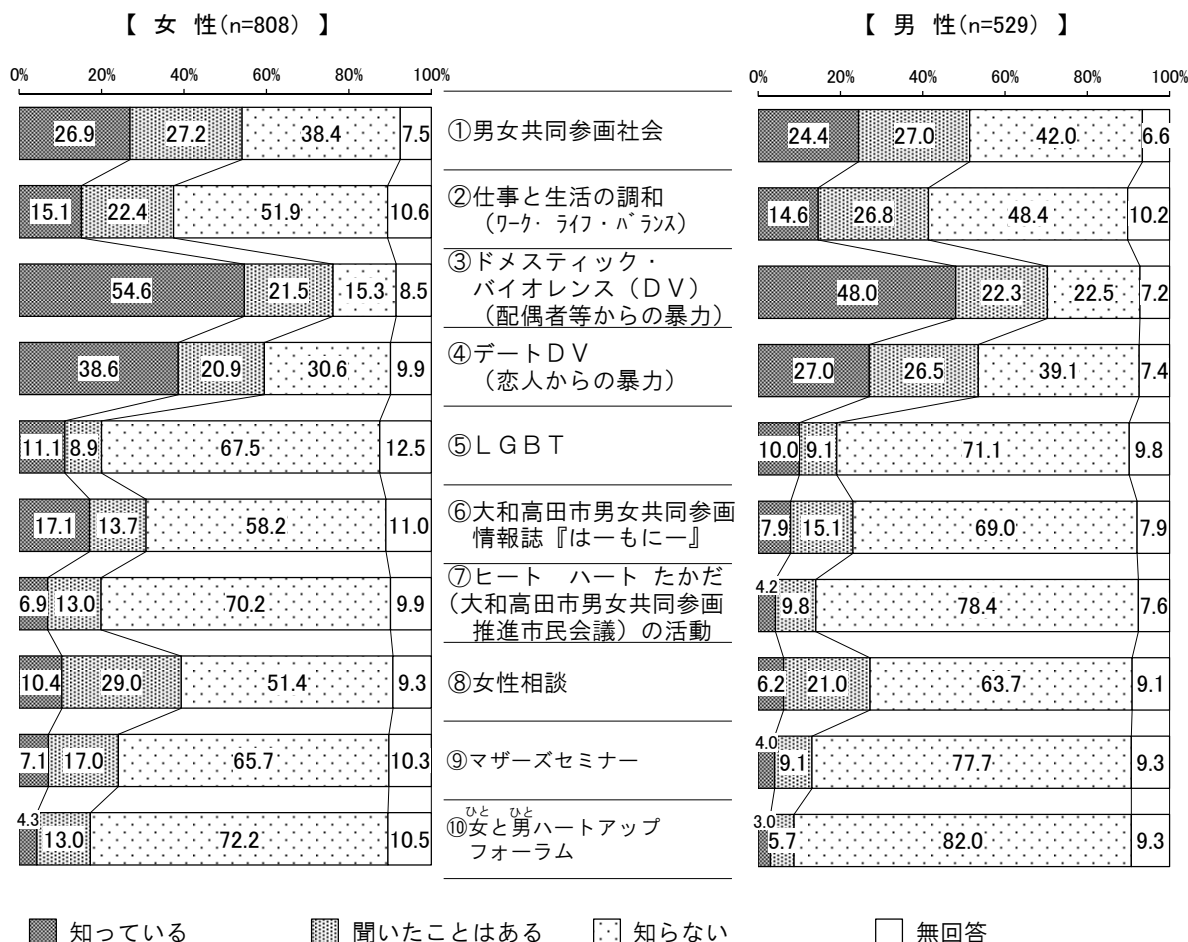
女性の30～50歳代と、男性の40歳代では『前進』よりも「10年前と変わらない」の割合が高くなっている。

#### 4. 男女共同参画に関する用語・施策の認知度

問32 大和高田市では、女性も男性もいきいきと暮らせる社会（＝男女共同参画社会）を実現するために様々な取組を行っています。あなたは、以下の言葉や大和高田市の取組についてのどの程度ご存知ですか。項目ごとにあてはまる番号に○をつけてください。（○はA、Bそれぞれ1つ）

#### ■用語・施策の認知度

図 性別 男女共同参画に関する用語・施策の認知度



#### □大和高田市の取組について知らない人が多い

男女共同参画に関する用語や施策の認知度では、認知率（「知っている」と「聞いたことはある」の合計）の高い項目は、女性は③ドメスティック・バイオレンス（DV）（配偶者等からの暴力）（76.1%）、④デートDV（恋人からの暴力）（59.5%）、①男女共同参画社会（54.1%）、⑧女性相談（39.4%）、②仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）（37.5%）となっている。

男性は③ドメスティック・バイオレンス（DV）（配偶者等からの暴力）（70.3%）、④デートDV（恋人からの暴力）（53.5%）、①男女共同参画社会（51.4%）、②仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）（41.4%）、⑧女性相談（27.2%）で、一部順位が異なるが上位5項目は同じ項目である。

男女で認知率に差がある項目としては、⑧女性相談（認知率のポイント差12.2ポイント）、⑨マザーズセミナー（認知率のポイント差11.0ポイント）が挙げられる。また、②仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）以外の項目はすべて女性の方が認知率が高い。

表 性別・年代別 男女共同参画に関する用語・施策の認知度

－ 「知っている」と「聞いたことはある」を合計した割合

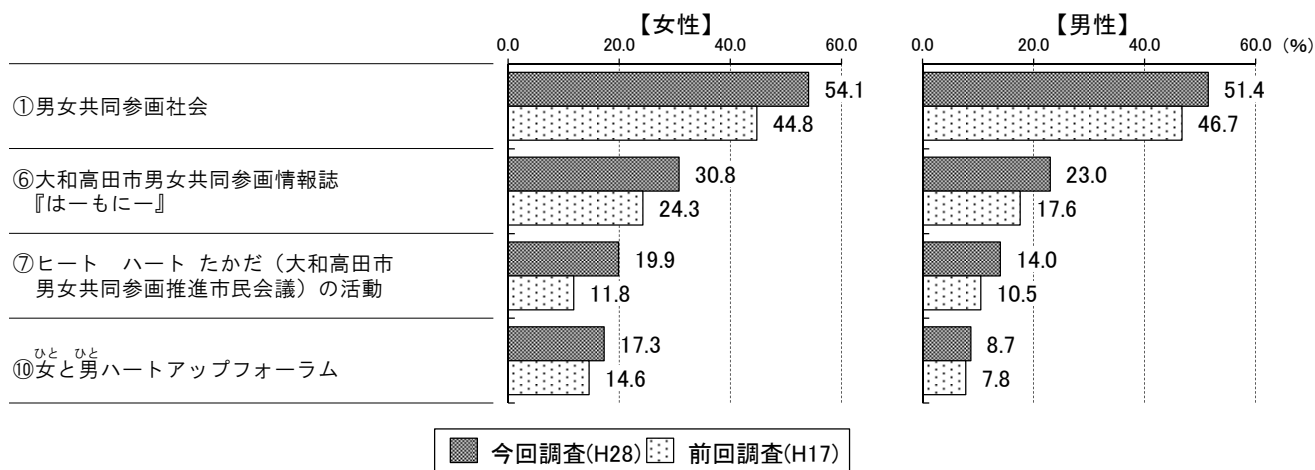
	対象者数 (n)	言葉					大和高田市の取組				
		① 男女共同参画社会	② 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)	③ ドメスティック・バイオレンス(DV)(配偶者等からの暴力)	④ デートDV(恋人からの暴力)	⑤ LGBT	⑥ 大和高田市男女共同参画情報誌『はーもにー』	⑦ ヒート ハート たかだ(大和高田市男女共同参画推進市民会議)の活動	⑧ 女性相談	⑨ マザーズセミナー	⑩ ひとひと女と男ハートアップフォーラム
全体	1,344	53.0	39.1	73.8	57.1	19.7	27.7	17.6	34.6	19.7	13.9
女性	20歳代	71.7	55.2	88.0	70.1	31.4	10.5	4.5	25.4	19.4	6.0
	30歳代	51.5	42.7	89.7	70.6	36.7	19.1	16.2	38.2	41.2	19.1
	40歳代	51.3	32.4	83.8	68.5	24.3	39.6	19.8	47.7	38.7	25.2
	50歳代	59.7	33.1	84.8	71.6	27.1	50.3	27.1	47.7	32.4	26.5
	60歳代	52.6	42.8	79.1	60.7	13.2	30.1	21.4	35.2	16.9	13.8
	70歳以上	48.4	31.1	55.4	38.6	10.2	23.3	19.5	37.7	13.0	13.0
	男性	20歳代	66.6	59.5	78.6	64.3	23.8	11.9	4.8	14.3	9.5
30歳代		43.4	52.2	84.7	54.3	26.0	13.0	8.7	23.9	13.0	10.8
40歳代		42.5	38.4	78.0	56.1	21.9	19.2	17.8	26.0	11.0	4.1
50歳代		49.4	42.2	74.7	62.7	27.7	31.3	13.2	25.3	15.6	13.2
60歳代		54.5	36.8	72.8	57.1	13.6	28.6	14.9	29.3	12.2	7.5
70歳以上		51.9	38.0	53.3	38.6	13.9	20.4	15.3	31.4	13.9	9.4

注)濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

年代別にみると、女性の20・30歳代は、男女共同参画に関する言葉(①～⑤)の認知度は40歳以上の年代層と比べて高い傾向にあるが、大和高田市の取組(⑥～⑩)については、⑨マザーズセミナーを除いて、40・50歳代よりも認知度が低くなっている。

表 性別 男女共同参画に関する用語・施策の認知度(前回調査との比較)

－ 「知っている」と「聞いたことはある」を合計した割合

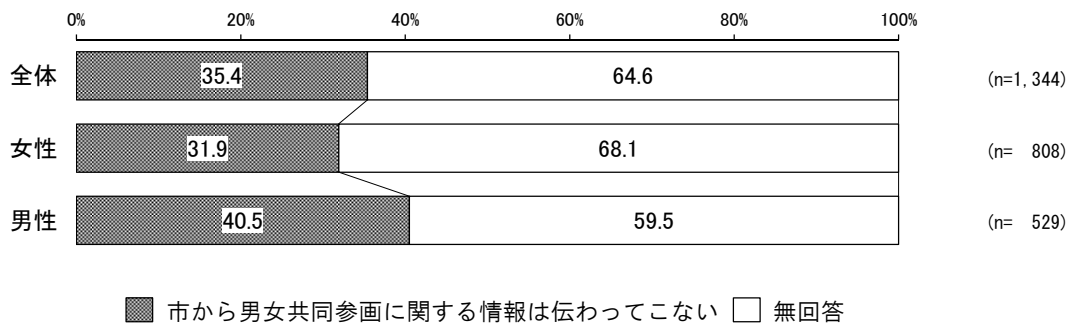


注)前回調査の選択肢は、「内容を知っている」と「名称は知っている」

前回調査(平成17年)と「知っている」と「聞いたことはある」を合計した割合を比較すると、①男女共同参画社会、⑥大和高田市男女共同参画情報誌『はーもにー』、⑦ヒート ハート たかだ(大和高田市男女共同参画推進市民会議)の活動、⑩ひとひと女と男ハートアップフォーラムのいずれも今回調査の認知度が男女ともに高くなっている。

■男女共同参画に関する情報が伝わっているか

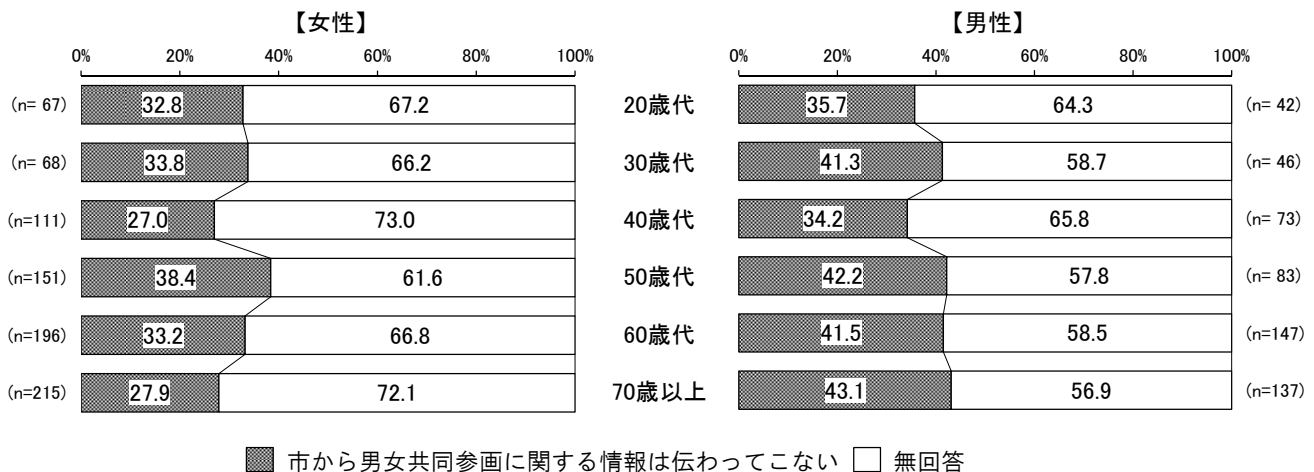
図 性別 男女共同参画に関する情報が伝わっているか



□男性の約40%、女性の約30%は「市から男女共同参画に関する情報が伝わってこない」

男性の40.5%、女性の31.9%は、「市から男女共同参画に関する情報が伝わってこない」と回答している。

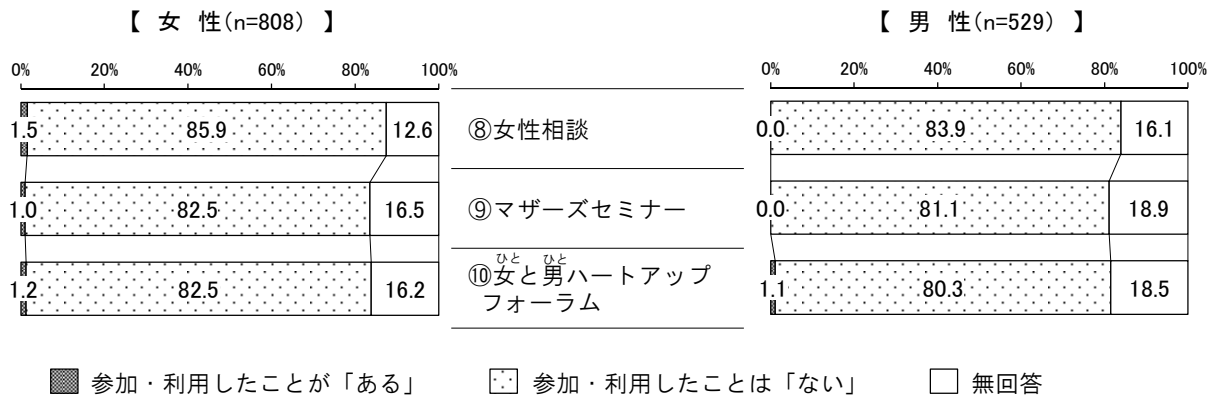
図 性別・年代別 男女共同参画に関する情報が伝わっているか



年代別にみると、女性の50歳代と、男性の30・50・60歳代と70歳以上で、「市から男女共同参画に関する情報が伝わってこない」が約40%となっている。

■施策の参加・利用状況

図 性別 男女共同参画に関する施策の参加・利用状況



本調査回答者の市の施策の参加・利用状況は、⑧女性相談は女性1.5% (12人)、⑨マザーズセミナーは女性1.0% (8人)、⑩女と男ハートアップフォーラムは女性1.2% (10人)、男性1.1% (6人)である。

表 性別・年代別 男女共同参画に関する用語・施策の認知度 - 「参加・利用したことが『ある』」の割合

	対象者数 (n)	⑧ 女性 相談	⑨ マ ザ ー ズ セ ミ ナ ー	⑩ 女 と 男 ハ ー ト ア ッ プ フ ォ ー ラ ム
全体	1,344	0.9	0.6	1.2
女性	20歳代	-	1.5	-
	30歳代	-	1.5	-
	40歳代	3.6	3.6	0.9
	50歳代	2.0	0.7	1.3
	60歳代	-	0.5	0.5
	70歳以上	2.3	-	2.8
	男性	20歳代	-	-
30歳代		-	-	-
40歳代		-	-	-
50歳代		-	-	1.2
60歳代		-	-	2.7
70歳以上		-	-	0.7

年代別にみると、女性の40歳代は「女性相談」と「マザーズセミナー」がそれぞれ3.6%となっている。

## 自由意見のまとめ

男女共同参画に関する意見や感想を自由記述形式で求めたところ、191人(女性115人、男性73人、女性・男性と答えることに抵抗を感じる2人、性別無回答1人)から、208件の回答が寄せられた。以下では、類似した意見を整理・分類したうえで代表的な意見を抜粋したものを掲載している。掲載した内容は原則として原文のまま掲載しているが、明らかな誤字等は修正している。

### 男女共同参画の推進について

8 件 (女性 2 件、男性 5 件、性別無回答 1 件)

- ・ 女性も男性もいきいきと暮らせる社会を目指している男女共同参画には私も賛同致します。このアンケートを記入しながら、与謝野晶子の詩を思い出しました。「山の動く日」、その最後に「すべて眠りし女、今ぞ目覚めて動くなる。」そういう時代がやっと来たのか…と、明るい気持ちになりました。(女性・60 歳代)
- ・ 女性参画社会の問題、徐々であるが進んでいるように思います。女性の防衛大臣、小池ゆりこ都知事、滋賀県知事、大津市長、北海道知事、男女共同参画についてこれは絶対必要と考えます。(男性・70 歳以上)

### 個人の尊重について

9 件 (女性 5 件、男性 4 件)

- ・ 調査の質問に答えているうちに、「男女は平等」という自分の考えの中に根強く残る「男らしく、女らしく」という考えがあることに気づかされました。これは私が生まれてから今までの教育や、まわりの人たちからの影響があると思います。「男らしく、女らしく」ではなく、「その人らしく」生きることのできる社会を目指せたらいいなと思います。(女性・40 歳代)
- ・ 男と女はそもそも身体の機能、精神的な在り方について異なる存在と考える。それぞれの特徴から役割に差が生まれ、社会通念に至るまでの性差が生じている。性的マイノリティを含め、性格的な個人差、「個人」を理解していくことで男女平等、男女共同参画社会が実現していくと思う。多様性を認め、受け容れていくことが市に求められていることだと考える。(男性・40 歳代)

### 男女の役割について

12 件 (女性 6 件、男性 6 件)

- ・ 最近女性の社会進出が増えているのは良いことですが、それによって結婚しない女性や、結婚しても子供を産まないことが増えています。それで少子化になるのは当然のことですが…。「女は子どもを産むためにいてるのではない」という女性がいますが、そんなひねくれた考え方ではなく、「女性にしか子供を産めない」と、もっと女性として生まれたことに誇りを持ってほしいと思う。私は今年、出産したばかりですが、どんな大変な仕事やえらい仕事よりも、多くのことが得られます。この先の人生でこれ以上(出産すること)豊かになることはないと思う。(女性・20 歳代)
- ・ 男女平等は言葉にすぎないと思います。身体的に男女が異なるように、体力面をはじめ、色々と違いがあるのは当然です。それを男女が互いに認め、男は男、女は女の、又、それぞれにしか出来ない事をやり男女が役割分担する事が自然ではないでしょうか。決断力が必要な事は外で働く男が得意でしょうし、細やかな気配りや優しい柔らかな物腰は男は女にかないません。互いを主張しすぎず、互いを思いやる心が前提ではないかと思います。(男性・60 歳代)

## 意識づくりについて

11 件（女性 6 件、男性 5 件）

- ・ 私達の時代は、男女平等など言葉だけと感じていましたが、子供年代は、男女の格差は縮まってきていると感じています。教育の場でもそのような方向に導いてくださっているとも感じています。男の子の母ですが、積極的に家事の手伝いもさせるようにしてきました。これからは行政も力を入れてくださるよう期待しています。（女性・50 歳代）
- ・ 私は 20 代ですが、男女共同参画に関する考えは共感できるし、私のまわりの友人(男性)も大半、家事を行ったり、妻が働いていたり、若い世代はだいたい考え方が浸透しているように思えます。ただ年配の方は、男は男、女は女という考えがやはりあるように思います。私の実家も親戚もやはりそのような考えです。社会で男女共同を推進するには、そのような世代に積極的に働きかける必要があると思います。（男性・20 歳代）

## 働き方について

4 件（女性 1 件、男性 3 件）

- ・ 介護保険が始まって 17-18 年位だと思いますが、結構男性の方も介護の仕事に携わっている所を見ると昔は女性の仕事を決めつけられた様に思いますが、自覚のある男性は(自分もいつかはなると思い)、頑張っている様に思われます。介護だけではなく、色々な方面でも女性の器用さ、才覚と男性の力強さを合わせれば男女共同参画は成功すると思います。（女性・60 歳代）
- ・ 国に配偶者控除の撤廃があるが、専業主婦が悪いという前提に立った考えがあるように思う。男女平等(女性は社会の進出の大変さは分るが)と専業主婦を結びつける考え方には賛成しかねる。（男性・60 歳代）

## 仕事と家庭の両立について

18 件（女性 15 件、男性 3 件）

- ・ 男女共同と言うなら小さい子を預ける環境を整えないと無理。保育園も延長時間が短かすぎるし、学童も短い。公務員と違って民間は早くて 5 時半頃終わるだけなのにそれから迎えに行くとしたら仕事をセーブしないといけない。時短もだいたい 3 歳頃までしかとれないし、今の時代に入学したての子供、低学年の子供を夕方 6 時頃に迎えに行けないとなると、一人で帰るか、留守番するしかない。どこで何が終わるか分からない。昔と違う時代に、子育て支援が全く役に立っていない。今の高田市の制度だと、フルタイム正社員、フルタイムパートにはきびしすぎるのが現状だと思う。（女性・20 歳代）
- ・ 若い母親(小さい子を持つ母親)が、働くための支援や、子育てに対する支援(保育費の援助 etc)他の市に比べて高田市は、住みづらいと思う。他の市では、幼児や幼稚園児を持つ親に年間 10 万近くの補助があるとも聞く。（女性・60 歳代）
- ・ 女性が外で働こうとしても子どもを預ける保育園の時間が短いので働く場所もかなり限られる。せめて 19 時半迄にするとかして下さい。（男性・20 歳代）

## 女性の登用等について

5 件（女性 2 件、男性 3 件）

- ・ 自分が受けてきた、育てられた環境は男女性差を意識しないところでしたが、仕事に就き社会に出ると日本人の習慣、固定概念の根強さに驚きます。まだまだ男社会です。その伝統から男性が身につけてゆける能力や知識は、女性と大きく差がつき、女性が管理職能力や技術がつけられない面が多々あります。女性は出産という期間があり、仕事から離れねばならないことは事実です。それを組織がどうとらえるか？大きな社会問題として男性が考えないかぎり進展しないと思います。（女性・30 歳代）
- ・ 女性の能力等を積極的に認め、登用していく社会構造の構築を推進することが男女共同参画社会の現実につながるのではないかと思う（男性・60 歳代）

## 男性の家事・育児・介護等への参加について

12件（女性10件、男性1件、性別無回答1件）

- ・私は看護師なので、職場での男女格差の有無はわかりません。(女性ばかりなので…)。でも、職場の看護師は残業しても遅く帰っても食事を作っています(夫がいるのに)。なぜ、男性が作ってくれないのか?疑問に思います。(女性・40歳代)
- ・息子がまだ学生の頃(高校生か大学生)将来共働きだったらあんたが家事の半分はせんなあかんのやで一、とか、私が料理をしてる手元とか味付けなど見せたりしました。母親のこんなちょっとした気持ちも大事だと思います。(女性・70歳以上)
- ・男性が育児(介護も)を行っている。または行いたいことに対して理解できる社会に早くなってほしいと思います(男性・40歳代)

## 子育て・教育について

8件（女性5件、男性3件）

- ・大和高田市内の子どもの数は年々減ってきているのだからすべての園を認定こども園にして子どもが3才以上で希望すれば誰でも入れるようにしてほしい。そうすれば時間的な余裕も出て、女性が男女共同参画しやすくなると思う。また、近所に子どもと年齢の近い子がまったくいないので、このままでは幼稚園に入るまで友だちができないのではないかと危惧している。園は地域との関わりやコミュニティの形成に優れていると思うので、早期教育について検討してほしいと強く願います。(女性・30歳代)

## 地域社会について

12件（女性11件、男性1件）

- ・奈良の風土が『女性は家庭に』の考え方で正直、市政も本気で考えている様には思えません。まだまだ地方では(奈良に限らず)難しいのではないのでしょうか(女性・40歳代)
- ・自治会などではまだまだ高齢の男性の方が役員をしているので「何を女が偉そうに」と意見を言うとそういう感じになる。地域社会が集まって市になっているので、男女平等は先の話かなと思っています(女性・50歳代)
- ・町内や親族の集りの場で「男の者(もん)」「女の者(もん)」という言葉が普通に出てくるこの市で、声高に男女共同などと言っても無駄で嫌な思いをするだけで、周囲の風潮に合わせて適当にいなしておく方が、仕事も家事も早く片づきます。女の敵は女ということを知らされます。大阪で仕事をしているので普段は感じませんが、町内の活動に加わると本当に閉鎖的であらゆる事に差別的な町だと感じます。(女性・50歳代)

## 地域の活性化について

6件（女性3件、男性3件）

- ・もっと女性や若者が働きやすい環境や、場所を与えてほしい。大和高田が活性化する為に高齢者だけでなく、若者や元気な方が住みやすい街にしてほしい。(女性・30歳代)
- ・市が活性し、職場が増えれば女性の方も仕事に出て行かれ、それによって保育所等が必要になり増えるという様にまず、市が良くなければ何も始まらない。住民税は高いし、住みにくい市を何とかしてください。市職員の方にもっと教育をしてください。態度が良くない。(男性・40歳代)

## まちづくりについて

5件（女性2件、男性3件）

- ・市全体で高齢者、障害者が増えていて生産年齢人口の減少が著しい模様にみえる。住宅を建設するなどして住民を増やすのが急務では?(女性・30歳代)
- ・住宅が高田市役所に遠い為、市の情報がわからない。さざんかホールも遠い。市民病院も遠い(男性・70歳以上)

## 健康づくりについて

2 件（女性 1 件、男性 1 件）

- ・ 高度不妊治療が受けれる場所と体制を確立してください。(女性・30 歳代)
- ・ 大和高田市では 60 才以上の参加できるスポーツが少ない。もっと高齢者でも楽しく健康でいける様なスポーツ、趣味を考えて欲しい。その中で気の合った者同士で男女共同参加を考えていけたらと考えます(男性・60 歳代)

## 暴力について

1 件（女性 0 件、男性 1 件）

- ・ 私は男性ですが痴漢被害にあった事があります。恐怖で動けませんでした。DVやストーカー被害を受けている男性もいると思いますので、男性に対するサポートも忘れないでください。(男性・30 歳代)

## LGBTについて

3 件（女性 1 件、男性 1 件、女性・男性と答えることに抵抗を感じる 1 件）

- ・ 性的マイノリティについての質問が多くて驚きました。あたりまえだと思っていたので、受け入れない方が多いのでしょうか？私はそれぞれだと考えていて、今さらなんの為の設問なのかと疑問に感じました。(逆に気にする方々が増えないか心配になりました。性的な問題についても同じように思いました。周りでそのような事が問題にならないせいかもしれませんが)。(女性・50 歳代)
- ・ “性別”という概念があまりない“X ジェンダー”の自分にとっては、回答し辛い質問が多かった。“あらゆるマイノリティー”が暮らしやすい社会を!!(女性・男性と答えることに抵抗を感じる・20 歳代)

## 施策の推進について

15 件（女性 5 件、男性 9 件、女性・男性と答えることに抵抗を感じる 1 件）

- ・ 市役所前に男女共同参画の旗が立っていたりしますが、大和高田市議会の出席者はほとんどが男性ですね。トップがこれでは共同参画など進んでいかないと思います。議員は仕方ないとしても、公務員の役職が付いているような方々はほぼ男性なのでは？役所の体制から変えるべきではないでしょうか。男性が地位を守りたいため、女性の起用は進まないのかもしれませんが、まずは役所から優秀な女性を積極的に登用すべきだと思います。(女性・40 歳代)
- ・ 男女共同参画は何をしたいのですか。だれのため、何のためにするのか、これまでに成果はどれだけあったのでしょうか。かけ声だけで通りすぎているのではないのでしょうか。もっと目標をもって進めるべきです。(女性・70 歳以上)
- ・ 全ての活動について身内的な考えからのせまい行動でしかない。本気度が感じられない。(男性・40 歳代)
- ・ どのような取組みも特効薬というものはない。日々の地道な活動を継続して取組んでいくしか方法は無いと考えます。その取組みにおいてもマンネリ化しない工夫は必要で、アイデア次第で加速させられる事もあると信じます(男性・50 歳代)

## 男女共同参画について伝わってこない・知らなかった

21 件（女性 14 件、男性 7 件）

- ・ このアンケートで初めて男女共同参画に関する事を少し理解できたと思います。毎月届く市民だよりに報告されていたのかもと思いますが、読んだり読まなかったりしている事が原因の一つだと思いました。(女性・40 歳代)
- ・ 市からの男女共同参画に関する取組が広報を通じてあまり伝わって来ない。このアンケートではじめて取り組まれている事がわかった。(男性・50 歳代)

## 広報等について

18 件（女性 12 件、男性 6 件）

- ・ 色々なセミナーをしたところで参加までに至らない。具体的に難しいけど、もっと違う形で伝えていく方がいいと思う(女性・20 歳代)
- ・ 情報誌は市役所に行かないと見るできないのでしょうか？わざわざ情報誌を市役所まで見に行く人は少ないと思います。提出しないといけない時(児童手当現況届等)に配布していただくと持ち帰ることが可能です(女性・50 歳代)
- ・ 本当に取り組むならばもっと大体的にメディアに露出する等をして情報を広げていくべきだと思います。又、参加して頂けるように、参加して頂いた方へのメリットも付けるべきだと思います(講座やセミナー等の参加に対して)。(男性・20 歳代)
- ・ LGBT など、英単語で省略せず意味のある語句は正確に示せ(男性・60 歳代)

## 相談窓口について

3 件（女性 2 件、男性 1 件）

- ・ 子どもが小学生の時不登校になり、学校の先生の勧めで教育相談を受ける事になりました。最初はそんなもの必要ないと思っていましたが、おかげ様でつらい時期を乗り越えることができました。その時高田に住んでいてよかったと本当に思いました。市民だよりをみるといろんな相談をされているのがのっているのが男女問わず人生で困った時、気軽に相談にのっていただける市であり続けてほしいと思います。(女性・40 歳代)
- ・ 私は父子家庭ですが、嫁が死んだ時に市役所の色々な課に行きました。が、誰 1 人とも役所の人の対応でした。その時に児童福祉課でちょっとした「ぐち」を言ってしまう。「母子家庭は色々な公的なサービスがあるのに、父子家庭は無いよな」って。本心では、「ごめんなさい」と思っていました。しかし、2~3 日後に児童福祉課の人から連絡があり、公的制度の事とか色々教えて下さいました。その女性にはすごく感謝しております。今後、男女共同参画にも男性がはいりやすいようにしてほしいです。しんどい事は、女性だけではなく男性もしています。もっと世論がかわって父子家庭もあるのだとわかってほしい(男性・40 歳代)

## その他

35 件（女性 22 件、男性 11 件、女性・男性と答えることに抵抗を感じる 2 件）

- ・ こういうアンケートを作成するのであれば、その費用で、低所得で日々生きてる人達に還元して下さい。無駄使いです。(女性・40 歳代)
- ・ 市の税金を安くして。(男性・30 歳代)
- ・ 市民意識調査、20 歳以上の男女はいいのですが、あまり高齢者の意見は参考にならないのでは。70 才ぐらいまでにした方が良いのでは。(女性・70 歳以上)
- ・ 設問が多すぎて回答しづらい。もう少し整理して提示して欲しい。(男性・70 歳以上)

やまとたかだしがみん  
大和高田市民のみさまへ

だんじよきよどうさんかくしゃかい  
男女共同参画社会についての市民意識調査  
ご協力のお願い

ひこころ 市政に理解と協力をいただき、ありがとうございます。  
ひんし 本市では、「大和高田市男女共同参画プラン ビッグステップ(第2次)」を策定し、女性も男性  
ども共にも個性を發揮し、あらゆる分野に参画していく男女共同参画社会の実現をめざしています。

このたび、このプランを見直すにあたり、広くみなさまに男女共同参画についてのご意見をうかがい、新たな取組に向けての基礎資料とするため「男女共同参画社会についての市民意識調査」を実施することになりました。

市内にお住まいの20歳以上の男女あわせて3,000人を無作為に選ばせていただきました。  
ところ、あみだにご協力をお願いすることになりました。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願い申し上げます。

平成28年9月

大和高田市

ご記入にあたってのお願い

- お答えは、あて各の芳ご自身のお考えをご記入ください
- 回答は質問ごとに用意した答えの中から、あみだのお考えに近いものの番号に○をつけてください。質問によって、複数選んでいただく場合があります。また、「その他」に○をつけた場合は、( )内に真実にご記入ください。
- ご記入いただいた調査票は、同封の返信封筒に入れて、9月27日(火)までに名前を書かずに、郵便ポストへご投函ください。(切手はいりません。)
- お答えいただいた回答は、すべて無記名で統計的に処理し、この調査の目的以外に使用することは一切ありません。また、個人的な回答や意見が外部に知られることは一切ありませんので、率直なご意見をお聞かせください。

このアンケート調査についてのお問合せやご質問がありましたら、下記までご連絡ください。

問合せ先 大和高田市 人権推進課 男女共同参画推進係  
電話 0745 (22) 1101 (内線 287)  
FAX 0745 (52) 2801  
Eメール gender@city.yamatotakada.nara.jp

あなた自身やご家族についておたずねします。

問1 あなたの性別は。(○は1つ)  
1. 女性 2. 男性 3. 女性・男性と答えることに抵抗を感じる

問2 あなたの年齢は。(○は1つ)  
1. 20~29歳 2. 30~39歳 3. 40~49歳  
4. 50~59歳 5. 60~69歳 6. 70歳以上

問3 あなたは結婚されていますか。(○は1つ)  
1. 結婚していない 2. 結婚している(事実婚を含む)  
3. 結婚したが、離別または別居した

問4 あなたが一緒に住んでいる家族構成は。(○は1つ)  
1. 一人暮らし 2. 夫婦のみ(事実婚を含む)  
3. 夫婦と子ども(2世代) 4. ひとり親と子ども(2世代)  
5. 祖父母と親と子ども(3世代) 6. その他(具体的に )

問5 あなたのお子さんの人数は。(○は1つ) 問5-1 あなたが同居している二番下のお子さんは。(○は1つ)

ご自身の職業(○は1つ)

1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人以上 5. 子どもはいない

ご自身の職だけ記入してください。(○はそれぞれ1つ)

1. 乳幼児(3歳未満) 2. 幼児(3歳以上の未就学児) 3. 小学生 4. 中学生 5. 高校・短大・大学・専門学校生など 6. 社会人

問6 あなたとあなたのお配偶者・パートナーの職業をお答えください。配偶者・パートナーのいない方は、ご自身の欄だけ記入してください。(○はそれぞれ1つ)

① ご自身の職業(○は1つ)  
1. 勤め人(正社員・正社員) 2. 勤め人(臨時・パートアルバイト・嘱託等)  
3. 自営業主 4. 家族従業員  
5. 家事専業(専業主婦・主夫) 6. 無職(家事専業をのぞく)  
7. その他(具体的に )

② 配偶者・パートナーの職業(○は1つ)  
1. 勤め人(正社員・正社員) 2. 勤め人(臨時・パートアルバイト・嘱託等)  
3. 自営業主 4. 家族従業員  
5. 家事専業(専業主婦・主夫) 6. 無職(家事専業をのぞく)  
7. その他(具体的に )

家庭生活や子育て、教育についておたずねします。

問7 あなたは、次のような家事をどの程度していますか。

それぞれの項目ごとに1～3のあてはまる番号に○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

しごと	1	2	3
① 食事の支度	○	○	○
② 食事のあとかたづけ	○	○	○
③ 食料品や日用品の買物	○	○	○
④ 家計の管理	○	○	○
⑤ 地域への参加(自治会やPTA活動など)	○	○	○
⑥ 家庭における全体の決定	○	○	○

問8 あなたは、普段、1日のうちで、仕事や家事・育児・介護などどのくらいの時間を使っていますか。

(1) 仕事(在宅勤務を含む) (○は1つ) ※通勤時間を含めた時間でお答えください。

1. なし	2. 2時間未満
3. 2時間～4時間未満	4. 4時間～6時間未満
5. 6時間～8時間未満	6. 8時間～10時間未満
7. 10時間～12時間未満	8. 12時間以上

(2) 家事・育児・介護など (○は1つ)

① 平日 (○は1つ)	② 休日 (○は1つ) ※仕事の休みの日
1. なし	1. なし
2. 30分未満	2. 30分未満
3. 30分～1時間未満	3. 30分～1時間未満
4. 1時間～2時間未満	4. 1時間～2時間未満
5. 2時間～3時間未満	5. 2時間～3時間未満
6. 3時間～4時間未満	6. 3時間～4時間未満
7. 4時間～5時間未満	7. 4時間～5時間未満
8. 5時間以上	8. 5時間以上

問9 あなたは、家庭教育の中で、男だから女だからに關係なくお互いを尊重し協力し合える男女共生の考え方を育むためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○はいくつでも)

1. 協力し合って家事などをやる

2. 「男はこう、女はこう」というような性別によって役割を決めつける言いはしない

3. 学校で教えられる「なま」学習や「道徳」について、子どもと話す

4. 学校や行が実施する男女共生などに関するセミナーや講演会に参加する

5. その他(具体的に )

6. 家庭の中で進める必要はない

問10 あなたは、子どもにどのように育ってほしいですか(ほしかったですか)。子どものない方も想像してお答えください。(○はそれぞれ1つ)

両方の子どもに	主に女の子に	主に男の子に	特にほしいと思わない	
① 経済的な自立ができるように	1	2	3	4
② 自分の身の回りのことができるように	1	2	3	4
③ 何事も積極的に行えるように	1	2	3	4
④ 特技を生かせるように	1	2	3	4
⑤ 責任感をもてるように	1	2	3	4
⑥ 社会に役立つように	1	2	3	4
⑦ やさしさと思いやりをもてるように	1	2	3	4
⑧ 自分の考えを人前ではっきり言えるように	1	2	3	4
⑨ 素直に、人の言うことを聞くように	1	2	3	4

問11 男女共生を進めるために、小学校・中学校でどのような取組が重要だと思いますか。(〇はいくつでも)

1. 「なかま」学習や道徳の中で男女共生の意識を育てる授業をする
2. 性別によってかたよることなく、個人の能力、個性、希望を大事にした進路指導をする
3. 子どもの発達に際して、自分の心と体を大切に思う意を高め、いじめ、虐待、デートDV、性的問題などから自分を守る力を育む教育をする
4. 男女がともに家族の一員として家庭での役割(家事や子育て、介護、生活費を稼ぐなど)を担うことの大切さを教える
5. テレビやインターネットなどからの情報をうのみにせず、取扱選択して活用する教育を進める
6. 性的マイノリティ\*に対する配慮をする
7. 教職員に、男女共生教育に関する研修を充実する
8. 保護者などを通じて、保護者に男女共生について啓発する
9. その他(具体的に)

\*性的マイノリティ…性同一性障がいなど性別に違和感を感じる人や、同性に向かう同性愛、男女両方に向かう両性愛の人などのこと。

**仕事についておたずねします。**  
 (現在、働いている方におたずねします。)

問12 あなたの今の職場では、性別によって差があると思いますか。①～⑧のそれぞれについてお答えください。(〇はそれぞれ1つ)

	平等である	男性が優れている	女性が優れている	わからない
①募集・採用	1	2	3	4
②賞金	1	2	3	4
③仕事の内容	1	2	3	4
④管理職への登用	1	2	3	4
⑤能力評価(業績評価・人事評価など)	1	2	3	4
⑥研修の機会や内容	1	2	3	4
⑦働き続けやすい雰囲気	1	2	3	4
⑧育児・介護休暇など休職の取得のしやすさ	1	2	3	4

問13 あなたは、今後、働きたいと思いませんか。(〇は1つ)

(親性、家事専業、無職の女性におたずねします。)

1. すぐに働きたい
2. 条件を整えば働きたい
3. 働きたくない
4. その他(具体的に)
5. わからない

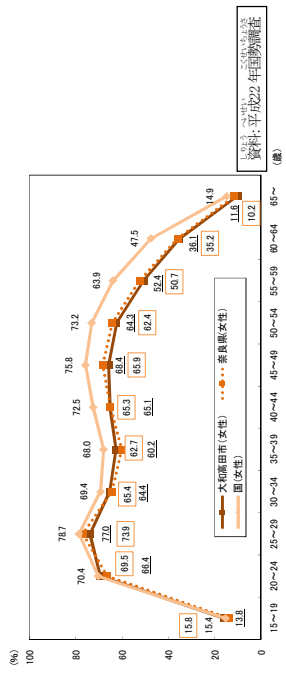
《問13で「1. すぐに働きたい」「2. 条件を整えば働きたい」と答えた方におたずねします。》

問13-1 今後は働きたいけれども、現在働くことができない理由は何か。(〇はいくつでも)

1. 子どもが保育所に入所できなかった
2. 希望の条件にあう適当な仕事がない
3. 育児について、夫・パートナーなど家族の協力が得られない
4. 看護・介護の必要を家族が施設やサービスを利用できなかった
5. 看護・介護について、夫・パートナーなど家族の協力が得られない
6. 体調不良
7. 家族の反対
8. 転職・起業の準備中
9. 求人に年齢制限がある
10. その他(具体的に)

問14 (全員におたずねします。)

下のグラフは大和高田市と全国の女性の労働力率（15歳以上人口に占める労働力人口の割合）を年齢層別に表わしたものです。大和高田市の女性の労働力率は、25歳以上の年齢層で全国平均より低くなっています。あなたは、その理由をどのようにお考えですか。当てはまると思われるものにおつけてください。（○はいくつでも）



1. 女性自身に、子育ては自分の役割という意識があるから
2. 家族の収入で十分だから
3. 働く場所が近くにないから
4. 子育てで高齢者介護のための社会的支援が整っていないから
5. 家族が働くことを望まないから
6. 結婚や出産後、女性は家庭を守るべきだという考え方が根強いから
7. 働く以外のことをやりたいから
8. その他（具体的に）
9. わからない

問15 あなたは、女性が就職・再就職を希望する場合、大和高田市からどのような支援が必要だと思いますか。（○はいくつでも）

1. 働くことへの不安を解消できる学習機会の提供
2. 企業への働きかけ（女性の採用・登用や、育児・介護と仕事を両立するための勤務制度の整備・運用について）
3. 育児や介護などに関する公的サービスの充実
4. 不安や悩み、能力開発や就職活動に関する相談窓口
5. 就職・再就職のための支援情報や求人に関する情報提供
6. 求人元とのマッチング（合同就職説明会など）
7. 技能・技術を身につけるための研修や職業訓練の機会の提供
8. 夫・パートナー、家族に、女性が働くことへの理解や、家事、育児、介護等への参加するための働きかけ
9. その他（具体的に）
10. 特に支援は必要ない

問16 あなたは、生活の中で「仕事」「家庭生活」「地域活動・個人の生活」で何を優先しますか。あなたの希望と現実（現状）に最も近いものをそれぞれについてお答えください。（○はそれぞれ1つ）

<p>1. 仕事</p> <p>2. 家庭生活</p> <p>3. 地域活動・個人の生活</p> <p>4. 仕事と家庭生活</p> <p>5. 仕事と地域活動・個人の生活</p> <p>6. 家庭生活と地域活動・個人の生活</p> <p>7. 仕事と家庭生活と地域活動・個人の生活</p>	<p>1. 仕事</p> <p>2. 家庭生活</p> <p>3. 地域活動・個人の生活</p> <p>4. 仕事と家庭生活</p> <p>5. 仕事と地域活動・個人の生活</p> <p>6. 家庭生活と地域活動・個人の生活</p> <p>7. 仕事と家庭生活と地域活動・個人の生活</p>
<p>&lt;希望&gt;</p> <p>(○は1つ)</p>	<p>&lt;現実&gt;</p> <p>(○は1つ)</p>

※「仕事」…週1時間以上働いていること。フルタイム、パート、アルバイト、嘱託などは問わない。  
 「家庭」…家族と過ごす、家事、育児、介護・看護など。  
 「地域活動」…ボランティア活動、社会参加活動、交際つきあいなど。  
 「個人の生活」…学習・研究（学業も含む）、趣味・娯楽、スポーツなど。

問17 「男性はもっと仕事以外のこと（家事、育児、介護や地域活動など）に関わる方がよい」という考え方があります。あなたは、この考え方をどう思いますか。あなたの考えに最も近いものを1つだけ選んでください。（○は1つ）

1. そう思う
2. どちらともいえない
3. そう思わない

《問17で「1. そう思う」「2. どちらともいえない」と答えた方におたずねします。》

問17-1 あなたは、今後、男性が仕事以外のこと（家事、子育て、介護、地域活動など）に積極的に参加していくには、どのようなことが必要だと思いますか。（○はいくつでも）

1. 「家庭や地域のことをするのは女性の役割」という固陋的な考え方を改めること
2. 労働時間の短縮や育児や介護などの休暇制度の整備について、企業に働きかけること
3. 男性が、仕事中心の生き方や考え方を見直すための機会をつくること
4. 男性の家事、育児、介護の技能を高めること
5. 男性が地域活動やセミナーなどに参加しやすい方法や場を提供すること
6. 社会の中で、男性が家事などに参加することに對する評価を高めること
7. 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること
8. その他（具体的に）
9. 特にない

《全員におたずねします。》

問18 現在、職場や地域活動の場などの方針を決める立場に、女性が少ないという現状があります。あなたは、今後、もっと女性が進出していくためには何が必要だと思いますか。(Oはいくつでも)

1. 「男性は主、女性は従」という性別で役割を決める考え方を改めること
2. 男性中心の組織のあり方を改めること
3. 男女が同数、あるいは一定数を下回らないよう、性別による定員基準を設けること
4. 女性自身が積極的に参画しようとする
5. 女性のもっている能力を開発するための機会を設けること
6. 女性が活躍する団体やグループ活動を支援すること
7. その他(具体的に )
8. 方針を決める立場に女性を増やす必要はない

《女性に対する暴力や、健康、地域でのことなどについておたずねします。》

問19 あなたが、女性の権利が侵害されていると思うことはどれですか。(Oはいくつでも)

1. ドメスティック・バイオレンス(DV) (配偶者等からの暴力) やデートDV (恋人からの暴力)
2. セクシュアル・ハラスメント
3. テレビ、雑誌、インターネット (携帯電話を含む) などのわかりやすい性情報の氾濫
4. 電車のなどでわかりやすい性情報の氾濫 (つり広告や乗客の読むスポーツ新聞・コミックなど)
5. アダルト向けのビデオやゲーム (アダルトを含む)
6. ストーカー行為
7. 売春 (援助交際を含む)
8. 職場における男女の待遇の違い
9. 男女の役割分担を固定化する考え方
10. その他(具体的に )

問20 あなたは、次のような暴力については経験したり、見聞きしたことがありますか。(Oはそれぞれ1つ)

	経験したことがある	身近なところがある	身近なところで見聞きしたこともない	経験したこともない
①ドメスティック・バイオレンス(DV) (配偶者等からの暴力)	1	2	3	
②デートDV (恋人からの暴力)	1	2	3	
③セクシュアル・ハラスメント	1	2	3	
④ストーカー (つきまとい)	1	2	3	
⑤痴漢	1	2	3	

問21 女性に対する暴力については次の相談機関があります。①～⑥の相談機関をご存知ですか。また、利用したことはありませんか。(OはA、Bそれぞれ1つ)

	A 相談機関として		B 利用したことは?	
	知っている	知らない	ある	ない
①大和高田市人権施策課 男女共同参画推進係	1	2	ア	イ
②奈良県高田こども家庭相談センター	1	2	ア	イ
③奈良県中央こども家庭相談センター	1	2	ア	イ
④高田警察署	1	2	ア	イ
⑤奈良県女性センター	1	2	ア	イ
⑥民間の相談機関	1	2	ア	イ

問22 あなたは、生涯を通じて心も体も健康でいられるためには、大和高田市ほどのような取組をする必要があると思いますか。(〇はいくつでも)

1. 食生活や健康づくりに関する情報を提供する  
 2. 学校教育や社会教育を通じて、食育や健康に関する教育、性教育を充実する  
 3. 健康教室など、心身ともに健康で過ごすためのセミナーなどを充実する  
 4. 安心して妊娠・出産できるよう、相談や健診を充実する  
 5. 性同一性障がいなど、性の多様性に対する理解の啓発、情報提供を進める  
 6. 人生の各段階を通じて、男女の性差に起因した健康を支援する  
 7. 暴力の被害者に対する相談やケア体制を充実する  
 8. リフレッシュできるような場を提供する  
 9. 悩みや不安を相談できる体制を充実する  
 10. その他(具体的に)  
 11. 特に必要ない

《「男性」におたずねします。》

問23 あなたは「男はしんどい、つらい」と感じたことはありませんか。(〇はいくつでも)

1. ある  
 2. ない

《問23で「1. ある」と答えた方におたずねします。》

問23-1 それはどんなことですか。(〇はいくつでも)

1. 何かにつけ「男のくせに」と言われる  
 2. 妻子を養うのは男の責任だとされる  
 3. リーダーシップを求められる  
 4. 「強さ」を求められる  
 5. 「弱さ」を見せられない  
 6. その他(具体的に)

《全員におたずねします。》

問24 防災・災害復興では自助・共助の大切さが言われています。あなたは防災・災害復興について関心がありますか。(〇はいくつ)

1. 関心が有り、備えをしている  
 2. 関心はあるが、何もしていない  
 3. 関心がない

《問24で「1」「2」と答えた方におたずねします。》

問24-1 「関心がある方」はどのようなことをしていますか。「関心はあるが何もしていない方」は今後どんなことをしたいと思いますか。あてはまる番号に〇をつけてください。(〇はいくつでも)

1. 市からのお知らせなどを読む  
 2. 地域の自主防災の組織に参加する  
 3. 家庭内に備蓄をする  
 4. 防災イベントに参加する  
 5. 家族で災害時の連絡先や落ち合う場所などを決める  
 6. その他(具体的に)

《あなたが避難生活を送ることになったと想定してお答えください。》

問25 あなたは、避難所において、みんなが協力し合って過ごすために取り組むとよいと思うことは、どんなことですか。(〇はいくつでも)

1. 避難所の運営に乳幼児のいる家庭や高齢者、障がい者など様々な立場の人の意見を反映する  
 2. 自治会、自主防災会など日頃の地域活動の場、女性役員を招きやす  
 3. 男女別のトイレ、物干し場、更衣室、休養スペースなどを設置する  
 4. 乳幼児のいる家庭用エリア、女性のみの世帯用エリアなどを設置する  
 5. 高齢者や障がい者などが使いやすいユニバーサルデザインのトイレを設置する  
 6. 女性用品は女性の担当者が配布する  
 7. 多様なニーズに配慮した相談体制を整備する  
 8. DVや子どもへの虐待、性犯罪などを防止するための防犯対策をする  
 9. その他(具体的に)  
 10. 特にない

問26 次の活動のうち、あなたが最近1年間に参加されたもの、また、今後参加したいと思われるものはありますか。(○は参加したものを、参加したいと思うものそれぞれにいくつでも)

活動	最近1年間に参加した活動	今後参加したいと思う活動
①趣味・学習・スポーツ活動	1	1
②地域の活動(自治会、子ども会、婦人会、老人クラブ、PTA、青少年健全育成など)	2	2
③消費生活活動や住民運動(共同購入や、リサイクルなど)	3	3
④福祉・ボランティア活動	4	4
⑤まちづくりや環境・保健などの市民グループ活動	5	5
⑥国際交流活動	6	6
⑦民生委員、審議会の委員などの公的委員会活動	7	7
⑧その他の活動(具体的に )	8	8
⑨特になし	9	9

問27 あなたは、社会活動に参加される場合、どのようなことが支障となりますか。(○はいくつでも)

1. 仕事や家事が忙しい
2. 小さな子ども、病人、高齢者がいる
3. 家族の理解が得にくい
4. 自分の健康や体力に不安がある
5. 参加したい活動の情報が少ない
6. 一緒にやる仲間がいない
7. 活動する場所や施設が少ない
8. 経済的に余裕がない
9. 自分の能力に自信がない
10. その他(具体的に )
11. 特に支障はない

問28 地域活動や市民活動の役員に推薦されたとしたら、あなたはどのようにしますか。(○は1つ)

1. 引き受ける・引き受けることをすすめる
2. 断る・断ることをすすめる
3. 本人の考えに任せる

問28で「2. 断る・断ることをすすめる」と答えた方におたずねします。

問29-1 その理由は何ですか。(○はいくつでも)

1. 家事・育児・介護に支障が出るから
2. 仕事をしているから
3. 活動時間が長くなり、時間が遅くなるから
4. 本人の経験が少ないから
5. 男性が多数を占める組織に入ることには抵抗を感じるから
6. 男性の役員に嫌がられるから
7. その他(具体的に )
8. 特に理由はない

問29 あなたは、次のような考え方についてどう思いますか。(○はそれぞれ1つ)

考え方	そう思う	そう思うからといっては	そう思わない	そう思わないからといっては	わからない
①夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである	1	2	3	4	5
②人にはそれぞれ向き不向きがあるのだから、男か女かによって生き方を決めつけない方がいい	1	2	3	4	5
③子どもは3歳くらいまで母親が育てるべきである	1	2	3	4	5
④女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がいい	1	2	3	4	5
⑤子どもの世話の大部分は男性でも女性でもできる	1	2	3	4	5

問30 あなたは、次のような分野で男女の地位は平等になっているかと思っていますか。(○はそれぞれ1つ)

分野	非男性に優れている	平等	女性に優れている	わからない		
①家庭生活	1	2	3	4	5	6
②職場	1	2	3	4	5	6
③学校教育の場	1	2	3	4	5	6
④地域活動の場	1	2	3	4	5	6
⑤政治の場	1	2	3	4	5	6
⑥法律や制度の上	1	2	3	4	5	6
⑦社会通念、慣習、しきたりなど	1	2	3	4	5	6
⑧社会全体でみたときには	1	2	3	4	5	6

問31 あなたは、この10年間で、以下のこととはどの程度進んだと思いますか。(〇はそれぞれ1つ)

前进了した	進んだと思います	変わらな	変わらな	後退した	わからな
1	2	3	4	5	6
1	2	3	4	5	6
1	2	3	4	5	6
1	2	3	4	5	6
1	2	3	4	5	6
1	2	3	4	5	6
1	2	3	4	5	6
1	2	3	4	5	6

問32 大和高田市では、女性も男性もいきいきと暮らせる社会(=男女共同参画社会)を実現するために様々な取組を行っています。あなたは、以下の言葉や大和高田市の取組についての程度ご存知ですか。項目ごとにはまる番号に〇をつけてください。(〇はA、Bそれぞれ1つ)

事業	A		B	
	知っている	知っている は聞か ない	参加 利用したことが「ある」	参加 利用したことが「ない」
①男女共同参画社会	1	2	3	3
②仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)	1	2	3	3
③ドメスティック・バイオレンス(DV)(配偶者等からの暴力)	1	2	3	3
④デートDV(恋人からの暴力)	1	2	3	3
⑤LGBT	1	2	3	3
⑥大和高田市男女共同参画情報誌『はーもー』	1	2	3	3
⑦ヒート・ハート/だかだ(大和高田市男女共同参画推進市民会議)の活動	1	2	3	3
⑧女性相談	1	2	3	3
⑨マザーズセミナー	1	2	3	3
⑩女と男ハートアップフォーラム	1	2	3	3
⑪市から男女共同参画に関する情報は伝わっていない	6		4	5

☆男女共同参画に関するご意見やご感想がありましたら、ご自由にお書きください。

ご協力いただきありがとうございます。

ご面倒ですが、返信用封筒に付けて9月27日(火)までにご返送ください。

～市民一人ひとりが心豊かに暮らせる男女共同参画社会の実現に向けて～  
男女共同参画社会についての市民意識調査報告書

---

平成 29 年 3 月

発 行 大和高田市人権施策課男女共同参画推進係  
〒635-8511  
奈良県大和高田市大字大中 100 番地 1

TEL 0745-22-1101

FAX 0745-52-2801

E-mail [gender@city.yamatotakada.nara.jp](mailto:gender@city.yamatotakada.nara.jp)

---